



HeartCore



Heartcore, Inc.
www.heartcore.co.jp
support@heartcore.co.jp

Heartcore, Inc.

HeartCore

Web コンテンツ管理システム

設定ガイド

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理



著作権および機密情報

著作権 ハートコア株式会社 1999–2020。当ユーザガイドはハートコア株式会社の機密情報により構成されています。本書の無断複製、複写、転写、情報検索方式での格納、又は、いかなる言語への翻訳においてもハートコア株式会社の許可無しでは固く禁じられています。

注意

ハートコア株式会社は、本書の記載内容において、何時でも予告なく変更することがあります。また、本書において明示または黙示を問わず、一切保証致しません。ハートコア株式会社はいかなる場合においても、購入した際および本書の使用時、またはこれに含まれる情報によって生じた間接的、特別かつ偶発的損害に関しての責任を負いません。

ライセンスおよび商標

HeartCore Web コンテンツ管理や HeartCore のロゴは商標であり、ハートコア株式会社独自の登録商標です。また、その他の企業、製品、トレードネームは商標であり、各所有者の登録商標です。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_dragdrop.js ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2003 Walter Zorn (www.walterzorn.com) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は wz_jsgraphics.js ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2004 Walter Zorn (www.walterzorn.com) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/copyleft/lesser.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Dynarch DHTML Calendar ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2002-2005 Mihai Bazon (<http://www.bazon.net/mishoo> - <http://www.dynarch.com/projects/calendar>) ライセンスは GNU Lesser General Public License (LGPL) (<http://www.gnu.org/licenses/lgpl.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Kryogenix sortable ライブラリを使用しています。Copyright (c) 1997-2005 Stuart Langridge (<http://www.kryogenix.org/code/browser/sortable/>) ライセンスは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は SWFupload コンポーネントとライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006-2007 Lars Huring、Olov Nilzén、Mammon Media Copyright (c) 2007-2008 Jake Roberts (<http://www.swfupload.org/>) ライセンスは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Prototype ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2005 Sam Stephenson (<http://prototype.conio.net/>) ライセンスは MIT License (<http://www.kryogenix.org/code/browser/license.html>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Scriptaculous ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2005 Thomas Fuchs (<http://script.aculo.us/>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico ライブラリの一部を使用しています。Copyright (c) 2005 Sabre Airline Solutions (<http://openrico.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Rico Livegrid Plus ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006 Matt Brown (<http://dowdybrown.com/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Lightbox library ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2006 Lokesh Dhakar (<http://www.huddletogether.com/>) ライセンスは Creative Commons Attribution 2.5 License (<http://creativecommons.org/licenses/by/2.5/>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は TableKit ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2007 Andrew Tetlaw & Millstream Web Software (<http://www.millstream.com.au/view/code/tablekit/>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は jQuery ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2011 John Resig (<http://jquery.org/>) ライセンスは MIT License (<http://jquery.org/license/>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は jsTree ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2010 Ivan Bozhanov (<http://jstree.com/>) ライセンスは MIT License (<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は JavaBeans Activation Framework ライブラリを使用しています。Copyright (c) Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>) ライセンスは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement の条件に準じます。



HeartCore



HeartCore Web コンテンツ管理は JavaMail ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2009 Sun Microsystems (<http://www.sun.com/>) ライセンスは Sun Microsystems, Inc. Binary Code License Agreement の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Jakarta JCS ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2001-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache Commons Logging ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2003-2007 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Apache log4j ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2010 The Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) ライセンスは Apache License Version 2.0 の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は concurrent ライブラリを使用しています。Copyright (c) Doug Lea (<http://gee.cs.oswego.edu/dl/classes/EDU/oswego/cs/dl/util/concurrent/intro.html>) このライブラリはフリーソフトウェアとして使用が許可されています。

HeartCore Web コンテンツ管理は slidetabs ライブラリを使用しています。Copyright (c) WebStack (<http://www.slidetabs.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は ContentBuilder.js ライブラリを使用しています。Copyright (c) InnovaStudio (<http://www.innovastudio.com/>)

HeartCore Web コンテンツ管理は CodeMirror ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2017 Marijn Havebeke (marijnh@gmail.com) (<http://www.codemirror.net/>) ライセンスは MIT License (<https://codemirror.net/LICENSE>) の条件に準じます。

HeartCore Web コンテンツ管理は Tiny Colorpicker ライブラリを使用しています。Copyright (c) 2013 Maarten Baijs (<http://www.baijs.com/>) ライセンスは MIT ライセンスの条件に準じます。



HeartCore



HeartCore

Web コンテンツ管理システム

簡単・安価に Web サイトを作成・公開・管理

はじめに

本書は、HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定ガイドです。HeartCore Web コンテンツ管理システムを使って、Web サイトや管理システムを設定する方法を記しています。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、インターネット Web サイトのみならず、イントラネットやエクストラネット Web サイトのコンテンツをより簡単に作成、更新を行うための Web ソリューションです。このシステムはフル機能を備えていますが、操作が簡単で非常に柔軟性があります。高度な機能は、必要になるまで使用する必要はありません。また不要な機能は、（スーパーユーザによって）簡単に無効化し、隠すことができます。そうすることで、Web サイト管理 Web ページを出来るだけシンプルに保つことができます。必要に応じて、より高度な機能を有効化・可視化させます。

本書は、7つのパートに大別されます。

パート1では、HeartCore Web コンテンツ管理システムへログインする方法と、スーパーユーザ管理者のユーザ名とパスワードの取得方法をご説明します。

パート2では、HeartCore Web コンテンツ管理システムと Web サイトの設定方法をご説明します。

パート3では、管理ページのカスタマイズを目的とした各種オプション機能を有効化・無効化する方法をご説明します。

パート4では、Web サイトで使用するコンテンツのクラス、フォーマット、グループ、タイプ、バージョンを設定する方法をご説明します。

パート5では、Web サイトで使用するユーザのグループ、タイプの設定方法、並びにユーザアカウントのエクスポートとインポートについてご説明します。

パート6では、Web サイトのコンテンツ作成や管理において、一連のプロセスに使用されるワークフローの設定方法をご説明します。

パート7では、Web サイトで使用する商品のグループ、タイプ、通貨、割引、送料、税率を設定、エクスポート、インポートする方法をご説明します。

パート8では、Web サイトで使用するカスタムコンテンツデータベースの設定方法をご説明します。



目次

はじめに	4
目次.....	5
1 スーパーユーザ WEB サイト管理者ログイン	10
1.1 ログイン	10
1.2 ログアウト	11
1.3 スーパーユーザのユーザ名とパスワード取得	11
1.4 ホーム	12
1.4.1 Web サイト機能の追加	13
1.4.2 設定	13
2 システム設定.....	14
2.1 システム環境.....	14
2.2 データベース設定	15
2.2.1 データベース接続	15
2.2.2 初期化とインポート	15
2.2.3 追加モジュールインポート機能.....	18
2.2.4 Web サイトデザインのインポート	19
2.2.5 メディアライブラリファイルのインポート	20
2.2.6 バックアップとエクスポート	21
2.2.7 バックアップの復元	25
2.2.8 高度なインポート	25
2.3 ソフトウェアライセンスキー設定	28
2.4 スーパーユーザ Web サイト管理者設定.....	30
2.5 Web サイト設定	31
2.5.1 Web サイトデザイン	31
2.5.2 Web サイト設定.....	33
2.5.3 Eメールとフォーム	38
2.5.4 セキュリティ	42
2.5.5 特殊ページ	57
2.5.6 特殊設定	60
2.5.7 Web サイトアドレス URL 再描画	63
2.5.8 メディアストレージ	64
2.6 マイクロサイト	66



2.6.1	インターネットドメイン名.....	66
2.6.2	ビジターの訪問元インターネットアドレス設定.....	68
2.6.3	ユーザエージェント (Web ブラウザ)	68
2.6.4	Web ブラウザの言語設定	69
2.6.5	他の Web サイトからの参照元情報.....	69
2.6.6	検索エンジンおよびディレクトリ Web サイト検索の参照元情報.....	69
2.6.7	マイクロサイトの設定.....	70
2.7	E コマースシステム設定.....	76
2.7.1	通貨&価格	76
2.7.2	注文フォーム	77
2.7.3	注文管理のアクセス制限.....	77
2.7.4	支払い処理	80
2.7.5	商品詳細	81
2.7.6	商品の出荷	82
2.7.7	E コマース特別ページ	83
2.8	アクセス統計値システム設定	87
2.8.1	Web アクセスログの期間とステータス	87
2.8.2	アクセスログステータスとサマライズ.....	88
2.8.3	アクセスログコンテンツ.....	90
2.8.4	アクセス統計値レポート.....	91
2.8.5	アクセス統計値アクセス制限.....	93
2.9	コラボレーション	93
2.9.1	管理コメント	94
2.9.2	プロジェクト管理	96
3	機能設定.....	100
3.1	Web サイトユーザ/管理者へのアクセス制限.....	100
3.1.1	個々のユーザアクセス制限.....	101
3.1.2	ユーザアクセス制限	101
3.1.3	管理者アクセス制限	101
3.1.4	ワークフロー	102
3.1.5	空白コンテンツ項目の新規追加設定.....	103
3.1.6	特別アクセス制限設定.....	104
3.1.7	コンテンツグループ/タイプのメニュー表示と非表示.....	105
3.1.8	スケジュール済のコンテンツ項目	105
3.1.9	Web サイト全体のアクセス制限	106
3.1.10	注文管理のアクセス制限.....	107
3.1.11	売上レポートアクセス制限.....	108
3.1.12	コンテンツデータベースアクセス制限.....	108
3.1.13	ユーザ管理アクセス制限.....	108
3.1.14	アクセス解析アクセス制限.....	108
3.1.15	設定管理アクセス制限.....	108
3.2	メニューやツールバーの追加コンテンツ構成要素	109
3.3	Dynamic HTML のためのアドバンススクリプト	109



3.4	バックアップおよび変更ログ/追跡記録のためのコンテンツアーカイブ	110
3.5	複数管理者のための専有/解放及びアサイン先機能.....	111
3.6	多数のコンテンツ項目整理のためのコンテンツカテゴリ	113
3.6.1	コンテンツパッケージ.....	113
3.6.2	コンテンツバンドル	114
3.6.3	ページと構成要素のクラス、グループ、タイプ	114
3.6.4	イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ	115
3.6.5	商品のグループとタイプ.....	116
3.7	Web サイトコンテンツ整合性のためのコンテンツ依存関係.....	117
3.8	コンテンツ編集.....	118
3.8.1	コンテンツエディタ	118
3.8.2	HeartCore Web エディタ	119
3.8.3	ファイルアップロード.....	126
3.8.4	コンテンツビルダー	126
3.8.5	インデックスページ	128
3.8.6	新規追加	148
3.8.7	閲覧&編集	149
3.9	動的ナビゲーションメニューとリンクのためのコンテンツ依存関係.....	150
3.10	多言語対応やその他のマルチバージョンコンテンツ	151
3.10.1	コンテンツバージョン.....	151
3.10.2	Eメール通知	151
3.11	SEO や目録作成のためのメタ情報.....	152
3.12	Web サイトセクションやページ指定デザイン/レイアウトのプレゼンテーション	153
3.13	コンテンツのステージング、プレビュー、公開.....	154
3.13.1	自動および手動での公開.....	154
3.13.2	動的および静的 Web アドレス	155
3.13.3	スケジュールされた公開と公開期限終了.....	156
3.13.4	コンテンツを静的 HTML ページ/ファイルとしてエクスポート	157
3.14	コンテンツとユーザアカウント変更記録のための変更履歴.....	157
3.15	期限付きユーザアカウントのためのユーザ有効化と有効期限.....	158
3.16	多数のユーザアカウントを整理するためのユーザカテゴリ	159
3.16.1	ユーザクラス	159
3.16.2	ユーザグループとタイプ.....	159
3.17	Web サイト管理者および登録ユーザのためのユーザデータベース	160
3.17.1	Facebook ログイン	161
3.17.2	Google ログイン	163
3.17.3	OpenID ログイン	165
3.17.4	外部 LDAP ディレクトリサーバー	172



3.18	ユーザ住所および支払内容のためのユーザ詳細.....	182
3.19	Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定.....	182
4	WEB サイトコンテンツ設定.....	183
4.1	コンテンツの設定.....	183
4.1.1	静的 Web アドレスフォルダの移動/リネーム.....	183
4.1.2	Web サイトコンテンツ管理.....	183
4.1.3	コンテンツクラス設定.....	183
4.1.4	コンテンツのグループ/タイプ設定.....	184
4.2	イメージの設定.....	187
4.2.1	イメージフォルダの移動/リネーム.....	187
4.2.2	イメージフォーマット設定.....	188
4.2.3	イメージのグループ/タイプ設定.....	188
4.3	ファイルの設定.....	190
4.3.1	ファイルフォルダの移動/リネーム.....	190
4.3.2	ファイルフォーマット設定.....	190
4.3.3	ファイルのグループ/タイプ設定.....	191
4.4	リンクの設定.....	193
4.4.1	リンクのグループ/タイプ設定.....	193
4.5	バージョンの設定.....	195
4.6	パッケージの設定と管理.....	195
4.7	バンドルの設定と管理.....	196
5	ユーザデータベース設定.....	198
5.1	ユーザのグループ/タイプ設定.....	198
5.1.1	サブグループとサブタイプ.....	199
5.1.2	アクセス制限.....	200
5.2	ユーザ情報のエクスポート.....	202
5.3	ユーザ情報のインポート.....	203
6	ワークフロー設定.....	204
6.1.1	ワークフロー.....	204
6.1.2	ワークフローアクション.....	204
6.1.3	サンプルワークフロー.....	209
7	E コマース設定.....	217
7.1	商品の設定.....	218



7.1.1	商品のグループ/タイプ設定.....	218
7.1.2	商品データベース同期化.....	221
7.2	通貨の設定.....	222
7.2.1	通貨.....	223
7.2.2	通貨データベース同期化.....	224
7.3	割引の設定.....	225
7.3.1	割引率（設定）.....	225
7.3.2	割引率.....	226
7.4	送料の設定.....	233
7.4.1	送料（設定）.....	234
7.4.2	送料.....	234
7.5	税率の設定.....	237
7.5.1	税率（設定）.....	238
7.5.2	税率.....	238
8	コンテンツデータベース設定.....	243
8.1.1	コンテンツデータベース（設定）.....	243
8.1.2	コンテンツデータベース.....	243
9	コラボレーション設定.....	256
9.1	コメント.....	256
9.2	プロジェクト.....	256

1 スーパーユーザ Web サイト管理者ログイン

1.1 ログイン

Web サイトを管理する HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、通常の Web アドレスに“/webadmin/”を追加した URL を開きます。例えば、<http://127.0.0.1> というアドレスで Web サイトにアクセスするならば、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、<http://127.0.0.1/webadmin/> といったアドレスを使用します。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定セクションへアクセスするには、まず、スーパーユーザ Web サイト管理者のユーザ名とパスワードで認証を得てログインします。大文字、小文字、スペース、句読点に注意し、正確にユーザ名とパスワードを入力してください。



Web コンテンツ管理システムは、ワンタイムパスワードコードを使ってログインするよう設定されている可能性もあります。

全体管理者パスワードの代わりにワンタイムパスワードコードを使用するよう Web コンテンツ管理システムが設定されている場合は、必須もしくは任意にて、ワンタイムパスワードコード（例えば、認証アプリやデバイスによって生成された時限ワンタイムパスワード）をパスワードとして入力することができます。

全体管理者パスワードに加えてワンタイムパスワードコードを使用するよう Web コンテンツ管理システムが設定されている場合、まず全体管理者のユーザ名とパスワードを使ってログインし、その後ワンタイムパスワードコードにてログインを完了する必要があります。

ワンタイムパスワードコードは、Web コンテンツ管理システムの設定に応じて、Eメール（または代替手段）にて送信されるか、もしくは時限ワンタイムパスワードアプリやデバイスの使用が必要となります。

「送信／再送信」リンクをクリックすると、ワンタイムパスワードコードを Eメール（または代替手段）にて（再）送信します。

「キャンセル」リンクをクリックすると、ユーザ名とパスワードのログイン画面に戻ります。



HeartCore



1.2 ログアウト

ログインが無事に完了したら、Web サイトの HeartCore Web コンテンツ管理システムへアクセスできます。同時に、あなたのコンピュータにアクセスできる誰もが、Web コンテンツ管理システムへアクセスできるようになります。時間の長短に関わらずコンピュータから離れるときは、HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトし、他の人が Web サイトを変更しないようにしてください。他の人も使用可能なコンピュータを使用しているのならば、このことは特に重要です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムをログアウトするには、HeartCore Web コンテンツ管理や、閲覧&編集ページの右上にある、“ログアウト”リンクをクリックしてください。ログアウト後は、Web サイトのホームページが表示されます。

Web サーバの設定により、自動的にログアウトされることがあります。厳密には、ログイン/ログアウトは Web サーバの“セッション”と呼ばれるものによって制御されています。Web サーバは、数秒から数日でセッションが期限切れになるよう設定されている可能性があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用している間に、Web サーバのセッションによってログインの期限が切れるようであれば、再度ログインしてください。例えば、Web ページのひとつのコンテンツを編集するのに長時間かかり、保存する前にログインが切れてしまったら保存されないで、定期的に作業を保存してください。もしくは、Web ホスティングプロバイダに、Web サーバのセッション有効期限を延ばしてもらうように依頼することもできます。通常、Web サーバ設定は問題ないはずですが、場合によっては数分でセッションが切れるように設定されている可能性があります。

1.3 スーパーユーザのユーザ名とパスワード取得

スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れていたり、失くしたりしないように気をつけてください。これらは HeartCore Web コンテンツ管理システムへのフルアクセス権を得るためには欠かせません。

しかしながら、もし、スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、有効なスーパーユーザ E メールアドレスを設定していれば取得が可能です。

スーパーユーザのユーザ名とパスワードを取得するには、通常の Web サイトアドレスに、“/webadmin/password/”を追加したアドレスを開きます。例えば、通常 <http://127.0.0.1> というアド



レスで Web サイトにアクセスしている場合、“http://127.0.0.1/webadmin/password/”というアドレスを使用し、設定されたスーパーユーザEメールアドレスに、ユーザ名とパスワードを送信させます。



スーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れてたり失くした場合に、もしスーパーユーザEメールアドレスが設定されていなかったり有効でないとなると、他に簡単にユーザ名とパスワードを取得する方法はありません。

その他の方法としては、HeartCore Web コンテンツ管理データベースに手動でアクセスし、スーパーユーザのユーザ名とパスワードをリセットしなければなりません。

1.4 ホーム

スーパーユーザ Web サイト管理者として HeartCore Web コンテンツ管理システムへのログインが成功すると、メインの管理ページが表示されます。



1.4.1 Web サイト機能の追加

追加の Web サイト機能を使用すると、重要な追加モジュールを多数インポートできるようになります。詳しくは、2.2.3 追加モジュールインポート機能をご参照下さい。

1.4.2 設定

管理システムと Web サイト設定へのフルアクセスを得るには、HeartCore Web コンテンツ管理システムの「設定」セクションを使用して下さい。HeartCore Web コンテンツ管理システムの各ページ上に、「設定」セクションへのリンクが表示されています。



2 システム設定

システム設定を使って、Web サイトや HeartCore Web コンテンツ管理システムの様々な基本設定を行うことができます。

左メニューより「システム設定」ページへアクセスし、管理システムや Web サイトの設定を行います。



The screenshot shows the '設定' (Settings) page in the HeartCore CMS. The left sidebar contains a navigation menu with categories like '設定', '機能設定', 'コンテンツ', 'ユーザ', 'Eコマース', 'データベース', 'パッケージ', 'Data-to-Page Import', 'Facebook投稿', 'HTML-Lint設定', 'メルマガグループ管理', 'メルマガサイン環境設定', 'アンケートテンプレート', 'Zip Upload', 'QuickSolution', and 'QSLicense'. The main content area is titled '設定' and includes a sub-header 'システム' with a description: 'Webサイトの基本的な設定'. Below this, there are several sections: '機能設定', 'コンテンツ', 'ファイル', 'ユーザ', 'Eコマース', 'パッケージ', 'Data-to-Page Import', 'HTML-Lint設定', 'イメージ', 'バージョン', 'ワークフロー', 'データベース', 'バンドル', 'Facebook投稿', and 'メルマガグループ管理'. Each section has a brief description of what it configures.

2.1 システム環境

システム環境ページでは、Web コンテンツ管理システムがインストールされている場所や、設定ファイルが配置されている場所、システムフォルダに対する現在の作成/書き込み権限といった、システム環境に関する基本情報が表示されます。



The screenshot shows the 'システム環境' (System Environment) page. The left sidebar is the same as in the previous screenshot. The main content area is titled 'システム環境' and contains several sections: 'Webコンテンツ管理システムインストール', 'Webコンテンツ管理システム設定', 'Webサイトファイルの作成・書き込み権限', 'Java Version', and 'WCM Cache'. Each section lists specific configuration items and their values, such as installation paths, file permissions, and cache settings.

2.2 データベース設定

2.2.1 データベース接続

警告：データベース接続が既に設定されている場合は、変更を行うと、管理システム内のコンテンツや Web サイトのコンテンツが消失する恐れがあり、削除されてしまう可能性があります。従って、データベース接続の変更は、必要な場合にのみ行うようにし、その際にはデータベースと Web サイトの完全なバックアップを取った上で、十分な知識を持って行って下さい。

Web コンテンツ管理システムをインストールし初期設定を行う際に、既にデータベース接続は設定されているはずですが、通常、データベースサーバーのソフトウェアや設定を変更しない限り、このデータベース接続は変更されるべきではありません。詳しくは、「インストールガイド」をご参照下さい。



2.2.2 初期化とインポート

警告：既にデータベースが初期化されている場合、この初期化とインポートを行うと、管理システムや Web サイトコンテンツの紛失を招く恐れがあり、削除されてしまうかもしれません。必要がある場合にのみ、十分な知識を持って行って下さい。

管理システムのインストール、初期設定の際に、既にデータベースは初期化され初期コンテンツがインポートされているはずですが、通常、この初期化とインポートを行うのは、管理システムや Web サイトの全コンテンツを削除し、Web サイトを一から作り直したり、サンプルサイトを使って作成し直したりする場合のみです。

「初期化とインポート」設定ページには、使用可能な Web サイトデータベースインポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェアライセンスキーによっては、いくつかのインポートファイルは無効/使用不可のため、グレーアウトされています。

- **Basic**
作成済み、設定済みの特別なページを含む、空白の Web サイトです。一から Web サイトを作成する場合に推奨されるオプションです。
- **Empty**
必要なすべての特別ページを含め、すべてを一から作成するための、完全に空白の Web サ

イトです。（大抵は Empty の代わりに Basic Web サイトが使用されるべきです。）

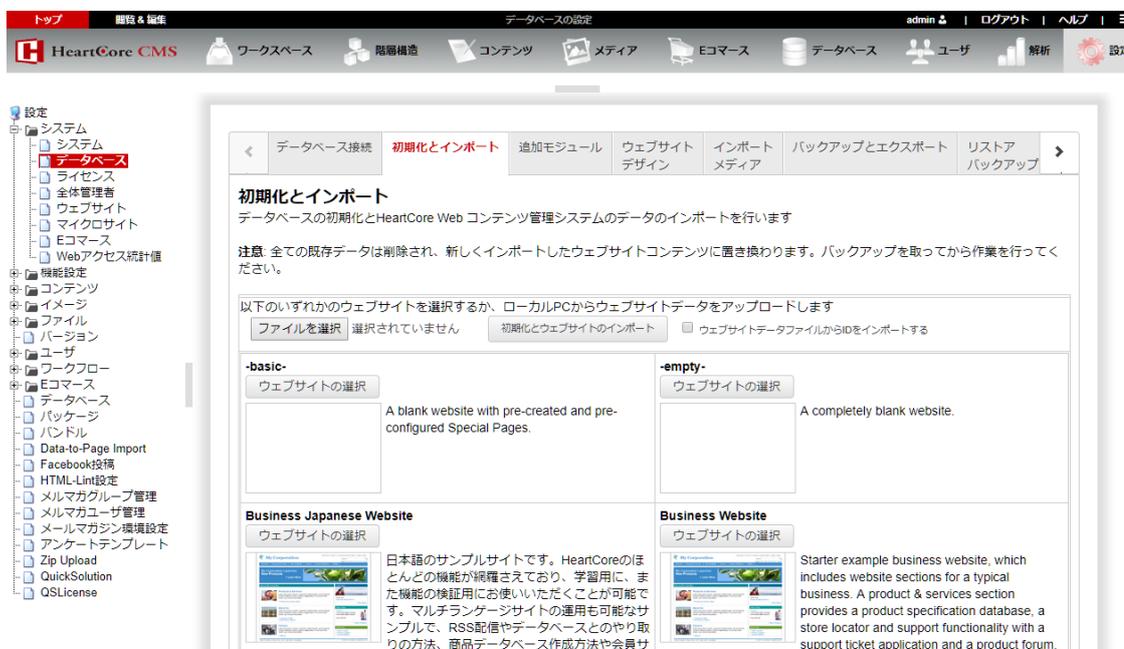
- Business Website（推奨）

Web コンテンツ管理システム機能をバリエーション豊かに使用した、高度なサンプル Web サイト。

初期 Web サイトコンテンツとして推奨されるオプションです。通常の企業サイトで使用されるコンテンツや機能を備えたテンプレートが用意されており、すぐにご利用頂けます。不要なコンテンツや機能は容易に取り除くことができ、コンテンツやデザインの修正も簡単です。さらに、コンテンツや機能を追加することも可能です。

- Eagle Golf

多くの Web コンテンツ管理システム機能を使用した、高度なサンプル Web サイト。異なるエディションの HeartCore Web コンテンツ管理システム用に、様々な Eagle Golf サンプル Web サイトが提供されています。



「ウェブサイトの選択」ボタンを使って、インポートする Web サイトを選択します。そして選択した Web サイトのインポートオプションを入力/選択し（もしあれば）、「初期化とインポート」ボタンを押すと実際にインポートが行われます。代わりに、ページ下部にある入力フィールドを使って、Web サイトデータベースインポートファイルをローカルコンピュータからアップロードすることも可能です。また、「初期化とインポート」タグを再度選択すると、再び Web サイトインポートオプションがすべて一覧表示されます。

任意で、「ウェブサイトデータファイルから ID をインポートする」チェックボックスをチェックすると、インポートするウェブサイトデータファイルのウェブサイトコンテンツ等の既存 ID 番号を使用することができます。ウェブサイトデータファイルのインポートを既存のウェブサイトに対して行う際や、大容量のウェブサイトデータファイルのデータベースインポートを高速化する用途で使用します。（使用しない場合は、ウェブサイトデータの ID 番号は再度振り直されます。）



インポートする Web サイトのサイズによっては、データベースの初期化や Web サイトデータのインポートに時間が掛かる可能性があります。データベースインポートの進捗状況はインポート中に表示されます。データベースのインポートが完了すると、データベース設定ページに戻ります。最終的には、新しい Web サイトへは再度ログインしないとけません。

データベースの設定と初期化に成功すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベース設定ページには、下記が表示されます。

「警告：データベースの構成はすでに完了しています。設定を変更するとデータが消失する可能性があります。」

これによりデータベース設定が正常に完了し、引き続き HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定、使用する用意ができたことを意味します。

データベースの初期化が正常に完了しなかった場合、再度データベースを初期化する必要があります。データベース初期化ステップを繰り返してください。もしインポートする Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして／あるいはデータベースのデータインポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する可能性があります。その場合は Web サイトコンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やす必要があるかもしれません。詳細については、2.2.8 高度なインポートをご参照下さい。



2.2.3 追加モジュールインポート機能

管理システムの「設定」セクションの「データベース設定」ページにある「追加モジュール」タブより、追加モジュールを使用することができます。また、「トップ」管理ページの「Web サイト機能の追加」リンクからも有効です。

追加モジュールは、Web サイトの Web サイトコンテンツを追加でインポートします。既存の Web サイトコンテンツが削除されたり変更されたりすることはありません。

追加モジュール設定ページには、使用可能な Web サイトデータベースインポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェアライセンスキーによっては、いくつかの追加モジュールは無効/使用不可であるため、グレーアウトされている場合もあります。



「追加モジュールを選択」ボタンを使って、インポートする追加モジュールを選択します。そして追加モジュールのインポートオプションを入力/選択し（もしあれば）、「追加モジュールをインポート」ボタンを選択すると、実際のインポートが行われます。代わりに、ページ下部にある入力フィールドを使って、ローカルコンピュータより追加モジュールデータベースインポートファイルをアップロードすることも可能です。また、追加モジュールオプションを再度一覧表示させるには、もう一度「追加モジュール」タブを選択して下さい。



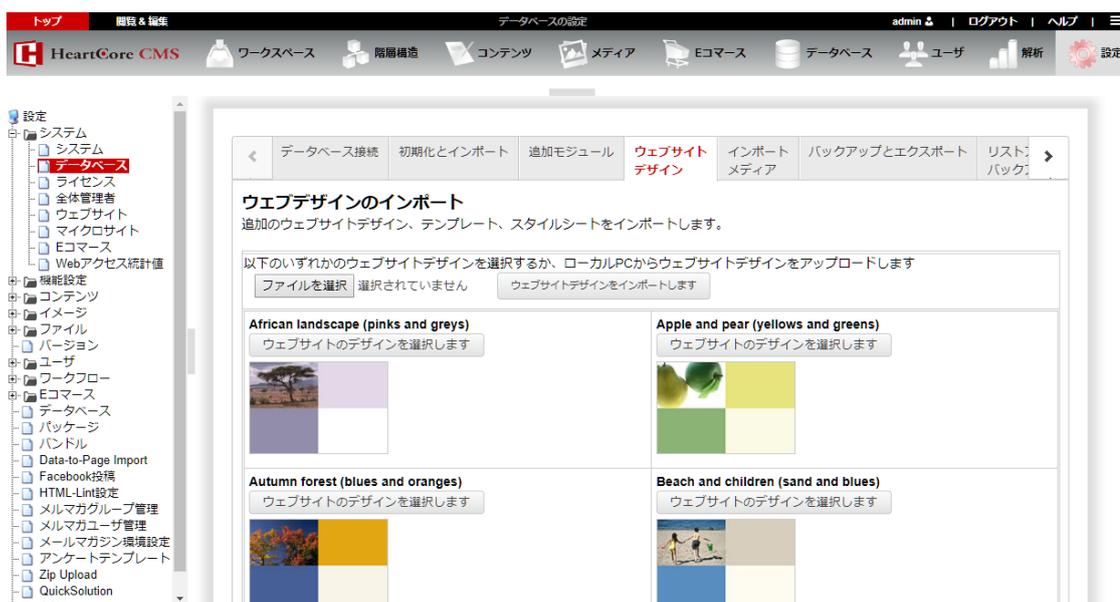
インポートする追加モジュールのサイズによっては、データベースを初期化し、追加モジュールをインポートするまでに時間が掛かる可能性があります。インポート中、進捗状況が表示されます。追加モジュールのインポートが完了すると、データベース設定ページに戻ります。

2.2.4 Web サイトデザインのインポート

管理システムの「設定」セクション内「データベース設定」ページにある「ウェブサイトデザイン」タブより、Web サイトデザインを使用することができます。

Web サイトデザインは、Web サイトへの追加 Web サイトコンテンツをインポートします。既存の Web サイトコンテンツが、削除されたり変更されたりすることはありません。

「Web サイトデザイン」設定ページでは、使用可能な Web サイトデザインインポートファイルが一覧表示されます。管理システムへ設定されたソフトウェアライセンスキーによっては、いくつかの Web サイトインポートファイルは無効/使用不可のため、グレーアウトされている場合があります。





「ウェブサイトデザイン」ボタンを使って、インポートする Web サイトデザインを選択します。そして、選択した Web サイトデザインのインポートオプションを入力/選択し（もしあれば）、「ウェブサイトデザインのインポート」ボタンを選択すると、実際のインポートが行われます。代わりに、ページ下部の入力フィールドを使って、ローカルコンピュータより Web サイトデザインデータベースインポートファイルをアップロードすることも可能です。また、再度 Web サイトデザインオプションを一覧表示させるには、「ウェブサイトデザイン」タブを再び選択します。

2.2.5 メディアライブラリファイルのインポート

インポートメディアタブでは、既存 Web サイト HTML ファイルを解析し、それらのファイルをインポートすることができます。また、/image/フォルダより Web サイトの既存イメージをインポートしたり、/file/フォルダより Web サイトの他の既存ファイルをインポートすることもできます。既存 Web サイトのファイル数によっては、解析するのに時間が掛かる場合があります。

Adobe Dreamweaver など生成された HTML ファイルで定義されているように、Web コンテンツ管理システムが編集可能領域を特定している場合、その中からどれを、インポートしたページのタイトルとして取り込むか、またはコンテンツとして取り込むか選択できます。「ページタイトル編集可能領域」または「ページコンテンツ編集可能領域」を選択するか、単に「なし」や「すべて」を選択します。

デフォルトでは、インポートした Web サイトページやスタイルシート、スクリプトのオリジナルファイルはサーバー上に保持されます。この場合、バックアップや削除が必要であれば手動で行ってください。代わりに、自動でバックアップや削除を行うには、「バックアップ」（*.backup にリネームされます）もしくは「削除」を選択してください。

チェックボックスを選択後「メディアのインポート」ボタンを押下し、既存 Web サイトの HTML ファイルやイメージ、その他ファイルをインポートします。

「Web サイトをインポート」のオプションは「.dwt」ファイル、「.html/htm」ファイル、画像、その他のファイルをお使いの Web サイトに分析してインポートします。インポートの際に、下部に出るドロップダウンから、Dreamweaver ベースで作成したテンプレートファイルの編集可能領域を選択できます。選択された領域以外の各ファイル（.html / .htm）は、「ページ」として、Web コンテンツ管理システムにインポートされます。もし、Web サイト home/root フォルダに、「index.html」ファイルがある場合は、このページが「デフォルトページ（ホームページ）」になります。またお使いの Web サイトに「.dwt」ファイルがある場合、このファイルは「テンプレート」として Web コンテンツ管理システムにインポートされ、それらのテンプレートは「.html / .htm」Web サイトファイルから作成された「ページ」に使われます。「.dwt」ファイル内に追加領域があれば、それらは「classes」、「elements」として Web コンテンツ管理システムにインポートされます。

個々のイメージやその他のファイルは、メディアライブラリへアップロードしたり、コンテンツの追加/更新時に Web コンテンツエディタを介してアップロードできます。しかし、イメージやその他のファイル数が多い場合には、一括アップロードをし、インポートしたい場合があります。イメージファイルは、Web サイトの “/image/” フォルダに一括アップロードすることができます。その他のファイルは、FTP ファイル転送プログラムなどの標準サードパーティインターネットアプリケーションを使用して、Web サイトの “/file/” フォルダに一括アップロードすることができます。そうすることで、メディアのインポート機能を使用して、Web サイトの “/image/” フォルダからすべてのイメージを、また “/file/” フォルダからその他のすべてのファイルを、Web コンテンツ管理システムのメディアライブラリに一括インポートすることが可能になります。



イメージやその他ファイルのインポートによって、Web コンテンツ管理システムのメディアライブラリに既に存在するイメージやその他のファイルが削除されることはありません。Web コンテンツ管理システムにまだ存在しないイメージやその他ファイルのみがインポートされます。



既存 Web サイトのファイル数によっては、テンプレートやページ、イメージ、ファイルをインポートするのに時間が掛かる場合があります。インポートが完了すると、データベース設定ページへ戻ります。

2.2.6 バックアップとエクスポート

「バックアップとエクスポート」タブでは、Web コンテンツ管理システムのデータや Web サイトのファイルを、単一のバックアップファイルにエクスポートすることができます。バックアップされたファイルは、Web サイトへ格納され、ご自身のローカルコンピュータへダウンロード可能ですので、後々 Web 管理システムへアップロードして、インポートするのに有効です。

バックアップとエクスポートを行う対象データのチェックボックスを選択し、また必要に応じてバックアップへの説明文を入力し、「エクスポートとダウンロード」ボタンをクリックすると、実際のエクスポートが始まります。エクスポートが始まると新しいウィンドウが開き、バックアップとエクスポートの進捗状況が表示されます。バックアップとエクスポートが完了すると、ウィンドウ下部にリンクが表示されますので、そこからエクスポートしたバックアップデータファイルをダウンロードすることができます。また、そのリンクを右クリックし、「名前を付けて保存」機能を使って、バックアップデータファイルをローカルコンピュータへダウンロード、保存することもできます。

Web サイトのデータやイメージファイルなどのコピーを保存しておくため、Web サイトのコンテンツを定期的にバックアップやエクスポートしたい場合があります。または、別の Web サーバに Web サイトのコンテンツを移動させるために、バックアップやエクスポートすることもあるかもしれません。最後に、Web デザイナーや開発者として、または Web ホスティングサービスプロバイダとして、新規 Web サイトを構築するための様々なサンプルやテンプレートを顧客用に作成するため、Web サイトコンテンツをバックアップ、エクスポートしたい場合もあるかもしれません。

バックアップとエクスポートでは、Web サイトデータベースから全ての Web サイトコンテンツや全てのイメージファイルなどを、ひとつのデータファイルにエクスポートします。このデータファイルは、データベースインポートでインポートすることができます。エクスポートされたデータは、Web サーバ上のファイルに格納され、ローカルのコンピュータにダウンロードしてバックアップコピーとして安全に保管することができます。



デフォルトでは、全てのWebサイトコンテンツがエクスポートされますが、任意で、Webサイトのどの部分をエクスポートするかを選択することができます。

- コンテンツ
ページ、構成要素、スタイルシート、イメージ、ファイル、リンクそして商品、またクラス、フォーマット、グループ、タイプそしてバージョンも同様に、以上を含む全てのコンテンツアイテムをエクスポートします。イメージとファイルに関しては、実際のファイルではなく、データベースデータのみエクスポートされますので注意して下さい。（実際のファイルをエクスポートするには、下方の「イメージ（ファイル）」および「ファイル（ファイル）」を使用してください。）
 - 任意で、コンテンツのクラス、バージョン、パッケージ、バンドル、グループ、タイプを指定してエクスポートすることも可能です。また、設定しているイメージフォーマットおよびファイルフォーマットをエクスポートから除外することも可能です。
- イメージ（ファイル）
「イメージ」データベースデータではなく、実際の「イメージ」ファイルをエクスポートします。（データベースデータをエクスポートするには、上方の「コンテンツ」を使用してください。）
- ファイル（ファイル）
「ファイル」データベースデータではなく、実際の「ファイル」ファイルをエクスポートします。（データベースデータをエクスポートするには、上方の「コンテンツ」を使用してください。）
- 全ての Images と Files フォルダのファイル
Webサイトの/image/フォルダ、および/file/フォルダに存在する全てのファイルをエクスポートします。Webコンテンツ管理システムで管理されていないファイルも含まれます。
- E コマース（E コマース追加モジュールのみ）
E コマース追加モジュールの注文、通貨、送料、そして税率をエクスポートします。
 - 任意で、設定している通貨、割引、送料、税率、注文、注文品目をエクスポートから除外することも可能です。
- コンテンツデータベース（データベース追加モジュールのみ）
設定されたカスタムコンテンツデータベースとそのデータをエクスポートします。
- ユーザー
ユーザーデータベース、またユーザーグループとタイプをエクスポートします。
- ワークフロー
設定されたワークフローをエクスポートします。
- マイクロ Web サイト
設定されたマイクロ Web サイトをエクスポートします。
- 設定
スーパーユーザやライセンス情報などを含む Web コンテンツ管理システム設定をエクスポートします。



- ホスティングクライアント（ホスティングエディションのみ）
ホスティングクライアントのデータおよび、ホスティングクライアントのグループ、タイプをエクスポートします。実際のホスティングクライアント Web サイトではなく、データベースデータのみがエクスポートされますのでご注意ください。
 - 任意で、ホスティングクライアントグループおよびタイプを指定してエクスポートすることも可能です。
- その他
特殊フォント（非推奨）と、ゲストブックデータをエクスポートします。
- 空白値
デフォルトでは、エクスポート／インポートファイルが小さくコンパクトになるよう、空白値のデータはエクスポートされません。外部システムとの使用向けに、空白値も含めたすべてのデータをエクスポートしたい場合は、「空白値」を選択してください。

オプションとして、後でバックアップを復元する際に、「リストアバックアップ」タブに表示されるバックアップの詳細情報を入力することができます。

エクスポートされたデータは、この「リストアバックアップ」タブより、サーバのファイル一覧から選択することで、またはローカルコンピュータよりアップロードすることで、再度インポートすることが可能です。



HeartCore

HeartCore CMS | ワークスペース | 階層構造 | コンテンツ | メディア | エコマース | データベース | ユーザ | 解析 | 設定

admin & | ログアウト | ヘルプ |

データベースの設定

バックアップとエクスポート

すべてのデータおよびリストのファイルをバックアップします。バックアップしたファイルを使用して、データベースを再構築することができます。

エクスポートとダウンロード

バックアップ詳細

<input checked="" type="checkbox"/> コンテンツ	コンテンツ項目、構成要素、コンテンツグループ、コンテンツタイプ、コンテンツバージョン、ユーザーセグメント、ユーザーテスト、イメージデータ、イメージフォーマット、イメージグループ、イメージタイプ、ファイルデータ、ファイルフォーマット、ファイルグループ、ファイルタイプ、リンクグループ、リンクタイプ、商品グループ、商品タイプ、通貨をエクスポートします。				
コンテンツ クラス	コンテンツ バージョン	コンテンツ パッケージ	コンテンツ バンドル		
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -		
コンテンツ グループ	コンテンツ タイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
イメージグループ	イメージタイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
ファイルグループ	ファイルタイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
リンクグループ	リンクタイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
商品グループ	商品タイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
イメージフォーマット	ファイルのフォーマット	セグメント	ユーザーテスト		
<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -		
<input checked="" type="checkbox"/> イメージ(ファイル)	イメージコンテンツ項目のファイルをエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> ファイル(ファイル)	ファイルコンテンツ項目のファイルをエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> 全てのImagesとFilesフォルダーのファイル	"image"フォルダおよび"file"フォルダに存在するファイルをエクスポートします。関連するコンテンツ項目は併いません。				
<input checked="" type="checkbox"/> エコマース	エコマースの注文、注文品目、通貨、割引、送料、税率をエクスポートします。				
通貨	割引	送料	税率	注文	注文品目
<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -
<input checked="" type="checkbox"/> コンテンツデータベース	コンテンツデータベースの設定とデータをエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> ユーザー	ユーザーデータベースのユーザー、グループ、タイプ、権限をエクスポートします。				
ユーザーグループ	ユーザータイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
<input checked="" type="checkbox"/> ワークフロー	ワークフローアクション設定をエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> マイクロサイト	マイクロサイト設定をエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> 設定情報	設定情報をエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> ホスティングクライアント	ホスティングのクライアント、グループ、タイプをエクスポートします。				
ホスティンググループ	ホスティングタイプ				
▶ <input checked="" type="checkbox"/> - すべて -	<input checked="" type="checkbox"/> - すべて -				
<input checked="" type="checkbox"/> パナーログ	パナーログ集計データをエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> アンケート	アンケート、アンケートカテゴリ、アンケートアイテム、アンケート結果、アンケートユーザー回答、アンケートテンプレートをエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> メールマガジン	メールマガジン、メールマガジングループ、メールマガジンユーザー、メールマガジン履歴をエクスポートします。				
<input checked="" type="checkbox"/> QuickSolution	QuickSolutionの設定とデータをエクスポートします。				
<input type="checkbox"/> その他	フォント、ゲストブックをエクスポートします (非推奨)。				
<input type="checkbox"/> 空白値	空白値を明示データとしてエクスポートします。				



2.2.7 バックアップの復元

警告：バックアップの復元は、HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定と作成済みコンテンツを含むすべてのデータをデータベースから削除します。すでに HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用していて、これまでに作成したものを保持しておきたい場合は、バックアップの復元を行わないでください。バックアップの復元を行う前に、現在の Web サイトのデータをバックアップしておくことを強く推奨します。

「バックアップの復元」タブでは、既にエクスポートしたバックアップファイルを、Web コンテンツ管理システムにインポートすることができます。また、再ダウンロードしたり、削除したりすることも可能です。

「バックを選択」ボタンを使って、インポートするバックアップファイルを選択し、「バックアップをリストア」ボタンをクリックすると、実際のインポートが開始されます。ページ下部にある入力フィールドを使って、ご自身のローカルコンピュータより Web サイトバックアップファイルをアップロードすることも可能です。また、再度バックアップのオプションを一覧表示させるには、「バックアップのリストア」タブを再び選択します。

任意で、「ウェブサイトデータファイルから ID をインポートする」チェックボックスをチェックすると、リストアするウェブサイトデータファイルのウェブサイトコンテンツ等の既存 ID 番号を使用することができます。ウェブサイトデータファイルのリストアを既存のウェブサイトに対して行う際や、大容量のウェブサイトデータファイルのデータベースインポートを高速化する用途で使用します。（使用しない場合は、ウェブサイトデータの ID 番号は再度振り直されます。）

エクスポート済みバックアップファイルをダウンロードするには、「ダウンロード」ボタンを使用します。

エクスポート済みバックアップファイルを Web サイトから削除するには、「削除」ボタンを使用します。



2.2.8 高度なインポート

警告：「テーブルの削除」や「データの削除」オプションが有効な状態でデータベースを初期化すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムの設定や、これまで作成したコンテンツなど、すべてデータベースから削除されてしまいます。HeartCore Web コンテンツ管理システムを既にご利用されていて、作成したものを残しておきたい場合には、データベースの初期化はしないで下さい。



特別な状況においては、個々のデータベース初期化やインポートオプション、または高度な設定をコントロールする、高度なデータベース初期化とインポート機能が必要、または好ましい場合があります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用されるデータベースを初期化する必要があります。データベースを初期化すると、データベース構造と HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用されるデフォルトデータが作成されます。例えば、“Basic”のクイックスタート Web サイトデータでデータベースを初期化するには、「サンプルやテンプレートから新規のサイトを作成する」を選び、「-basic-」データファイルを選択し、さらに「初期化とインポート」ボタンを選択してください。その他のデータベース初期化とインポートオプションについては、下記を参照してください。

これにより、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベース構造が作成され、デフォルトデータがインポートされます。完了するのに数分かかることがあります。データベースインポートの進捗は、Web ブラウザに表示されます。HeartCore Web コンテンツ管理データベース設定画面が、データベースインポートの進捗情報の下に再度表示されるまでお待ちください。

任意で、「ウェブサイトデータファイルから ID をインポートする」チェックボックスをチェックすると、インポートするウェブサイトデータファイルのウェブサイトコンテンツ等の既存 ID 番号を使用することができます。ウェブサイトデータファイルのインポートを既存のウェブサイトに対して行う際や、大容量のウェブサイトデータファイルのデータベースインポートを高速化する用途で使用します。（使用しない場合は、ウェブサイトデータの ID 番号は再度振り直されます。）

データベースが正常に設定され初期化されると、HeartCore Web コンテンツ管理データベース設定ページには、次のように表示されます。

「警告：データベースの構成はすでに完了しています。設定を変更するとデータが消失する可能性があります。」

これによりデータベース設定が正常に完了し、引き続き HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定、使用する用意ができたことを意味します。

データベースの初期化が正常に完了しなかった場合、再度データベースを初期化する必要があります。上記データベース初期化ステップを繰り返してください。もしインポートする Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして/あるいはデータベースのデータインポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する場合があります。その場合は Web サイトコンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やす必要があるかもしれません。詳細については、以下に記載されている高度な設定を参照してください。

「テーブルを削除」や「データの削除」オプションが有効な状態でデータベースを初期化すると、データベースインポートの進捗情報に警告メッセージが表示されることがあります。これらの警告メッセージは、データベーステーブルやデータが存在しないため、削除ができないと書かれている場合があります。これは、単に前回のデータベースの初期化が正常に完了しなかったためなので、全く問題ありません。これらの警告は無視してください。

多くの定義済み、および手動のデータベース初期化とインポートオプションが使用可能です。

- サンプルやテンプレートから新規のサイトを作成する

警告：すべての既存 Web サイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどのサ



サンプルWebサイトデータファイルをインポートするかを選択してください：

- **Eagle Golf**
多くの Web コンテンツ管理システム機能を使用した、高度なサンプル Web サイト。異なるエディションの HeartCore Web コンテンツ管理システム用に、様々な Eagle Golf サンプルが提供されています。
- **Company / Family / Organisation / Personal / Teacher / Team**
異なるユーザタイプ用の様々な基本的Webサイト
- スクラッチで新規サイトを作成する
警告：すべての既存のWebサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどの空白Webサイトのデータファイルをインポートするか選択します：
 - **Basic**
定義済み、設定済みの特別なページを含む空の Web サイト
 - **Empty**
完全に空のWebサイト
- 既存のイメージやファイルを利用しながら、スクラッチで新規サイトを作成する
警告：すべての既存Webサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどの空白Webサイトのデータファイルをインポートするか選択します。Webサーバの “/image/” フォルダから既存イメージが、そして “/file/” フォルダからその他の既存ファイルがWebコンテンツ管理システムのメディアライブラリにインポートされます。
 - **Basic**
定義済み、設定済みの特別なページを含む空のWebサイト
 - **Empty**
完全に空のWebサイト
- 既存のサイトにモジュールを追加します
既存のWebサイトコンテンツやデータは削除されません。現在のWebサイトコンテンツやデータに加え、どの追加モジュールまたはWebサイトデザインデータファイルをインポートするか選択します。
- バックアップをリストアします
警告：すべての既存Webサイトコンテンツおよびデータを削除します。代わりにどのWebサイトのバックアップデータファイル（Webサイトのバックアップ日時で一覧表示されます）をインポートするかを選びます。
- オプションを手動で選択します
様々なデータベース初期化およびインポートオプションを手動で選択します。

もしインポートされる Web サイトコンテンツが比較的大きい、そして／あるいはデータベースのデータインポートが比較的遅い場合、データベースのインポートが完了する前に Web サーバが「タイムアウト」する場合があります。その場合は Web サイトコンテンツのインポートに使用可能なリソースを増やしてください。

PHP バージョンのみ：



デフォルトでは、データベースインポートの最大実行時間は1時間（3600秒）に設定されています。データベースインポートが完了するのに十分な時間を与えるため、この設定値を大きくする必要があります。

PHP バージョンのみ：

デフォルトでは、データベースインポートの最大メモリサイズは64MB(64M)に設定されています。データベースインポートが完了するのに十分なメモリを与えるため、この設定値を大きくする必要があります。

高度な設定は保存されません。毎回データベースインストール直前に設定してください。データベースインポートの後には高度な設定はデフォルトにリセットされます。

重要：お使いの Web サーバでは、Web コンテンツ管理システムにおいてこれらの設定を変更できないようになっている場合があります。その場合は、データベースインポートが常に「タイムアウト」する可能性があります。お使いの Web サーバ/プログラミング言語設定を変更し、データベースインポートを再度行ってください。最大実行時間および最大メモリサイズの設定変更方法については、お使いの Web サーバ/プログラミング言語のドキュメンテーションを参照してください。

The screenshot shows the 'データベースの設定' (Database Settings) page in the HeartCore CMS. The left sidebar contains a navigation menu with '設定' (Settings) expanded to 'データベース' (Database). The main content area is titled '初期化とインポート' (Initialization and Import) and includes several sections:

- 初期化とインポート**: A warning message states that all current database content will be deleted and replaced by imported content. Below this are options for '初期化とインポート' (selected) and 'ウェブサイトデータファイルからDBをインポートする'.
- 初期化**: Options to 'テーブルを削除' (delete all tables) and 'テーブルを作成' (create tables).
- インポート**: Options to 'データの削除' (delete all data), 'Webサイトのインポート' (import website pages, images, and files), 'イメージのインポート' (import images from the 'Image' folder), 'ファイルのインポート' (import files from the 'file' folder), and 'データのインサート' (insert selected data).
- データ**: A section for uploading a 'サーバーファイル' (server file) from a list or local PC.
- 詳細設定**: A section for setting '最大実行時間' (maximum execution time) and '最大メモリサイズ' (maximum memory size).

2.3 ソフトウェアライセンスキー設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用するには、ハートコア株式会社 (www.heartcore.co.jp) もしくは認定リセラーより、ライセンスを購入し、ライセンスキーを設定



しなければなりません。Web ホスティングプロバイダにより HeartCore Web コンテンツ管理システムが提供されている場合、ライセンスキーはお使いの Web ホスティングプロバイダによって提供される場合もあります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムとライセンスは、それぞれ特徴の異なる様々なエディションにて利用可能です。

- パーソナル：
小規模ビジネスや個人的 Web サイトを作成し管理するための、個人 Web サイト管理者用シングルユーザシステム
- プロフェッショナル：
大規模 Web サイトや複数の Web サイト管理者向け、あらゆるビジネスニーズをサポートする全標準システム
- エンタープライズ：
他の技術的ビジネスシステムとのバックエンド統合をサポートする拡張システム
- ホスティング：
複数クライアントのホスティングや管理をサポートするインターネット、ホスティング、アプリケーションサービスプロバイダシステム

その他、多数の HeartCore Web コンテンツ管理アドオンモジュールとライセンスが利用可能です。

- E コマース：
商品カタログ、ショッピングカート、チェックアウト、支払い手続き、注文確認、注文通知、注文追跡
- コミュニティー：
ユーザ登録、パーソナライズ機能、掲示板、チャット広場、問題追跡、投票、メーリングリスト、コミュニケーションツール
- データベース
データベース作成、インポート/エクスポート、同期化、データベース管理、閲覧・検索
- Web アクセス統計値
Web サイトの使用状況をモニタリングする Web サイトアクセス統計値
- コラボレーション
Web サイト管理者のコメントおよびプロジェクト管理機能

HeartCore Web コンテンツ管理システムと追加モジュールのライセンスを設定するには、ハートコア株式会社から提供された完全なライセンスキーをすべて、空白等に注意しながら、適切な箇所にコピーし、保存をクリックしてください。

保存をクリックする際にエラーが発生した場合、ライセンスキーを確認し、再度やり直してください。

Web コンテンツ管理システムをアップグレードし、追加機能を有効にしたい場合、追加の“より大きな”ソフトウェアライセンスキーをいつでも設定することが可能です。すべての機能（いくつかのホスティングエディション機能を除いて）は、既に全バージョンに含まれていますので、ライセンスキーがあれば追加機能を有効にすることができます。したがって、ソフト

ウェアの余計なインストールやアップグレードなしに、追加機能を持つ管理システムへと容易にアップグレードすることが可能です。



2.4 スーパーユーザ Web サイト管理者設定

HeartCore Web コンテンツ管理スーパーユーザは、特別な権限とシステム設定へのアクセス許可を持つメインの Web サイト管理者です。

スーパーユーザ Web サイト管理者用のユーザ名とパスワード、そして E メールアドレスを設定する必要があります。デフォルトではスーパーユーザのユーザ名とパスワードは“admin”と“admin”に設定されています。パスワードを他のものに変更しないと誰もが簡単に Web サイト管理へのアクセス権を不正に得ることができてしまいます。

スーパーユーザのユーザ名やパスワードを覚えておくこと、またスーパーユーザの E メールアドレスを常に有効なアドレスへ更新しておくことは重要です。そうしておかないと、HeartCore Web コンテンツ管理システムにアクセスすることができず Web サイトを管理できなくなる可能性があります。

保護手段として、スーパーユーザ Web サイト管理者用に有効な E メールアドレスを設定し、変更する場合は忘れずに更新してください。もしスーパーユーザのユーザ名とパスワードを忘れてしまった場合、設定したスーパーユーザ E メールアドレスにユーザ名とパスワードを送信させることが、唯一の簡単な取得手段です。それ以外には、直接データベースにアクセスし、手動でスーパーユーザのユーザ名とパスワードをリセットもしくは取得しなければいけません。詳しくは、「インストールガイド」をご参照下さい。

HeartCore Web コンテンツ管理システム スーパーユーザと E メールアドレスを設定するには、任意のユーザ名とパスワード、E メールアドレスを入力し、保存をクリックします。

任意で、認証アプリやデバイスを使って時限ワンタイムパスワードログインコードを生成するための、ワンタイムパスワード共有シークレットを設定することも可能です。(詳細は、2.5.4.2 ワンタイムパスワードログインと認証アプリ/デバイスおよび 2.5.4.3 ログイン認証情報、ログイン試行制限、ログイン通知 E メールをご参照ください。)

全体管理者にワンタイムパスワード共有シークレットが設定されている場合は、その全体管理者の認証アプリやデバイスに同一のワンタイムパスワード共有シークレットが入力/生成される必要があります。Web コンテンツ管理システムは、標準の RFC 6238 Time-Based One-Time Password に準拠したコードを使用するため、この規格に対応しているサードパーティアプリやデバイスであればいずれも使用することができます。



認証アプリやデバイスの既存アカウントを使用するには、例えば“GA4T QNZW GU2D GMRR”といった標準形式のワンタイムパスワード共有シークレットを入力します。もしくは、標準形式のワンタイムパスワード共有シークレット（例えば“ONUG C4TF MRZW KY3S”）の生成に使用する、10文字以上の任意のテキスト（例えば“sharedsecret”）を入力することも可能です。そして、生成された標準形式のワンタイムパスワード共有シークレットを認証アプリやデバイスにも設定し、Webコンテンツ管理システムへログインするための時限パスワードコードが生成されるようにします。

スーパーユーザ設定画面には、スーパーユーザのログイン履歴データも表示されます（有効化されている場合に限り）。詳細は、2.5.4.3.1 スーパーユーザウェブサイト管理者ログインをご参照ください。



2.5 Web サイト設定

「Web サイト設定」ページでは、Web サイトへ設定可能な／設定すべき様々な基本 Web サイト設定を行うことができます。

2.5.1 Web サイトデザイン

2.5.1.1 デフォルト Web サイトテンプレート、スタイルシート、バージョン

Web サイトには、デフォルトのテンプレートやスタイルシートを設定しておくべきです。ページを表示させる際、特に別のテンプレートやスタイルシートが（そのページや、対象グループ／タイプに対し）選択されていない場合には、すべてこのデフォルトテンプレートとスタイルシートが使用されます。オプションで、デフォルトバージョンを設定することもできます。しかし通常は、“default/master”バージョンのコンテンツをデフォルトとして使用できるよう空白にしておくべきです。

- デフォルトのバージョン（コンテンツ）
Web サイトで使用されるマルチバージョンコンテンツのデフォルトバージョン。
- デフォルトのテンプレート（ページレイアウト）
すべての Web サイトページで使用される、デフォルトのページデザイン。すぐに使用できるように、基本的なページレイアウトおよびカラースキーマのサンプルが提供されています。もちろん、自由にテンプレートを作成したり、任意の Web サイトグラフィックデザインにあわせてテンプレートを変更したりすることもできます。
- デフォルトのスタイルシート（テキスト）
すべての Web サイトページで使用される、デフォルトのテキストスタイル。すぐに使用できるように、基本的なスタイルシートサンプルが提供されています。もちろん、自由にスタイ

ルシートを作成したり、任意の Web サイトグラフィックデザインにあわせてスタイルシートを変更したりすることができます。

お好みのオプションを選び、「プレビュー」を選択すると、選択したオプションで Web サイトホームページをプレビューすることができます。Web サイトホームページのプレビューは新規ブラウザウィンドウに表示されます。Web サイト設定画面に戻るには、Web サイトホームページのプレビューウィンドウを閉じてください。選択に満足するまでオプションを選択し「プレビュー」を行うことができます。選択されたオプションに満足し、続く Web サイト詳細を入力したら、Web サイトの初期設定を完了するため「保存」を選択してください。



2.5.1.2 Web サイトデザインのインポート

Web コンテンツ管理システムには様々な Web サイトデザインが含まれています。使用可能なクイックスタート Web サイトデザインがリストされます。

Web サイトデザインをインポートするには、リストされた Web サイトデザインの中から一つを選び、「Web サイトのデザインを選択します」ボタンを選んでください。Web サイトデザインのインポートを確認するには「Web サイトデザインをインポートします」ボタンを選択します。（または、「Web デザイン」タブを選択すると、使用可能なすべての Web サイトデザインオプションが再度表示されます。）

Web サイトデザインによっては、いくつか設定オプションが表示されることがあります。データインポート確認の前に、チェック/変更してください。

これにより、HeartCore Web コンテンツ管理システムのデータベースに、選択した Web サイトデザインデータがインポートされます。この作業は数秒から数分ほどで完了します。データベースインポートの進捗情報は、Web ブラウザに表示されます。

これで追加のテンプレートおよび/またはスタイルシートのオプションが Web サイトのデフォルトのテンプレートおよびデフォルトのスタイルシート選択一覧に追加されます。



2.5.2 Web サイト設定

2.5.2.1 HTML DOCTYPE と キャラクタセット

基本的な Web サイトの設定は 2 つの特別な HTML ヘッダーで、これらは、お使いの Web サイトに使用している HTML コードのバージョンとキャラクタセットエンコーディングを、Web ブラウザに伝えるものです。もし特にお好みの設定などがなければ、「HTML DOCTYPE」を空白のままにするか、「HTML 4.01 Transitional」オプションを選択し、「HTML コンテンツタイプ文字コード」をデフォルトの「UTF-8」に設定して下さい。

- HTML DOCTYPE

Web ページで使用される HTML 規格を定義する Web ページヘッダー。Web ブラウザに Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断し処理させるには、空白のままにして下さい。

この HTML DOCTYPE Web サイト設定は、他の HTML DOCTYPE 設定よりも優先度が低く、個々のページ/商品 > テンプレート > ページ/商品グループ > ページ/商品タイプ > マイクロサイトの順で優先されます。

- HTML コンテンツタイプ文字コード

Web ページと、Web サーバにデータを投稿するのに使われるキャラクタセットを定義した Web ページヘッダー。デフォルトの「UTF-8」キャラクタセットを使用するには空白のままにしておいて下さい。



2.5.2.2 HTML および HTML HEAD タグ属性

これらは、補助的で基本的な Web サイト設定である 2 つの特別な HTML ヘッダーです。例えば、Web サイトに使用している言語を Web ブラウザに伝えることが可能です。必要のない場合は、「HTML 属性」および「HTML HEAD 属性」を空白のままにしておいてください。

- HTML 属性
Web ページに使用している言語等を定義する Web ページヘッダー

Web サイトの HTML 属性設定は、個別のページ/商品、テンプレート、ページ/商品グループ、ページ/商品タイプ、マイクロサイトに定義された他の HTML 属性設定によってオーバーライドされます。（優先度は記載順）

- HTML HEAD 属性
Web ページに使用している言語等を定義する Web ページヘッダー

Web サイトの HTML HEAD 属性設定は、個別のページ/商品、テンプレート、ページ/商品グループ、ページ/商品タイプ、マイクロサイトに定義された他の HTML 属性設定によってオーバーライドされます。（優先度は記載順）

HTML属性

HTML HEAD属性

2.5.2.3 Web サイトページタイトルプリフィックスとサフィックス

会社名のような固定文字列も、Web ブラウザ内で全 Web サイトページのタイトルの前後に表示させることが可能です。これらの文字列は、Web ブラウザウィンドウのタイトル内に表示されるのみで、Web ページコンテンツ内のタイトル前後に表示されるわけではありません。

- デフォルトページタイトルプリフィックス
Web ブラウザのウィンドウタイトル内で、ページタイトルの前に表示される文字列
- デフォルトページタイトルサフィックス
Web ブラウザのウィンドウタイトル内で、ページタイトルの後ろに表示される文字列

標準のページタイトルプリフィックス

標準のページタイトルサフィックス



2.5.2.4 デフォルト Web サイトドメイン名

デフォルトでは、Web サーバーのローカルドメイン名が、「デフォルト」のドメイン名として、「閲覧&編集」モードで使用されます。内部/ローカルでの利用目的の場合や、他のデフォルトドメイン名を使用したい場合は、別のデフォルト Web サイトドメイン名を設定することが可能です。

デフォルトWebサイトドメイン名	Webサーバーのローカルドメイン名
<input type="text"/>	<input type="text"/>

2.5.2.5 Accelerated Mobile Pages (AMP)

Web コンテンツ管理システムは、モバイル端末からアクセスした際のパフォーマンスを向上させるため、ウェブサイトページの AMP HTML 形式版を（半）自動で生成することができます。

ウェブサイトの AMP HTML 形式版をリクエストするには、特別なウェブサイトドメイン名もしくはウェブサイトアドレス URL パラメータを使用する必要があります。

- AMP Web サイトドメイン名もしくはプリフィックスフルウェブサイトドメイン名（例：amp.example.com）もしくはウェブサイトドメイン名プリフィックス（例：amp）が設定されている場合、アクセスされたウェブサイトコンテンツは、（半）自動的に AMP HTML 形式へ変換されます。
- AMP URL パラメータ名
ウェブサイトアドレス URL パラメータ名（例：AMP）が設定されている場合、その URL パラメータを使ってアクセスされたウェブサイトコンテンツ（例：
http://www.example.com/page.jsp?id=123&=1）は、（半）自動的に AMP HTML 形式へ変換されます。AMP URL パラメータ名が設定されていない場合は、「AMP」という AMP URL パラメータ名がデフォルトで使用されます。

AMP ウェブサイトコンテンツを使用するには、通常のウェブサイトコンテンツに、AMP HTML 形式版への隠しリンクを含めます。隠しリンクを自動的に含めたいコンテンツおよび商品のグループとタイプを設定することができます。

- AMP コンテンツグループ
コンテンツグループ（複数可）、「- なし -」、「- すべて -」、「- 任意 -」のいずれかを選択します。
 - なし
AMP HTML リンクは、どのウェブサイトコンテンツページにも追加されません。
 - すべて
AMP HTML リンクは、すべてのウェブサイトコンテンツページに追加されます。
 - 任意
AMP HTML リンクは、AMP コンテンツタイプに設定したウェブサイトコンテンツページに追加されます。
 - コンテンツグループ（複数可）
AMP HTML リンクは、選択したコンテンツグループ（およびコンテンツタイプ）のウェブサイトコンテンツページに追加されます。

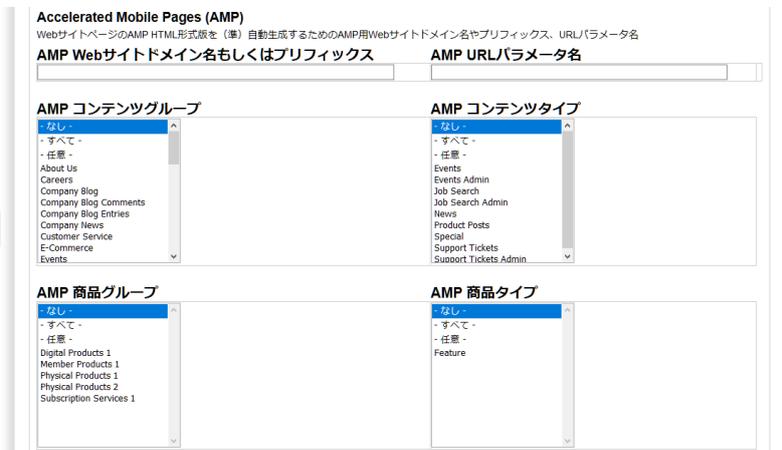


- AMP コンテンツタイプ
コンテンツタイプ（複数可）、「-なし-」、「-すべて-」、「-任意-」のいずれかを選択します。
 - なし
AMP HTML リンクは、どのウェブサイトコンテンツページにも追加されません。
 - すべて
AMP HTML リンクは、すべてのウェブサイトコンテンツページに追加されます。
 - 任意
AMP HTML リンクは、AMP コンテンツグループに設定したウェブサイトコンテンツページに追加されます。
 - コンテンツタイプ（複数可）
AMP HTML リンクは、選択したコンテンツタイプ（およびコンテンツグループ）のウェブサイトコンテンツページに追加されます。

- AMP 商品グループ
商品グループ（複数可）、「-なし-」、「-すべて-」、「-任意-」のいずれかを選択します。
 - なし
AMP HTML リンクは、どのウェブサイト商品ページにも追加されません。
 - すべて
AMP HTML リンクは、すべてのウェブサイト商品ページに追加されます。
 - 任意
AMP HTML リンクは、AMP 商品タイプに設定したウェブサイト商品ページに追加されます。
 - 商品グループ（複数可）
AMP HTML リンクは、選択した商品グループ（および商品タイプ）のウェブサイト商品ページに追加されます。

- AMP 商品タイプ
商品タイプ（複数可）、「-なし-」、「-すべて-」、「-任意-」のいずれかを選択します。
 - なし
AMP HTML リンクは、どのウェブサイト商品ページにも追加されません。
 - すべて
AMP HTML リンクは、すべてのウェブサイト商品ページに追加されます。
 - 任意
AMP HTML リンクは、AMP 商品グループに設定したウェブサイト商品ページに追加されます。
 - 商品タイプ（複数可）
AMP HTML リンクは、選択した商品タイプ（および商品グループ）のウェブサイト

ト商品ページに追加されます。



The screenshot shows the 'Accelerated Mobile Pages (AMP)' configuration page. It includes a header with a sub-header 'WebサイトページのAMP HTML形式版を (準) 自動生成するためのAMP用Webサイトドメイン名やプリフィックス、URLパラメータ名'. Below this are two input fields: 'AMP Webサイトドメイン名もしくはプリフィックス' and 'AMP URLパラメータ名'. The main area is divided into four sections, each with a dropdown menu:

- AMP コンテンツグループ**: Lists categories like About Us, Careers, Company Blog, etc.
- AMP コンテンツタイプ**: Lists content types like Events, News, Product Posts, etc.
- AMP 商品グループ**: Lists product categories like Digital Products 1, Physical Products 2, etc.
- AMP 商品タイプ**: Lists product types like Feature.

2.5.2.6 カスタム Web サイト設定

Web サイトデザインで使用されている様々なカラーなどの追加 Web サイト設定が、インポートした Web サイトコンテンツと Web サイトデザインに応じて表示されます。

最後に、独自の追加カスタム Web サイト設定を定義する事ができます。そしてそれらを Web サイト上のページ、テンプレート、そしてスタイルシート内、スクリプトに使用することができます。

各 Web サイトの設定は、「ネーム」と、Web サイト設定が分類される「ヘディング」でラベル付けされます。ヘディングと名前を入力し、「新規追加」を選択し、新規のカスタム Web サイト設定を追加します。そうするとこれが Web サイト設定ページ上に追加され、値は Web サイト設定に入力されます。Web サイト設定は再度除去することもできます。Web サイトの設定を追加・編集した後は、設定した内容を失わないために、必ず「保存」をして下さい。

Web サイトページや、テンプレート、スタイルシート、スクリプト内のあらゆる箇所に、特殊コードによるカスタム Web サイト設定を使用することができます。それらページ等が表示された際には、特殊コードは Web サイト設定の実際の値へと、自動で動的に置換されます。こうすることで、1 箇所の変更を行うだけで、すべてのページに反映させることが可能になります。特殊コードについての詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。



Colors		
Featurebox1header @@@config:Colors:Featurebox1header@@@	<input type="text" value="#008698"/>	<input type="button" value="削除"/>
Featurebox2header @@@config:Colors:Featurebox2header@@@	<input type="text" value="#006699"/>	<input type="button" value="削除"/>
Featurebox3header @@@config:Colors:Featurebox3header@@@	<input type="text" value="#669933"/>	<input type="button" value="削除"/>
Featurebox4header @@@config:Colors:Featurebox4header@@@	<input type="text" value="#009999"/>	<input type="button" value="削除"/>
Headers @@@config:Colors:Headers@@@	<input type="text" value="#006699"/>	<input type="button" value="削除"/>
Links1 @@@config:Colors:Links1@@@	<input type="text" value="#3A89C9"/>	<input type="button" value="削除"/>
Links1hover @@@config:Colors:Links1hover@@@	<input type="text" value="#235883"/>	<input type="button" value="削除"/>
Logo @@@config:Colors:Logo@@@	<input type="text" value="#3A89C9"/>	<input type="button" value="削除"/>
Menubackground @@@config:Colors:Menubackground@@@	<input type="text" value="#3A89C9"/>	<input type="button" value="削除"/>
Menubackgroundhover @@@config:Colors:Menubackgroundhover@@@	<input type="text" value="#D8E8F5"/>	<input type="button" value="削除"/>
Menubackgroundselected @@@config:Colors:Menubackgroundselected@@@	<input type="text" value="#00548F"/>	<input type="button" value="削除"/>
Tablefirstcolumnbackground @@@config:Colors:Tablefirstcolumnbackground@@@	<input type="text" value="#3A89C9"/>	<input type="button" value="削除"/>
Tableheaderbackground @@@config:Colors:Tableheaderbackground@@@	<input type="text" value="#006699"/>	<input type="button" value="削除"/>
Toolbarbackground @@@config:Colors:Toolbarbackground@@@	<input type="text" value="#3A89C9"/>	<input type="button" value="削除"/>
Toolbarbackgroundhover @@@config:Colors:Toolbarbackgroundhover@@@	<input type="text" value="#D8E8F5"/>	<input type="button" value="削除"/>
Toolbarbackgroundselected @@@config:Colors:Toolbarbackgroundselected@@@	<input type="text" value="#00548F"/>	<input type="button" value="削除"/>
ヘッディング: <input type="text"/>	ネーム: <input type="text"/>	<input type="button" value="新規追加"/>

2.5.3 Eメールとフォーム

2.5.3.1 Eメールアドレスとメールサーバ

デフォルトでは、コンタクトフォーム等は、設定した Web サイト E メールアドレスに送信されます。オプションで、別のコンタクトフォーム等を開発することも可能で、複数の許可済 E メールアドレスへ送信させることができます。コンタクトフォームを使った不正メールや迷惑メールを防止するため、設定した許可済 E メールアドレスにしか送信されません。

- Eメール送信先（デフォルト）
すべてのコンタクト／フィードバックフォームコンテンツが送信される E メールアドレス。



- Eメールアドレス（追加）
コンタクト／フィードバックフォームの送信先となり得る Eメールアドレス（複数の場合は改行区切り）。
- メールサーバ
Eメールの送信に使用されるメールサーバ。デフォルトでは“localhost”に設定されています。

ご利用の Web サーバやプログラミング言語プラットフォームによっては、メールサーバは Web コンテンツ管理システムで設定できない場合があります。その場合は、別の場所で設定する必要があります。



2.5.3.2 フォーム CAPTCHA 設定

Web コンテンツ管理システムは、コンタクトフォーム、ゲストブック、ブログ、メッセージボード、ショッピングカート、ユーザー登録など、Web サイトのビジターが登録したり、データを投稿したりできる様々な機能を備えています。残念なことに多くの個人、そして組織がそのような Web サイト機能を、自動プログラムを使って悪意のある Web サイトへアクセスさせるため、頼んでもいない広告やリンクを投稿する目的で乱用しています。自動プログラムによって、お使いの Web サイトへのそのような悪意あるデータやリンクを送信させるのを防ぐには、Web コンテンツ管理システムにおいて、Web サイトビジターがデータを送信したり商品注文する際に、いわゆる CAPTCHA（コンピュータと人間を区別する完全に自動化された公開チューニングテスト）確認コードの入力を要求する設定をすることが可能です。デフォルトでは、そのような確認コードは、Web コンテンツ管理システム側からは要求されませんが、異なる 3 つのタイプの CAPTCHA 確認コードが設定可能です。

デフォルトでは、そのような確認コードは、Web コンテンツ管理システム側からは要求されませんが、異なる 3 つのタイプの CAPTCHA 確認コードが設定可能です。

- なし

Web サイトビジターがフォームを送信するにあたり、いかなる CAPTCHA 確認コードも要求されません。

- ReCAPTCHA.net

無償の「公式」CAPTCHA オンラインサービス www.ReCAPTCHA.net. を使って、Web サイトビジター自身を認証させます。このサービスを使用するには、無償のユーザアカウントと、私用、公用のキーが必要となります。こちらは最も効果のある、推奨の CAPTCHA 設定となります。

- ランダムな文字

Web サイトコンテンツ管理システムにより設定された文字や数字のリストから、ランダムに選択される文字や数字を、Web サイトビジターに入力させ、認証させます。

- ランダムな単語

Web サイトコンテンツ管理システムにより設定された単語のリストから、ランダムに選択される単語を、Web サイトビジターに入力させ、認証させます。

CAPTCHA 認証を、異なるタイプの Web サイト機能へ有効にすることができます。

- コンタクトフォーム(/contact.aspx)

“/contact.aspx”、“/contact.jsp”、“/contact.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- コンテンツとデータの送信(/post.aspx)

ブログ、ゲストブック、メッセージボード Web サイト機能モジュールなどに用いられるように、“/post.aspx”、“/post.jsp”、“/post.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- ショッピングカート (/shopcart.aspx)

“/shopcart.aspx”、“/shopcart.jsp”、“/shopcart.php” プログラムスクリプトに送信されるショッピングカートの注文に対して、Web サイトビジター自身を認証させます。
(“/shopcart.aspx?complete=xxx”、“/shopcart.jsp?complete=xxx”、
“/shopcart.php?complete=xxx”)。

- ユーザー登録(/register.aspx)

“/register.aspx”、“/register.jsp”、“/register.php” プログラムスクリプトに送信されるすべての Web ページフォームに対して、Web サイトビジター自身を認証させます。

- ログイン済みの登録ユーザー

上記に対して、すでに Web サイトにログインしている登録済み Web サイトビジター自身を認証させます。でなければ、登録済みログインユーザには、再度、認証が要求されません。

CAPTCHA 認証機能を使用するには、上記にポストされ、プログラムスクリプトを有効にするための追加特別コードが、Web ページフォームに追加されている必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

重要： CAPTCHA 認証が必要な Web ページフォームに、このような特殊コードがひとつも追加されていない場合には、ポストされた Web ページフォームデータは、単に無視されます。



フォーム用 CAPTCHA 確認

ユーザーがウェブサイトからフォームを送信する際に、スパム防止のため変形文字の入力を要求することが可能です。
@@@captcha@@@ 関数を利用してページのフォームを作成。設定します。

CAPTCHA テキスト

なし

Google reCAPTCHA v2 - [ここをクリックして無料でアカウントとキーを取得します。](#)

シークレットキー

サイトキー

ReCAPTCHA.net - 現在は非推奨のため、代わりにGoogle reCAPTCHA v2を使用してください。

プライベート・キー

パブリック・キー

ランダムキャラクター
キャラクター

ランダムワード
ワードリスト

CAPTCHA認証を要求する項目 :

- コンタクトフォーム (/contact.jsp)
- コンテンツとデータの送信 (/post.jsp)
- ショッピングカート (/shopcart.jsp)
- ユーザー登録 (/register.jsp)
- ログイン中の登録ユーザーにも適用

2.5.3.3 フォーム 認証

Web コンテンツ管理システムには、Web サイト訪問者がデータを登録したりポストしたりするための様々な機能が備わっています。コンタクトフォームや、ゲストブック、ブログ、掲示板、ショッピングカート、ユーザ登録などです。デフォルトでは、自身の Web サイト上でも、他の Web サイトからでも使用することができます。したがって、相互作用する関連 Web サイトを多く持つことが可能になります。また、外部 Web サイトからデータを収集したり、連携したりすることもできます。

オプションとして、このような機能の HTML FORM が自身の Web サイトを起源とすることを義務づけ、外部 Web サイトから無許可データをポストできないようにしたり、悪質なクロスサイトリクエストフォージェリ (CSRF) を阻止したりすることが可能です。これは、特別な隠し自動生成承認チケット/トークンを、HTML FORM に含めることで実現します。含まれていない場合、ポストされた HTML FORM データは無視されます。

デフォルトでは、このような承認チケット／トークンは必須ではありませんが、様々な Web サイト機能に承認を要求するよう、Web コンテンツ管理システムを設定することが可能です。

- **コンタクトフォーム (/contact.aspx)**
“/contact.aspx”、“/contact.jsp” および “/contact.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。
- **コンテンツおよびデータの投稿 (/post.aspx)**
ブログやゲストブック、掲示板などのモジュールで使用される“/post.aspx”、“/post.jsp”および“/post.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。
- **データベース指定のデータ投稿 (/post.aspx)**
個別のコンテンツデータベースもしくは個別のデータ項目を指定して、“/post.aspx”、“/post.jsp”および“/post.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。これを要求しない場合は、上記の「コンテンツおよびデータの投稿」認証によって、すべてのコンテンツデータベースおよびすべてのデータ項目へのデータ投稿が承認されます。
- **ショッピングカート (/shopcart.aspx)**
“/shopcart.aspx”、“/shopcart.jsp” および “/shopcart.php” プログラムスクリプトへポストされるショッピングカートの注文に対し、承認を要求します。（“/shopcart.aspx?complete=xxx”、“/shopcart.jsp?complete=xxx”、“/shopcart.php?complete=xxx”）
- **ユーザ登録 (/register.aspx)**
“/register.aspx”、“/register.jsp” および “/register.php” プログラムスクリプトへポストされるすべての Web ページフォームに対し、承認を要求します。

フォーム認証機能を使用するには、上記プログラムスクリプトへポストされる Web ページフォームに、特殊コードを追加する必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

重要： 認証を要求する Web ページフォームへ特殊コードを追加していない場合、ポストされた Web ページフォームデータは無視されます。

フォーム認証

悪質な外部サイトからの偽造投稿を防ぐため、サイト訪問者がフォームを送信する際、サイト内部からの投稿に限定することができます。ウェブページで使用しているすべてのフォームに、@@@authorize...@@@ 特殊コードを使用する必要があります。

認証を要求するフォーム：

- コンタクトフォーム (/contact.jsp)
- コンテンツ及びデータの投稿 (/post.jsp)
- データベース指定のデータ投稿 (/post.jsp)
- ショッピングカート (/shopcart.jsp)
- ユーザ登録 (/register.jsp)

2.5.4 セキュリティ

Web コンテンツ管理システムへの不正なアクセスを防ぎ、それぞれのアクセスを監視するために、アクセスを制限することが可能です。暗号化の使用を義務づけたり、指定した回数以上ログインに失敗したユーザアカウントをブロックしたり、ログインが成功／失敗する度に通知 Eメールを送信させることができます。



2.5.4.1 SSLにて暗号化されたインターネット接続でのログイン要求

- Web サイト管理者に SSL 経由でのログインを義務づける
デフォルトでは、Web サイト管理者は、標準の HTTP Web 通信プロトコルでログインすることができます。このような通信は、モニタされ Web サイト管理者のユーザ名とパスワードが第三者に不正に入手される可能性があります。

もし、ご利用の Web サーバが SSL(Secure Socket Layer)暗号化 HTTPS Web 通信プロトコルをサポートしている場合、セキュリティを高めるため、Web コンテンツ管理者に Web コンテンツ管理システムにアクセスする際に SSL 経由でログインすることを義務づけることができます。もし Web サイト管理者が標準の HTTP プロトコル経由でログインしようとした場合、SSL 暗号化 HTTPS プロトコルを使用するよう自動的にリダイレクトされます。

このオプションは Web コンテンツ管理システムが SSL でアクセスされる場合のみ有効にするよう、ご注意ください。Web サーバで SSL が設定されていない場合、Web コンテンツ管理システムにアクセスできなくなります。SSL を使って Web コンテンツ管理システムにアクセスするには、URL "http://yourwebsite/webadmin" の代わりに、"https://yourwebsite/webadmin" を使用してください。

- Web サイト管理者ログアウトのあとに SSL を使用する
デフォルトでは、Web サイト管理者は公開 Web サイトにリダイレクトされます (<http://yourwebsite.com/>)。オプションで、代わりに SSL 経由で Web サイト管理者を Web サイトにリダイレクトさせることも可能です (<https://yourwebsite.com/>)。
- 登録済み Web サイトユーザに SSL 経由でのログインを義務づける
デフォルトでは、登録済み Web サイトユーザは、標準の HTTP Web 通信プロトコルでログインすることができます。このような通信は、モニタされ Web サイトユーザ名とパスワードが第三者に不正に入手される可能性があります。

もしご利用の Web サーバが SSL(Secure Socket Layer)暗号化 HTTPS Web 通信プロトコルをサポートしている場合、セキュリティを高めるため、登録済み Web サイトユーザに SSL 経由でログインすることを義務づけることができます。もし登録済み Web サイトユーザが標準の HTTP プロトコル経由でログインしようとした場合、SSL 暗号化 HTTPS プロトコルを使用するよう自動的にリダイレクトされます。

- Web サイト登録ユーザーログアウトのあとに SSL を使用する
デフォルトでは、登録済み Web サイトユーザは公開 Web サイトにリダイレクトされます (<http://yourwebsite.com/>)。オプションで、代わりに SSL 経由で登録済み Web サイトユーザを Web サイトにリダイレクトさせることも可能です (<https://yourwebsite.com/>)。

The screenshot shows the HeartCore CMS configuration interface. The top navigation bar includes 'トップ', '管理 & 編集', 'Web サイトの設定', 'admin', 'ログアウト', and 'ヘルプ'. The main menu on the left lists various settings categories like '設定', 'システム', 'データベース', 'コンテンツ', 'メディア', 'Eコマース', 'データベース', 'ユーザ', and '設定'. The 'Web サイト' category is expanded, showing 'ウェブデザイン', 'Web サイト設定', 'Eメールフォーム', 'セキュリティ', '特殊ページ', '特殊設定', 'URL再描画', and 'メディアストレージ'. The 'セキュリティ' page is active, displaying the following content:

セキュリティ
ユーザはSSLで暗号化されたインターネット接続を経由してログインする必要があります。ログインの試みがされたら、Eメールの通知が送信されます。

管理者はSSLを経由してログインする	管理者がログアウトをした後SSLを使う
<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい
一般登録ユーザはSSLを経由してログインする	一般登録ユーザがログアウトをした後SSLを使う
<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい



2.5.4.2 ワンタイムパスワードログインと認証アプリ/デバイス

デフォルトでは、Web コンテンツ管理システム管理ページへのアクセス、およびアクセスが制限されたコンテンツへのウェブサイトログインには、ユーザ名とパスワードによるログインが要求されます。

任意で、ユーザ名と（通常のパスワードの代わりに、もしくは通常のパスワードに加えて）ワンタイムパスワードによるログインを要求するよう設定することも可能です。

ワンタイムパスワード（OTP）を二段階ログインの一環として生成し、ウェブサイト管理者/ユーザへEメール（または代替方法）にて送信することができます。

- ウェブサイト管理者/ユーザがログインユーザ名を入力すると、ワンタイムパスワードコードが生成され、Eメール（または代替方法）にてその管理者/ユーザのEメールアドレスへ送信されます。新しいワンタイムパスワードコードは、ログインの度に生成され送信されます。
- ウェブサイト管理者/ユーザは、送られてきたワンタイムパスワードコードを入力してログインを完了します。

もしくは、標準的なワンタイムパスワード認証アプリやデバイスを使って時限ワンタイムパスワード（TOTP）を生成することも可能です。

- ワンタイムパスワード共有シークレットを、ウェブサイト管理者/ユーザに設定する必要があります。（詳細は、2.4 スーパーユーザ Web サイト管理者設定およびウェブサイト管理者ガイドをご参照ください。）
- ウェブサイト管理者/ユーザの認証アプリやデバイスにも、同一のワンタイムパスワード共有シークレットが入力/生成される必要があります。Web コンテンツ管理システムは、標準の RFC 6238 Time-Based One-Time Password に準拠したコードを使用するため、この規格に対応しているサードパーティアプリやデバイスであればいずれも使用することができます。
- ウェブサイト管理者/ユーザは、認証アプリやデバイスにて生成された最新のワンタイムパスワードを入力してログインを完了します。
- 注意：時限ワンタイムパスワードコードは、30 秒毎に変更されます。時限ワンタイムパスワードコードを確認して入力する時間、また認証アプリ/デバイスと Web コンテンツ管理システムサーバーとの時間のずれを考慮し、Web コンテンツ管理システムサーバーの時刻の前後 2 分は差が許容されます。

ログインに必要な認証情報は、様々な組み合わせが設定可能です。

- ユーザ名とパスワード
通常のユーザ名とパスワードを使ったログインが要求されます。（デフォルト）
- ユーザ名とワンタイムパスワード
ユーザ名とワンタイムパスワードコード（通常のパスワードの代わりに）を使ったログインが要求されます。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されているユーザの場合は、認証アプリやデバイスから生成されたワンタイムパスワードが必要となります。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されていないユーザの場合は、Web コンテンツ管理システムによってワンタイムパスワードコードが生成され、Eメール（もしくは代替方法）にてユーザへ送信されます。



- 注意：ログインには使用しませんが、ウェブサイト管理者／ユーザの通常のパスワードも設定する必要があります。
- ユーザ名とパスワード／ワンタイムパスワード
ユーザ名と、パスワードもしくはワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - 注意：ログインに使用しない場合でも、ウェブサイト管理者／ユーザの通常のパスワードは常に設定する必要があります。
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（有効の場合）
ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されているユーザの場合は、ユーザ名に加え通常のパスワードとワンタイムパスワードコードの両方が要求されます。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されている場合は、認証アプリやデバイスから生成されたワンタイムパスワードが必要となります。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されていない場合は、ユーザ名とパスワードのみでログイン可能です。
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（必須）
ユーザ名に加え、パスワードおよびワンタイムパスワードの両方が要求されます。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されているユーザの場合は、認証アプリやデバイスから生成されたワンタイムパスワードが必要となります。
 - ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されていないユーザの場合は、Webコンテンツ管理システムによってワンタイムパスワードコードが生成され、Eメール（もしくは代替方法）にてユーザへ送信されます。

デフォルトでは、ワンタイムパスワードコードは Web コンテンツ管理システムによって生成され、二段階ログインの一環として Eメールにてウェブサイト管理者／ユーザへ送信されます。代わりに、独自もしくはサードパーティのプログラムスクリプトを使った携帯電話テキストメッセージ等その他の方法でワンタイムパスワードコードを生成し送信することも可能です。

2.5.4.3 ログイン認証情報、ログイン試行制限、ログイン通知 Eメール

2.5.4.3.1 スーパーユーザウェブサイト管理者ログイン

- ログイン認証情報
デフォルトでは、スーパーユーザが Web コンテンツ管理システムへログインするには、設定されたスーパーユーザのユーザ名とパスワードが要求されます。任意で、ワンタイムパスワードを使用することも可能です。
 - ユーザ名とパスワード
スーパーユーザのユーザ名とパスワードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とワンタイムパスワード
スーパーユーザのユーザ名とワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワード／ワンタイムパスワード
スーパーユーザのユーザ名と、パスワードもしくはワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（有効の場合）
スーパーユーザのユーザ名とパスワード、さらに、スーパーユーザにワンタイムパスワード共有シークレットが設定されている場合はワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（必須）
スーパーユーザのユーザ名とパスワード、さらにワンタイムパスワードコードを使

ったログインが要求されます。

- スーパーユーザのログイン通知Eメール送信先
スーパーユーザによる Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視するため、スーパーユーザが Web コンテンツ管理システムにログインする度にEメール通知を送信させることができます。
- スーパーユーザのログイン失敗通知Eメール送信先
スーパーユーザによる Web コンテンツ管理システムへのログイン失敗を全て監視するため、スーパーユーザが Web コンテンツ管理システムにログイン失敗する度にEメール通知を送信させることができます。
- スーパーユーザをブロックするまでのログイン失敗許容回数
スーパーユーザでのログインが、一定の連続回数失敗すると、スーパーユーザへ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、“/webadmin/password/”機能を使用しなければいけません。
- スーパーユーザのログインブロック時のリダイレクト URL
規定回数以上のログイン試行失敗によりスーパーユーザでのログインがブロックされた場合には、指定した URL へリダイレクトされます。
- スーパーユーザのログイン履歴を記録する
スーパーユーザの Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視する目的で、スーパーユーザのログイン情報を記録し、スーパーユーザ設定画面にて確認することが可能です。スーパーユーザのログイン情報は、指定した期間保管され、その後は自動的に削除されます。
- スーパーユーザのログインを許可するインターネットアドレス
デフォルトでは、スーパーユーザはどのインターネットアドレスからでも Web コンテンツ管理システムへアクセスすることができます（一般的なネットワーク設定や Web サーバ設定に応じます）。任意で、特定のインターネットアドレスからのみアクセスを許容するよう設定が可能です。アクセスを制限するには、インターネットドメイン名や IP 番号アドレスの一部もしくは全体を設定します（複数の場合は改行区切りで指定します）。以下例です。
 - 192.168.0.123
IP アドレスが“192.168.0.123”であるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - 192.168.
IP アドレスが“192.168.”で始まるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - www.example.com
インターネットドメイン名が“www.example.com”であるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - .example.com
インターネットドメイン名が“.example.com”で終わるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。



- 注意：Web コンテンツ管理システムへのアクセスに現在使用しているインターネットアドレスをブロックすることはできません。現在使用中のインターネットアドレスをブロックするよう設定を保存しても、その設定は無視されます。

スーパーユーザのログイン

ログイン認証情報

ユーザ名とパスワード
 ユーザ名とワンタイムパスワード
 ユーザ名とパスワード/ワンタイムパスワード (有効の場合)
 ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (有効の場合)
 ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (必須)

スーパーユーザのログイン通知 Eメール送信先 :	スーパーユーザをブロックするまでのログイン失敗許容回数 :
<input type="text"/>	<input type="text"/>
スーパーユーザのログイン失敗通知 Eメール送信先 :	スーパーユーザのログインブロック時のリダイレクトURL :
<input type="text"/>	<input type="text"/>
スーパーユーザのログイン履歴を記録する	スーパーユーザのログインを許可するインターネットアドレス
<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい <input type="radio"/> すべて <input type="button" value="▼"/>	<input type="text"/>

2.5.4.3.2 Web サイト管理者ログイン

- ログイン認証情報
デフォルトでは、管理者が Web コンテンツ管理システムへログインするには、自身に設定されたユーザ名とパスワードが要求されます。任意で、ワンタイムパスワードを使用することも可能です。
 - ユーザ名とパスワード
管理者のユーザ名とパスワードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とワンタイムパスワード
管理者のユーザ名とワンタイムパスワードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワード/ワンタイムパスワード
管理者のユーザ名と、パスワードもしくはワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (有効の場合)
管理者のユーザ名とパスワード、さらに、ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されている場合はワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
 - ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (必須)
管理者のユーザ名とパスワード、さらにワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
- 管理者のログイン通知 Eメール送信先
Web 管理者による Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視するため、Web 管理者が Web コンテンツ管理システムにログインする度に Eメールの通知を送信させることができます。
- 管理者のログイン失敗通知 Eメール送信先
Web サイト管理者による Web コンテンツ管理システムへのログイン失敗を全て監視するため、Web 管理者が Web コンテンツ管理システムにログイン失敗する度に Eメール通知を送信させることができます。
- 管理者をブロックするまでのログイン失敗許容回数
Web サイト管理者でのログインが、一定の連続回数失敗すると、Web サイト管理者へ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、“/password/”機能を使用しなければいけません。



- 管理者のログインブロック時のリダイレクト URL
規定回数以上のログイン試行失敗により Web サイト管理者でのログインがブロックされた場合には、指定した URL へリダイレクトされます。
- 管理者のログイン履歴を記録する
Web サイト管理者の Web コンテンツ管理システムへの全アクセスを監視する目的で、Web サイト管理者のログイン情報を記録し、ユーザ管理画面にて確認することが可能です（詳しくは「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください）。Web サイト管理者のログイン情報は、指定した期間保管され、その後は自動的に削除されます。
- 管理者のログインを許可するインターネットアドレス
デフォルトでは、Web サイト管理者はどのインターネットアドレスからでも Web コンテンツ管理システムへアクセスすることができます（一般的なネットワーク設定や Web サーバ設定に応じます）。任意で、特定のインターネットアドレスからのみアクセスを許容するよう設定が可能です。アクセスを制限するには、インターネットドメイン名や IP 番号アドレスの一部もしくは全体を設定します（複数の場合は改行区切りで指定します）。以下例です。
 - 192.168.0.123
IP アドレスが“192.168.0.123”であるコンピュータ／デバイスからのアクセスを許可します。
 - 192.168.
IP アドレスが“192.168.”で始まるコンピュータ／デバイスからのアクセスを許可します。
 - www.example.com
インターネットドメイン名が“www.example.com”であるコンピュータ／デバイスからのアクセスを許可します。
 - .example.com
インターネットドメイン名が“.example.com”で終わるコンピュータ／デバイスからのアクセスを許可します。

管理者のログイン	
ログイン認証情報	
<input checked="" type="radio"/> ユーザ名とパスワード	
<input type="radio"/> ユーザ名とワンタイムパスワード	
<input type="radio"/> ユーザ名とパスワード/ワンタイムパスワード (有効の場合)	
<input type="radio"/> ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (有効の場合)	
<input type="radio"/> ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (必須)	
管理者のログイン通知 Eメール送信先 :	管理者をブロックするまでのログイン失敗許容回数 :
<input type="text"/>	<input type="text"/>
管理者のログイン失敗通知 Eメール送信先 :	管理者のログインブロック時のリダイレクト URL :
<input type="text"/>	<input type="text"/>
管理者のログイン履歴を記録する	管理者のログインを許可するインターネットアドレス
<input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい - [すべて] ?	<input type="text"/>

- 管理者のパスワードが無効になるまでの日数
Web サイト管理者は、最後のパスワード変更から規定の日数が経つと、パスワードを変更するよう促されます。有効期限を設けていない場合は、Web サイト管理者パスワードは期限切れになりません。



- 管理者の期限切れパスワードの変更を強制する
デフォルトでは、Web サイト管理者は、期限の切れたパスワードを変更するよう促されますが、これを無視して引き続き Web コンテンツ管理システムを使用することができます。また、期限切れパスワードを、現在使用中のパスワードや最近使用したパスワードと同じパスワードに更新することが可能です。任意で、期限切れパスワードの変更を強制し、最近使用したパスワードの再利用を禁止することができます。
- 管理者パスワードの最小文字数
デフォルトでは、パスワードの文字数制限はありません。任意で、最小文字数を設定することが可能です。
- 管理者パスワードの最大文字数
デフォルトでは、パスワードの文字数制限はありません。任意で、最大文字数を設定することが可能です。
- 管理者パスワードに大文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、大文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 管理者パスワードに小文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、小文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 管理者パスワードに数字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、数字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 管理者パスワードに特殊文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、特殊文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
(?!"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[^_`{|}~)
- 管理者パスワードの合致要求条件
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、指定した正規表現（改行区切り）に合致するよう要求することが可能です。以下例です。
 - [A-Z].*[A-Z]
大文字を最低 2 文字含めるよう要求します。
 - [a-z].*[a-z]
小文字を最低 2 文字含めるよう要求します。
 - [0-9].*[0-9]
数字を最低 2 文字含めるよう要求します。
 - [A-Z].*[A-Z]
[a-z].*[a-z]
[0-9].*[0-9]
大文字と小文字と数字を、それぞれ最低 2 文字ずつ含めるよう要求します。

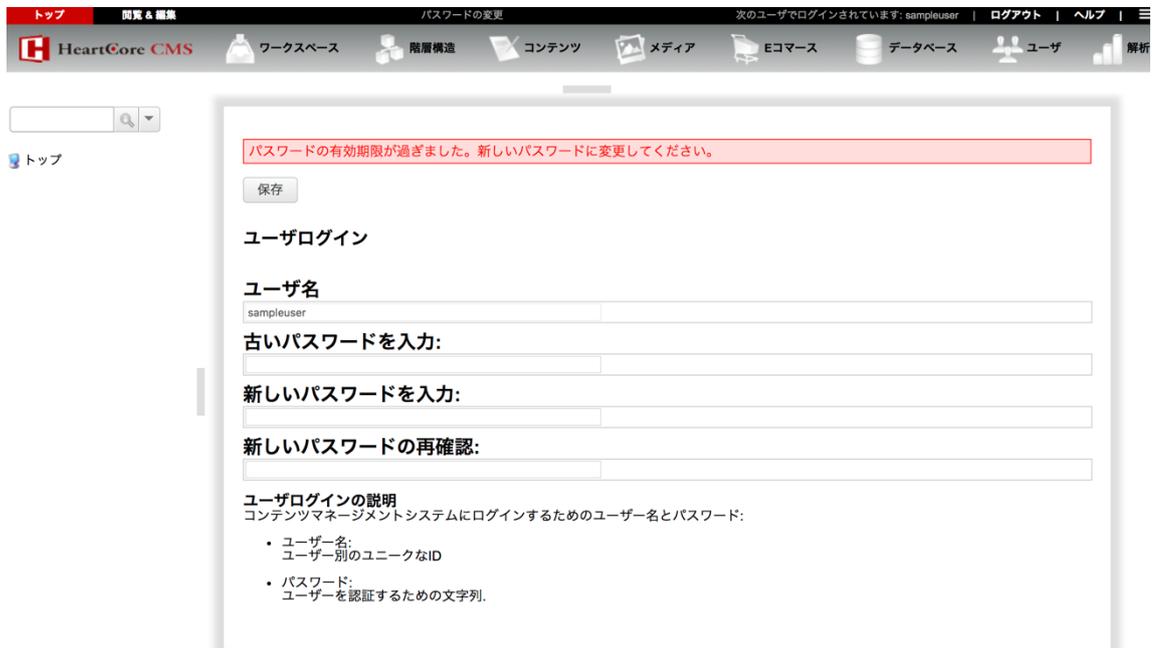


- 管理者パスワードの合致拒否条件
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、指定した正規表現（改行区切り）に合致しないよう要求することが可能です。以下例です。
 - password
PASSWORD
“password” もしくは “PASSWORD” という語を含めないよう要求します。
- 管理者パスワードのエラーメッセージ
パスワードポリシーの要件や制限を記載したメッセージを、Web サイト管理者へ表示します。

管理者のパスワード	
管理者のパスワードが無効になるまでの日数 <input type="text"/> 日	管理者の期限切れパスワードの変更を強制する <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい - 再使用禁止: <input type="text"/> 現在 -
管理者パスワードの最小文字数 <input type="text"/>	管理者パスワードの最大文字数 <input type="text"/>
管理者パスワードに大文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	管理者パスワードに小文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい
管理者パスワードに数字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい	管理者パスワードに特殊文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input type="radio"/> はい
管理者パスワードの合致要求条件 (正規表現) <input type="text"/>	管理者パスワードの合致拒否条件 (正規表現) <input type="text"/>
管理者パスワードのエラーメッセージ <input type="text"/>	

- 管理者のログアウト時のリダイレクト URL
デフォルトでは、Web コンテンツ管理システムからログアウトした際、Web サイト管理者は Web サイトのデフォルトホームページへリダイレクトされます。任意で、別の Web サイト URL アドレスを設定することが可能です。

管理者のログアウト
管理者のログアウト時のリダイレクトURL <input type="text"/>



2.5.4.3.3 Web サイトユーザログイン

- ログイン認証情報

デフォルトでは、一般登録ユーザがウェブサイトへログインするには、自身に設定されたユーザ名とパスワードが要求されます。任意で、ワンタイムパスワードを使用することも可能です。

- ユーザ名とパスワード
一般登録ユーザのユーザ名とパスワードを使ったログインが要求されます。
- ユーザ名とワンタイムパスワード
一般登録ユーザのユーザ名とワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
- ユーザ名とパスワード／ワンタイムパスワード
一般登録ユーザのユーザ名と、パスワードもしくはワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（有効の場合）
一般登録ユーザのユーザ名とパスワード、さらに、ワンタイムパスワード共有シークレットが設定されている場合はワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード（必須）
一般登録ユーザのユーザ名とパスワード、さらにワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求されます。

- 一般登録ユーザのログイン通知Eメール送信先

Web サイトユーザによる Web サイトへの全てのアクセスを監視するため、Web サイトユーザがログインする度に通知 E メールを送信させることができます。

- 一般登録ユーザのログイン失敗通知Eメール送信先

Web サイトユーザによる Web サイトへのログイン失敗を全て監視するため、Web サイトユーザがログインに失敗する度に通知 E メールを送信させることができます。



- 一般登録ユーザをブロックするまでのログイン失敗許容回数
Web サイトユーザのログインが、一定の連続回数失敗すると、Web サイトユーザへ新しいランダムなパスワードが生成され、その新パスワードを取得するには、“/password/”機能を使用しなければいけません。
- 一般登録ユーザのログインブロック時のリダイレクト URL
規定回数以上のログイン試行失敗により Web サイトユーザでのログインがブロックされた場合には、特定の URL へリダイレクトされます。
- 一般登録ユーザのログイン履歴を記録する
Web サイトユーザの Web サイトへの全アクセスを監視する目的で、Web ユーザのログイン情報を記録し、ユーザ管理画面にて確認することが可能です（詳しくは「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください）。Web サイトユーザのログイン情報は、指定した期間保管され、その後は自動的に削除されます。
- 一般登録ユーザのログインを許可するインターネットアドレス
デフォルトでは、Web サイトユーザはどのインターネットアドレスからでも Web サイトへアクセスすることができます（一般的なネットワーク設定や Web サーバ設定に応じます）。任意で、特定のインターネットアドレスからのみアクセスを許容するよう設定が可能です。アクセスを制限するには、インターネットドメイン名や IP 番号アドレスの一部もしくは全体を設定します（複数の場合は改行区切りで指定します）。以下例です。
 - 192.168.0.123
IP アドレスが“192.168.0.123”であるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - 192.168.
IP アドレスが“192.168.”で始まるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - www.example.com
インターネットドメイン名が“www.example.com”であるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。
 - .example.com
インターネットドメイン名が“.example.com”で終わるコンピュータ/デバイスからのアクセスを許可します。

一般登録ユーザのログイン

ログイン認証情報

- ユーザ名とパスワード
- ユーザ名とワンタイムパスワード
- ユーザ名とパスワード/ワンタイムパスワード (有効の場合)
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (有効の場合)
- ユーザ名とパスワードとワンタイムパスワード (必須)

一般登録ユーザのログイン通知 E メール送信先 :

一般登録ユーザをブロックするまでのログイン失敗許容回数 :

一般登録ユーザのログイン失敗通知 E メール送信先 :

一般登録ユーザのログインブロック時のリダイレクト URL :

一般登録ユーザのログイン履歴を記録する

- いいえ
- はい -

一般登録ユーザのログインを許可するインターネットアドレス



- 一般登録ユーザのパスワードが無効になるまでの日数
Web サイトユーザは、最後のパスワード変更から規定の日数が経つと、パスワードを変更するよう促されます。有効期限を設けていない場合は、Web サイトユーザのパスワードは期限切れになりません。
- 一般登録ユーザの期限切れパスワードの変更を強制する
デフォルトでは、Web サイトユーザは、期限の切れたパスワードを変更するよう促されますが、これを無視して引き続き Web サイトを使用することができます。また、期限切れパスワードを、現在使用中のパスワードや最近使用したパスワードと同じパスワードに更新することが可能です。任意で、期限切れパスワードの変更を強制し、最近使用したパスワードの再利用を禁止することができます。
- 一般登録ユーザパスワードの最小文字数
デフォルトでは、パスワードの文字数制限はありません。任意で、最小文字数を設定することが可能です。
- 一般登録ユーザパスワードの最大文字数
デフォルトでは、パスワードの文字数制限はありません。任意で、最大文字数を設定することが可能です。
- 一般登録ユーザパスワードに大文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、大文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 一般登録ユーザパスワードに小文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、小文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 一般登録ユーザパスワードに数字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、数字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
- 一般登録ユーザパスワードに特殊文字を必須とする
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、特殊文字を最低 1 文字含めるよう要求することが可能です。
(?!"#\$%&'()*+,-./:;<=>@[^_`{|}~)
- 一般登録ユーザパスワードの合致要求条件
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、指定した正規表現（改行区切り）に合致するよう要求することが可能です。以下例です。
 - [A-Z].*[A-Z]
大文字を最低 2 文字含めるよう要求します。
 - [a-z].*[a-z]
小文字を最低 2 文字含めるよう要求します。
 - [0-9].*[0-9]
数字を最低 2 文字含めるよう要求します。



- [A-Z].*[A-Z]
[a-z].*[a-z]
[0-9].*[0-9]
大文字と小文字と数字を、それぞれ最低 2 文字ずつ含めるよう要求します。
- 一般登録ユーザパスワードの合致拒否条件
デフォルトでは、パスワードにはいかなる文字の組み合わせも含めることができます。任意で、指定した正規表現（改行区切り）に合致しないよう要求することが可能です。以下例です。
 - password
PASSWORD
“password” もしくは “PASSWORD” という語を含めないよう要求します。
- 一般登録ユーザパスワードのエラーメッセージ
パスワードポリシーの要件や制限を記載したメッセージを、Web サイトユーザへ表示します。

一般登録ユーザのパスワード	一般登録ユーザの期限切れパスワードの変更を強制する
一般登録ユーザのパスワードが無効になるまでの日数 [] 日	<input checked="" type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい - 再使用禁止 - 現在 -
一般登録ユーザパスワードの最小文字数 []	一般登録ユーザパスワードの最大文字数 []
一般登録ユーザのパスワードに大文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい	一般登録ユーザのパスワードに小文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい
一般登録ユーザのパスワードに数字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい	一般登録ユーザのパスワードに特殊文字を必須とする <input checked="" type="radio"/> いいえ <input checked="" type="radio"/> はい
一般登録ユーザのパスワード合致要求条件 (正規表現) []	一般登録ユーザのパスワード合致拒否条件 (正規表現) []
一般登録ユーザのパスワードエラーメッセージ []	

- 一般登録ユーザのログアウト時のリダイレクト URL
デフォルトでは、Web サイトからログアウトした際、Web サイトユーザは Web サイトのデフォルトホームページへリダイレクトされます。任意で、別の Web サイト URL アドレスを設定することが可能です。

一般登録ユーザのログアウト
一般登録ユーザのログアウト時のリダイレクトURL []

2.5.4.4 ウェブサイトアドレス

2.5.4.4.1 ログイン中にユーザのアドレスに変動があると、別セッションとみなし自動的にログアウトする。

サイト訪問者のインターネットアドレスは、有効期限が切れて更新されたり、またはファイアウォールまたはプロキシサーバーを経由したりした場合に変更される可能性があります。技術的な理由またはセキュリティ上の理由により、このようなインターネットアドレスの変更をするように対応必要の場合があります。



- しない
サイト訪問者のインターネットアドレス変更を無視します
警告：技術的な理由でその必要性が確実でない限り推奨されていません。
悪意の者にウェブサイトの訪問者のセッション、ログイン情報及び、個人情報を横取りされる可能性があります。
- ベースアドレスが同じであれば同一セッションとみなす（デフォルト）

サイト訪問者のサブドメインのインターネットアドレスは、セッションやログインなどを無効化せずに変更することができる場合があります。

たとえば、ip-192-0-168-123.someprovider.net から ip-192-0-168-789.someprovider.net への変更、または w1.somecompany.com から w2.somecompany.com への変更が許可されて、セッションは無効化されません。
- フルアドレスが完全に一致しなければ別セッションとみなす

サイトの訪問者のインターネットアドレスを変更すると、セッションやログインなどが無効になります。
たとえば、ip-192-0-168-123.someprovider.net から ip-192-0-168-789.someprovider.net への変更、または w1.somecompany.com から w2.somecompany.com への変更が許可されず、セッションは無効になります。

2.5.4.4.2 リダイレクトを許可する Web サイトアドレス

Web コンテンツ管理システムでは、HTML FORM やリンクに“redirect”パラメータを使用することができますが、悪質な外部サイトへのリダイレクトを許してしまうと、悪用される恐れがあります。そこで、リダイレクトを、自社サイトや信頼できる外部サイトに限定することを推奨します。Web サイトアドレスを入力（複数の場合は、改行区切り）して保存すると、指定した Web サイトアドレスにのみリダイレクトが許可されるようになります

警告：このフィールドが空白のままの場合、ローカルおよび外部のサイトにリダイレクトできません。これはセキュリティ上の理由からお勧めできません。

Webサイトアドレス

ログイン中にユーザのアドレスに変動があると、別セッションとみなし自動的にログアウトする。

しない ベースアドレスが同じであれば同一セッションとみなす フルアドレスが完全に一致しなければ別セッションとみなす

リダイレクトを許可するWebサイトアドレス(空白の場合は、制限のないリダイレクトとなります。推奨しません)

2.5.4.5 REST API アクセス制限

オプションで、Web サイトのコンテンツと機能、および Web コンテンツ管理システムの管理機能には、REST API プログラミングインターフェイスを介してヘッドレスでアクセスできます。

- ウェブサイトの管理者のみ（デフォルト）
デフォルトとして、Web コンテンツ管理システムの管理画面へのアクセス権を持つサイト管理者のアカウントは、REST API を介してアクセスすることもできます（JWT を用いたログインの設定が提供され、オプションとして以下の記述のように REST API キーの使用によって制限される場合もあります）。
注：これは、コンテンツ管理システムの将来のリリースで必要になる場合があります。



- ユーザとウェブサイト管理者
Web サイトまたは Web コンテンツ管理システムへのログインアクセス権を持つ、Web サイト管理者と、登録されている一般ユーザの両方のアカウントは、REST API を介してアクセスすることもできます（JWT を用いたログインの設定が提供され、オプションとして以下の記述のように REST API キーの使用によって制限される場合もあります）。
- 公開
Web サイトへのアクセス権を持つすべての Web サイト訪問者は、REST API を介してアクセスすることもできます（JWT を用いたログインの設定が提供され、オプションとして以下の記述のように REST API キーの使用によって制限される場合もあります）。
- 無効
REST API を介したすべてのアクセスが無効になります。

REST API へのログインは、ログインを更新するか、REST API を介して継続してアクセスするために再ログインが必要になるまでの一定期間に制限されます。

- ログイン期間
REST API へのログインは、指定された期間、またはデフォルトで 1 時間有効です。
- ログイン更新期間
REST API へのログイン状態は、指定された期間内、またはデフォルトで 10 時間延長できません。

技術的には、REST API へのログインには、秘密鍵によって暗号化されたデジタル署名が必要です。

- JWT 共有シークレットを用いたログインが設定されていない場合、REST API は無効になります。JWT 共有シークレットは、REST API ログインのデジタル署名に使用するために、文字および数字のランダム シーケンスで構成される必要があります。JWT を用いたログインの設定を変更すると、現在の REST API でログインがすべて無効になり、再ログインが必要になります。
警告：このシークレットは厳格に秘密にしておくべきであり、いかなる人や他のシステムにも決して提供されるべきではありません。これは、コンテンツ管理システム内部利用専用であり、Web コンテンツ管理システムの外部からのアクセスや、その他のものには要求されません。

REST API へのデフォルトアクセスは、サイト又はコンテンツ管理システムの管理画面への一般的なアクセスと同様に、ユーザ名とパスワードを使用してログインする必要があるため、登録されているすべての Web サイトユーザ、または Web サイト管理者の両方が REST API にログインするようにアクセスできます。オプションとして、REST API へのログインに REST API キーの使用が必要になる場合があります。そのため、この REST API キーを提供された Web サイトユーザと Web サイト管理者のみが REST API にログインできます。1 つ以上の API キーを指定している場合、REST API にログインするために、ユーザ名とパスワードに加えて、設定されているいずれかの REST API キーが必要です。

- REST API キー（推奨）



REST API キーは改行で区切られます。REST API キーは任意の形式にて設定することができ、特定のユーザ名/パスワードに関連付けられていません（ユーザまたは管理者は設定された REST API キーを使用してログインできます）が、何らかの種類のアプリケーション、またはユーザ ID を使用することをお勧めします。

REST APIアクセス制限

REST APIを介してウェブサイトのコンテンツやWebコンテンツ管理システムの管理機能へのアクセスを制限します。

ウェブサイトの管理者のみ（デフォルト） ユーザとウェブサイト管理者 公開 無効

ログイン期間

1 時間

ログイン更新期間

1 日

ログイン JWT シークレット

3c4e60ce7d6a23eaf2b20345c89f5f570dacde9563d4693c894e1760c1233159

REST API キー

app->xxxx-123456789
app->yyyy-123456789

2.5.5 特殊ページ

Web コンテンツ管理システムや Web サイト機能の標準機能において、多種多様な特殊ページが使用されています。特定の状況で表示される普通のページもあれば、特殊コードや特殊フォームを使って開発されたページもあります。特殊コードと特殊フォームの詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

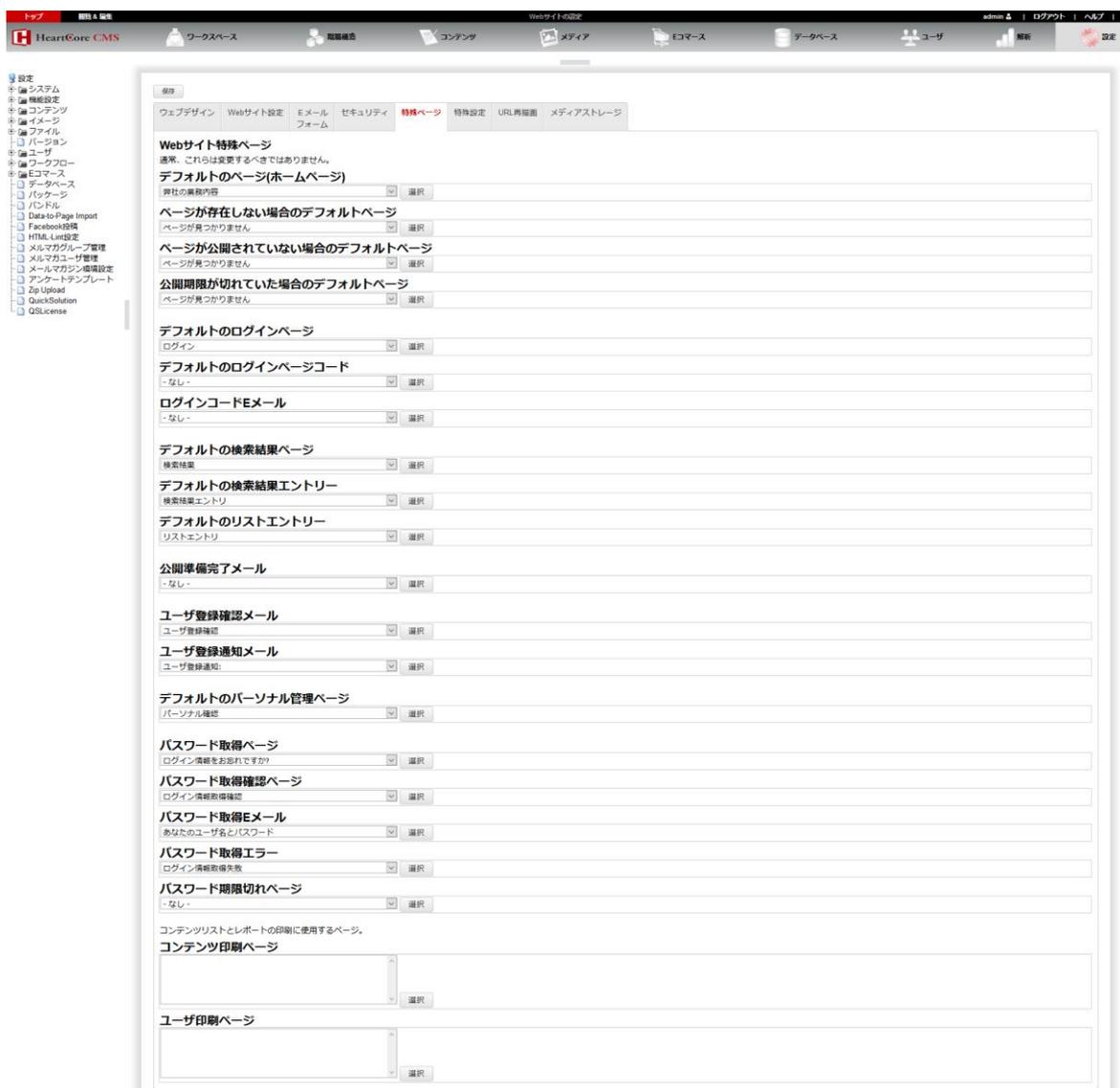
- デフォルトのページ(ホームページ)
Web サイトがアクセスされるときにデフォルトホームページとして表示されるページ。デフォルトの“Home”ページは、どのページでも選択可能です。
- ページが存在しない場合のデフォルトページ
Web サイト上で存在しないページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- ページが公開されていない場合のデフォルトページ
Web サイト上で非公開のページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- 公開期限が切れていた場合のデフォルトページ
Web サイト上で期限切れのページがアクセスされた場合に表示されるページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザに返すこともできます。
- デフォルトのログインページ
アクセスが制限されたコンテンツにアクセスする際、Web サイト訪問者にユーザ名とパスワードを要求するページ。このページは特別なコードが含まれているので、デフォルトの“ログイン” ページのままにしておいた方がよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトのログインページコード
アクセスが制限されたコンテンツにアクセスする際、Web サイト訪問者にワンタイムパスワードコードを要求するページ（ワンタイムパスワードログイン認証情報を使用するよう設定されている場合）。このページは通常のページではなく特別なコードが含まれています。

詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

- ログインコード E メール
ワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求された際、Web サイトユーザへメール送信するワンタイムパスワードコードを含むページ（ワンタイムパスワードログイン認証情報を使用するよう設定されている場合）。このページは通常のページではなく特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトの検索結果ページ
Web サイト訪問者が検索機能を使用した際に、検索結果を表示するページ。このページは特別なコードが含まれているので、デフォルトの“検索結果”ページのままにしておいた方がよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトの検索結果エントリ
検索結果ページにおいて、各検索結果エントリを表示するページ。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“検索結果エントリ”ページのままにしておくのがよいでしょう。詳細については「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトのリストエントリ
様々なページで、@@@list:@@@タグを使用して、リストエントリを表示するのに使用されます。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“リストエントリ”ページのままにしておくのがよいでしょう。詳細については「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- 公開準備完了 E メール
コンテンツが作成／更新され、「公開準備完了」としてマークされた際、Web サイト管理者に E メール送信されるページ。このページは、特別なコードが含まれているので、デフォルトの“公開準備完了”ページにしておくのがよいでしょう。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- ユーザ登録確認メール
Web サイト訪問者がユーザ登録をした際、その訪問者に E メール送信されるページ。
- ユーザ登録通知メール
Web サイト訪問者がユーザ登録をした際、Web サイト管理者に E メール送信されるページ。
- デフォルトのパーソナル管理ページ
ユーザが Web サイト上で自身のパーソナルページを更新できるよう、ユーザに表示するページ。
- パスワード取得ページ
ユーザ名／パスワードを取得するためにユーザに表示されるページ。パスワード取得ページは一般のページではなく、特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード取得確認ページ
ユーザ名／パスワードの取得が成功した際にユーザに表示されるページ。パスワード取得確認ページは一般のページではなく、特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。



- パスワード取得 E メール
ユーザ名／パスワードの取得が成功した際にユーザに E メール送信されるページ。パスワード取得 E メールは一般のページではなく、特殊なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード取得エラー
ユーザ名／パスワードの取得が失敗した際にユーザに表示されるページ。パスワード取得エラーは一般のページではなく、特殊なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- パスワード期限切れページ
パスワードが切れていた場合に、ユーザに表示されるページ。
- コンテンツ印刷ページ
Web サイトコンテンツおよびメディアライブラリの各インデックスページより、コンテンツ項目を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:content:.....:id in ###id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択したコンテンツ項目のデータを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ印刷ページ
ユーザデータベースのインデックスページより、ユーザデータベースアカウントを選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:users:.....:id in ###id###:.....@@@” や他の特殊コードを使って作成し、選択したユーザデータベースアカウントのデータを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



2.5.6 特殊設定

特別な要件が無い限り、これらの特殊設定はデフォルトのままにしておくのがよいでしょう。

2.5.6.1 Web サイトの特殊設定

- イメージ Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)

イメージは、“/image.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に表示されます。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)

イメージは、Web サーバ上のイメージファイル名を使って直接的に表示されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、ステージング機能、バージョン管理機能。また、イメージは、フォーマットの異なる別のイメージに置換することができません。



- ファイル Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)

ファイルは、“/file.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に開かれます。

デフォルトでは、ファイルへのリンクは“/file.xxx?id=ID”形式が使用されます、ID には Web コンテンツ管理システム内のユニークコンテンツ id が入ります。代わりに、“/file.xxx?FILENAME.XXX”形式を手動でコンテンツエディタへ入力して使用することも可能です、FILENAME.XXX には Web コンテンツ管理システム内のファイルのファイル名が入ります。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)

ファイルは、Web サーバ上のファイルのファイル名を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、ステージング機能、バージョン管理機能。また、ファイルは、フォーマットの異なる別のファイルに置換することができません。
- リンク Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)

リンクは、“/link.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的に開かれます。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)

リンクは、リンクの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
- スタイルシート Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)

スタイルシートは、“/stylesheet.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的にロードされます。
 - 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)

スタイルシートは、スタイルシートの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません：アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
 - インライン (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)

スタイルシートは、各 Web ページにインラインで記述されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのアクセスコントロール機能が使えません。
- スクリプト Web アドレス
 - 間接 (デフォルト)

スクリプトは、“/script.xxx” スクリプト (“xxx” は、お使いの Web コンテンツ管

理システムのバージョンに応じて、“asp”、“jsp”あるいは“php”になります) を使って、間接的にロードされます。

- 直接 (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)
スクリプトは、スクリプトの Web アドレス URL を使って直接的に開かれます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムの次の機能が使用できません: アクセスコントロール機能、バージョン管理機能。また、既存のリンクが更新されても、自動的に更新されません。
- インライン (こちらのほうが早いですがいくつかの機能が無効になります)
スクリプトは、各 Web ページにインラインで記述されます。この方法では、HeartCore Web コンテンツ管理システムのアクセスコントロール機能が使えません。



2.5.6.2 メディアライブラリコンテンツ配信

イメージおよびファイルへのアクセスを、“/image.xxx” や “/file.xxx” といったスクリプト経由で間接的に行う場合 (“xxx” は、“aspx”/“jsp”/“php”)、実際のイメージアドレス/ファイルアドレスへ訪問者のブラウザをリダイレクトさせることもできますし、もしくは実際のイメージアドレス/ファイルアドレスは隠したままスクリプトを使ってデータを返すことも可能です。

- イメージ配信
 - 実際のイメージアドレスへリダイレクトします。(デフォルト)
実際のイメージアドレスへ訪問者のブラウザがリダイレクトされ、イメージの Web アドレスが晒されます。
 - プログラムスクリプト経由でイメージデータを返します。
実際のイメージアドレスは隠したままプログラムスクリプト経由でイメージデータを返します。
- ファイル配信
 - 実際のファイルアドレスへリダイレクトします。
実際のファイルアドレスへ訪問者のブラウザがリダイレクトされ、ファイルの Web アドレスが晒されます。

- プログラムスクリプト経由でファイルデータを返します。(デフォルト)
実際のファイルアドレスは隠したままプログラムスクリプト経由でファイルデータを返します。

メディアライブラリコンテンツ配信

メディアライブラリのイメージやファイルを配信する際、実際のウェブサイトアドレスを晒す、もしくは隠すことが可能です。アクセス制限の設定されたイメージやファイルは、常に「返す」設定を自動で使用します。

イメージ配信

実際のイメージアドレスへリダイレクトします。(デフォルト)

プログラムスクリプト経由でイメージデータを返します。

ファイル配信

実際のファイルアドレスへリダイレクトします。

プログラムスクリプト経由でファイルデータを返します。(デフォルト)

2.5.7 Web サイトアドレス URL 再描画

デフォルトでは、Web コンテンツ管理システムは“動的”な Web サイトアドレスを使用します。検索エンジンやログ分析ツールの中には、このような Web ページ上のリンクをフォローしなかったり、インデックス化を行わなかったりする場合があります。オプションで、Web ページを“静的”な Web アドレスに公開できるよう、ページの追加時や更新時にファイル名を入力することが可能です。もしくは、Web サイトアドレスを“静的”に見せるよう設定することもできます。ただし、Web サーバーがそのような Web サイトアドレスをサポート、処理できることが必要です。

- 「動的」 Web アドレス
特別な Web サーバ設定が必要のない、”/page.asp?id=1”のような「動的」 Web アドレスを使用。
- 「静的」 Web アドレス
検索エンジンやログ分析と相性の良い、“/page.asp?id=1”のような「静的」 Web アドレスを使用。Web サーバの特別な設定が必要です。

デフォルトの「動的」 Web アドレスは、全ての標準の Web サーバソフトウェアで使用可能です。

「静的」 Web アドレスを使用するには、URL リライティングが可能な Web サーバソフトウェアが必要です。例えば、mod_rewrite モジュール付きの Apache や、商用あるいは無料の URL リライト ISAPI フィルターを使った Microsoft Internet Information Server (IIS) などがあります。

HeartCore Web コンテンツ管理システムの「動的」 Web アドレス URL 書き換え機能を使用するには、以下の Apache mod_rewrite の例のように、URL Web アドレスを書き換えるように Web サーバを設定する必要があります。

```
RewriteCond %{REQUEST_URI} ^/(+)/id=(.*)$
```

```
RewriteRule ^/(+)/id=(.*)$ /$1?id=$2&{%QUERY_STRING} [L]
```

上記のような、Apache mod_rewrite は、入ってくる要求が“/page.asp?id=1”の例のように、フォーマットの“/FOO/id=BAR”に合致するかを確認します。もし入ってくる要求がこのフォーマットに一致するならば、この要求は“/page.asp?id=1”のようなフォーマットの“/FOO?id=BAR”に書き換えられます。

設定方法の詳細については、Web サーバや URL リライトソフトウェアのドキュメントを参照してください。



2.5.8 メディアストレージ

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、イメージやファイルを Web サイトのサーバへ保管します。Web サイトと HeartCore Web コンテンツ管理システムが、複数サーバのクラスタ上で動作している場合は、すべてのサーバでイメージやファイルが使用できるよう、共有ファイルストレージやミラーリング/複製ファイルストレージにて保管するようセットアップが必要です。代わりに、クラウドストレージサービス（もしくはその他の共有ストレージサービス）を使用することも可能です。

- クラウドストレージ

- サービス：

使用するクラウドストレージサービス

- - なし -

イメージとファイルは、Web サーバ上のローカルでのみ保管されます。
(外部の共有ファイルストレージやミラーリング/複製ファイルストレージにて保管するよう、Web サーバをセットアップしている場合は除く)

- Amazon AWS S3 Storage

イメージとファイルは、Amazon S3 のシンプルストレージサービス上で保管されます。(http://aws.amazon.com/s3/)

- Microsoft Azure Blob Storage

イメージとファイルは、Microsoft Azure Blob Storage サービス上で保管されます。(https://azure.microsoft.com/en-gb/services/storage/blobs/)

- Google Cloud Storage

イメージとファイルは、Google Cloud Storage サービス上で保管されます。(https://cloud.google.com/storage/)

- - その他 -

イメージとファイルは、独自もしくはサードパーティ製の API プログラム スクリプトを使って、その他のクラウドストレージサービスへ保管されます。(詳細は、「インストールガイド」および「プログラミング API ガイド」をご参照ください。)

- ユーザ名/キー

使用するクラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証ユーザ名/認証キー

注意：Amazon AWS S3 Storage および Microsoft Azure Blob Storage では必須です。



- パスワード／シークレット
使用するクラウドストレージへイメージやファイルを保管するための認証パスワード／認証シークレット
注意：Amazon AWS S3 Storage および Microsoft Azure Blob Storage では必須です。
- リージョン
使用するクラウドストレージのリージョン（例：us-east-1）
注意：Amazon AWS S3 Storage では必須です。
- 認証情報
使用するクラウドストレージの JSON 形式認証情報
注意：Google Cloud Storage では必須です。
- フォルダ（／バケット）パス／名前
使用するクラウドストレージ上で、イメージやファイルの保管場所となるフォルダ／バケット
- メディア URL
 - メディアウェブアドレス URL プリフィックス
クラウドストレージ上に保管されたイメージやファイルへアクセスする際に使用する外部ウェブアドレス。例：“http://yourwebsite.s3.amazonaws.com”

注意：Web コンテンツ管理システムのメディア配信設定が、実際のイメージアドレスへやファイルアドレスへリダイレクトする設定の場合、このメディア URL でクラウドストレージ上のイメージやファイルを閲覧／ダウンロードできるよう、お使いのクラウドストレージサービスにパブリックアクセスの許可設定を行ってください。Web コンテンツ管理システムのメディア配信設定が、プログラムスクリプト経由でイメージやファイルのデータを返す設定の場合は、少なくとも Web サーバが、このメディア URL でクラウドストレージ上のイメージやファイルにアクセス／ダウンロードできるよう、お使いのクラウドストレージサービスへ許可設定を行ってください。詳しくは、2.5.6.2 メディアライブラリコンテンツ配信をご参照ください。

- 公開
詳細は、3.13.2 動的および静的 Web アドレスをご参照ください。
 - ページを公開するのに動的 Web アドレスを使用します。
公開ページへのアクセスは、以下のような動的 Web アドレスでのみ可能です。
“http://localhost/page.aspx?id=123”
 - ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします。
以下のような静的な Web アドレスへページを公開することが可能です。
“http://localhost/about.html”
 - *.html ファイルと*.css ファイルを動的に出力します。（デフォルト）
 - *.html ファイルと*.css ファイルを Web サーバに対し、静的なファイルとして配信します。（高速化されますが無効になる機能があります）
 - 静的 Web アドレスにファイルは作成しません。（クラウドストレージ使用時は必須）

重要：クラウドストレージを使用し、且つ静的な Web アドレスを有効にする場合は、必ずこの設定を選択してください。

注意：この設定を変更して保存したら、必ず「データベースアップグレード」リンクをクリックして、静的 Web アドレスに対して既存コンテンツのファイルを作成／更新／削除してください。



The screenshot shows the 'Media Storage' configuration page in the HeartCore CMS. The page is titled 'メディアストレージ' and contains several sections:

- メディアストレージ**: A section with a text box explaining that media can be stored on a local disk or a cloud storage service.
- クラウドストレージ**: A section with a text box asking for access key information for cloud storage.
- サービス**: A list of cloud storage services with radio buttons:
 - なし
 - Amazon AWS S3 Storage
 - Microsoft Azure Blob Storage
 - Google Cloud Storage
 - その他
- ユーザ名 / キー (Amazon/Microsoft)**: A text input field.
- パスワード / シークレット (Amazon/Microsoft)**: A text input field.
- リージョン (Amazon)**: A text input field.
- 認証情報 (Google)**: A large text area for authentication details.
- フォルダ(バケット/コンテナ)名**: A text input field.
- メディアURL**: A section with a text box for the media URL.
- メディアウェブアドレスURLプリフィックス**: A text input field.
- 公開**: A section with radio buttons for public settings:
 - ページを公開するのに動的Webアドレスを使用します。
 - ページを公開するのに静的Webアドレスを有効にします。
 - *.htmlファイル、*.jsファイル、*.cssファイルを動的に出力します。
 - *.htmlファイル、*.jsファイル、*.cssファイルをWEBサーバーに対し、静的なファイルとして配信します。
 - 静的なアドレスにファイルを作成しない。(クラウドストレージでは必須)

A note at the bottom states: '注意: この設定を行った後に、静的なアドレスのファイルを、作成/更新/削除を行った場合は、必ずデータベースの更新をクリックしてください。'

2.6 マイクロサイト

いわゆるマイクロサイトを使用して、Web サイトのインターネットドメイン毎に異なるデフォルトページ（ホームページ）を表示させることができます。それぞれ、異なるテンプレートやスタイルシートを使用したり、様々な方法で商品価格を計算、表示させることも可能です。また、マイクロサイトは、Web サイト訪問者の Web ブラウザや Web ブラウザ言語設定ごとに異なるデフォルトページ（ホームページ）を表示し、異なるテンプレートやスタイルシートを使用することも可能です。最後に、マイクロサイトは、検索エンジンや他の Web サイトからのリファラーの LPO 用にも使用可能です。

2.6.1 インターネットドメイン名

デフォルトでは、Web サイトにアクセスすると、設定された Web サイトのデフォルトページ（ホームページ）、デフォルトテンプレート、そしてデフォルトスタイルシートが表示されます。Web サイトは、いくつかの異なるインターネットドメイン名を持っている場合もありますが、HeartCore Web コンテンツ管理システムはデフォルトではこれらドメイン名を区別しません。

しかし、Web サイトの異なるセクションやページに誘導するためにそれぞれ異なるインターネットドメイン名が必要な場合があります。例えば:

- `www.yourcompany.com`
メインページに直接誘導。
- `www.yourcompany.co.uk`
メインページに直接誘導。
- `support.yourcompany.com`
サポートページに直接誘導。
- `partner.yourcompany.com`
パートナーページに直接誘導。
- `www.yourproduct1.com`
ある商品ページに直接誘導。
- `www.yourproduct2.com`
別の商品ページに直接誘導。
- `news.`
“news” から始まるインターネットドメイン名。ニュースページに誘導。
- `shop.`
“shop” から始まるインターネットドメイン名。E コマースページに誘導。
- `mobile.`
“mobile” から始まるインターネットドメイン名。モバイル用に最適化された Web サイトのメインページに誘導。
- `.co.uk`
“co.uk” で終わるインターネットドメイン名。英国用 Web サイトのメインページに誘導。
- `.de`
“de” で終わるインターネットドメイン名。ドイツ用 Web サイトのメインページに誘導。
- `.fr`
“fr” で終わるインターネットドメイン名。フランス用 Web サイトのメインページに誘導。

HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロサイト機能を使って、こうした設定を容易に行うことができます。

まず、インターネットドメイン名プロバイダを通じて、お持ちの Web サイト用にインターネットドメイン名を開設します。これらのインターネットドメイン名は、はじめは Web サイトのデフォルトページ（ホームページ）につながります。

引き続きデフォルトページ（ホームページ）に誘導する一般的なインターネットドメイン名に対しては何もしなくて結構です。



2.6.2 ビジターの訪問元インターネットアドレス設定

デフォルトでは、Web サイト訪問者がどこのインターネットアドレスからアクセスしているかにかかわらず、すべて同一の Web ページが表示されます。しかし、異なる地域（インターネットアドレス）からの Web サイト訪問者に Web サイトの異なるセクションやページを表示させたい場合があります。例えば：

- ローカルエリアネットワーク上の従業員には、Web サイトのイントラネット用メインページを表示する。
- （インターネットサービスプロバイダの場合）顧客に Web サイトの既存顧客用ニュースページとサポートページを表示する。
- 異なる国からの Web サイト訪問者には、Web サイトのそれぞれの母国語のページを表示する。

HeartCore Web コンテンツ管理システムを使用すると、こうした設定を容易に行うことができます。

Web サイトがアクセスされた際、デフォルトでは、Web サイトに設定しているデフォルトページ（ホームページ）が表示されます。Web サイトビジターによって異なるデバイスやブラウザを使用している場合もありますが、HeartCore Web コンテンツ管理システムはデフォルトではこれらを区別しません。

2.6.3 ユーザーエージェント（Web ブラウザ）

しかし、Web サイトビジターがアクセスするデバイスや、使用する Web ブラウザによっては（携帯電話からのアクセスや、簡易テキスト Web ブラウザ、特別なアクセシビリティの Web ブラウザ、そして古いタイプの標準でない Web ブラウザなど）、それぞれ異なったデフォルトのページ（ホームページ）へ導きたい場合があります。

- 携帯電話 Web ブラウザ
お使いの Web サイトの、簡易版、低帯域幅のデフォルトページを表示します。
- 古いタイプの標準でない Web ブラウザ
ユーザーに対して、古いタイプの標準でない Web ブラウザを使用しているので、お使いの Web サイト上で正常に動作しない恐れがある、という警告付きのデフォルトページを表示します。

これは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使用することで簡単に設定できます。

各 Web ブラウザは、それぞれ以下のような“ユーザーエージェント”識別を持っています。

Microsoft Internet Explorer 8 Web ブラウザでは；

Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 8.0; Windows NT 6.0; Trident/4.0; Mozilla/4.0 (compatible; MSIE 6.0; Windows NT 5.1; SV1); SLCC1; .NET CLR 2.0.50727; Media Center PC 5.0; .NET CLR 1.1.4322; .NET CLR 3.5.21022; WWTClient2; .NET CLR 3.5.30729; .NET CLR 3.0.30729)

Apple iPhone Safari Web ブラウザでは；



Mozilla/5.0 (iPhone; U; CPU like Mac OS X; en) AppleWebKit/420+ (KHTML, like Gecko) Version/3.0 Mobile/1A543 Safari/419.3

各 Web ブラウザのバージョンでは、それぞれ異なる“ユーザーエージェント”識別を持っている場合があるのでご注意ください。

マイクロ Web サイトフィルターは、“ユーザーエージェント”識別のどの部分にでも一致しますので、完全な“ユーザーエージェント”識別の設定は必ずしも設定する必要はありませんが、関連する Web ブラウザに対して何かユニークなものが必要となります。

2.6.4 Web ブラウザの言語設定

デフォルトでは、Web サイトにアクセスされると、この Web サイトに設定されているデフォルトページ（ホームページ）が表示されます。Web サイト訪問者はそれぞれ異なるブラウザ言語設定を選択していることがありますが、デフォルトでは HeartCore Web 管理システムはこれを識別しません。

しかし、Web サイト訪問者のブラウザ言語設定によって、それぞれ異なるデフォルトページ（ホームページ）を表示したい場合があります。例えば：

- **French [fr]**
フランス語のデフォルトページ/バージョン Web サイトを表示する。
- **German [de]**
ドイツ語のデフォルトページ/バージョン Web サイトを表示する。

これらは、HeartCore Web 管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って容易に設定することができます。

2.6.5 他の Web サイトからの参照元情報

デフォルトでは、他の Web サイト上のリンクを通じてアクセスされた場合、デフォルトページ（ホームページ）が表示されるよう設定されています。「ランディングページ最適化」のため、どの Web サイトから、もしくはどの Web ページから訪問者が訪れたのかによって、異なるデフォルトページ（ホームページ）を表示させたい場合があります。例えば：

- 他の特別な趣味の Web サイト/ページからの Web サイト訪問者は、最も関心がありそうな情報や商品ページに誘導する
- アフィリエイト/キャンペーン Web サイト/ページからの訪問者は、特別オファーを記載したページに誘導する

これは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って簡単に設定することができます。

2.6.6 検索エンジンおよびディレクトリ Web サイト検索の参照元情報

デフォルトでは、検索エンジンやディレクトリ Web サイト検索を通じてアクセスされた場合、デフォルトページ（ホームページ）が表示されるよう設定されています。「ランディングページ最適化」のため、Web サイト訪問者がどの検索クエリを使って Web サイトを見つけたかによって、異なるデフォルトページ（ホームページ）を表示させたい場合があります。例えば：

- ある特定の情報/商品を検索していた Web サイト訪問者には、同種の情報や商品に直接誘導する



- 商品の特定の用法や機能を検索していた Web サイト訪問者には、それらの用法や機能を具体的に記載したページに誘導する

これは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのマイクロ Web サイト機能を使って簡単に設定することができます。

2.6.7 マイクロサイトの設定

デフォルトページ（ホームページ）以外のページを表示させるため、追加のインターネットドメイン名や Web サイト訪問者の Web ブラウザ言語設定の設定を行うには、設定 - システム - マイクロサイトのメニュー項目リンクを選択します。



それぞれ追加するインターネットドメイン名や Web サイト訪問者のブラウザ言語設定、参照元アドレスや参照元キーワードに対し、新規追加を選択してください。インターネットドメイン名および／あるいは Web ブラウザ言語設定および／あるいは参照元 Web サイトアドレスおよび／あるいは参照元キーワードを入力し、関連するデフォルトページ等を選び、保存を選択します。

追加のインターネットドメイン名や、指定の Web サイト訪問者インターネットアドレス（指定している場合）、指定の言語コードが選択されている Web ブラウザ（指定している場合）、指定の検索ワード（指定している場合）、指定した参照元 Web サイトからのリンク（指定している場合）、を通じて Web サイトにアクセスすると、設定されているデフォルトページ（ホームページ）ではなく、ここで指定したマイクロサイトのデフォルトページが表示されます。

各マイクロ Web サイト毎にすべて異なる設定を定義する必要はありません。大抵、次のような 1 個～数個の設定の定義で十分でしょう。

- Web サイトにアクセスする際に使用したインターネットアドレスによって、Web サイト訪問者を異なるセクションに誘導するための、ドメイン設定のみ。
- 社員をイントラネット Web サイトに誘導するための、ビジター訪問元設定のみ。
- Web ブラウザの言語設定に基づいて Web サイト訪問者を異なる言語バージョンの Web サイトに誘導するための、言語設定のみ。
- Web サイト訪問者の参照元である他の Web サイトのリンクによって、最も関連のありそうな情報／商品に誘導するための、リファラ設定のみ。
- Web サイト訪問者が他の検索エンジンやディレクトリ Web サイトで使用した検索ワードに対して、最も関連のありそうな情報／商品に誘導するためのリファラキーワード設定のみ。

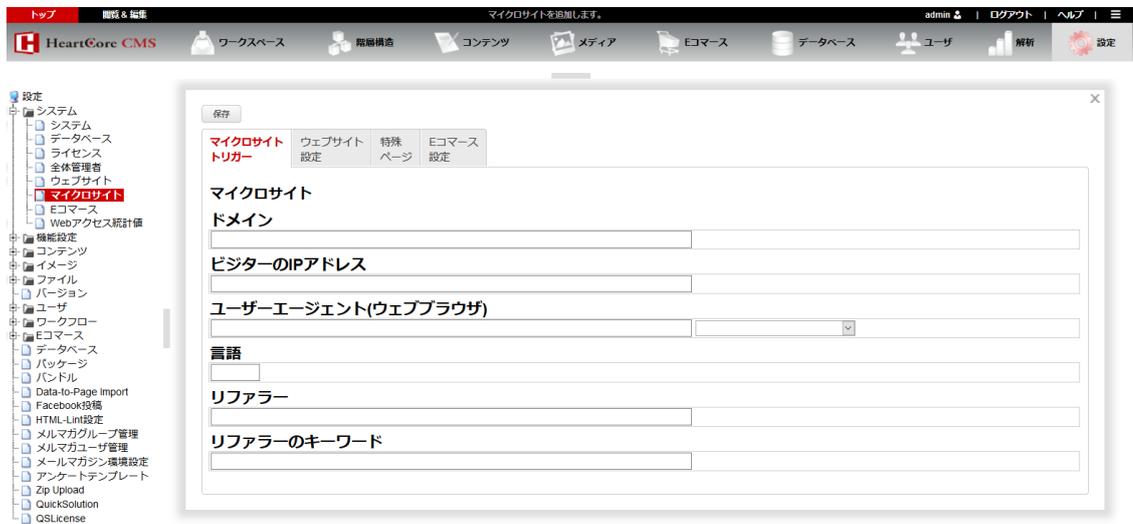
マイクロ Web サイトは、例えば Web サイト訪問者が単純に”www.yourwebsite.com”にアクセスした場合などの、デフォルトページ（ホームページ）にのみ適用されることに注意してください



い。Web サイト訪問者が、例えば "www.yourwebsite.com/page.jsp?id=123" などのような、具体的なページにアクセスした場合は、マイクロ Web サイトは Web サイト訪問者を別の Web サイトページにリダイレクトはしません。もし Web サイトのどのページにおいても Web サイト訪問者がそこに到達するために使用した Web サイト/ページおよび/または検索キーワードによって異なるコンテンツを表示したい場合は、“リファラ”カスタム拡張を使用することができます。詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

2.6.7.1 マイクロサイトトリガー

- ドメイン
追加するインターネットドメイン名のフルネーム。例えば "support.yourcompany.com" など。
- ビジター訪問元
web サイト訪問者のインターネットアドレス。オプションです（空白の場合は、すべてのインターネットアドレスからの訪問者が対象となります）。例えば：
 - インターネット IP アドレスの範囲を指定するには、"192.168.0.1-192.168.0.255"
 - 特定のインターネット IP アドレスを指定するには、"192.168.0.128"
 - インターネット IP アドレスのサブネットを指定するには "192.168." または "192.168.0."
 - インターネットドメイン名アドレスを指定するには ".jp" または ".uk" または ".fr" または "heartcore.co.jp"
- ユーザエージェント（Web ブラウザ）
オプション（空白の場合は、すべての Web ブラウザが対象となります）。完全もしくは部分的な Web ブラウザユーザエージェントの識別文字列。
- 言語
オプション（空白の場合は、すべてのブラウザ言語設定が対象となります）。例えば "en", "en-us", "fr" または "de" などの web ブラウザの言語コードを指定します。
- リファラ（参照元）
オプション（空白の場合は、すべてのインターネットアドレスからの参照が対象となります）。あなたの Web サイトへのリンクをもつ他の Web サイトのインターネットアドレス。例えば：
 - "google.com" Google 検索エンジンからの参照
 - "yahoo.com" Yahoo のイエローページからの参照
 - "affiliatewebsite.com/specialoffers.html" アフィリエイト Web サイトの特定の Web ページからの参照
- リファラキーワード
オプション。（空白の場合は、すべての参照キーワードやキーワード無しの場合が対象となります）あなたの Web サイトを見つけるために使用された検索エンジンやディレクトリ Web サイトの検索ワードやフレーズ。例えば：
 - "cms"- 「cms」という単語/略語のクエリ
 - "web、エディタ"- 「web」および「エディタ」という単語のクエリ
 - "コンテンツ管理システム"- 「コンテンツ管理システム」というフレーズのクエリ



2.6.7.2 ウェブサイト設定

- デフォルトバージョン
そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に使用するデフォルトバージョン。
- デフォルトテンプレート
そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に使用するデフォルトテンプレート。
- デフォルトスタイルシート
そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に表示するデフォルトスタイルシート。
- HTML DOCTYPE
Web ページで使用される HTML 規格を定義する Web ページヘッダー。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断し処理します。

この HTML DOCTYPE マイクロサイト設定は、Web サイトの HTML DOCTYPE 設定よりも優先されますが、他の HTML DOCTYPE 設定よりは優先度が低く、個々のページ/商品 > テンプレート > ページ/商品グループ > ページ/商品タイプの順で優先されます。

- HTML 属性
Web ページに使用している言語等を定義する Web ページヘッダー

マイクロサイトの HTML 属性設定は、Web サイトの HTML 属性設定をオーバーライドし、個別のページ/商品、テンプレート、ページ/商品グループ、ページ/商品タイプに定義された他の HTML 属性設定によってオーバーライドされます。（優先度は記載順）

- HTML HEAD 属性
Web ページに使用している言語等を定義する Web ページヘッダー

マイクロサイトの HTML HEAD 属性設定は、Web サイトの HTML HEAD 属性設定をオーバーライドし、個別のページ/商品、テンプレート、ページ/商品グループ、ページ/商品タイプに定義された他の HTML 属性設定によってオーバーライドされます。（優先度は記

載順)



2.6.7.3 特殊ページ

- デフォルトページ

そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトがアクセスされた際に表示するデフォルトページ。
- ページが存在しない場合のデフォルトページ

そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトの存在しないページがアクセスされた際に表示するデフォルトページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。
- ページが公開されていない場合のデフォルトページ

そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトの公開されていないページがアクセスされた際に表示するデフォルトページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。
- 公開期限が切れていた場合のデフォルトページ

そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトの期限切れページがアクセスされた際に表示するデフォルトページ。または、HTTP プロトコルエラー「404 Not Found」コードを Web ブラウザへ返すこともできます。
- デフォルトのログインページ

そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトへログインされた際に表示するデフォルトページ。
- デフォルトログインページコード

アクセスが制限されたコンテンツにアクセスする際、Web サイト訪問者にワンタイムパスワードコードを要求するページ（ワンタイムパスワードログイン認証情報を使用するように設定されている場合）。このページは通常のページではなく特別なコードが含まれていま

す。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。

- ログインコード E メール
ワンタイムパスワードコードを使ったログインが要求された際、Web サイトユーザへメール送信するワンタイムパスワードコードを含むページ（ワンタイムパスワードログイン認証情報を使用するよう設定されている場合）。このページは通常のページではなく特別なコードが含まれています。詳細については、「ウェブサイト開発者ガイド」を参照してください。
- デフォルトの検索結果ページ
Web サイトビジターが検索機能を使用する場合に、そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って検索結果が表示される際に表示するデフォルトページ。検索結果ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトの検索結果エントリ
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、検索結果ページの各検索結果エントリが表示される際に表示するデフォルトページ。検索結果エントリページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ登録確認メール
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトのユーザとして登録する際に、ユーザへ E メール送信されるデフォルトページ。ユーザ登録確認メールページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- ユーザ登録通知メール
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って Web サイトのユーザとして登録する際に、管理者へ E メール送信されるデフォルトページ。ユーザ登録通知メールページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得ページ
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名/パスワード情報を取得する際に表示されるデフォルトページ。パスワード取得ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得確認ページ
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名/パスワード情報を取得成功した際に表示されるデフォルトページ。パスワード取得確認ページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- パスワード取得 E メール
そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名/パスワード情報を取得成功した際に、ユーザへ E メール送信されるデフォルトページ。パスワード取得 E メールページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照

ください。

- パスワード取得エラー
 そのインターネットドメイン名（およびビジターのインターネットアドレスと言語の設定）を使って、ユーザがユーザ名/パスワード情報を取得失敗した際に表示されるデフォルトページ。パスワード取得エラーページは、通常のページではなく特殊コードを含む必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



The screenshot shows the 'HeartCore CMS' configuration interface. The left sidebar lists various settings categories, with 'マイクログラフ' (Micrograph) selected. The main content area displays the 'Special Page' configuration for 'パスワード取得エラー' (Password Retrieval Error). The settings include:

- マイクログラフ トリガー: 設定
- ウェブページ: 設定
- 特殊ページ: 設定
- Eコマース: 設定

The configuration form includes the following sections and fields:

- デフォルトページ**: [選択]
- ページが存在しない場合のデフォルトページ**: [標準] [選択]
- ページが公開されていない場合のデフォルトページ**: [標準] [選択]
- 公開期限が切れていた場合のデフォルトページ**: [標準] [選択]
- デフォルトのログインページ**: [標準] [選択]
- デフォルトのログインページコード**: [標準] [選択]
- ログインコードEメール**: [標準] [選択]
- デフォルトの検索結果ページ**: [標準] [選択]
- デフォルトの検索結果エントリ**: [標準] [選択]
- ユーザ登録確認メール**: [標準] [選択]
- ユーザ登録通知メール**: [標準] [選択]
- パスワード取得ページ**: [標準] [選択]
- パスワード取得確認ページ**: [標準] [選択]
- パスワード取得Eメール**: [標準] [選択]
- パスワード取得エラー**: [標準] [選択]

2.6.7.4 Eコマース設定

- デフォルト表示価格
 そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、@@@price@@@ 特殊コードを使って表示する商品価格のデフォルトフォーマット。詳しくは、2.7.1 通貨&価格をご参照ください。



- デフォルトの国
そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、@@@price@@@ 特殊コードを使って表示する商品価格の割引や税（VAT 等）、送料を算出するために使用されるデフォルトの国。詳しくは、2.7.1 通貨&価格をご参照ください。
- デフォルトの都道府県
そのインターネットドメイン名（またはビジターの訪問元、言語設定）を使って Web サイトにアクセスされた際に、@@@price@@@ 特殊コードを使って表示する商品価格の割引や税（VAT 等）、送料を算出するために使用されるデフォルトの都道府県。詳しくは、2.7.1 通貨&価格をご参照ください。



2.7 E コマースシステム設定

E コマース追加モジュールのライセンスキーが設定されると、E コマース機能を Web サイトへ設定できるようになります。

基本的な E コマース機能を設定するには、メニュー項目リンクより、設定→システム→E コマースを設定して下さい。

2.7.1 通貨&価格

商品やショッピングカート、注文で使用するデフォルトの通貨および、商品価格の表示方法。

- 通貨
商品やショッピングカート、注文で使用するデフォルトの通貨。
- 表示価格
デフォルトでは、@@@price@@@ 特殊コードを使って表示される商品価格は、単純に商品の定価です。任意で、割引や税、送料、さらには前後のテキストを含め、商品価格を表示するよう@@@price@@@ 特殊コードを設定することができます。予め定義されたオプションをいくつでも選択可能です。また、他のオプションや特殊コード、テキストも手動で入力することができます。
- デフォルトの国（表示価格用）
デフォルトでは、商品価格は、割引や税、送料を含まず表示されます（既に定価に含まれている場合を除く）。また、ショッピングカートのアイテム価格も、Web サイトカスタマ

一が請求先や配送先の国を選択するまでは、割引や税、送料を含まず表示されます。任意で、拠点となる国の割引や税（VAT等）、送料を算出および表示させるよう、デフォルトの国を設定することができます。

- デフォルトの都道府県（表示価格用）
さらに追加で、拠点となる都道府県の割引や税（VAT等）、送料を算出および表示させるよう、デフォルトの都道府県を設定することができます。



2.7.2 注文フォーム

すべての受注通知Eメールが送信されるEメールアドレス



2.7.3 注文管理のアクセス制限

Webサイト注文管理、売上レポート、新規注文ワークフロー、カスタム定義の売上レポートへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザグループ/ユーザタイプ。

- 注文管理アクセス制限（グループ - タイプ）
注文管理の各ページへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザグループ/タイプ。
- 新規注文ワークフロー
Webサイトショッピングカート経由の新規注文に対する、任意の初期ワークフロー状態（注文ワークフロー機能が使用されている場合）。
 - デフォルト
新規、未支払い、未発送の（有料商品）注文に対する初期ワークフロー状態。



- フリー
無料商品のみの新規注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 支払済み
新規、支払済み、未発送の（有料商品）注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 一部発送済み
新規、支払済み、（自動出荷機能を使って）一部発送済みの注文に対する初期ワークフロー状態。
 - 発送済み
新規、支払済み、（自動出荷機能を使って）発送済みの注文に対する初期ワークフロー状態。
- 売上レポートアクセス制限（グループ - タイプ）
売上セールスの各管理ページへアクセスできるウェブサイト管理者ユーザグループ/タイプ。
 - 商品&注文インデックスレポート
デフォルトでは、本日、今週、今月のサマリー売上レポートデータが、商品&注文メインページに表示されます。任意で、「商品&注文インデックスレポート」フィールドに空白スペースを入力することで、これらの売上レポートデータを削除することが可能です。もしくは、“sales:REPORT:LIMIT:PERIOD” コードを入力し、カスタムレポートを表示させることもできます。REPORT:LIMIT:USAGE は、下記オプションの中からいずれかと置き換えます。
コードをスペースで区切って、複数のレポートを商品&注文メインページに表示させることができます。例えば、“sales:summary:all:today sales:summary:all:thisweek sales:summary:all:thismonth” と入力すると、本日、今週、今月の売上サマリーデータが表示されます。
これらの売上レポートデータは、すべてのウェブサイト管理者が閲覧可能ですのでご注意ください。
 - 売上レポート
個々のレポートをいくつでも組み合わせて、カスタムレポートを定義することができます。売上レポートの左メニューからアクセスします。
このようなカスタムレポートを定義するには、「売上レポート」フィールドへ以下を入力します。
Name = “sales:REPORT:LIMIT:PERIOD sales:REPORT:LIMIT:PERIOD”
REPORT:LIMIT:USAGE は、下記オプションの中からいずれかと置き換えます。各レポートは改行区切りで入力します。例えば、
Summary = "sales:summary:all:today sales:summary:all:thisweek sales:summary:all:thismonth"
Top 10 = "sales:products:10:thisweek sales:products:10:thisweek "
と入力すると、「Summary」および「Top10」という2つのカスタム売上レポートが定義されます。
- REPORT
summary
websites
products
productgroups
producttypes



HeartCore



daily
weekly
monthly
yearly
hours
weekdays
days
weeks
months
countries
visitors
operatingsystems
webbrowsers
users
usergroups
usertypes
affiliates
referrers
searchengines
searchqueries
searchwords
entry

○ LIMIT

all
NUMBER

NUMBER は正の整数

○ PERIOD

all
now
today
last24hours
yesterday
thisweek
last7days
lastweek
last14days
thismonth
last30days
lastmonth
thisquarter
last3months
lastquarter
thishalfyear
last6months
lasthalfyear
this year
last12months
last year



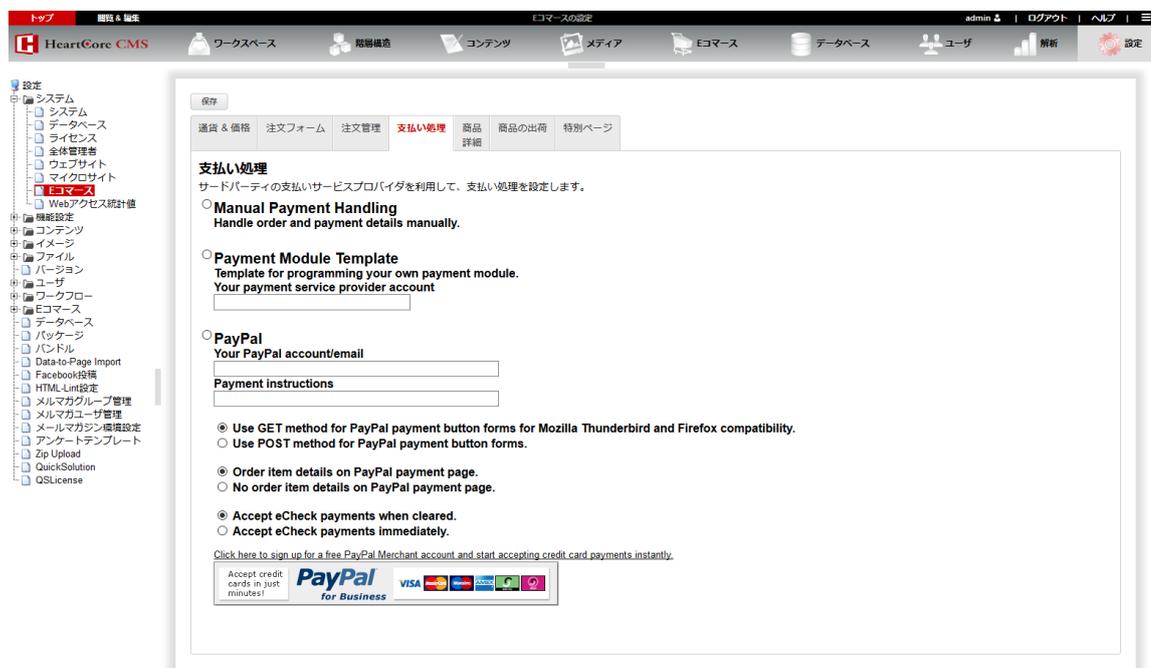
2.7.4 支払い処理

オプションとして、PayPal (www.paypal.com) や追加モジュールを使用した他の決済サービスプロバイダを通じて、クレジット/デビットカード統合決済処理が使用できます。

- Manual Payment Handling (自動支払い処理)
注文や決済詳細を自動で行う場合。
- PayPal
PayPal 決済サービスプロバイダを使用する場合。
 - Your PayPal account/email (PayPal アカウント/Eメール)
Web サイトカスタマーの決済が行なわれる PayPal アカウントに登録した E メールアドレス
 - Payment instructions (支払いの説明)
Web サイトカスタマーが PayPal を通して支払いを行う際、決済ボタンの上に表示させる説明文。
 - Use GET method for PayPal payment button forms for Mozilla Thunderbird and Firefox compatibility. (Mozilla Thunderbird と Firefox 互換性のため、PayPal 支払いボタンフォームに GET メソッドを使用する)
Mozilla Thunderbird および Firefox プログラムの制限により、標準の POST メソッドを使用した場合、支払いフォームが正しく処理されない場合があります。
 - Use POST method for PayPal payment button forms. (PayPal 支払いボタンフォームに POST メソッドを使用する)
 - Order item details on PayPal payment page. (PayPal 支払いページに注文アイテム詳細を表示する)

注文商品詳細を PayPal にコピーし、PayPal のショッピングカート詳細ページに表示できるようにします。

- No order item details on PayPal payment page. (PayPal 支払いページに注文アイテム詳細を表示しない)
PayPal の支払いページには、注文の合計金額と注文アイテム詳細のサマリーのみ表示します。
- Accept eCheck payments when cleared. (清算後 eCheck による支払いを受け付ける)
eCheck による支払いが PayPal によって清算されるまで、支払いの受付および注文/出荷処理を行わない。清算には数日かかることがあります。
- Accept eCheck payments immediately. (即座に eCheck による支払いを受け付ける)
eCheck による支払いが PayPal によって清算される前に、即座に支払いの受付および注文/出荷処理を行います。



2.7.5 商品詳細

Web サイト管理者は、商品に対してあらゆる商品詳細をいくつでも追加することができます。任意で、一般的な商品詳細データの容易な使用と一貫性保持の目的で、事前定義済みの商品詳細オプションを設定することが可能です。

- 名前
商品詳細属性の名前を入力します。
- タイプとプロパティ
商品詳細属性に対するタイプとプロパティを選択します。
 - テキスト
シンプルなテキスト入力フィールドです。任意でデフォルト値を設定することも可能で、商品への追加時に値は変更することができます。

- 選択（単一）
事前に定義された選択肢を伴う選択ボックスです。商品への追加時に、この中から選択します。「サイズ」には、標準 HTML FORM SELECT ボックスとして商品管理画面に表示させたい選択肢の数を指定することが可能です。
- 選択（複数）
事前に定義された選択肢を伴う選択ボックスです。商品への追加時に、この中から選択します。「サイズ」には、標準 HTML FORM SELECT として商品管理画面に表示させたい選択肢の数を指定することが可能です。または、ピクセルサイズ（例：200px）を指定すると、左（未選択）右（選択済）カラムとして選択肢が商品管理画面に表示されます。
- ラジオボタン
事前に定義された選択肢のラジオボタンです。商品への追加時に、この中から選択します。
- チェックボックス
事前に定義された選択肢のチェックボックスです。商品への追加時に、この中から選択します。
- 説明
商品管理画面に表示される、商品詳細属性に関するテキストです。



2.7.6 商品の出荷

購入された商品は、Web サイト上や E メールで、注文／支払い完了時にデジタル発送することができます。

- デフォルトユーザテンプレート
未登録でログインしていない（且つ、購入した商品の一部として特定のユーザアカウントが作成されていない）新規 Web サイトカスタマーに対し、選択したユーザテンプレートのコピーとして新しいデフォルトユーザデータベースアカウントを作成することが可能です。
- ユーザデータベースのユーザ名
自動的に生成されるユーザアカウントの設定
 - ユーザ名の最小文字数
許可されるユーザ名の最小限の長さ（顧客の E メールアドレスより生成されます）
 - ユーザ名の最大文字数

許可されるユーザ名の最大限の長さ（顧客の E メールアドレスより生成されます）

- ブロックされたユーザ名
空白で区切られた、ブロックユーザ名のリスト
- 自動発行されるユーザ名の接頭文字
自動的で発行されるユーザ名に使用される接頭文字。このあとにランダムな番号が続きます。（使用可能な／有効なユーザ名が顧客の E メールアドレスから生成されなかった場合）



2.7.7 E コマース特別ページ

Web コンテンツ管理システムや Web サイト機能の標準機能において、多種多様な特殊ページが使用されています。特定の状況で表示される普通のページもあれば、特殊コードや特殊フォームを使って開発されたページもあります。特殊コードと特殊フォームの詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。

- デフォルトショッピングカートサマリーページ
他の Web ページに含まれる、Web サイト閲覧者にショッピングカートのサマリーを表示するページ。このページをそのままデフォルトの“ショッピングカートサマリーページ”としておくのがよいでしょう。ショッピングカートサマリーページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトショッピングカートサマリーエントリ
ショッピングカートのサマリーページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“ショッピングカートサマリーエントリ”ページとしておくのがよいでしょう。ショッピングカートサマリーエントリは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトショッピングカートページ
Web サイトビジターがショッピングカートを見る機能や、ショッピングカートに商品を追加する機能を使用した際に、ショッピングカートを表示するために使用され



るページ。このページをデフォルトの“ショッピングカートページ”としておくのがよいでしょう。ショッピングカートページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルトショッピングカートエントリ
ショッピングカートページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“ショッピングカートエントリ”ページとしておくのがよいでしょう。ショッピングカートエントリは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトチェックアウトページ
Web サイトビジターがチェックアウト機能を使用する際にショッピングカートを表示するためのページ。このページをデフォルトの“チェックアウト”ページとしておくのがよいでしょう。チェックアウトページは、一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトチェックアウトエントリ
チェックアウトページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“チェックアウトエントリ”ページとしておくのがよいでしょう。チェックアウトエントリページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みません。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文確認ページ
Web サイトビジターに注文確認を求める際に注文内容を表示するページ。このページをデフォルトの“注文確認”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文確認エントリ
注文確認ページで、各商品アイテムを表示するためのページ。このページをデフォルトの“注文確認エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文完了ページ
Web サイトビジターが注文を完了する際に、注文内容を表示するページ。このページをデフォルトの“注文完了”ページとしておくのがよいでしょう。注文完了ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文完了エントリ
注文完了ページで各商品を表示するページ。このページをデフォルトの“注文完了エントリ”ページとしておくのがよいでしょう。注文完了エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト空のショッピングカートページ
もし顧客がショッピングカートが空の場合にチェックアウトや注文確認に進もうとした場合に表示されるデフォルトのページ。

- デフォルト注文確認Eメールページ
Webサイトビジターが注文を完了した際に、Webサイトビジターに注文確認Eメールを送るために使用されるページ。これをデフォルトの“注文確認”ページとしておくのがよいでしょう。注文確認ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文確認Eメールエン트리
注文確認Eメールページで、各商品アイテムを表示するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文確認エン트리”としておくのがよいでしょう。注文確認エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文通知Eメールページ
ビジターが注文を完了した際に、Webサイトの注文フォーム管理者に注文通知を送信するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文通知”ページにしておくのがよいでしょう。注文通知ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文通知Eメールエン트리
注文通知Eメールページで、各商品アイテムを表示するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文通知エン트리”ページとしておくのがよいでしょう。注文通知エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文状況トラッキングEメールページ
注文状況が更新された際に、Webサイトカスタマーに注文状況追跡メッセージをEメール送信するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文状況追跡”ページとしておくのがよいでしょう。注文状況追跡Eメールページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト注文状況トラッキングEメールエン트리
注文状況追跡Eメールページで、各商品アイテムを表示するために使用されるページ。これをデフォルトの“注文状況追跡エン트리”としておくのがよいでしょう。注文状況追跡エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルト支払い成功ページ
支払いが正常に完了した際に Web サイトカスタマーに表示される Web サイトページ。
- デフォルト支払いキャンセルページ
支払いがキャンセル/失敗した際に Web サイトカスタマーに表示される Web サイトページ。
- 商品印刷ページ
商品&注文の商品管理インデックスページより、商品コンテンツ項目を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:products:.....:id in ###id###:.....@@@”や他の特殊コードを使って作成し、

選択した商品データを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

○ 注文印刷ページ

商品&注文の注文管理インデックスページより、注文を選択して「印刷」を押下した際にレポートとして表示する特殊ページを、いくつでも作成、設定することができます。このような特殊レポートページは、“@@@list:orders:.....:id in ###id###:.....@@@”や他の特殊コードを使って作成し、選択した注文データを様々な方法で表示させることが可能です。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



The screenshot shows the configuration page for 'Eコマース アドオンモジュール特別ページ' (E-commerce Add-on Module Special Page) in the HeartCore CMS. The page is divided into several sections, each with a dropdown menu to select a default page and an '選択' (Select) button.

- デフォルトのショッピングカートサマリーのページ**: ショッピングカートサマリ
- デフォルトのショッピングカートサマリーのエントリー**: ショッピングカートサマリアイテム
- デフォルトのショッピングカートページ**: ショッピングカート
- デフォルトのショッピングカートのエントリー**: ショッピングカートアイテム
- デフォルトのチェックアウトページ**: チェックアウト - 2. お客様情報
- デフォルトのチェックアウトエントリー**: チェックアウト - 2. お客様情報 - ショッピングカートアイテム
- デフォルトの注文確認ページ**: チェックアウト - 3. 注文確認
- デフォルトの注文確認エントリー**: チェックアウト - 3. 注文確認商品エントリー
- デフォルトの注文完了ページ**: チェックアウト - 4. 注文完了
- デフォルトの注文完了エントリー**: チェックアウト - 4. 注文完了商品エントリー
- デフォルトの注文確認Eメールページ**: 注文確認
- デフォルトの注文確認Eメールのエントリー**: 注文確認エントリー

注文の通知として管理者に送付されるEメールのコンテンツ

デフォルトの注文通知のEメールのページ

注文通知 選択

デフォルトの注文通知のEメールのエントリー

注文通知エントリー 選択

注文状況のトラッキングとして顧客に送付されるEメールのコンテンツ

デフォルトの注文状況トラッキングEメールのページ

注文状況トラッキング 選択

デフォルトの注文状況トラッキングEメールのエントリー

注文状況トラッキングエントリー 選択

顧客の支払いが完了した後にコンテンツを表示します

デフォルトの支払い成功ページ

-ショッピングカート-注文完了- 選択

デフォルトの支払いキャンセルページ

-ショッピングカート-チェックアウト- 選択

商品と在庫リスト、レポート、請求明細、配送注意事項、送料ラベルを印刷する際に使用するページ。

商品印刷ページ

選択

注文印刷ページ

選択

2.8 アクセス統計値システム設定

統計追加モジュールのライセンスキーが設定されると、どの Web サイト管理者がアクセス統計データを閲覧できるか、並びに、どのアクセス統計データをどのくらいの期間収集するかを設定することができます。

アクセス統計を設定するには、「設定」>「システム」>「Web アクセス統計値」メニューを選択します。

アクセス統計には、次の設定オプションがあります。

2.8.1 Web アクセスログの期間とステータス

2.8.1.1 アクセスログの期間

アクセスログの保管や処理に、膨大なリソースを要するケースがあります。そこで、必要とする CPU 処理能力と保管スペースを抑えるために、アクセスログデータを記録する期間や記録するデータの詳細度を設定することが可能です。

- 詳細データ**
 アクセス統計の完全な詳細データを、Web コンテンツ管理システムのデータベースへ保管する期間を指定します。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、短めの期間を選択してください。詳細データの保管期間は、要約データの保管期間よりも短くしてください。例えば、詳細データを 1 週間、要約データを 2 年。
重要： 指定した期間を過ぎた詳細データは、自動的に削除され復元はできません。期間を長くするよう設定を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。



- 要約データ
アクセス統計の要約データを、Web コンテンツ管理システムのデータベースへ保管する期間を指定します。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、短めの期間を選択してください。要約データの保管期間は、詳細データの保管期間よりも長くしてください。例えば、詳細データを1週間、要約データを2年。
重要：指定した期間を過ぎた要約データは、自動的に削除され復元はできません。期間を長くするよう設定を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。
- 要約データの周期
各要約データセットの期間を指定します。デフォルトでは、アクセス統計データは1時間毎に要約され、毎時、日毎、週毎のレポートが保管されます。必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、長めの期間を選択してください。日毎の要約を選択した場合は、毎時レポートは取得できなくなります。月毎の要約を選択した場合は、毎時、日毎、週毎のレポートが取得できなくなります。
重要：一旦要約が実行されると、指定した期間以外のレポート内容は削除され、復元はできなくなります。要約データの周期を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。
- 要約データの内容
デフォルトでは、必要な CPU 処理能力と保管スペースを抑えるため、要約データには、近似の訪問者数と訪問数および正確なページ数とヒット数のみ含まれます。必要となる CPU 処理能力と保管スペースが増えても良いのであれば、訪問者数と訪問数も正確なデータを取得することが可能です。



2.8.2 アクセスログステータスとサマライズ

アクセスログステータスでは、現在保管されているアクセスログデータのレコード数が表示されます。また、現在保管されている中で、最も古い詳細アクセスログデータの日時と、最も古い要約アクセスログデータの日時、最新の要約アクセスログデータの日時が表示されます。

注意：アクセスログデータの要約は、システムが自動で実行するわけではありませんので、定期的にサマライズを行ってください。「サマライズ」ボタンを手動でクリックするか、「サマライズ」ボタンに1時間毎もしくは日毎に自動でアクセスするよう Web サーバを設定（推奨）します。詳しくは、インストールガイドをご参照ください。

アクセスログの期間設定を変更した際は、保存を行った後に、「サマライズ」ボタンが有効となります。



重要：設定した期間を過ぎた詳細データは、要約が実行された際に自動で削除され、復元することはできません。アクセスログデータの期間や内容を変更した場合も、対象となるのはその時点からであり、過去に遡るわけではありません。

アクセスログステータス

件のデータが保管されています: 0	<input type="button" value="サマライズ"/>
最も古い詳細アクセスログデータ:	
最も古い要約アクセスログデータ:	
最新の要約アクセスログデータ:	
<small>注意: アクセスログデータは、定期的にサマライズしてください。上の「サマライズ」ボタンを手動でクリックするか、「サマライズ」ボタンに1時間毎もしくは毎日自動でアクセスするようWebサーバーを設定します。詳しくは、インストールガイドをご参照ください。</small>	

「サマライズ」ボタンを押下しても、即座にアクセスログデータの要約が実行されるわけではありません。次に表示される画面で、テストや実行を行います。

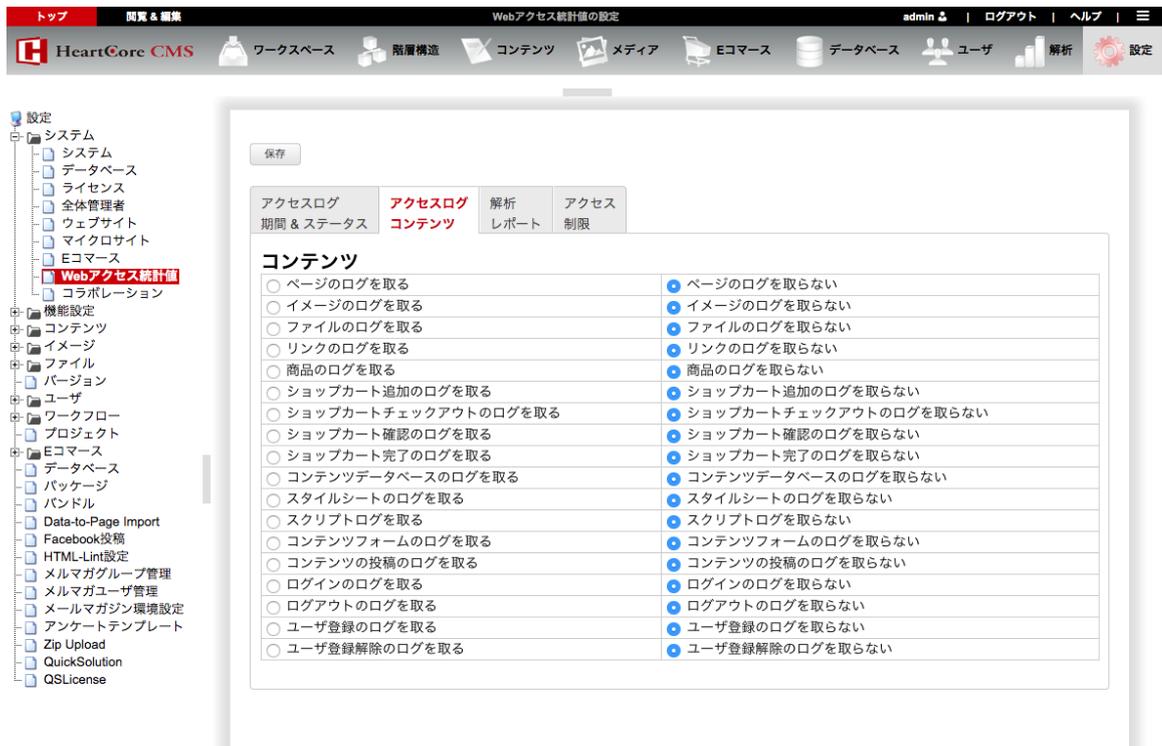
- テスト
現在の設定で、最も古い設定期間に対して、どの程度アクセス統計データの圧縮が可能か表示されます。実際にアクセス統計データの要約や削除が行われるわけではありません。
- 実行
最も古い設定期間に対してのみ、アクセス統計データの要約を行います。この要約が完了したら、次に古い期間の要約を実行することが可能になります。
重要：対象期間の詳細データは自動的に削除されます。復元はできません。
- すべて実行
設定日時より過去のすべての設定期間に対して、アクセス統計データの要約を行います。
重要：全対象期間の詳細データは、自動的に削除されます。復元はできません。
- 強制リセット
開始済みで不完全に終了した要約を無視し、新たな要約を開始できるようになります。一度に実行する要約は必ず1つにしてください。実行中の要約が存在する場合は、Webコンテンツ管理システムに表示されますので、完了するまで別の要約を実行しないでください。この「強制リセット」を使用するのは、Webサーバのエラーなど何かの理由で要約が途中で終了してしまった場合です。
重要：「強制リセット」を、複数の重複する要約に使用した場合、アクセス統計データが損失する可能性があります。不完全に終了した開始済みの要約を上書きする目的でのみ使用してください。
- 要約データの周期
設定している要約データの周期を変更することが可能です。
「テスト」の場合は、試験的に変更をするだけで、設定の変更は保存しません。
「実行」また「すべて実行」の場合は、設定変更の保存も行います。
- 要約データの内容
設定している要約データの内容を変更することが可能です。
「テスト」の場合は、試験的に変更をするだけで、設定の変更は保存しません。
「実行」また「すべて実行」の場合は、設定変更の保存も行います。



アクセスログデータの要約に掛かる時間は、アクセス統計の設定やデータ量、Web サーバやデータベースサーバのキャパシティによって異なります。要約が完了すると、要約されたデータの詳細や、要約した結果が表示されます。アクセス統計の最適な設定は、アクセスログデータの量や内容、Web サーバとデータベースサーバのキャパシティによって異なりますので、いろいろな設定パターンをテストされることをお勧めします。

2.8.3 アクセスログコンテンツ

どのコンテンツ項目のアクセス統計値を取得するか設定します。（必要となる CPU 処理能力と保管スペースを抑えるには、いくつかのコンテンツ項目に対するアクセス統計値を無効にします。例えば、イメージやスクリプト、スタイルシートなど。）





2.8.4 アクセス統計値レポート

Web コンテンツ管理システムの「アクセス統計値」セクションにて、様々なアクセス統計値レポートがご覧いただけます。任意で、アクセス統計値セクションのインデックスページにカスタムレポートを表示させたり、左メニューへ追加のカスタムレポートを設定することも可能です。

- **Web アクセス統計値インデックスレポート**
デフォルトでは、本日、今週、今月のサマリーレポートが Web アクセス統計値のメインページに表示されます。Web アクセス統計値インデックスレポートフィールドを空白にすると、レポートは表示されません。また、"usage:REPORT:LIMIT:PERIOD" コードを入力することでカスタムレポートを表示させることも可能です。
REPORT:LIMIT:PERIOD を、以下一覧のいずれかと置き換えてください。
複数のレポートを Web アクセス統計値メインページに表示させるには、コードをスペース区切りで入力します。例えば、
"usage:pages:10:today usage:webbrowsers:all:last14days" と入力すると、「本日のトップ 10 ページ」と「過去 14 日間にアクセスのあった全てのブラウザ」の 2 つのレポートが表示されます。
- **Web アクセス統計値レポート**
カスタム Web アクセス統計値レポートを定義することで、独自のレポートを自由に組み合わせ、Web アクセス統計値の左メニューへ設定することができます。Web アクセス統計値レポートフィールドへ下記を入力して定義します。
Name = "usage:REPORT:LIMIT:PERIOD usage:REPORT:LIMIT:PERIOD"
REPORT:LIMIT:USAGE は、以下一覧のいずれかと置き換えてください。各レポートは改行区切りで入力します。例：
Summary = "usage:summary:all:today usage:summary:all:thisweek
usage:summary:all:thismonth"
Top 10 = "usage:pages:10:thisweek usage:products:10:thisweek usage:images:10:thisweek
usage:files:10:thisweek usage:links:10:thisweek"
「Summary」と「Top 10」という名前のカスタムレポートが定義されます。
 - REPORT
 - summary
 - websites
 - contents
 - pages
 - pagegroups
 - pagetypes
 - contacts
 - posts
 - logins
 - logouts
 - stylesheets
 - scripts
 - library
 - images
 - imagegroups
 - imagetypes
 - files
 - filegroups
 - filetypes
 - links



HeartCore



linkgroups
linktypes
products
productgroups
producttypes
databases
daily
weekly
monthly
yearly
hours
weekdays
days
weeks
months
countries
visitors
robots
operatingsystems
webbrowsers
users
usergroups
usertypes
referrers
searchengines
searchqueries
searchwords
entry
paths
exit
duration
visits

○ LIMIT

all
NUMBER

NUMBER は任意の正整数

○ PERIOD

all
now
today
last24hours
yesterday
thisweek
last7days
lastweek
last14days
thismonth
last30days
lastmonth
thisquarter
last3months

lastquarter
 thishalfyear
 last6months
 lasthalfyear
 this year
 last12months
 last year



2.8.5 アクセス統計値アクセス制限

アクセス統計値を閲覧できる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、詳細なアクセス統計値の閲覧権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。



2.9 コラボレーション

コラボレーションアドオンモジュールのライセンスキーが設定されている場合、どのコラボレーション機能を使用するか、またどのように動作させるかを設定することができます。

「設定」 > 「コラボレーション」メニュー項目リンクを選択して、コラボレーション機能を設定します。

コラボレーションには、次の設定オプションがあります。



2.9.1 管理コメント

コメント機能を使用すると、Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の全管理ページにて、自身もしくは他の Web サイト管理者向けにメモを投稿することができます。

- 管理コメントを有効にします

Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の全管理ページにて右側の「コメント」パネルからコメントを閲覧し投稿することが可能となります。

- 管理コメントを無効にします

すべてのコメント機能が無効化されます。

注意：コメント機能を無効化しても既存のコメントデータが自動的に削除されるわけではありません。コメント機能を再度有効化すると、既存のコメントデータが再度表示されます。

2.9.1.1 パーソナルワークスペースでのコメント表示

デフォルトでは、すべての管理ページに対する全コメントが、パーソナルワークスペースに表示されます。任意で、これを無効化もしくは表示するコメントの数を制限することが可能です。

- しない
パーソナルワークスペースにコメントは表示されません。（右側の「コメント」パネルは除く）
- すべて
すべての管理ページに対する全コメントがパーソナルワークスペースに表示されます。
- 未読コメントのみ
未読の新しいコメントのみパーソナルワークスペースに表示されます。
- 新着コメントのみ（期間指定）
指定した期間内に投稿された新着コメントのみパーソナルワークスペースに表示されます。

2.9.1.2 コメントパネルの自動表示

デフォルトでは、すべての管理ページに存在する右側の「コメント」パネルは自動で開かれません。任意でこれを有効化することが可能です。

- しない
右側の「コメント」パネルは自動で開かれません。
- 常時
右側の「コメント」パネルは常に自動で開かれます。
- 未読コメントのみ
右側の「コメント」パネルは、未読の新しいコメントがある場合に自動で開かれます。
- 新着コメントのみ（期間指定）
右側の「コメント」パネルは、指定した期間内に投稿された新着コメントがある場合に自動で開かれます。



2.9.1.3 コメントの自動投稿

デフォルトでは、コメントは Web サイト管理者によってのみ投稿されます。任意で、コンテンツ等が追加、更新、公開、非公開、削除された際に自動でコメントを投稿するよう設定することも可能です。

- 新規追加時
コンテンツの追加時にコメントを自動で投稿します。
- 更新時
コンテンツの更新時にコメントを自動で投稿します。
- 公開時
コンテンツの公開時にコメントを自動で投稿します。
- 非公開時
コンテンツの非公開時にコメントを自動で投稿します。
- 削除時
コンテンツの削除時にコメントを自動で投稿します。

2.9.1.4 コメントの自動削除

デフォルトでは、コメントが自動で削除されることはありません。任意で、一定期間後にコメントを自動削除することが可能です。

- しない
コメントは自動で削除されません。
- 経過コメント
指定した期間が経過するとコメントは自動で削除されます。（「固定」されたコメントは自動で削除されません。）





2.9.2 プロジェクト管理

プロジェクト管理機能を使用すると、自身または他の Web サイト管理者との共同作業用にプロジェクトを作成し、対応すべきプロジェクトタスクや対象のプロジェクトアセットを登録することができます。

- プロジェクト管理機能を有効にします
Web サイト管理者は、各自のパーソナルワークスペースからプロジェクトを作成し管理することが可能となります。
- プロジェクト管理機能を無効にします
すべてのプロジェクト管理機能が無効化されます。
注意：プロジェクト管理機能を無効化しても既存のプロジェクトデータが自動的に削除されるわけではありません。プロジェクト管理機能を再度有効化すると、既存のプロジェクトデータが再度表示されます。

2.9.2.1 パーソナルワークスペースプロジェクトアセット

デフォルトでは、各プロジェクトのプロジェクトアセットとプロジェクトタスクアセットは全てまとめてパーソナルワークスペースに一覧表示されます。任意で、各プロジェクトと各プロジェクトタスクに対し、別々にアセットを表示することもできます。

- プロジェクト及びそのプロジェクトタスクのアセットを全て統合して表示する
プロジェクトとそのプロジェクトタスクに対する全てのアセットを、プロジェクト単位でまとめて一覧表示します。
- プロジェクト及びそのプロジェクトタスクのアセットをそれぞれ個別に表示する
プロジェクトとプロジェクトタスク別に、アセットを分けて一覧表示します。

2.9.2.2 プロジェクトタスクカテゴリオプション

デフォルトでは、予めプロジェクトタスクカテゴリオプションがいくつか定義されています。任意で、要件や好みに応じてこれらをカスタマイズすることが可能です。設定したオプションは、新規プロジェクトのデフォルトオプションとなります。設定済みのオプションを変更しても、既存のプロジェクトやプロジェクトタスクのオプションは変更されません。新規プロジェクト毎に、そのプロジェクトで使用するオプションをカスタマイズすることが可能です。

- テキスト
プロジェクトタスクカテゴリオプションで使用するテキストラベルを入力します。
- 背景色
プロジェクトタスクカテゴリオプションで使用する背景色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：black）もしくは HTML カラーコード（例：#000000）でなければなりません。
- テキスト色 (X)
プロジェクトタスクカテゴリオプションで使用するテキスト色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：white）もしくは HTML カラーコード（例：#FFFFFF）でなければなりません。

各オプションを削除または追加するには、「削除」または「追加」ボタンを選択します。



2.9.2.3 プロジェクトタスクステータスオプション

デフォルトでは、予めプロジェクトタスクステータスオプションがいくつか定義されています。任意で、要件や好みに応じてこれらをカスタマイズすることが可能です。設定したオプションは、新規プロジェクトのデフォルトオプションとなります。設定済みのオプションを変更しても、既存のプロジェクトやプロジェクトタスクのオプションは変更されません。新規プロジェクト毎に、そのプロジェクトで使用するオプションをカスタマイズすることが可能です。

- テキスト
プロジェクトタスクステータスオプションで使用するテキストラベルを入力します。
- 背景色
プロジェクトタスクステータスオプションで使用する背景色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：black）もしくは HTML カラーコード（例：#000000）でなければなりません。
- テキスト色 (X)
プロジェクトタスクステータスオプションで使用するテキスト色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：white）もしくは HTML カラーコード（例：#FFFFFF）でなければなりません。

各オプションを削除または追加するには、「削除」または「追加」ボタンを選択します。

2.9.2.4 プロジェクトタスク優先度/緊急度オプション

デフォルトでは、予めプロジェクトタスク優先度/緊急度オプションがいくつか定義されています。任意で、要件や好みに応じてこれらをカスタマイズすることが可能です。設定したオプションは、新規プロジェクトのデフォルトオプションとなります。設定済みのオプションを変更しても、既存のプロジェクトやプロジェクトタスクのオプションは変更されません。新規プロジェクト毎に、そのプロジェクトで使用するオプションをカスタマイズすることが可能です。

- テキスト
プロジェクトタスク優先度/緊急度オプションで使用するテキストラベルを入力します。
- 背景色
プロジェクトタスク優先度/緊急度オプションで使用する背景色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：black）もしくは HTML カラーコード（例：#000000）でなければなりません。
- テキスト色 (X)
プロジェクトタスク優先度/緊急度オプションで使用するテキスト色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：white）もしくは HTML カラーコード（例：#FFFFFF）でなければなりません。

各オプションを削除または追加するには、「削除」または「追加」ボタンを選択します。

2.9.2.5 プロジェクトタスク深刻度/影響度オプション

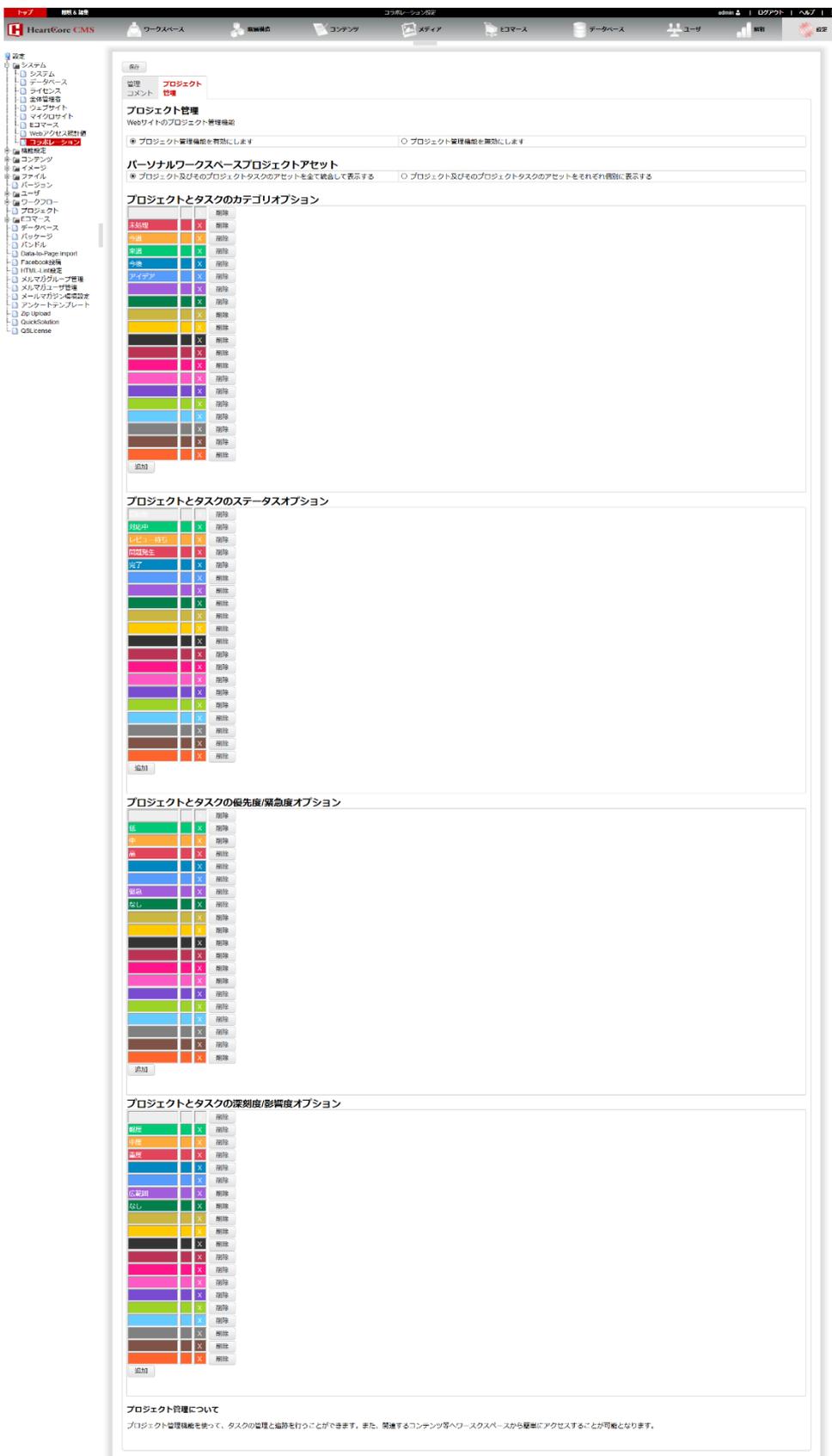
デフォルトでは、予めプロジェクトタスク深刻度/影響度オプションがいくつか定義されています。任意で、要件や好みに応じてこれらをカスタマイズすることが可能です。設定したオプ



ションは、新規プロジェクトのデフォルトオプションとなります。設定済みのオプションを変更しても、既存のプロジェクトやプロジェクトタスクのオプションは変更されません。新規プロジェクト毎に、そのプロジェクトで使用するオプションをカスタマイズすることが可能です。

- テキスト
プロジェクトタスク深刻度／影響度オプションで使用するテキストラベルを入力します。
- 背景色
プロジェクトタスク深刻度／影響度オプションで使用する背景色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：black）もしくは HTML カラーコード（例：#000000）でなければなりません。
- テキスト色 (X)
プロジェクトタスク深刻度／影響度オプションで使用するテキスト色をクリックして選択します。
注意：色は、HTML カラーネーム（例：white）もしくは HTML カラーコード（例：#FFFFFF）でなければなりません。

各オプションを削除または追加するには、「削除」または「追加」ボタンを選択します。



The screenshot shows the 'プロジェクト管理' (Project Management) configuration page in the HeartCore CMS. The page is divided into several sections for configuring project and task options:

- プロジェクト管理 (Project Management):** Includes checkboxes for enabling project management and project management details.
- パーソナルワークスペースプロジェクトアセット (Personal Workspace Project Assets):** Includes checkboxes for displaying project and task assets together or separately.
- プロジェクトとタスクのカテゴリオプション (Project and Task Category Options):** A table with 16 rows, each representing a category with a color swatch and a '選択' (Select) button.
- プロジェクトとタスクのステータスオプション (Project and Task Status Options):** A table with 16 rows, each representing a status with a color swatch and a '選択' (Select) button.
- プロジェクトとタスクの優先度/緊急度オプション (Project and Task Priority/Urgency Options):** A table with 16 rows, each representing a priority level with a color swatch and a '選択' (Select) button.
- プロジェクトとタスクの深刻度/影響度オプション (Project and Task Severity/Impact Options):** A table with 16 rows, each representing a severity level with a color swatch and a '選択' (Select) button.
- プロジェクト管理について (About Project Management):** A text block explaining that the project management feature allows for task management and editing, and that content items can be accessed from the workspace.

3 機能設定

機能設定の各ページでは、Web コンテンツ管理システムの様々な機能を有効もしくは無効に設定することができます。Web サイト管理者が使用しやすいよう、Web コンテンツ管理システムをシンプルに保つため、不要な機能を無効にすることが可能です。

左メニューより、機能設定の各ページを使用することができます。



3.1 Web サイトユーザ／管理者へのアクセス制限

デフォルトでは、Web サイトへ公開されたコンテンツはすべて、あらゆる Web サイトビジターに対して公表されています。しかしながら、コンテンツの中には、カスタマーやパートナー、社員といった特定の登録ユーザだけにアクセスを制限したい場合もあるでしょう。このためには、ユーザのアクセス制限を有効にします。

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、Web サイト管理者の全員が、すべてのコンテンツやユーザへアクセスできるようになっています。しかしながら、複数の Web サイト管理者が存在する場合、ワークフローで管理し、特定のアクションや特定のコンテンツまたはユーザへの権限をそれぞれ制限したいケースも考えられます。その際には、ユーザと管理者のアクセス制限を有効にします。



3.1.1 個々のユーザアクセス制限

デフォルトとして、アクセス制限では、特定のユーザグループやタイプへアクセス権限を制限することが可能です。多数のコンテンツ項目や Web サイト管理者を持つ管理下では、このアクセス制限により管理がし易くなるため推奨されています。そうすることで、ユーザを追加もしくは削除するだけで、複数存在するコンテンツ項目のアクセス制限を逐一更新することなく、アクセス権限を与えたり、取り消したりできるようになります。さらに／もしくは、特定のユーザアカウントに対し、アクセス権限を制限することも可能です。

コンテンツを追加したり更新したりする際、アクセス制限タブのユーザ入力フィールドにて、そのコンテンツへの個々のユーザアクセス制限を定義することができます。個々のユーザアクセス制限機能が無効になっている場合は、Web コンテンツ管理ページに「ユーザ」入力フィールドは表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際にも、それらの各グループやタイプに対し、個々のユーザアクセス制限を定義することが可能です。個々のユーザアクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「ユーザ」入力フィールドは設定ページに表示されません。

<input checked="" type="radio"/> 個々のユーザーへのアクセス権限を有効にします	<input type="radio"/> 個々のユーザーへのアクセス権限を無効にします
---	--

3.1.2 ユーザアクセス制限

コンテンツ項目を追加したり更新したりする際、「閲覧」入力フィールドにて、そのコンテンツへの Web サイトユーザアクセス制限を定義することができます。アクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「閲覧」入力フィールドは管理ページ表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際にも、「閲覧」入力フィールドを使って、それらの各グループやタイプに対し、Web サイトユーザアクセス制限を定義することが可能です。アクセス制限機能が無効（“なし”）になっている場合、「閲覧」入力フィールドは設定ページに表示されません。

3.1.3 管理者アクセス制限

基本的な管理者アクセス制限機能では、主に“作成者”、“編集者”、“公開者”といった管理者ごとの固定“役割”を定義します。コンテンツ項目を追加、更新、公開するにあたり、差別化された権限をそれぞれの Web サイト管理者へ与えることができます。これらの固定役割は、どのグループ、タイプの Web サイト管理者が何をする権限を持つかということ定義します。しかし、それぞれの Web サイト管理者がどのようにコンテンツを追加、更新、公開するかを連係するワークフローを支配するものではありません（ベーシックワークフローは除く）。

“作成者”と“編集者”は、コンテンツの追加／更新ができ、また作業している間、追加／変更を“プライベート”に保つ為そのコンテンツを“専有”することができます。そして、“作成者”と“編集者”は、その追加した／更新したコンテンツを公開する準備が整ったら、“解放”することができます。最後に、“公開者”は、“作成者”と“編集者”によって解放されたコンテンツを公開することができます。

管理者アクセス制限機能は、Web サイト管理者 “役割” の固定階層を定義します。

スーパーユーザ			
スーパーユーザ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内のすべてに対し、実行する権限があります。			
管理者			
“管理者” Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の自身のコンテンツ項目に対し、あらゆる実行権限があります。			
作成者	編集者 / 開発者	公開者	閲覧者
“作成者” 権限を持つ Web サイト管理者は、新規コンテンツ項目を追加することが可能。（既存コンテンツ項目をコピーすることで）	“更新” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を更新することが可能。“開発者” 権限を持つ Web サイト管理者はアドバンススクリプト属性を更新することも可能。	“公開” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテンツ項目を公開、非公開、削除することが可能で、Web サイトビジターに対しそれらを有効/無効にすることができる。	“閲覧” 権限を持つ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の公開および非公開コンテンツ項目を閲覧することが可能。

コンテンツ項目やユーザアカウントを追加したり更新したりする際、アクセス制限タブの「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドにて、Web サイト管理者アクセス制限を定義することができます。Web サイト管理者アクセス制限機能が無効（“なし”もしくは“ユーザのみ”）の場合、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドは、管理ページに表示されません。

設定セクションにて、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の各グループやタイプを追加したり更新したりする際、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドにて、それら各グループやタイプに対し、Web サイト管理者アクセス制限を定義することも可能です。Web サイト管理者アクセス制限機能が無効（“なし”もしくは“ユーザのみ”）の場合、「作成」「更新」「公開」「開発者」「管理者」入力フィールドは、設定ページに表示されません。

3.1.4 ワークフロー

追加のワークフロー機能を使うと、“作成者” “編集者” “公開者” をいくつもの異なるカテゴリへ細分化することが可能になります。コンテンツ項目を追加、更新、公開する一連のステップのあらゆる段階において、それぞれ異なった権限を持たせることができます。ワークフロー “アクション” や “状態”、また Web サイト管理者カテゴリをいくつでも定義することが可能で、どの管理者グループ/タイプによって、どのように、そしてどの順番でコンテンツ項目が追加され、更新され、公開されるべきかを制御することができます。例えば、従業員によって追加/更新されたコンテンツ項目は、Web マスターが公開する前に、マネージャーによって承認を得る必要がある場合など。

スーパーユーザ			
スーパーユーザ Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内のすべてに対し、実行する権限があります。			
管理者			
“管理者” Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システム内の自身のコンテンツ項目に対し、あらゆる実行権限があります。			
作成者	編集者 / 開発者	公開者	閲覧者
“作成者” 権限を持つ Web サイト管理者は、新	“更新” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテ	“公開” 権限を持つ Web サイト管理者は、コンテ	“閲覧” 権限を持つ Web サイト管理者は、Web コ



規コンテンツ項目を追加することが可能。(既存コンテンツ項目をコピーすることで)			ンツ項目を更新することが可能。“開発者”権限を持つWebサイト管理者はアドバンススクリプト属性を更新することも可能。			ンツ項目を公開、非公開、削除することが可能で、Webサイトビジターに対しそれらを有効/無効にすることができる。			ンテナ管理システム内の公開および非公開コンテンツ項目を閲覧することが可能。		
C1	C2	C3	E1	E2	E3	P1	P2	P3	V1	V2	V3
...

一般的なワークフロー機能は、「Webサイトコンテンツ」「メディアライブラリ」のコンテンツ項目、E コマース商品、E コマース注文管理に対し、有効化することが可能です。

ワークフロー機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクション内の「設定」/「ワークフロー」メニュー項目やページが追加されたり、除去されたりします。自身のWebコンテンツ管理システムにおけるWebサイト管理者ワークフローを設定するには、「ワークフロー」メニュー項目や各設定ページを使用します。詳しくは、6 ワークフロー設定をご参照下さい。

Webサイト管理者ワークフローは、Webサイト管理インデックスページの「ワークフロー」入力フィールドや、コンテンツ項目の閲覧時、追加時、更新時の「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドを使って行われます。ワークフローアクセス制限機能が無効の場合は、「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドが管理ページに表示されなくなります。

注文管理ワークフローは、E コマース注文管理インデックスページの「ワークフロー」入力フィールドや、注文の閲覧時、追加時、更新時の「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドを使って行われます。注文管理ワークフローアクセス制限機能が無効の場合は、「ワークフロー」と「コメント」入力フィールドが、E コマース注文管理ページに表示されなくなります。

また、既存コンテンツ項目をコピーして新規コンテンツ項目を追加する際に、ワークフローステータスを保持(コピー)するか、クリア(空白)するかを選択できます。

- ワークフローステータスをコピーしてコンテンツの新規追加を行う
新規コンテンツ項目のワークフローステータスは、コピーしたコンテンツ項目のワークフローステータスと同じになります。
- ワークフローステータスをコピーしないでコンテンツの新規追加を行う
新規コンテンツ項目のワークフローステータスは、コピーしたコンテンツ項目のワークフローステータスに関わらず空白となります

<input checked="" type="radio"/> ワークフローを有効にします。	<input type="radio"/> ワークフローを無効にします。
<input type="radio"/> 注文管理ワークフローを有効にします。	<input checked="" type="radio"/> 注文管理ワークフローを無効にします。

3.1.5 空白コンテンツ項目の新規追加設定

デフォルトでは、全体管理者のみ空白コンテンツ項目を新規追加する権限があります。他の全体管理者でない管理者ユーザは、既存コンテンツ項目をコピーして新規追加する権限しかありません。オプションとして、コンテンツカテゴリのグループ/タイプ機能と組み合わせることで、全体管理者以外の管理者ユーザへも、権限のあるコンテンツグループ/タイプへ空白コンテンツを新規追加する許可を与えることが可能です。



- | |
|---|
| <input checked="" type="radio"/> アクセス権限のあるコンテンツグループ・タイプへの新規（空白）コンテンツの追加を無効にする |
| <input type="radio"/> アクセス権限のあるコンテンツグループ・タイプへの新規（空白）コンテンツの追加を有効にする |

3.1.6 特別アクセス制限設定

3.1.6.1 グループ／タイプのアクセス制限要求

デフォルトとしてユーザがコンテンツにアクセスするには、ユーザタイプとユーザグループ両方のアクセス制限を受けます。しかしながら、上級ユーザや管理者のアクセス制限用に、ユーザタイプかユーザグループのいずれか一方のアクセス制限だけをコンテンツのアクセスに要求するよう変更することもできます。

- アクセスにはグループとタイプ両方のアクセス制限を必要とします。
ユーザと管理者がコンテンツにアクセスするには、定義されたアクセス制限グループと定義されたアクセス制限タイプの両方に属する必要があります。
これはデフォルトの設定オプションであり、特にどちらか一方のアクセス制限機能を必要としない限り、常にこれが選択されるべきです。そうでなければ、権限のないユーザ／管理者が制限のあるコンテンツにアクセスしてしまう可能性があります。
- アクセスにはグループかタイプどちらかのアクセス制限を必要とします。
ユーザと管理者がコンテンツにアクセスするには、定義されたアクセス制限グループかアクセス制限タイプのどちらか一方に属していれば良い。
この設定オプションは、どちらか一方のアクセス制限機能を必要とする場合のみ選択されるべきです。そうでなければ、権限のないユーザ／管理者が制限のあるコンテンツにアクセスしてしまう可能性があります。

- | |
|--|
| <input checked="" type="radio"/> アクセスにはグループとタイプ両方のアクセス制限を必要とします。 |
| <input type="radio"/> アクセスにはグループかタイプどちらかのアクセス制限を必要とします。 |

3.1.6.2 管理者アクセス権限の継承

通常、「管理者」や「作成」、「公開」、「開発者」アクセス権限のような、高レベルの権限を持つ Web サイト管理者は、常に「閲覧」や「更新」のような低いアクセス権限も持つべきです。デフォルトでは、高位なアクセス権限を持つ Web サイト管理者は、低位なアクセス権限を自動的に継承しますが、オプションとしてこのアクセス権限の継承を無効にすることができます：

- 自動的にアクセス権限を継承させない
このオプションは、特別にアクセス権限を継承させない必要がある場合にのみ選択されるべきです。
- 自動的にアクセス権限を継承させる
特別にアクセス権限を継承させない必要がない限り、こちらが常に選択されるべきです。
 - 「管理者」は、自動的に「閲覧」、「更新」、「作成」、「公開」、および「開発者」アクセス権限も与えられます。
 - 「作成」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「公開」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「開発者」は、自動的に「閲覧」および「更新」アクセス権限も与えられます。
 - 「更新」は、自動的に「閲覧」権限も与えられます。



<input type="radio"/> 自動的にアクセス権限を継承させない。 <input checked="" type="radio"/> 自動的にアクセス権限を継承させる。 <small>「管理者」は自動的に「閲覧」「更新」「作成」「公開」「開発」の権限も含めて与えられます。 「作成者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。 「公開者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。 「開発者」は自動的に「閲覧」「更新」の権限も含めて与えられます。 「更新者」は自動的に「閲覧」の権限も含めて与えられます。</small>

3.1.7 コンテンツグループ/タイプのメニュー表示と非表示

デフォルトでは、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品の全グループと全タイプが、Web コンテンツ管理システム上でメニュー項目として表示されます。オプションで、Web サイト管理者が“更新”アクセス権限を有するグループ、タイプのみ表示させるように設定することも可能です。

- コンテンツグループ/タイプのメニューを全て表示する
- コンテンツグループ/タイプを権限に応じて表示します

コンテンツグループ・タイプのメニュー

<input checked="" type="radio"/> コンテンツグループ・タイプのメニューを全て表示する <input type="radio"/> コンテンツグループ・タイプを更新権限に応じて表示します <input checked="" type="radio"/> 非表示グループ/タイプ設定に関わらず、閲覧権限のある全てのコンテンツを一覧に表示する。 <input type="radio"/> 非表示グループ/タイプに属するコンテンツは、一覧にも表示しない
--

3.1.8 スケジュール済のコンテンツ項目

デフォルトでは、すべての管理者ユーザが、未来の日時に公開スケジュールされたコンテンツ項目を閲覧することができます。オプションとして、スケジュールされた各コンテンツ項目に対し、更新者、開発者、作成者、公開者、管理者のアクセス権限を持つ管理者ユーザのみに、閲覧権限を与えることも可能です。例えば、他の管理者に極秘情報を隠しておきたい場合などに使用します。

- 全て（管理者）
すべての管理者ユーザに、すべてのスケジュール済コンテンツ項目を表示します。
- 更新者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「更新者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 開発者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「開発者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 作成者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「作成者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 公開者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「公開者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。
- 管理者
スケジュールされたコンテンツ項目に対して「管理者」権限のある管理者ユーザにのみ、そのコンテンツ項目を表示します。



公開設定されたコンテンツ

全て (管理者) 更新者 開発者 作成者 公開者 管理者

3.1.9 Web サイト全体のアクセス制限

デフォルトでは、すべての Web サイトビジターがすべての Web サイトコンテンツにアクセスできます。代わりに、Web サイトビジター全員にユーザ登録を義務づけ、Web サイトコンテンツにアクセスするにはログインを要求するよう、Web サイト全体のアクセス制限を設定することもできます。こうした設定は、新規 Web サイト開発中一時的に、もしくはメンバー専用 Web サイトで永久に、あるいはイントラネット/エクストラネット Web サイト用に、等のケースで使用されるでしょう。

デフォルトでは、全ての Web サイト管理者が全ての Web サイトコンテンツにアクセスでき、全ての Web サイトビジターが特殊コンテンツを作成/更新/公開できます（例えばコミュニティ追加アプリケーションを使って）。代わりに、全ての Web サイトコンテンツ管理を、特定の管理者ユーザグループ/タイプに制限するよう Web サイト全体のアクセス制限を設定することもできます。

アクセス制限は、個々のコンテンツ項目またはコンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品グループ/タイプ毎と同様に、Web サイト全体（ここ、アクセス制限設定ページで）さらに Web コンテンツ管理システム内の全コンテンツに対し、定義することができます。Web サイトユーザと Web サイト管理者は、コンテンツ項目、コンテンツグループとコンテンツタイプ、および Web サイト全体、すべてのアクセス制限を満たす必要があります。

アクセス制限 - 「ユーザ」または「ユーザと管理者」機能が有効の場合（同様にユーザデータベースとユーザカテゴリ機能も）、追加の Web サイトアクセス制限属性が、アクセス制限設定ページへ追加されます。これらの追加入力フィールドを使って、コンテンツ管理アクセス制限を定義します。どのユーザタイプと/もしくはグループが、そのコンテンツに対し、下記コンテンツ管理機能を持っているかを選択します。

- 閲覧
誰が Web サイト上のコンテンツを閲覧するアクセス権を持つか定義します。
- 作成
誰が他のコンテンツのコピーとしてコンテンツを新規追加するアクセス権を持つか定義します。
- 更新
誰がコンテンツを更新するアクセス権を持つか定義します。
- 公開
誰がコンテンツを公開するアクセス権を持つか定義します。
- 開発者
誰がコンテンツのアドバンススクリプト属性を作成および更新するアクセス権を持つか定義します。
- 管理者
誰が上記すべてを含むコンテンツ管理のフルアクセス権を持つか定義します。
重要：「管理者」は、閲覧、作成、更新、公開、開発者のアクセス制限に関わらず、コンテンツに対してあらゆる実行権限があるので、他のアクセス制限が効果を得るには、「管理者」は厳しくアクセス制限される必要があります。

ユーザカテゴリ設定によっては、上記のコンテンツ管理機能の権限のそれぞれに対し、タイプおよび/あるいはグループを選択することができます。

- 公開
すべての Web サイトビジターに、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます（例えばコミュニティ追加モジュールから）
- 制限
すべての登録済みユーザ（Web サイト管理者のみならず）に、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます（例えばコミュニティ追加モジュールから）
- すべて（管理者）
すべての Web サイト管理者に、このコンテンツ管理機能を使用する権限を与えます
- 特定のタイプ/グループ
このコンテンツ管理機能の使用権限を、選択されたタイプ/グループの Web サイト管理者に制限します。

ユーザタイプとユーザグループのユーザカテゴリ機能両方が有効の場合、Web サイト管理者がコンテンツ管理機能を使用する権限を得るには、両方のアクセス制限を満たす必要があります：

- もしタイプが“すべて”と定義されており、グループが特定のグループに定義されている場合、Web サイト管理者は、コンテンツ管理機能を使うにはその特定のグループに属している必要があります。
- もしタイプが特定のタイプとして定義されており、グループが特定のグループに定義されている場合、Web サイト管理者は、コンテンツ管理機能を使うにはその特定のタイプとグループ両方に属している必要があります。

ウェブサイトアクセス制限

誰がウェブサイトに関する管理権限を持っているか

注意: アクセス制限は、ウェブサイト全体や、コンテンツグループ、タイプ、もしくは各それぞれのコンテンツに設定されます。全てのアクセス制限は権限によって制限されます。

閲覧者	更新者
タイプ - 公開 -	タイプ - 公開 -
グループ - 公開 -	グループ - 公開 -
作成者	公開者
タイプ - 公開 -	タイプ - 公開 -
グループ - 公開 -	グループ - 公開 -
管理者	開発者
タイプ - すべて(管理者) -	タイプ - すべて(管理者) -
グループ - すべて(管理者) -	グループ - すべて(管理者) -

3.1.10 注文管理のアクセス制限

E コマース注文管理へアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、注文管理へのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。



注文管理のアクセス制限

オーダー管理へのアクセスを、特定の管理者グループおよび/またはタイプに制限します。

タイプ

- 任意 -

グループ

Shop Managers

3.1.11 売上レポートアクセス制限

E コマースの売上レポート管理へアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、E コマース注文の売上レポートへのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

売上レポートアクセス制限

売上レポートへのアクセスを、特定の管理者グループ/タイプへ制限します。

タイプ

- 任意 -

グループ

- 任意 -

3.1.12 コンテンツデータベースアクセス制限

Web コンテンツ管理システムのコンテンツデータベース管理セクションへアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、コンテンツデータベース管理セクションへのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

コンテンツデータベースアクセス制限

コンテンツデータベースへのアクセスを、特定の管理者グループやタイプに制限します。

タイプ

- 任意 -

グループ

- 任意 -

3.1.13 ユーザ管理アクセス制限

Web コンテンツ管理システムのユーザ管理セクションへアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、ユーザ管理セクションへのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

ユーザ管理アクセス制限

ユーザ管理へのアクセスを、特定の管理者グループやタイプに制限します。

タイプ

- 任意 -

グループ

- 任意 -

3.1.14 アクセス解析アクセス制限

アクセス統計値を閲覧できる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、詳細なアクセス統計値の閲覧権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

アクセス解析アクセス制限

特定の管理者グループやタイプのみアクセス解析へアクセスできるよう制限する。

タイプ

- 任意 -

グループ

- 任意 -

3.1.15 設定管理アクセス制限

Web コンテンツ管理システムのコンテンツカテゴリやプロジェクトアセット設定へアクセスできる管理者のユーザグループやタイプを設定します。Web サイト管理者が複数存在する場合、プロジェクトアセット設定へのアクセス権限を、すべての管理者へは与えたくないことも想定されます。

「設定」のコンテンツカテゴリやプロジェクトアセットなどから、コンテンツ、イメージ、ファイル、リンク、商品、およびユーザのグループ/タイプ、コンテンツクラス、イメージフォー



マット、ファイルフォーマット、コンテンツバージョン、通貨、割引、送料、税率、コンテンツデータベースなどの設定画面へのアクセスを提供します。

重要：これらは、ウェブサイト全体のグループとタイプ、およびデータベースであり、個々のプロジェクト単位ではありません。デフォルトでは、全体管理者のみこの設定画面へアクセスすることができます。設定が不正に変更されると、ウェブサイトのコンテンツや機能、またセキュリティにも多大な影響が発生するため、この設定画面へのアクセス権限は確実に信頼できる管理者へのみ与えてください。

設定管理アクセス制限

コンテンツカテゴリやプロジェクトアセット等の設定ページへのアクセスを、特定の管理者グループやタイプに制限します。

タイプ	グループ
- 任意 -	- 任意 -

3.2 メニューやツールバーの追加コンテンツ構成要素

通常、Web サイトの各ページには、メニューや、ツールバー、バナー、ニュース、ロゴといったコンテンツ構成要素が、補助的なコンテンツとして使用されています。これらは、管理を容易にしたり、また複数のページやセクションに共通するコンテンツの再利用を目的としています。代わりに、そのようなコンテンツを直接テンプレートに追加することも可能です。

最大で3つのイメージ、3つのファイル、および3つのリンクを各ページおよび商品に直接関連づけることができます。これらのイメージ、ファイル、リンクは、テンプレート、コンテンツ項目リスト、および検索結果などで表示/使用することができます。例えば、この3つのイメージは：コンテンツ項目リストや検索結果で表示される小さなサムネイル画像として、テンプレートによって Web ページで表示させる中サイズの画像として、印刷用の大きい高解像度画像として、それぞれ使用することができます。

追加コンテンツ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクション内の「設定」/「コンテンツ」/「クラス」メニューやページが追加されたり、表示されなくなったりします。追加コンテンツメニューや設定ページを使って、Web サイトや商品、テンプレートで使用されるコンテンツ構成要素クラスを定義して下さい。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

コンテンツ項目の追加時や更新時に、追加コンテンツタブの入力フィールドを使って、追加コンテンツをページや商品、テンプレートに選択することが可能です。個々の追加コンテンツ機能が無効の場合は、「追加コンテンツ」タブ入力フィールドと、左メニューの「構成要素」は、管理ページに表示されません。



3.3 Dynamic HTML のためのアドバンススクリプト

HeartCore Web コンテンツ管理システムの基本コンテンツは、フォーマットされたテキストやイメージなどのリッチコンテンツから構成されています。高度なナビゲーションメニューやロールオーバーイメージ、アニメーションなどを Web ページで作成するには、いわゆる Dynamic HTML を追加します。これをサポートするには、アドバンススクリプト機能を有効にします。



すると、コンテンツ管理ページに HTML DOCTYPE と HTML HEAD コード、HTML BODY ONLOAD コード属性が追加されます。

コンテンツ項目を追加、更新する際、「アドバンススクリプト」タブ入力フィールドを使って、アドバンススクリプト HTML や CSS、JavaScript をページや商品、テンプレートへ入力することができます。アドバンススクリプト機能が無効の場合には、「アドバンススクリプト」タブ入力フィールドは、管理ページに表示されなくなります。



3.4 バックアップおよび変更ログ／追跡記録のためのコンテンツアーカイブ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルト設定では、コンテンツへ施された変更は、単純に、そのコンテンツの保存 / 公開時に適用されるよう設定されています。しかしながら、コンテンツを変更するに従って、古いコンテンツのコピーを保存したい場合もあります。後々必要な時に復元できるようバックアップとして、またはコンテンツや Web サイトへの変更を追跡するための変更ログ / 追跡記録として、古いコンテンツのコピーを保存したいケースが考えられます。また、何がいつどう変更されたのかを正確に確認できるよう、コンテンツの異なるコピーを比較することも可能です。これはコンテンツのアーカイブを有効にすることで可能です。

コンテンツのアーカイブは手動あるいは自動で行われます。

- なし
コンテンツのアーカイブはしません
- 手動 – デフォルトはオン
デフォルトとして保存時にコンテンツのアーカイブを行いますが、保存時にアーカイブしないよう選択することもできます。
- 手動 – デフォルトはオフ
デフォルトとして保存時にはコンテンツのアーカイブを行いませんが、保存時にアーカイブするよう選択することもできます。
- 保存時に自動
常に保存時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。
- 解放時に自動
常に解放時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。
- 公開時に自動
常に公開時にコンテンツのアーカイブを自動的に行います。

公開 / 非公開に関わらず Web サイトコンテンツの変更をすべて追跡するには、「保存時に自動」を使います。

各 Web サイト管理者が行なった変更をすべて追跡するには、「解放時に自動」を使います。

Web サイトコンテンツの公開済み変更をすべて追跡するには、「公開時に自動」を使います。

コンテンツのアーカイブは、コンテンツ項目の追加時や更新時の「保存」ボタン下のチェックボックスを使って行われるか、もしくは Web サイトコンテンツ管理インデックスページの「アーカイブ」ボタンを使って行われます。アーカイブ機能が無効の場合は、「アーカイブ」チェックボックスとボタンは管理ページに表示されません。

アーカイブ済コンテンツへのアクセスは、Web サイトコンテンツ管理インデックスページ上にリスト化されたコンテンツの「アーカイブ済」リンク、もしくはコンテンツ更新時の「比較」と「復元」入力フィールドを使って行われます。アーカイブ機能が無効の場合は、「アーカイブ」リンクは管理ページに表示されません。

デフォルトでは、削除したコンテンツは、即座に Web コンテンツ管理システムから完全に削除されます。任意で、削除したコンテンツを数日間保管しておくことが可能です。実際に削除される前に必要であれば閲覧や復元が可能となります。指定した日数が過ぎると、完全に削除されます。

- コンテンツ項目を即座に削除
削除したコンテンツは、即座に完全に削除されます。
- 削除したコンテンツ項目のコピーを保管する：__日間
削除したコンテンツのコピーが、指定した日数保管されます。



3.5 複数管理者のための専有／解放及びアサイン先機能

デフォルトの HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、全ての Web サイト管理者が Web サイトコンテンツを更新することができます。しかし、複数の Web サイト管理者が存在する状況下では、一人の管理者が作業をしている間、他の管理者がそのコンテンツを更新できないようにする必要も考えられます。コンテンツの専有とチェックイン機能を有効にすることで、それが可能となります。

コンテンツを専有すると、他の Web サイト管理者はそのコンテンツを更新できなくなります。解放を行うと、他の Web サイト管理者がそのコンテンツを再度更新できるようになります。コンテンツの専有と解放は、手動もしくは自動にて行われます。

- 専有
 - なし
専有／解放機能を無効にする。（“なし”が選択されると、解放設定は無視され、

何の影響もなくなることにご注意ください)

- 更新時に自動
Web サイト管理者がコンテンツの「更新／編集」を選択すると、自動的にそのコンテンツを専有します。また、専有は手動でも選択できます。
- 保存時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「保存」を選択すると、自動的にそのコンテンツを専有します。また、専有は手動でも選択できます。
- 手動
専有が手動で選択されたときのみコンテンツを専有します。
- 解放
 - 公開時に自動
Web サイト管理者がコンテンツの「公開」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
 - キャンセル時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「キャンセル」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
※現在この機能はご利用頂けません。
 - 保存時に自動
Web サイト管理者がコンテンツを更新後「保存」を選択すると、自動的にそのコンテンツを解放します。また、解放は手動でも選択できます。
 - 手動
解放が手動で選択されたときのみコンテンツを解放します。

尚、コンテンツの専有と解放が有効の場合、アサイン先機能も有効にできます。アサイン先機能を使って、Web サイト管理者はコンテンツ項目を他の管理者にアサインすることができます。（厳密には、他の Web サイト管理者の代理としてそのコンテンツを専有します。）

- アサイン
 - アサインを有効にする
Web サイト管理者はコンテンツの追加／更新時に、別の Web サイト管理者へコンテンツをアサインすることができます。
 - アサインを無効にする
Web サイト管理者はコンテンツを別の Web サイト管理者にアサインすることができません。

コンテンツの専有と解放は、Web サイトコンテンツ管理インデックスページの「専有」「解放」リンクやボタンを使って手動で行われます。また、コンテンツの追加時や更新時に「アサイン先」入力フィールドを使って、他の Web サイト管理者へアサインされます。専有／解放機能が無効の場合は、「専有」「解放」リンクとボタン、また「アサイン先」入力フィールドは、管理ページに表示されません。

専有されたコンテンツへは、Web サイトコンテンツ管理ページの左メニュー「状態」／「専有済」より、またパーソナルワークスペースの「あなたの専有済みコンテンツ」セクションより、アクセス可能です。専有／解放機能が無効の場合は、Web サイトコンテンツ管理ページの

「状態」／「専有済」左メニュー、またパーソナルワークスペースの「あなたの専有済コンテンツ」セクションは表示されません。



3.6 多数のコンテンツ項目整理のためのコンテンツカテゴリ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルトインストールと小規模な Web サイトには、限られた数のページ、構成要素、イメージ、ファイルやリンクのみ含まれており、特別な操作は必要ありません。しかし、Web サイトが大量のコンテンツを含む場合は、コンテンツをクラスやグループ、タイプ、またパッケージに分けて整理することが必要かもしれませんし、少なくともその方が便利で効率的です。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、一般的なコンテンツのカテゴリに“グループ”と“タイプ”、“パッケージ”という用語を使用します。必要に応じて任意のグループ、タイプ、パッケージを自由に定義することができます。HeartCore Web コンテンツ管理システムにおいて“グループ”と“タイプ”、“パッケージ”に特別な意味はなく、大量のコンテンツをより小さな、より簡単なカテゴリで管理できるよう仕分けする方法にすぎません。

HeartCore Web コンテンツ管理システムでは、Web ページやテンプレートで使われるページ構成要素の様々なカテゴリを定義する、特別なコンテンツのカテゴリに対して、“クラス”という用語を使用します。必要に応じて任意のクラスを自由に定義することができます。

- コンテンツカテゴリを有効にする
コンテンツカテゴリ全般を有効にする。他の特定コンテンツカテゴリ機能が有効の場合には、これは常に有効になっているべきです。
- コンテンツカテゴリを無効にする
コンテンツカテゴリ全般を無効にする。他の特定コンテンツカテゴリ機能がすべて無効の場合のみ、これは無効にされるべきです。



3.6.1 コンテンツパッケージ

コンテンツパッケージは、コンテンツのクラスやグループ、タイプに関わらず、コンテンツ項目を整理する方法です。「コンテンツパッケージ」は、Web コンテンツ管理システム内で他に



特に意味を持つものではありません。コンテンツパッケージは、多数のコンテンツを永久的に組織化する目的で使用します。

コンテンツパッケージは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「パッケージ」入力フィールドを使って、定義および選択されます。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

コンテンツパッケージは、Web コンテンツ管理ページや Web サイト設定ページの左メニュー「パッケージ」よりアクセス可能で、各パッケージのコンテンツを管理することができます。パッケージをどれか一つ選択すると、その選択したパッケージに属するコンテンツのみ表示されます。よって、大量のコンテンツを扱う際には、より迅速に簡単に行うことが可能になります。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト化された各コンテンツ項目には、それぞれのパッケージ名を表示するカラムがあります。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」左メニューとインデックスページのカラムは、Web サイトコンテンツ管理ページと Web サイト設定ページに表示されなくなります。

コンテンツパッケージを有効にします

コンテンツパッケージを無効にします

3.6.2 コンテンツバンドル

コンテンツバンドルも、コンテンツのクラスやグループ、タイプに関わらず、コンテンツ項目を整理する方法です。「コンテンツバンドル」は、Web コンテンツ管理システム内で他に特に意味を持つものではありません。コンテンツパッケージは、少数のコンテンツを一時的に組織化する目的で使用します。

コンテンツパッケージは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「パッケージ」入力フィールドを使って、定義および選択されます。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

コンテンツパッケージは、Web コンテンツ管理ページや Web サイト設定ページの左メニュー「パッケージ」よりアクセス可能で、各パッケージのコンテンツを管理することができます。パッケージをどれか一つ選択すると、その選択したパッケージに属するコンテンツのみ表示されます。よって、大量のコンテンツを扱う際には、より迅速に簡単に行うことが可能になります。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト化された各コンテンツ項目には、それぞれのパッケージ名を表示するカラムがあります。コンテンツパッケージ機能が無効の場合は、「パッケージ」左メニューとインデックスページのカラムは、Web サイトコンテンツ管理ページと Web サイト設定ページに表示されなくなります。

コンテンツバンドルを有効にします

コンテンツバンドルを無効にします

3.6.3 ページと構成要素のクラス、グループ、タイプ

3.6.3.1 構成要素クラス

構成要素クラス機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「コンテンツ」／「クラス」メニュー項目が追加されたり、表示されなくなったりします。Web サイトの構成要素クラスを設定するには、「クラス」メニューと各設定ページを使用します。詳しくは、4.Web サイトコンテンツ設定をご参照下さい。

構成要素クラスは、コンテンツ項目を追加したり更新したりする際、「コンテンツカテゴリ」タブの「クラス」入力フィールドを使って定義されます。構成要素クラス機能が無効の場合は、「クラス」入力フィールドは管理ページに表示されません。



構成要素クラスへアクセスするには、Web サイトコンテンツ管理ページの左メニュー「構成要素」／「クラス」を使い、構成要素クラスのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。「構成要素」／「クラス」メニュー項目からいずれかを選択すると、その選択した構成要素クラスに属するコンテンツのみがリスト化され、またその構成要素クラスへ新規コンテンツを追加することが可能になります。リスト化された各コンテンツ項目には、それぞれの構成要素クラスを表示するカラムがあります。構成要素クラス機能が無効の場合は、「構成要素」左メニューとインデックスページのカラムが、管理ページに表示されなくなります。

3.6.3.2 ページ／構成要素のグループとタイプ

「ページ」／「構成要素」のグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「コンテンツ」／「グループ」・「タイプ」メニューやページが、追加されたり表示されなくなったりします。Web サイトのページ／構成要素グループ・タイプを設定するには、「グループ」「タイプ」メニューと設定ページを使用します。詳しくは、4.Web サイトコンテンツ設定をご参照下さい。

ページ／構成要素グループとタイプは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。ページ／構成要素のグループ・タイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

Web サイトコンテンツ管理インデックスページのリストには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動することができます。ページ／構成要素グループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

ページ／構成要素グループとタイプへのアクセスは、Web サイトコンテンツ管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」より可能で、各ページ／構成要素グループとタイプのコンテンツ項目を追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみが一覧表示されます。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループとタイプを表示するカラムがあります。ページ／構成要素グループ・タイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

ページと構成要素

<input checked="" type="radio"/> 構成要素のクラスを有効にします。	<input type="radio"/> 構成要素のクラスを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> ページ／構成要素のタイプを有効にします。	<input type="radio"/> ページ／構成要素のタイプを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> ページ／構成要素のグループを有効にします。	<input type="radio"/> ページ／構成要素のグループを無効にします。

3.6.4 イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」／「イメージ」／「グループ」「タイプ」、「設定」／「ファイル」／「グループ」「タイプ」、「設定」／「リンク」／「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、追加されたり表示されなくなったりします。Web サイトのイメージ、ファイル、リンクのグループとタイプを設定するには、それぞれのメニュー項目と設定ページを使用します。詳しくは、4.Web サイトコンテンツ設定をご参照下さい。

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプは、それぞれ追加時や更新時に「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。



Web サイトコンテンツ管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動させることが可能です。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合には、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプは、Web コンテンツ管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」よりアクセス可能で、イメージ、ファイル、リンクの各グループとタイプのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみリスト表示されます。Web サイトコンテンツ管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループやタイプを表示するカラムが含まれます。イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

イメージ

<input checked="" type="radio"/> イメージタイプを有効にします。	<input type="radio"/> イメージタイプを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> イメージグループを有効にします。	<input type="radio"/> イメージグループを無効にします。

ファイル

<input checked="" type="radio"/> ファイルタイプを有効にします。	<input type="radio"/> ファイルタイプを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> ファイルグループを有効にします。	<input type="radio"/> ファイルグループを無効にします。

リンク

<input checked="" type="radio"/> リンクタイプを有効にします。	<input type="radio"/> リンクタイプを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> リンクグループを有効にします。	<input type="radio"/> リンクグループを無効にします。

3.6.5 商品のグループとタイプ

イメージ、ファイル、リンクのグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」/「E コマース」/「商品」/「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、追加されたり表示されなくなったりします。Web サイトの商品グループとタイプを設定するには、それぞれのメニュー項目と設定ページを使用します。詳しくは、7.E コマース設定をご参照下さい。

商品のグループとタイプは、コンテンツの追加時や更新時に「コンテンツカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義することができます。商品のグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」入力フィールドは管理ページに表示されません。

Web サイト商品管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストが含まれており、選択したコンテンツ項目を別のグループやタイプへ移動させることが可能です。商品のグループとタイプ機能が無効の場合には、「グループ」「タイプ」リストは管理ページに表示されません。

商品のグループとタイプは、Web サイト商品管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」よりアクセス可能で、各グループやタイプのコンテンツを追加したり管理したりすることができます。グループやタイプのいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するコンテンツのみリスト表示されます。Web サイト商品管理インデックスページにリスト表示された各コンテンツには、それぞれのグループやタイプを表示するカラムが含まれます。商品のグループとタイプ機能が無効の場合は、「グループ」「タイプ」左メニューとインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

商品

<input checked="" type="radio"/> 商品タイプを有効にします。	<input type="radio"/> 商品タイプを無効にします。
<input checked="" type="radio"/> 商品グループを有効にします。	<input type="radio"/> 商品グループを無効にします。



3.7 Web サイトコンテンツ整合性のためのコンテンツ依存関係

デフォルトでは、他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目は、削除することができません。他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を削除するには、すべてのコンテンツ依存関係をあらかじめ解除する必要があります。または、他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を削除できるよう、Web コンテンツ管理システムを設定することも可能です。

- 削除を禁止
他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目は、削除することができません。
- 削除を許可
他のコンテンツ項目や Web サイト設定が依存しているコンテンツ項目を、削除することができます。

厳密には、Web コンテンツ管理システムは、コンテンツ項目のコンテンツ依存関係を 2 つの方法でチェックすることができます。

- データベース検索を使用してコンテンツ依存関係をチェックする
“substring” データベース検索を使用してすべてのコンテンツ項目のリンクが検索されます。この方法では、すべてのコンテンツ依存関係が常に最新の状態に更新されます。しかし、すべてのデータベースが“substring”データベース検索を効率よく行うわけではないので、大量のコンテンツ項目がある場合、このデータベース検索を用いたコンテンツ依存関係チェックは、時間がかかる可能性があります。
- データベーステーブルを使用してコンテンツ依存関係をチェックする
Web コンテンツ管理システムは、コンテンツ依存関係を特殊なデータベーステーブルに記録します。この方法では、コンテンツ依存関係チェックが効率よく行われます。しかし、Web コンテンツ管理システム内のコンテンツ項目を独自のプログラムから、あるいはサードパーティ製のプログラムから直接、追加、更新、削除した場合、この特殊なコンテンツ依存関係データベーステーブルは自動的に更新されず、登録されているコンテンツ依存関係が間違っている可能性があります。登録されているコンテンツ依存関係を最新の状態にしておくには、Web コンテンツ管理システムのプログラミングインターフェースを使って、独自の、またはサードパーティ製のプログラムから Web コンテンツ管理システム内のコンテンツ項目を追加、更新、削除してください。あるいは、独自の、もしくはサードパーティ製のプログラムから Web コンテンツ管理システムデータベース内を直接変更した後で、すべてのコンテンツ項目のコンテンツ依存関係を更新するには、「ここをクリックすると、全てのコンテンツの依存関係がチェックされて更新されます」リンクを使用してください。





3.8 コンテンツ編集

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ページ、構成要素、テンプレートの編集に HeartCore Web コンテンツエディタが使われます。対応 Web ブラウザの仕様の相違のため、HeartCore コンテンツエディタには様々なバージョンがあります。デフォルトでは、お使いの Web ブラウザに応じて最適な HeartCore Web コンテンツエディタのバージョンが自動的に選択されます。しかし、HeartCore Web コンテンツエディタの特定のバージョンだけを使用するように HeartCore Web コンテンツ管理システムを設定することも可能です。任意で、カスタム Web コンテンツエディタモジュールをインストールして設定し、HeartCore Web コンテンツエディタの代わりに使用することもできます。

また、パーソナルワークスペースセクションの表示や、各セクションで表示されるインデックスページのカラム、メニュー項目のシングル選択とコンビネーション選択など、HeartCore Web コンテンツ管理システムの様々な箇所を、各自の要件や好みに合わせてカスタマイズすることができます。

3.8.1 コンテンツエディタ

3.8.1.1 コンテンツエディタ

どのコンテンツエディタを使用するか、優先コンテンツエディタ設定オプションを選択します。特別な要件がない限り、デフォルトの HeartCore Web コンテンツエディタが常に使用されるべきです。

- **HeartCore Web エディタ**
内蔵のビジュアルな What-You-See-Is-What-You-Get の HeartCore Web コンテンツエディタを使用し、ユーザの Web ブラウザに合わせて自動的に HeartCore Web コンテンツエディタの最適なバージョンを選択します。このためには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (4.0 以上) または Mozilla をベースとした Web ブラウザ (Mozilla version 1.3 以上) (Mozilla Firefox version 0.7 以上) (Netscape version 7.1 以上) の最新版が必要です。他の Web ブラウザには、シンプルな HTML TEXTAREA テキストエディタが使われます。
- **HeartCore Web エディタ v1 のみ**
内蔵のビジュアル What-You-See-Is-What-You-Get HeartCore Web コンテンツエディタ v1 のみを使用します。これには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (4.0 以上) の最新版が必要です。他の Web ブラウザには、シンプルな HTML TEXTAREA テキストエディタが使われます。
- **HeartCore Web エディタ v2 のみ**
内蔵のビジュアル What-You-See-Is-What-You-Get HeartCore コンテンツエディタを使用します。これには、Web サイト管理者は Microsoft Windows Internet Explorer (5.5 以上) または Mozilla ベースの Web ブラウザ (Mozilla version 1.3 以上) (Mozilla Firefox version 0.7 以上) (Netscape version 7.1 以上) の最新版が必要です。その他の Web ブラウザにはシンプルな HTML TEXTAREA テキストエディタが使用されます。
- **HTML TEXTAREA**
標準的な Web ブラウザのシンプルなテキストエディタを使います。これには、Web サイト管理者がコンテンツをフォーマットなしのシンプルなテキストに限定するか、または専門知識を必要とする HTML コードを直接編集することが必要になります。
- **カスタム Web コンテンツエディタモジュール**
任意で、カスタム Web コンテンツエディタモジュールをインストールして設定し、HeartCore Web コンテンツエディタの代わりに使用することもできます。インストールされ

ているカスタム Web コンテンツエディタモジュールが存在する場合は、ここへ表示され選択することが可能となります。

3.8.1.2 リンクチェック

リンク切れを防ぐため、ウェブサイトコンテンツの保存時に、他のウェブサイトコンテンツへのリンクが正しく動作しているか確認することができます。

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、ウェブサイトコンテンツの保存時に、他のウェブサイトコンテンツへのリンクが正しく動作しているかチェックするよう設定されています。しかしながら、特定のウェブサイトコンテンツでは、このリンクチェックをスキップすることもできます。例えば、意図的なリンク切れが存在する場合や、大容量のページ、イメージ、ファイルへのリンクが多数存在するためパフォーマンス上の理由でスキップしたい場合などが考えられます。

コンテンツ内のリンクチェックは、手動もしくは自動で行うことが可能です。

- なし
コンテンツ内のリンクをチェックしません。
- 手動 - デフォルトはオン
デフォルトでは保存時にコンテンツ内のリンクをチェックしますが、チェックしないよう保存時に選択することも可能です。
- 手動 - デフォルトはオフ
デフォルトでは保存時にコンテンツ内のリンクをチェックしませんが、チェックするよう保存時に選択することも可能です。
- 保存時に自動
保存時にコンテンツ内のリンクを常に自動でチェックします。



The screenshot shows the 'Content Editor' configuration page in the HeartCore CMS. The 'Link Check' section is expanded, showing the following options:

- なし
- 手動 - デフォルトはオン
- 手動 - デフォルトはオフ
- 保存時に自動

3.8.2 HeartCore Web エディタ

3.8.2.1 イメージアップロード

Web サイト管理者が、コンテンツエディタページから直接新規イメージをアップロードすることもできますし、ライブラリ管理を使ってのみ新規イメージをアップロードできるよう制限することもできます。



- イメージのアップロードを有効にします
コンテンツエディタから新規イメージを直接アップロードできます。
- イメージのアップロードを無効にします
コンテンツエディタから新規イメージを直接アップロードすることはできません。新規イメージのアップロードは、ライブラリ管理を通じてのみ可能です。

3.8.2.2 HTML フォーマット

デフォルトでは、Web コンテンツエディタからの出力は、Web ブラウザによって生成される HTML コードです。生成される HTML コードは、Web ブラウザによってフォーマットが異なります。代わりに、コンテンツの保存時/前に、Web ブラウザによって生成される HTML コードを、より統一された標準準拠の HTML や、または XHTML フォーマットに再フォーマットするよう、Web コンテンツエディタを設定することも可能です。

- デフォルト (Web ブラウザの生成した HTML)
デフォルトでは、HTML コードは Web ブラウザの内臓 HTML 編集機能によって生成されます。Web ブラウザによっては、生成される HTML コードに顕著な違いがある可能性がありますのでご了承下さい。また、いくつかの HTML コードは、コンテンツの更新や保存が行われると、変化する場合がありますが、コンテンツ自体に変更が及ぶことはありません。
- HTML
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。
- HTML4
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。HTML4 の標準に準拠した項目が、「フォーマット」および「フォームの挿入」からご利用いただけるようになります。
- HTML5
HeartCore Web エディタは、異なる Web ブラウザ間でも、より統一された HTML コードになるよう Web ブラウザの生成した HTML コードに変更を施します (全く同一ではありません)。新しい HTML5 の標準に準拠した項目が、「フォーマット」および「フォームの挿入」からご利用いただけるようになります。
- XHTML
HeartCore Web エディタは、Web ブラウザの生成した HTML コードが XHTML コード構文に準拠するよう変更を施します (必ずしもセマンティック XHTML ではありません)。

3.8.2.3 入力フィールドのサイズ

デフォルトでは、Web コンテンツエディタの入力フィールドのサイズは、幅が Web ブラウザウインドウで使用可能な幅の 100%、高さが 450 ピクセルです。幅と高さを空白のままにしてデフォルト値を使用するか、Web コンテンツエディタの入力フィールドで使用される幅および/あるいは高さを入力します。

3.8.2.4 Enter キー出力

デフォルトでは、Web コンテンツエディタは、Enter キーが押されると Web ブラウザのデフォルト出力を使用します。ブラウザによって出力が異なる場合があります。ブラウザによっては



Enter が押されると段落を挿入し、Shift+Enter で改行を挿入しますが、その他のブラウザは Enter で改行を、Shift+Enter で段落を挿入する場合があります。このようなブラウザのデフォルト出力を使用するには、この設定オプションを空白にしておきます。Web ブラウザのデフォルトを上書きするよう、Enter キーが押された際に挿入する HTML コードを設定することができます。出力は、どんな HTML コードやプレーンテキストでも設定可能です。

3.8.2.5 スキン

代替のカラースキームやアイコンセットを、Web コンテンツエディタツールバーへ使用することが可能です。

3.8.2.6 スニペット

任意で、Web コンテンツ管理システムに設定された構成要素／クラスの中からいずれかを、コンテンツスニペットとして Web コンテンツエディタに設定することが可能です。このスニペットは、Web コンテンツエディタの「スニペットの挿入」機能を使って、Web コンテンツエディタ入力フィールドへ挿入することができます。コンテンツスニペットは、Web コンテンツ管理システムの他のコンテンツ要素と同じように作成し管理します。

コンテンツスニペットは、HTML（および CSS と Javascript）コードで構成されます。任意で、カスタマイズ可能なパラメータを定義し、コンテンツスニペットの挿入前や挿入時にコードを変更することが可能です。詳細は、「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

3.8.2.7 ツールバーのカスタマイズ

デフォルトでは、Web コンテンツエディタにはリボン形式のツールバーが使用されます。任意で、様々なクラシック形式のツールバーを使用することも可能です。

デフォルトの Web コンテンツエディタツールバーには、Web コンテンツエディタがサポートする全てのボタン／オプションが含まれています。しかしながら、他の定義済み設定を使用したり、ツールバーボタンやオプションを並べ替えたり、もしくはいくつかのツールバーボタンやオプションを除去したりできるよう設定することも可能です。例えば、ユーザが太字、斜体、下線などを使って直接体裁を整える代わりに、スタイルシートの使用を義務付ける時など。

予め定義されたツールバー設定を設定するには、定義済みツールバーオプションからひとつ選択してください。設定したカスタムツールバーオプションを削除するには、「クリア」を選択してください。保存済みのカスタムツールバーオプションを復元するには、「元に戻す」を選択してください。

- 標準
これが選択されていて、且つカスタムツールバーオプションが設定されていない場合は、デフォルトのリボン形式ツールバーが使用されます。
これが選択されていて、カスタムツールバーオプションが設定されている場合は、その設定したカスタムツールバーオプションを用いて、カスタマイズしたクラシック形式のツールバーが使用されます。
- リボン
すべての Web コンテンツエディタ機能のツールバーボタンとドロップダウンメニューを持つ、複数タブのリボン形式ツールバー。
- ツールバー
すべての Web コンテンツエディタ機能のツールバーボタンとドロップダウンメニューを持つ 3 行のツールバー。



- コンパクト
すべての Web コンテンツエディタ機能のツールバーボタンとドロップダウンメニューを持つ 2 行のツールバー。
- 最大
すべての Web コンテンツエディタ機能のツールバーボタンがツールバー内に直接ある拡張ツールバー。
- 最小
テキストフォーマットのツールバーボタンと、スタイル以外のドロップダウンメニューを持たない、縮小ツールバー。

予め定義されたツールバー設定を設定するには、定義済みツールバーオプションからひとつ選択してください。設定したカスタムツールバーオプションを削除するには、「クリア」を選択してください。保存済みのカスタムツールバーオプションを復元するには、「元に戻す」を選択してください。

Web コンテンツエディタにカスタムツールバーを設定するには、予め定義されたツールバーオプションからひとつ選択し、表示したいツールバーボタン/オプションの名前をスペース区切りで入力します。「デフォルト」を選択すると、選択した定義済みツールバーのデフォルトオプションを表示し、編集することができます。

リボン形式のカスタムツールバーに関しては、カスタムツールバーオプションは、ただのスペース区切りのボタン/オプション名ではありません。設定したツールバーの各行が、リボンのタブとなり、1 番目の名前がタブ名として表示されます。2 番目の名前がツールバーボタン/オプションのグループ名となり、そのグループに属するボタン/オプション名が後に続きます。

- 「|」 文字は、ツールバーボタン/オプショングループの区切りを意味します。「|」の後ろにグループ名を指定し、続けてそのグループに属するボタン/オプション名を指定します。
- 「:」 文字は、同一グループ内での改行を意味します。
- ツールバーボタン/オプション名によって、小さなアイコンが表示されます。
- 「#」 文字から始まるツールバーボタン/オプション名は、常に小さなアイコンがリボンタブの横に表示されます。
- 「-」 文字から始まるツールバーボタン/オプション名は、無視されます。
- 「+」 文字で終わるツールバーボタン/オプション名は、小さなアイコンと名前が表示されます。
- 「++」 文字で終わるツールバーボタン/オプション名は、大きなアイコンと名前が表示されます。
- 「+++」 文字と「=TAG:NAME,TAG:NAME,TAG:NAME」で終わる、「formatblock」というツールバーボタン/オプション名は、指定した HTML タグに対する大きなプレビューパネルを表示します。



- 「+++」文字と「=NAME,NAME,NAME」で終わる、「formatclass」というツールバーボタン／オプション名は、指定した CSS スタイルシート名に対する大きなプレビューパネルを表示します。

各 Web サイト管理者用にそれぞれ異なるカスタムツールバーを設定することもできます。例えば、ある Web サイト管理者には基本的な機能だけにアクセスできるようにし、別の Web サイト管理者には全ての機能にアクセスできるようにすることができます。詳細については「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照下さい。

3.8.2.8 フォーマットオプション

Web コンテンツエディタの“フォーマット”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです:

Normal=<p>
Paragraph=<p>
Formatted=<pre>
Heading 1=<h1>
Heading 2=<h2>
Heading 3=<h3>
Heading 4=<h4>
Heading 5=<h5>
Heading 6=<h6>
Numbered List=
Bulleted List=
Directory List=<dir>
Menu List=<menu>
Definition Term=<dt>
Definition=<dd>
Address=<address>
Main=<main>
Section=<section>
Article=<article>
Header=<header>
Footer=<footer>
Navigation =<nav>
Aside=<aside>
Figure=<figure>
Figure Caption=<figcaption>
Details=<details>
Summary=<summary>

For HTML4 and XHTML format the default options are:

Normal=<p>
Paragraph=<p>
Formatted=<pre>
Heading 1=<h1>
Heading 2=<h2>
Heading 3=<h3>
Heading 4=<h4>
Heading 5=<h5>
Heading 6=<h6>
Numbered List=
Bulleted List=
Directory List=<dir>



```
Menu List=<menu>  
Definition Term=<dt>  
Definition=<dd>  
Address=<address>
```

3.8.2.9 フォント名オプション

Web コンテンツエディタの“フォント名”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです：

```
Times New Roman=Times New Roman  
Helvetica,Arial=Helvetica,Arial  
Helvetica=Helvetica  
Arial=Arial  
Courier=Courier
```

3.8.2.10 フォントサイズオプション

Web コンテンツエディタの“フォントサイズ”オプション。デフォルトのオプションは次の通りです：

```
8=1  
10=2  
12=3  
14=4  
18=5  
24=6  
36=7
```

3.8.2.11 カスタム Javascript 機能

Web コンテンツエディタのツールバーに、カスタマイズした Javascript 機能を追加することができます。このカスタマイズした Javascript 機能で既存の機能を置き換えることができます。

カスタマイズしたツールバーボタンや Javascript 機能を追加するには、前述の方法で“hello”というボタンを追加し、次のような Javascript 機能を入力します：

```
function webeditor_custom_hello() {  
    alert('Hello');  
}
```

この例では単純に、“hello”というツールバーボタンが押された時に、“Hello”というメッセージを表示させるものですが、Javascript 機能で Web コンテンツエディタにコンテンツを貼り付けたり、その他の方法で Web コンテンツエディタのコンテンツを編集することも可能です。カスタムツールバーボタンや Javascript 機能、HeartCore Web コンテンツエディタ Javascript API に関する詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



HeartCore CMS configuration interface for the 'HeartCore Web Editor'.

HeartCore Webエディター

イメージのアップロード

イメージのアップロードを有効にします。 イメージのアップロードを無効にします。

HTMLフォーマット

デフォルト (Webブラウザが生成したHTML) HTML HTML4 HTML5 XHTML

入力フィールドのサイズ

幅: 高さ:

Enterキーで出力

Enter: Ctrl+Enter:
Shift+Enter: Alt+Enter:

スキン **スニペット**

デフォルト コンテンツクラス:

ツールバー

標準: 標準 リボン ツールバー コンパクトツールバー 最大ツールバー 最小ツールバー

フォーマットオプション

フォント名オプション

フォントサイズオプション

カスタマイズしたJavaスクリプト機能



3.8.3 ファイルアップロード

様々なファイルアップロードコンポーネントが、イメージやファイルのアップロードに使用できますが、現在は、統合された HeartCore ファイルアップロードコンポーネントのみサポートしています。

- HeartCore
HeartCore Web コンテンツ管理システムに内蔵されたファイルアップロード機能を使います。

サードパーティ製のコンテンツエディタ製品を使用する場合でも、通常は HeartCore ファイルアップロードオプションを選択すべきです。サードパーティ製のファイルアップロードコンポーネントは、HeartCore Web コンテンツ管理システムのより高度な機能をすべてサポートできない可能性があります。

デフォルトでは、イメージやファイルはサイズに関係なくアップロードが許可されています。任意で、ファイルのサイズを制限することが可能です。（イメージの解像度サイズを制限してリサイズを行いたい場合などは、「プログラミング API ガイド」をご参照ください。）

- イメージアップロード制限
アップロードしたイメージのファイルサイズは、指定したバイトを超えてはいけません。サイズを制限しない場合は、空白のままにしてください。
- ファイルアップロード制限
アップロードしたファイルのファイルサイズは、指定したバイトを超えてはいけません。サイズを制限しない場合は、空白のままにしてください。

3.8.4 コンテンツビルダー

デフォルトでは、Web コンテンツエディタのコンテンツビルダー機能は、予め定義されたコンテンツビルディングブロックとカテゴリを使用します。任意で、使用可能なコンテンツビルディングブロックとカテゴリをカスタマイズすることが可能です。

3.8.4.1 コンテンツスニペット

任意で、コンテンツビルディングブロックが含まれたコンテンツ項目を選択し、Web コンテンツエディタのコンテンツビルダー機能で 사용할ことが可能です。そのコンテンツ項目では、特別なフォーマットを使って、コンテンツビルディングブロックを定義する必要があります。各コンテンツビルディングブロックは、以下のような HTML コードを使って定義します。



```
<div data-thumb="/builder/thumbnails/a01.png" data-cat="0,1">
  <div class="row clearfix">
    <div class="column full">
      <div class="display">
        <h1>Lorem Ipsum is simply dummy text</h1>
      </div>
    </div>
  </div>
</div>
```

外側の HTML DIV タグには、そのコンテンツビルディングブロックを示すサムネイルイメージと、そのコンテンツビルディングブロックが属するカテゴリ番号を指定します。外側の HTML DIV タグの内側にある HTML コードは、Web サイトページで使用する実際のコンテンツとなります。

3.8.4.2 コンテンツスニペットカテゴリ

Web コンテンツエディタのコンテンツビルダー機能で使用する、コンテンツビルディングブロックのカテゴリ番号に対する名前を定義します。以下例です。

```
[0,"デフォルト"],
[-1,"すべて"],
[1,"タイトル"],
[2,"タイトル, サブタイトル"],
[3,"インフォ, タイトル"],
[4,"インフォ, タイトル, サブタイトル"],
[5,"見出し, 段落"],
[6,"段落"],
[7,"段落, イメージ+ キャプション"],
[8,"見出し, 段落, イメージ+ キャプション"],
[9,"イメージ+ キャプション"],
[10,"イメージ+ 長文キャプション"],
[11,"イメージ"],
[12,"単イメージ"],
[13,"コールトゥアクション"],
[14,"リスト"],
[15,"引用"],
[16,"プロファイル"],
[17,"マップ"],
[18,"ソーシャル"],
[19,"区切り"],
[20,"ビデオ"]
```

任意で、Web コンテンツエディタのコンテンツビルダー機能で使用する、コンテンツビルディングブロックのカテゴリ番号に対する名前は、「コンテンツスニペット」コンテンツ項目の「サマリー」として定義することが可能です。これにより、様々なコンテンツスニペットやカテゴリを、@@@webeditor:.....:builder=ID:.....@@@特殊コードで使用できるようになります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



3.8.5 インデックスページ

パーソナルワークスペースセクションの表示や、各セクションで表示されるインデックスページのカラム、メニュー項目のシングル選択とコンビネーション選択をカスタマイズすることができます。

3.8.5.1 管理トップセクションとパーソナルワークスペースセクション

「管理トップセクション」および「パーソナルワークスペース」セクションと、その順序をカスタマイズすることができます。表示させたいセクションを表示させたい順序で、以下に示すコードをスペース区切りで入力します。例えば “intro checkedout updated created expired workflow actions” と入力すると、入力した順序で利用可能なセクションがすべて表示されます。関連機能が無効に設定されているセクションは表示されませんのでご注意ください。デフォルトの設定に戻すには、入力フィールドを完全にクリアして保存します。管理トップセクションとパーソナルワークスペースセクションを無効にするには、空白を入力します。

また、パーソナルワークスペースセクション設定は、各管理者ユーザアカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

- **Intro**
HeartCore の各エリアへのリンクと説明を記載したメインイントロセクションを表示します。
- **Checkedout**
ログイン中のユーザによって専有されたコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Updated**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、更新済み未公開コンテンツ項目をすべて表示

します。

- **Created**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、新規の未公開コンテンツ項目をすべて表示します。
- **Expired**
ログイン中のユーザにアクセス権限のある、公開期限終了済みコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Workflow**
ログイン中のユーザにワークフローアクション実行権限のあるコンテンツ項目をすべて表示します。
- **Actions**
実行ボタンを表示します。
- **Comments**
Web コンテンツ管理システム全体のウェブサイト管理者コメントを表示します。詳細は、2.9.1 管理コメントおよびウェブサイト管理者ガイドをご参照ください。
- **Projects**
ログイン中のユーザがオーナーもしくはメンバーであるプロジェクトをすべて表示します。また、新規プロジェクト作成を可能にします。詳細は、2.9.2 プロジェクト管理およびウェブサイト管理者ガイドをご参照ください。

任意で、パーソナルワークスペースセクションは、それぞれのセクションにアクセスし易いようタブ構造化することが可能です。例えば、“|Projects”、“|Comments”、“|Content”のように先頭に「|」文字が設定されたセクションによってタブの名前が指定され、後続のすべてのセクションがそのタブに表示されます（次のタブセクションが指定されるまで）。例えば、“|Projects projects |Comments comments |Content checkedout updated created expired workflow actions”では、「プロジェクト」という名前のタブにプロジェクトデータセクションが表示され、「コメント」という名前のタブにコメントデータセクションが表示され、「コンテンツ」という名前のタブに専有済、更新済、新規、公開期限終了済、ワークフロー、アクションのデータセクションが表示されます。



3.8.5.1.1 Web アクセス統計値

Web アクセス統計値レポートを、管理トップセクションやパーソナルワークスペースの一部として直接表示させることもできます。管理トップセクションとパーソナルワークスペースセクション設定へ、Web アクセス統計値レポートコードを入力します。例えば “intro usage:summary:all:today usage:summary:all:thisweek checkedout updated created expired workflow actions” と入力すると、メインイントロセクションに続いて、日次および週次の統計値サマリ



一が表示されます。使用する Web アクセス統計値レポートコードについての詳細は、2.8 アクセス統計値システム設定をご参照ください。



3.8.5.2 インデックスページカラム

管理インデックスページに表示させるカラム及びリンクは、カスタマイズが可能です。表示させたいカラムとリンクを、下記コードをスペース区切りで、表示させたい順に入力します。カラムの後ろにコロンとピクセル幅を追加し、各カラムのサイズを指定することもできます。例えば、"group:50px admin id:25px" と入力すると、50ピクセル幅の「グループ」フィールドと、管理ページへのリンク、25ピクセル幅の「id」フィールドが表示されます。関連機能が無効に設定されているカラム及びリンクは、表示されませんのでご注意ください。デフォルトの設定に戻すには、入力フィールドを完全にクリアして保存します。

また、インデックスページカラム設定は、各管理者ユーザアカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

- パーソナルワークスペース、Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、E コマース商品、E コマース在庫コード
 - checkbox
コンテンツ項目を選択するためのチェックボックスを表示します。
 - package
コンテンツ項目のパッケージを表示します。
 - class
コンテンツ項目のクラスを表示します。例：「ページ」「テンプレート」
 - bundle
コンテンツ項目のバンドル名を表示します。
 - group
コンテンツ項目のグループ名を表示します。
 - type
コンテンツ項目のタイプ名を表示します。
 - versionmaster
コンテンツ項目のマスター/デフォルトバージョンのコンテンツ項目を表示しません。

- **version**
コンテンツ項目のバージョンを表示します。
- **device**
コンテンツ項目のデバイスを表示します。
- **author**
コンテンツ項目の作成者メタ情報属性を表示します。
- **description**
コンテンツ項目のディスクリプションメタ情報属性を表示します。
- **keywords**
コンテンツ項目のキーワードメタ情報属性を表示します。
- **metainfo_NAME**
コンテンツ項目の **NAME** メタ情報カスタム属性を表示します。
- **admin**
コンテンツ項目の管理ページを開くための、コンテンツ項目タイトルをリンクとして表示します。
- **title**
コンテンツ項目のタイトルを表示します。
- **id**
コンテンツ項目の **ID** を表示します。
- **template**
コンテンツ項目のテンプレート **ID** を表示します。
- **stylesheet**
コンテンツ項目のスタイルシート **ID** を表示します。
- **top**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「ページトップ」 **ID** を表示します。
- **up**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「ページアップ」 **ID** を表示します。
- **first**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「最初のページ」 **ID** を表示します。
- **previous**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「前のページ」 **ID** を表示します。
- **next**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「次のページ」 **ID** を表示します。
- **last**
コンテンツ項目の関連コンテンツ「最後のページ」 **ID** を表示します。

- **permissionicon**
コンテンツ項目に対する管理権限アイコンを表示します。
- **permission**
コンテンツ項目に対する管理権限を表示します。
- **previewicon**
コンテンツ項目のプレビューへリンクするアイコンを表示します。
- **preview**
コンテンツ項目のプレビューへリンクする「プレビュー」というテキストリンクを表示します。
- **webviewicon**
Web サイト上でのコンテンツ項目を閲覧するアイコンを表示します。
- **webview**
Web サイト上でのコンテンツ項目を閲覧するテキストリンクを表示します。
- **browseediticon**
コンテンツ項目の「閲覧&編集」モードへリンクするアイコンを表示します。
- **browseedit**
コンテンツ項目の「閲覧&編集」モードへリンクするテキストリンクを表示します。
- **usageicon**
コンテンツ項目のアクセス解析へリンクするアイコンを表示します。
- **usage**
コンテンツ項目のアクセス解析へリンクするテキストリンクを表示します。
- **salesicon**
商品コンテンツ項目の売上レポートへリンクするアイコンを表示します。
- **sales**
商品コンテンツ項目の売上レポートへリンクするテキストリンクを表示します。
- **view**
コンテンツ項目の詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- **update**
コンテンツ項目を更新できる「更新」というテキストリンクを表示します。
- **create**
インデックスページでコンテンツ項目のコピーとして新規作成できる「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
コンテンツ項目を削除する管理ページ開くための「削除」というテキストリンクを表示します。



- **archivedicon**
コンテンツ項目のアーカイブ管理ページへリンクするアイコンを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **archived**
コンテンツ項目のアーカイブ管理ページへリンクする「アーカイブ済」というテキストリンクを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **scheduledicon**
コンテンツ項目のスケジュール管理ページへリンクするアイコンを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **scheduled**
コンテンツ項目のスケジュール管理ページへリンクする「スケジュール済」というテキストリンクを表示します。
パーソナルワークスペースに表示されるコンテンツ項目の数が非常に多い場合は、パフォーマンスの理由により、このカラムは使用すべきではありません。
- **checkout**
コンテンツ項目を専有もしくは解放できるテキストリンクを表示します。既に他のユーザによって専有されている場合は、そのユーザのユーザ名を表示します。
- **status**
コンテンツ項目のステータスを表示します。例：「公開 2020-05-09 08:00:00」
- **statusicon**
コンテンツ項目のステータスアイコンを表示します。
- **created**
コンテンツ項目の作成日時を表示します。
- **createdby**
コンテンツ項目を作成したユーザのユーザ名を表示します。
- **updated**
コンテンツ項目の最終更新日時を表示します。
- **updatedby**
コンテンツ項目を最後に更新したユーザのユーザ名を表示します。
- **published**
コンテンツ項目の公開日時を表示します。
- **publishedby**
コンテンツ項目を公開したユーザのユーザ名を表示します。
- **scheduledpublish**
コンテンツ項目にスケジュールされた公開日時を表示します。

- **scheduledunpublish**
コンテンツ項目にスケジュールされた公開終了日時を表示します。
- **unpublished**
コンテンツ項目の非公開日時を表示します。
- **unpublishedby**
コンテンツ項目を非公開したユーザのユーザ名を表示します。
- **contentformat**
コンテンツ項目のコンテンツフォーマットを表示します。
- **contentdelivery**
コンテンツ項目のコンテンツ配信を表示します。
- **searchable**
コンテンツ項目がサイト内検索の検索結果から除外されているか否かを表示します。
- **menuitem**
コンテンツ項目がパンくずリストやメニューから除外されているか否かを表示します。
- **filename**
コンテンツ項目のファイル名を表示します。
- **filesize**
コンテンツ項目のファイルサイズを表示します。
- **url**
コンテンツ項目の URL を表示します。
- **position**
検索と置換の行番号と文字位置を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **search**
検索したテキストとその文脈を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **replace**
置換されるテキストとその文脈を表示します。
検索と置換管理ページでのみ使用されます。他の管理ページでは無視されます。
- **productcode**
商品の商品コードを表示します。
- **currency**
商品の通貨を表示します。
- **price**
商品の販売価格を表示します。

- **cost**
商品の仕入れ原価を表示します。
- **period**
商品のサブスクリプション期間を表示します。
- **depth**
商品の奥行きを表示します。
- **height**
商品の高さを表示します。
- **width**
商品の幅を表示します。
- **weight**
商品の重さを表示します。
- **volume**
商品の容量を表示します。
- **brand**
商品の銘柄を表示します。
- **colour**
商品の色を表示します。
- **size**
商品のサイズを表示します。
- **stock**
商品の現在在庫数量を表示します。
- **stocklow**
商品が残りわずかとなるしきい値を表示します。
- **stockupdate**
商品の現在在庫数量を更新するための入力フィールドを表示します。
- **restocked**
商品の発注済み在庫数量を表示します。
- **restockedupdate**
商品の発注済み在庫数量を更新するための入力フィールドを表示します。
- **stockcomment**
商品の現在在庫コメントを表示します。
- **stocklocation**
商品の在庫場所を表示します。
- **stockcost**
現在在庫数量の原価を表示します。

(現在在庫数量×仕入れ原価)

- **stockvalue**
現在在庫数量が売れた場合の値段を表示します。
(現在在庫数量×販売価格)
 - **stockprofit**
現在在庫数量が売れた場合の利益を表示します。
(現在在庫数量×(販売価格－仕入れ原価))
 - **restockcost**
商品の残りわずかのしきい値まで在庫を補充するために掛かる原価を表示します。
((残りわずかのしきい値－現在在庫数量) ×仕入れ原価)
 - **productinfo_NAME**
商品の NAME 商品詳細カスタム属性を表示します。
 - **heatmapicon**
コンテンツ項目のヒートマップにリンクするアイコンを表示します。
 - **heatmap**
コンテンツ項目のヒートマップにリンクするテキストリンクを表示します。
 - **heatmapclear**
コンテンツ項目のヒートマップデータをすべて削除するテキストリンクを表示します。
 - **heatmaponoff**
コンテンツ項目のヒートマップデータの記録に関し、オンとオフを切り替えるテキストリンクを表示します。
 - **heatmapalign**
コンテンツ項目とヒートマップの配置を定義する選択ボックスを表示します。コンテンツ項目に対してヒートマップを適切に表示させるには、コンテンツ項目の実際の配置と合致する必要があります。ヒートマップの配置とコンテンツ項目の配置が合致しない場合、ヒートマップが正しい位置に表示されない可能性があります。
- **E コマース注文コード**
 - **checkbox**
注文を選択するためのチェックボックスを表示します。
 - **id**
注文の ID を表示します。
 - **view**
注文の詳細ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - **update**
注文を更新するための「更新」というテキストリンクを表示します。



- **create**
インデックスページより注文をコピー追加するための「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
注文を削除する管理ページを開くための「削除」というテキストリンクを表示します。
- **checkout**
商品を専有／解放するためのテキストリンクを表示します。既に他のユーザによって専有されている場合は、そのユーザのユーザ名が表示されます。
- **status**
注文のステータスを表示します。例：「- オープン -」
- **created**
注文が作成された日付を表示します。
- **createdby**
注文を作成したユーザのユーザ名を表示します。
- **updated**
注文の最終更新日を表示します。
- **updatedby**
注文を最後に更新したユーザのユーザ名を表示します。
- **closed**
注文がクローズされた日付を表示します。
- **closedby**
注文をクローズしたユーザのユーザ名を表示します。
- **paid**
注文が支払われた日時を表示します。
- **currency**
注文の通貨を表示します。
- **order_quantity**
注文の数量を表示します。
- **order_subtotal**
注文の小計金額を表示します。
- **order_total**
注文の合計金額を表示します。
- **tax_description**
注文の税の説明を表示します。
- **tax_total**
注文の税の合計金額を表示します。



HeartCore



- **shipping_description**
注文の送料説明を表示します。
- **shipping_total**
注文の送料の合計金額を表示します。
- **discount_description**
注文の割引説明を表示します。
- **discount_total**
注文の割引合計金額を表示します。
- **delivery_name**
注文の配送先名前を表示します。
- **delivery_organisation**
注文の配送先組織を表示します。
- **delivery_address**
注文の配送先住所を表示します。
- **delivery_postalcode**
注文の配送先郵便番号を表示します。
- **delivery_city**
注文の配送先市区町村を表示します。
- **delivery_state**
注文の配送先都道府県を表示します。
- **delivery_country**
注文の配送先国名を表示します。
- **delivery_phone**
注文の配送先電話番号を表示します。
- **delivery_fax**
注文の配送先 FAX 番号を表示します。
- **delivery_website**
注文の配送先 Web サイトアドレスを表示します。
- **delivery_email**
注文の配送先 E メールアドレスを表示します。
- **invoice_name**
注文の請求先名前を表示します。
- **invoice_organisation**
注文の請求先組織を表示します。
- **invoice_address**
注文の請求先住所を表示します。

- **invoice_postalcode**
注文の請求先郵便番号を表示します。
- **invoice_city**
注文の請求先市区町村を表示します。
- **invoice_state**
注文の請求先都道府県を表示します。
- **invoice_country**
注文の請求先国名を表示します。
- **invoice_phone**
注文の配送先電話番号を表示します。
- **invoice_fax**
注文の請求先 FAX 番号を表示します。
- **invoice_website**
注文の請求先 Web サイトアドレスを表示します。
- **invoice_email**
注文の請求先 E メールアドレスを表示します。
- **card_type**
注文の支払いカードタイプを表示します。
- **card_number**
注文の支払いカード番号を表示します。
- **card_issuedmonth**
注文の支払いカード発行月を表示します。
- **card_issuedyear**
注文の支払いカード発行年を表示します。
- **card_issued**
注文の支払いカード発行月/年を表示します。
- **card_expirymonth**
注文の支払いカード有効期限月を表示します。
- **card_expiryyear**
注文の支払いカード有効期限年を表示します。
- **card_expiry**
注文の支払いカード有効期限月/年を表示します。
- **card_cvc**
注文の支払いカード CVC 番号を表示します。
- **card_issue**
注文の支払いカード発行番号を表示します。

- **card_name**
注文の支払いカード名義を表示します。
- **card_postalcode**
注文の支払いカード郵便番号を表示します。
- ユーザデータベースで使用するコード
 - **checkbox**
ユーザを選択するためのチェックボックスを表示します。
 - **class**
ユーザのクラスを表示します。例：「**administrator**」
 - **group**
ユーザのグループ名を表示します。
 - **type**
ユーザのタイプ名を表示します。
 - **name**
ユーザの名前を表示します。
 - **organisation**
ユーザの組織を表示します。
 - **email**
ユーザのメールアドレスを表示します。
 - **username**
ユーザのユーザ名を表示します。
 - **id**
ユーザの ID を表示します。
 - **view**
ユーザの詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - **update**
ユーザの管理ページへリンクする「更新」というテキストリンクを表示します。
 - **create**
既存ユーザのコピーとして新規ユーザを作成するための「追加」というテキストリンクを表示します。
 - **delete**
ユーザを削除する管理ページを開くための「削除」というテキストリンクを表示します。
 - **admin**
ユーザの管理ページを開くリンクをユーザ名で表示します。

- **password**
ユーザのパスワードを表示します。
- **title**
ユーザのタイトルを表示します。
- **gender**
ユーザの性別を表示します。
- **birthday**
ユーザの誕生日年月日を表示します。
- **birthmonth**
ユーザの誕生月を表示します。
- **birthyear**
ユーザの誕生年を表示します。
- **birthdate**
ユーザの誕生日を表示します
- **age**
ユーザの年齢を表示します。
- **notes**
ユーザの備考を表示します。
- **groups**
ユーザの追加のグループ名を表示します。
- **types**
ユーザの追加のタイプ名を表示します
- **activate**
ユーザの有効化日時を表示します。
- **notify**
ユーザの通知日時を表示します。
- **expire**
ユーザの無効化日時を表示します。。
- **deliveryname**
ユーザの勤務先/配送先の名前を表示します。
- **deliveryorganisation**
ユーザの勤務先/配送先の組織を表示します。
- **deliveryaddress**
ユーザの勤務先/配送先の住所を表示します。
- **deliverypostalcode**
ユーザの勤務先/配送先の郵便番号を表示します。



- **deliverycity**
ユーザの勤務先/配送先の市区町村を表示します。
- **deliverystate**
ユーザの勤務先/配送先の都道府県を表示します。。
- **deliverycountry**
ユーザの勤務先/配送先の国名を表示します。
- **deliveryphone**
ユーザーの勤務先/配達の電話番号を表示します。
- **deliveryfax**
ユーザの勤務先/配送先の電話番号を表示します。
- **deliverywebsite**
ユーザの勤務先/配送先の Web サイトを表示します。
- **deliveryemail**
ユーザの勤務先/配送先のメールアドレスを表示します。
- **invoicename**
ユーザの自宅/請求先の名前を表示します。。
- **invoiceorganisation**
ユーザの自宅/請求先の組織を表示します。
- **invoiceaddress**
ユーザの勤務先/配送先の住所を表示します。
- **invoicepostalcode**
ユーザの自宅/請求先の郵便番号を表示します。。
- **invoicecity**
ユーザの自宅/請求先の市区町村を表示します。
- **invoicestate**
ユーザの自宅/請求先の都道府県を表示します。
- **invoicecountry**
ユーザの自宅/請求先の国名を表示します。
- **invoicephone**
ユーザの自宅/請求先の電話番号を表示します。
- **invoicefax**
ユーザの自宅/請求先の FAX 番号を表示します。。
- **invoicewebsite**
ユーザの自宅/請求先の Web サイトを表示します。
- **invoiceemail**
ユーザの自宅/請求先のメールアドレスを表示します。

- **cardtype**
ユーザの支払いカードタイプを表示します。
 - **cardnumber**
ユーザの支払いカード番号を表示します。
 - **cardissuedmonth**
ユーザの支払いカード発行月を表示します。
 - **cardissuedyear**
ユーザの支払いカード発行年を表示します。
 - **cardexpirymonth**
ユーザの支払いカード有効期限月を表示します。
 - **cardexpiryyear**
ユーザの支払いカード有効期限年を表示します。
 - **cardexpiry**
ユーザの支払いカード有効期限月/年を表示します。
 - **cardcvc**
ユーザー支払いカード CVC 番号を表示します。
 - **cardissue**
ユーザの支払いカードの発行番号を表示します。
 - **cardname**
ユーザの支払いカード名義を表示します。
 - **cardpostalcode**
ユーザの支払いカードの郵便番号を表示します。
- **マイクロサイトで使用するコード**
 - **domain**
マイクロサイトのドメインを表示します。
 - **remote**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ビジター訪問元の詳細を表示します。例：国「.de」
 - **useragent**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ユーザの使用ブラウザを表示します。
 - **language**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、ユーザのブラウザ選択言語を表示します。
 - **referrer**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、リファラーを表示します。



- **keywords**
マイクロサイトへのリダイレクト対象となる、リファラーキーワードを表示します。
- **version**
マイクロサイトのデフォルトバージョンを表示します。
- **country**
マイクロサイトのデフォルトの国を表示します。
- **state**
マイクロサイトのデフォルトの都道府県を表示します。
- **template**
マイクロサイトのデフォルトテンプレートを表示します。
- **stylesheet**
マイクロサイトのデフォルトスタイルシートを表示します。
- **id**
マイクロサイトの ID を表示します。
- **view**
マイクロサイトの詳細閲覧ページへの「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- **update**
マイクロサイトの管理ページへの「更新」というテキストリンクを表示します。
- **create**
マイクロサイトをコピーして新規マイクロサイト作成するための「追加」というテキストリンクを表示します。
- **delete**
マイクロサイトを削除する管理ページへの「削除」というテキストリンクを表示します。
- パーソナルワークスペースプロジェクトで使用するコード
 - **title**
プロジェクトタスクのタイトル属性を、統合管理ページへのテキストリンクとして表示します。統合管理ページでは、プロジェクトタスクデータの閲覧や更新、削除、また新規プロジェクトタスクを既存プロジェクトタスクのコピーとして作成することができます。
 - **category**
プロジェクトタスクのカテゴリ属性を表示します。
 - **priority**
プロジェクトタスクの優先度／緊急度属性を表示します。
 - **severity**
プロジェクトタスクの深刻度／影響度属性を表示します。



- **status**
プロジェクトタスクのステータス属性を表示します。
 - **statusby**
プロジェクトタスクのステータスを最後に更新した Web サイト管理者のユーザ名を表示します。
 - **started**
プロジェクトタスクの開始日属性を表示します。
 - **ended**
プロジェクトタスクの終了日属性を表示します。
 - **duration**
プロジェクトタスクの所要時間属性を表示します。
 - **created**
プロジェクトタスクが作成された日時を表示します。
 - **createdby**
プロジェクトタスクを作成した Web サイト管理者のユーザ名を表示します。
 - **updated**
プロジェクトタスクが最後に更新された日時を表示します。
 - **updatedby**
プロジェクトタスクを最後に更新した Web サイト管理者のユーザ名を表示します。
 - **id**
プロジェクトタスクの ID を表示します。
 - **view**
プロジェクトタスクの詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
 - **update**
プロジェクトタスクを更新するための「更新」というテキストリンクを表示します。
 - **create**
既存プロジェクトタスクをコピーして新規プロジェクトタスクを作成するための「新規追加」というテキストリンクを表示します。
 - **delete**
プロジェクトタスクを削除するための管理ページを開く「削除」というテキストリンクを表示します。
 - **BLANK**
余白を表示します。（カラムの開始位置や他のデータカラムとの間隔を調整）
- パーソナルワークスペースコメントで使用するコード
 - **title**
コメントのタイトル属性を、統合管理ページへのテキストリンクとして表示します。

す。

- **content**
コメントのコンテンツを表示します。
- **created**
コメントの投稿日を表示します。
- **createdby**
コメントを投稿したユーザのユーザ名を表示します。
- **section**
コメントのセクションを表示します。
- **class**
コメントのコンテンツクラスを表示します。
- **cid**
コメントのコンテンツ ID を表示します。
- **ctitle**
コメントのコンテンツタイトルを表示します。
- **group**
コメントのコンテンツグループを表示します。
- **type**
コメントのコンテンツタイプを表示します。
- **package**
コメントのコンテンツパッケージを表示します。
- **bundle**
コメントのコンテンツバンドルを表示します。
- **status**
コメントのコンテンツステータスを表示します。
- **stock**
コメントの在庫ステータスを表示します。
- **locked**
コメントが「固定」されているかを表示します。
- **id**
コメントの ID を表示します。
- **view**
コメントの詳細閲覧ページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- **update**
コメントの管理ページへリンクする「更新」というテキストリンクを表示します。



HeartCore

- create
既存コメントをコピーして新規コメントを作成するための「新規追加」というテキストリンクを表示します。
- delete
コメントを削除するための管理ページを開く「削除」というテキストリンクを表示します。
- BLANK
余白を表示します。（カラムの開始位置や他のデータカラムとの間隔を調整）

Web コンテンツ管理システムや、外部システムまたはサービス内の独自カスタム機能へのカスタムリンクを定義することも可能です。例えば、
 "NAME:50px:/webadmin/custommodule/foo.jsp?id="
 "NAME:50px:http://localhost/customservice/bar.jsp?id="
 このようなコードを入力すると、“NAME”に指定したテキストがリンクとして表示されます。そしてリンクを選択すると、指定した Web サイトアドレス URL に、選択しているコンテンツ項目の ID が付与された状態で表示されます。

インデックスページカラム

パーソナルワークスペース
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin id:25px previewicon:20px status:250px

パーソナルワークスペースプロジェクト
title:250px category:50px priority:50px severity:50px status:50px statusby:50px updated:50px started:50px ended:50px duration:50px id:25px create:50px BLA

ウェブサイトコンテンツ
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px filename:100px view:25px id:25px position:25px

メディアライブラリ
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

ウェブサイト検索
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

ウェブサイトコンテンツの高度な検索
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

ウェブサイトコンテンツの検索と置換
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px replace:200px previewicon:20px archivedicon:

ECコマース商品
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

ECコマース在庫
group:50px type:50px admin:200px id:25px stock:25px stockupdate:25px stockcomment:200px stocklow:25px restocked:25px restockedupdate:25px

ECコマース注文
checkboxbox:25px id:25px created:100px paid:100px closed:100px delivery_email:200px status:50px checkout:50px view:50px update:50px delete:50px

エクスペリエンス管理 セグメント
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

エクスペリエンス管理 ユーザテスト
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px position:25px search:200px

エクスペリエンス管理 ヒートマップ
class:50px group:50px type:50px version:50px device:50px usersegment:50px usertest:50px admin:200px id:25px webviewicon:20px heatmapicon:20px heatr

ユーザデータベース
checkboxbox:25px class:50px group:50px type:50px name username id:25px view:50px update:50px delete:50px

マイクロサイト
id:25px remote language domain useragent referrer keywords view:50px update:50px delete:50px

3.8.5.3 インデックスページメニュー

デフォルトでは、コンテンツカテゴリのクラス、グループ、タイプ、バージョン、ワークフロー機能が有効の場合、それらのメニュー項目をコンビネーションとして選択することで、選択したすべてのカテゴリに合致するコンテンツ項目のみを表示させることができます。オプションとして、一度にひとつのメニュー項目しか選択できないように設定し、その選択された単一のコンテンツカテゴリに属するすべてのコンテンツ項目を表示させることも可能です。



また、インデックスページメニュー設定は、各管理者ユーザアカウント別にカスタマイズすることも可能です。詳しくは、3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定および「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください。

- 「コンテンツのバンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージのコンビネーションとして選択」
複数のコンテンツカテゴリメニュー項目をコンビネーションとして選択し、選択したすべてのカテゴリに合致するコンテンツ項目のみ表示されます。
- 「コンテンツのバンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージをシングルで選択」
一度にひとつのコンテンツカテゴリメニュー項目しか選択できません。選択した単一カテゴリに属するすべてのコンテンツ項目が表示されます。

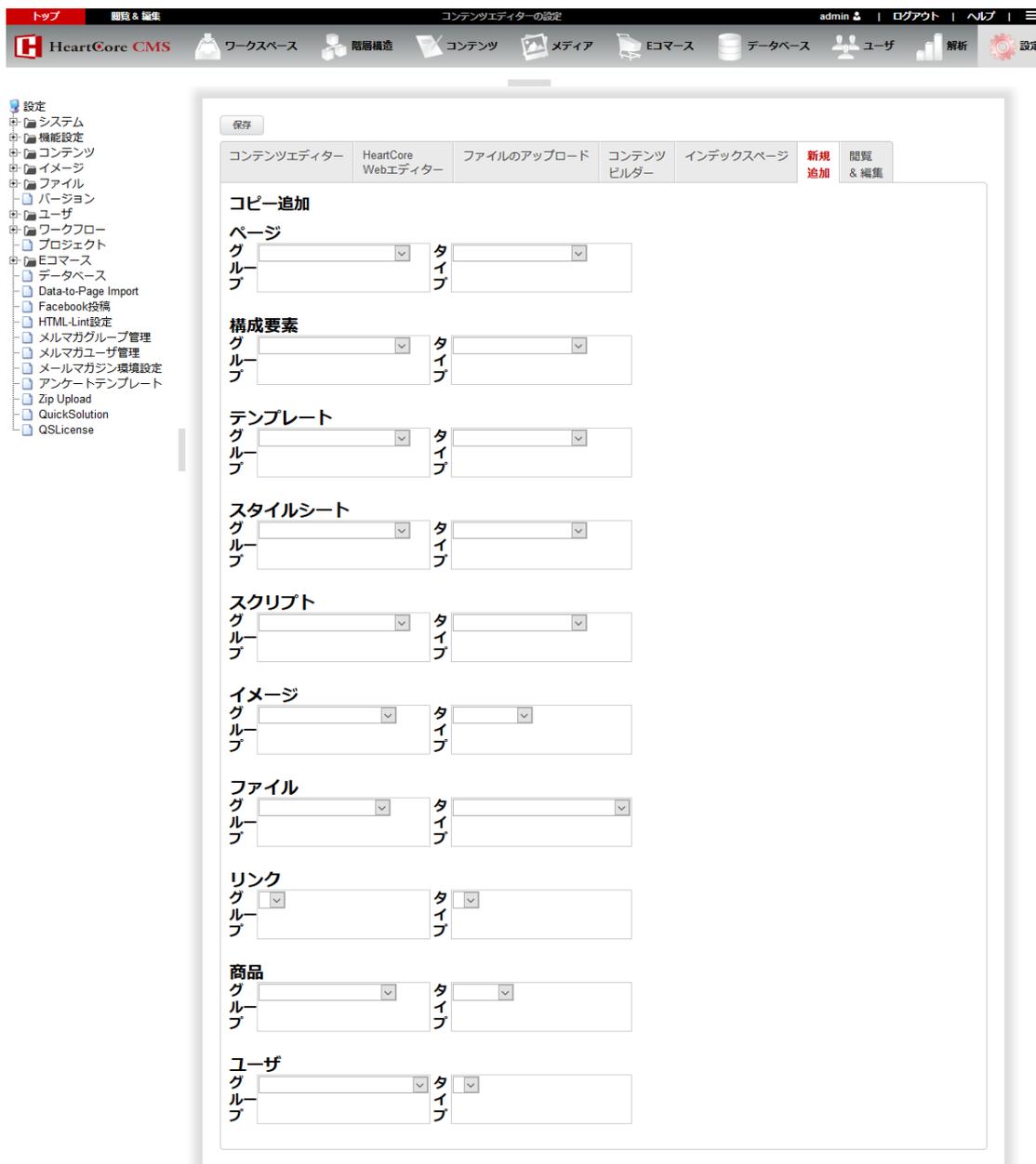
インデックスページメニュー

- コンテンツの、バンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージのコンビネーションとして選択。
- コンテンツのバンドル、グループ、タイプ、バージョン、ステータス、パッケージをシングルで選択。

3.8.6 新規追加

Web コンテンツ管理システムの管理インデックスページでは、選択したグループ／タイプの既存コンテンツ項目に対して、「作成」権限のあるコンテンツ項目をコピーして新規コンテンツ項目を追加することができます。

任意で、追加のグループ／タイプを設定することができ、設定したグループ／タイプの既存コンテンツ項目は、常にコピーして新規コンテンツ項目を追加することが可能となります。これにより、選択したグループ／タイプに関わらず、コンテンツレイアウトといった汎用的な内容のコンテンツ項目を、すべての管理インデックスページから簡単に再利用できるようになります。



3.8.7 閲覧&編集

3.8.7.1 ツールバーカスタマイズ

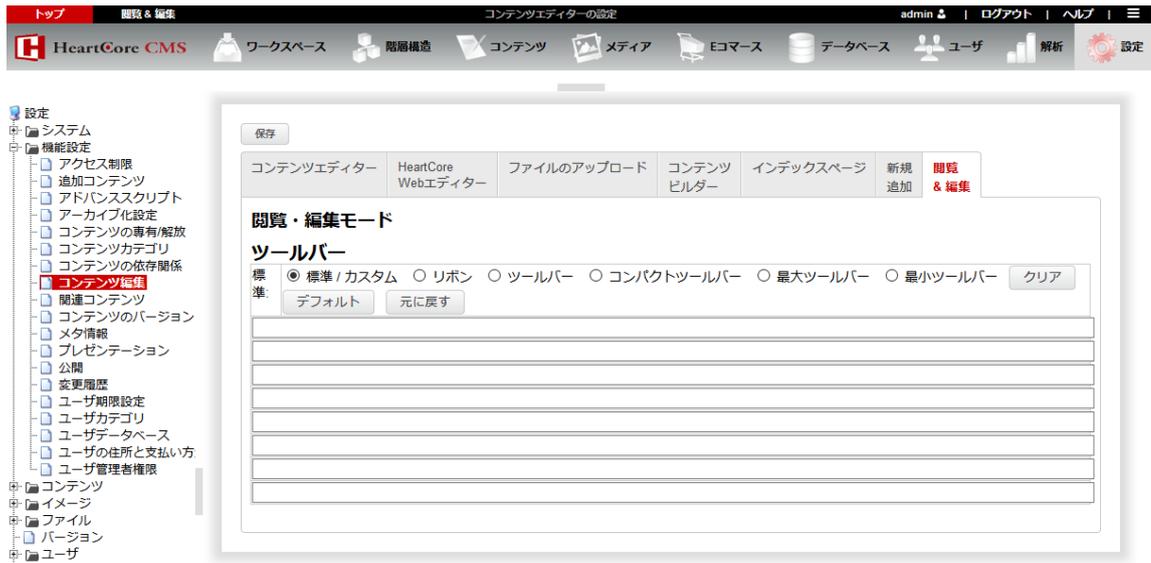
「閲覧&編集」モードのインライン編集で使用するデフォルトの Web コンテンツエディタツールバーは、他の管理ページで使用するツールバーと同じです。これを、予め定義された別のツールバーに変更したり、ツールバーのボタンやオプションをカスタマイズしたりすることが可能です。例えば、太字や斜体、下線といった直接的なテキスト整形ではなく、スタイルシートの使用をユーザへ義務付けたい場合などに有効です。

予め定義されたツールバーを設定するには、定義済みツールバーオプションの中からいずれかを選択し、必要に応じて、表示したいツールバーボタン/オプション名を入力します。詳細



は、3.8.2.7 ツールバーのカスタマイズをご参照ください。

各 Web サイト管理者にそれぞれ異なるカスタムツールバーを設定することもできます。例えば、ある Web サイト管理者は基本的な機能だけ使用できるようにし、別の Web サイト管理者は全ての機能を使用できるようにすることができます。詳細については「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照下さい。



3.9 動的ナビゲーションメニューとリンクのためのコンテンツ依存関係

通常は、Web サイトナビゲーションメニューやツールバー内で Web サイトページへのリンクを作成し、Web サイトページ間をリンクさせます。しかしながら、「上へ」、「前へ」、「次へ」のような汎用ナビゲーションリンクでテンプレートを作成したり、自動スライドショープレゼンテーション Web サイトページを作成したい場合があります。コンテンツ相互関係機能を使えばこれが可能です。メディアライブラリのイメージ/ファイル/リンクについても、いくつでもページや商品と連携させることが可能です（メディアライブラリのイメージ、ファイル、リンク相互関係を使って）。コンテンツの相互関係は、動的なパンくずやメニューを生成する目的で、“パンくず”や“メニュー”によっても使用されます。

コンテンツの相互関係は、コンテンツの追加時や更新時に、「関連コンテンツ」タブの「ページトップ」「ページアップ」「前のページ」「次のページ」「最初のページ」「最後のページ」入力フィールドにて定義されます。コンテンツの相互関係機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは管理ページに表示されません。





3.10 多言語対応やその他のマルチバージョンコンテンツ

通常、Web サイトで使用されるバージョンはひとつだけですが、往々にして Web サイトには様々なユーザを対象としたセクションが含まれます。そこで多言語対応やその他のマルチバージョンコンテンツが必要になる場合もあるでしょう。

- 諸外国向けの多言語対応コンテンツ
- ビジター、顧客、パートナー、従業員へのそれぞれ差別化されたコンテンツ内容
- 初心者と専門家の各レベルに応じた技術的コンテンツ
- 子供と大人とで区別する成人向けコンテンツ
- モデム、ブロードバンド、ワイヤレスによってユーザを区別するコンテンツ
- ユーザ個人に対応するグラフィックデザイン様式

複数の Web サイトを別々に作成し管理するのもひとつの方法ですが、もっと簡単で効率的な方法は、コンテンツバージョン機能を使うことです。コンテンツバージョン機能を使って、シングルバージョン Web サイトのように単に、優先 Web サイトコンテンツを作成します。そして追加として、Web サイトコンテンツの全部あるいは選択した部分の代替バージョンを必要なだけ作成します。代替バージョンは、ページ、構成要素、テンプレート、スタイルシート、イメージ、ファイル、リンクを含むコンテンツ全部に対して作成することができます。

Web サイトコンテンツの関連代替バージョンは、Web サイトの設定と Web サイトビジターの言語などの設定に応じて、自動的に表示されます。代替バージョンが利用できない場所では、コンテンツのマスター/オリジナル/デフォルトバージョンが表示されます。この方法を使えば、Web サイトコンテンツのマルチバージョンの作成と管理がより簡単で便利になります。

3.10.1 コンテンツバージョン

コンテンツバージョン機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」/「バージョン」メニュー項目とページが追加されたり表示されなくなったりします。Web サイトのコンテンツバージョンを設定するには、「バージョン」メニュー項目と各設定ページを使用します。詳しくは、4.Web サイトコンテンツ設定をご参照下さい。

コンテンツバージョンは、コンテンツ項目の追加時や更新時に、「コンテンツバージョン」タブの「バージョンとマスター/デフォルト」入力フィールドにて定義されます。コンテンツバージョン機能が無効の場合は、「バージョンとマスター/デフォルト」入力フィールドは管理ページに表示されなくなります。

コンテンツバージョンは、Web サイトコンテンツ管理ページの「バージョン」左メニューよりアクセス可能で、各コンテンツバージョンに属するコンテンツ項目を管理することができます。「バージョン」メニューの中からいずれかを選択すると、その選択したバージョンに属するコンテンツのみ表示されます。Web サイトコンテンツ管理インデックスページに表示された各コンテンツには、それぞれのバージョンを表示するカラムがあります。コンテンツバージョン機能が無効の場合には、左メニュー「バージョン」とインデックスページのカラムは、管理ページに表示されません。

3.10.2 Eメール通知

コンテンツの代替バージョンを管理する Web サイト管理者は、マスター/デフォルトバージョンのコンテンツが変更されると自動的にEメール通知を受けることができます。「Eメール通

知を有効にします」または「Eメール通知を無効にします」を選択し、Eメール通知機能を有効または無効に設定してください。



3.11 SEO や目録作成のためのメタ情報

Web コンテンツ管理システムの基本コンテンツは、タイトルと実際のコンテンツから構成されています。これに加えて、追加のメタ情報属性が、すべてのコンテンツに対して有効化できます。デフォルトの追加メタ情報属性は、キーワード、ディスクリプション、作成者の入力フィールドで構成されています。通常、これらのメタ情報属性は、Web サイトの検索エンジンプロファイリングや最適化、また他の目録作成や自動エージェントシステム、を目的に使用されます。

任意の追加カスタムメタ情報属性も追加することができます。例えば、Dublin Core Metadata (<http://www.dublincore.org/>)やその他メタデータを Web ページに追加することが可能です。

メタ情報は、コンテンツの追加時や作成時、「メタ情報」タブの「作成者」「ディスクリプション」「キーワード」及び独自のカスタムメタ情報入力フィールドにて定義可能です。メタ情報機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは管理ページに表示されません。

任意で、一般的なメタ情報データの容易な使用と一貫性保持の目的で、事前定義済みのメタ情報オプションを設定することが可能です。

- 名前
メタ情報属性の名前を入力します。
- タイプとプロパティ
メタ情報属性に対するタイプとプロパティを選択します。
 - テキスト
シンプルなテキスト入力フィールドです。任意でデフォルト値を設定することも可能で、コンテンツ項目への追加時に値は変更することができます。
 - 選択 (単一)
事前に定義された選択肢を伴う選択ボックスです。コンテンツ項目への追加時に、この中から選択します。「サイズ」には、標準 HTML FORM SELECT ボックスとしてコンテンツ項目管理画面に表示させたい選択肢の数を指定することが可能です。
 - 選択 (複数)
事前に定義された選択肢を伴う選択ボックスです。コンテンツ項目への追加時に、この中から選択します。「サイズ」には、標準 HTML FORM SELECT としてコンテンツ項目管理画面に表示させたい選択肢の数を指定することが可能です。または、

ピクセルサイズ（例：200px）を指定すると、左（未選択）右（選択済）カラムとして選択肢がコンテンツ項目管理画面に表示されます。

- ラジオボタン
事前に定義された選択肢のラジオボタンです。コンテンツ項目への追加時に、この中から選択します。
 - チェックボックス
事前に定義された選択肢のチェックボックスです。コンテンツ項目への追加時に、この中から選択します。
- 説明
コンテンツ項目管理画面に表示される、メタ情報属性に関するテキストです。



The screenshot shows the 'HeartCore CMS' administration interface. The top navigation bar includes 'ワークスペース', '階層構造', 'コンテンツ', 'メディア', 'Eコマース', 'データベース', 'ユーザ', and '解析'. The left sidebar lists various settings categories, with 'メタ情報' (Meta Information) selected. The main content area is titled 'メタ情報の設定' (Meta Information Settings) and includes a '保存' (Save) button, a radio button to toggle meta-information on or off, and a section for '定義済みメタ情報オプション' (Defined Meta Information Options) with a table for adding new options.

名前	タイプ	プロパティ	説明
<input type="text"/>	<input type="text"/>		

3.12 Web サイトセクションやページ指定デザイン／レイアウトのプレゼンテーション
デフォルトでは、Web サイト内すべてのページに対して単一のプレゼンテーションテンプレートとスタイルシートを使うように設定されています。しかしながら、Web サイトの各セクションによって異なるプレゼンテーションテンプレートやスタイルシートを使用することも可能です。ページ指定プレゼンテーションテンプレートおよびスタイルシート機能を有効にすることで、各 Web サイトページを表示するそれぞれのプレゼンテーションテンプレートとスタイルシートを選択することができます。

コンテンツのプレゼンテーションテンプレートとスタイルシートは、コンテンツの追加時や更新時、「コンテンツプレゼンテーション」タブの「テンプレート」、「スタイルシート」入力フィールドにて定義可能です。プレゼンテーション機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

コンテンツのプレゼンテーションテンプレートとスタイルシートはまた、ページグループ／タイプ、マイクロ Web サイトへも定義することができます。プレゼンテーション機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは、ページグループ／タイプ、マイクロ Web サイトの各設定ページには表示されません。



3.13 コンテンツのステージング、プレビュー、公開

デフォルトとして HeartCore Web コンテンツ管理システムは、非常に簡単なコンテンツ公開モデルを使用するように設定されています。すべてのコンテンツが、保存時にすぐ自動公開されます。しかしながら、コンテンツを一定期間に亘って作業し、テストし、そして公開前に承認を得る、というように管理したい場合もあります。そのためには、手動によるコンテンツ公開を有効にすることで可能になります。

3.13.1 自動および手動での公開

コンテンツ項目は、追加時や更新時に自動もしくは手動にて公開できます。

- 保存時に自動
常にコンテンツ保存時に自動的にかつ即座に公開する。
- 手動 – デフォルトはオン
デフォルトとしては保存時にコンテンツを公開するが、保存時に公開しないよう選択することもできる。
- 手動 – デフォルトはオフ
デフォルトとしては保存時にコンテンツを公開しないが、保存時に公開するよう選択することもできる。

コンテンツの手動による公開は、コンテンツの追加時や更新時に保存ボタンの上にある「公開」「公開準備完了」チェックボックスにて行われます。また、コンテンツ管理インデックスページの「公開」ボタンからも公開可能です。手動での公開機能が無効の場合（「保存時に自動」が選択されている場合）、これらチェックボックスやボタンは、コンテンツ管理ページに表示されません。

新規、更新済、公開済のコンテンツへアクセスするには、コンテンツ管理ページの左メニュー「新規」、「更新済」「公開済」を使用します。もしくは、パーソナルワークスペースにある「更新済みでまだ公開されていないコンテンツ」、「作成済みでまだ公開されていないコンテンツ」セクションからもアクセス可能です。手動での公開機能が無効の場合（「保存時に自動」が選択されている場合）、これらの左メニューやパーソナルワークスペースのセクションは表示されません。



3.13.2 動的および静的 Web アドレス

ユーザに親しみやすい Web アドレスとして、“http://localhost/page.aspx?id=123”のような動的 Web アドレスの代わりに、“http://localhost/about.html”のような静的 Web アドレスへコンテンツを公開したい場合もあるでしょう。

- ページを公開するのに動的 Web アドレスを使用します
公開ページへのアクセスは以下のような動的 Web アドレスからのみ可能
http://localhost/page.aspx?id=123
- ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします
http://localhost/about.html のような静的アドレスにページを公開することが可能です。
 - *.html ファイル、*.js ファイル、*.css ファイルを動的に出力します。
*.html と *.css のページとスタイルシートは、動的コンテンツを持つ擬似ファイル/フォルダとして公開されます。ただ Web アドレスのみが静的です。コンテンツは、他のコンテンツが更新されると自動的に更新されます。通常は、このオプションが選択されるべきです。
 - *.html ファイル、*.js ファイル、*.css ファイルを Web サーバーに対し、静的なファイルとして配信します。（こちらほうが速いですがいくつかの機能が無効となります）
*.html と *.css のページとスタイルシートは、静的コンテンツを持つシンプルな静的ファイルとして公開されます。Web アドレスもコンテンツも静的です。コンテンツは他のコンテンツが更新されても自動的に更新はされません。通常、このオプションは選択されるべきではありません。
 - 静的 Web アドレスにファイルは作成しません。（クラウドストレージ使用時は必須）
Web サーバには実際のファイル/フォルダは作成されません。Web コンテンツ管理システムのデータベースへ、静的な Web アドレスが保管されます。クラウドストレージを使用して、「ページを公開するのに静的 Web アドレスを有効にします」を有効にする場合は、必ずこれを選択してください。

注意：この設定を変更して保存した後、既存コンテンツに対する静的アドレスのファイルを作成/更新/削除するには、「データベースアップグレード」を実行する必要があります。

静的 Web アドレスは、コンテンツの追加時や更新時、「プライマリコンテンツ」タブの「ファイル名」入力フィールドにて定義可能です。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この「ファイル名」入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

静的 Web アドレスは、コンテンツ管理インデックスページの「選択を移動」ボタンと「フォルダ」入力フィールドにて定義可能です。選択したコンテンツを別のフォルダへ移動させることができます。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この「フォルダ」入力フィールドは表示されません。



静的 Web アドレスはまた、設定領域のコンテンツ、イメージ、ファイルのページにある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダーに移動します ____フォルダーへ ____」入力フィールドでも変更可能です。静的 Web アドレス機能が無効の場合は、この入力フィールドは表示されません。

<p><input type="radio"/> ページを公開するのに動的Webアドレスを使用します。</p> <p><input checked="" type="radio"/> ページを公開するのに静的Webアドレスを有効にします。</p> <p><input checked="" type="radio"/> *.htmlファイル、*.jsファイル、*.cssファイルを動的に出力します。</p> <p><input type="radio"/> *.htmlファイル、*.jsファイル、*.cssファイルをWEBサーバーに対し、静的なファイルとして配信します。</p> <p><input type="radio"/> 静的なアドレスにファイルを作成しない。(クラウドストレージでは必須)</p> <p><small>注意: この設定を行った後に、静的なアドレスのファイルを、作成/更新/削除を行った場合は、必ず「データベースの更新をクリックしてください。」</small></p>

3.13.3 スケジュールされた公開と公開期限終了

デフォルトでは、コンテンツ項目は即座に公開され、公開が終了することはありません。オプションとして、ニュースやプレスリリース、特別キャンペーンなどのコンテンツを、特定の日に公開するよう、または特定の時間に公開終了するようスケジュールすることができます。

デフォルトでは、最後に更新およびスケジュールされた最新レビジョンのみ、指定した日時にスケジュール公開されます（指定した日時にお知らせを公開したい場合など）。オプションとして、複数のレビジョンをそれぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として保存することができます（一定期間のみスペシャルオファーを公開した後、掲載を除外したい場合や、時間によって公表する内容を変化させたい場合など。）

公開スケジュール

- 「スケジュールされた公開を無効にします」
公開するとコンテンツは即時に公開されます。
- 「スケジュールされた公開を有効にします」
指定する未来の日時にコンテンツを自動的に公開することができます。
- 「複数公開スケジュールを無効にします」
最後に更新およびスケジュールされたコンテンツレビジョンのみ公開されます。
- 「複数公開スケジュールを有効にします」
コンテンツの複数レビジョンを、それぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として設定することができます。

公開期限スケジュール

- スケジュールされた公開期限を無効にする
公開されたコンテンツは、手動で非公開/削除されない限り、公開のまま。
- スケジュールされた公開期限を有効にする
指定された未来の日時に、コンテンツが自動的に公開期限切れになる。

公開と公開期限のスケジュール日時は、コンテンツの追加時や更新時に「保存」ボタン下にある「開始時間」「終了時間」入力フィールドにて定義可能です。公開と公開期限スケジュール機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

コンテンツの複数レビジョンをそれぞれ異なる日時に公開されるようスケジュールし、待ち状態として設定するには、コンテンツの追加時や更新時に「保存」ボタン下にある「スケジュール」チェックボックスを使用します。スケジュールされた各レビジョンは、コンテンツの追加



時や更新時の「削除」「比較」「元に戻す」選択ボックスよりアクセス可能です。また、Web サイトコンテンツ管理インデックスページの「スケジュール」アイコン/リンクよりアクセスすることもできます（表示する設定の場合）。複数公開スケジュールが無効に設定されている場合は、「スケジュール」チェックボックスおよび「スケジュール」アイコン/リンクは表示されません。

公開開始スケジュール済みコンテンツ、公開期限終了コンテンツにアクセスするには、Web サイトコンテンツ管理の左メニュー「スケジュール済み」「期限終了」を使用します。公開と公開期限スケジュール機能が無効の場合は、これらの左メニューはコンテンツ管理ページに表示されません。

<input type="radio"/> スケジュールされた公開を無効にします。	<input checked="" type="radio"/> 全てのスケジュールリング（複数公開設定）を無効にします。
<input checked="" type="radio"/> スケジュールされた公開を有効にします。	<input type="radio"/> 全てのスケジュールリング（複数公開設定）を有効にします。
<hr/>	
<input type="radio"/> スケジュールされた公開期限を無効にします。	
<input checked="" type="radio"/> スケジュールされた公開期限を有効にします。	

3.13.4 コンテンツを静的 HTML ページ/ファイルとしてエクスポート

デフォルトでは、Web サイトコンテンツは、Web コンテンツ管理システムによって、Web コンテンツ管理システムデータベースより動的に配信されます。オプションとして、Web サイトコンテンツのコピーを、静的な HTML ファイルやイメージファイルとしてエクスポートすることが可能です。

- フォルダパスのエクスポート

Web サイトコンテンツアイテムの簡単な静的ファイルのコピーがエクスポートされる、Web サーバ上のフルパスとフォルダ名—例えば、高度な動的機能のない Web サイトを外部パブリック Web サイトへ公開する；機能制限されたバックアップ Web サイトとして；もしくは Web サイトの機能制限された CD/DVD コピーとして。セキュリティ上の理由から、エクスポートフォルダパスは、Web サイト“root”フォルダ内に位置するサブフォルダでなければいけません。

エクスポートフォルダパスの設定後、“全てをエクスポートします”ボタンを選択し、全ての Web サイトコンテンツアイテムの最初のエクスポートを行ないます。個々のコンテンツアイテムは、追加・更新・公開・削除時に自動でエクスポートされます。

コンテンツアイテムを静的なHTMLファイルとしてコピーします。 エクスポートするフォルダを選択し「全てをエクスポートします」をクリックします。 新規および更新されたコンテンツが自動的にエクスポートされます。	
エクスポートするフォルダパス名:	<input type="text"/> <input type="button" value="全てをエクスポートします"/>

3.14 コンテンツとユーザアカウント変更記録のための変更履歴

デフォルトでは HeartCore Web コンテンツ管理システムには、Web サイトコンテンツへ施した変更を追跡したり記録したりする変更履歴情報は含まれていません。しかしながら、特に公開機能やアーカイブ機能との関連で、コンテンツの何がなぜ変更されたのか、変更履歴情報を追加したい場合もあります。

変更履歴は、コンテンツの追加時や更新時に、「変更履歴」タブの「変更」入力フィールドへ入力します。変更履歴機能が無効の場合には、この「変更」入力フィールドはコンテンツ管理ページに表示されません。

任意で、Web サイトユーザおよび管理者アカウントの変更履歴情報を記録することも可能で、Web サイトユーザ/管理者に対する変更を追跡することができます。Web サイトユーザ/管理者アカウントの変更履歴情報は指定した期間保管され、その後は自動的に削除されます。各

Web サイトユーザ／管理者アカウントの変更履歴情報は、ユーザ管理ページにて閲覧可能です（詳細は、「ウェブサイト管理者ガイド」をご参照ください）。



3.15 期限付きユーザアカウントのためのユーザ有効化と有効期限

デフォルトでは、ユーザアカウントは、常にアクティブです。しかし、ユーザの有効化機能を使用して、期限付きの会員や、試用期間のユーザアカウント、一時的な Web サイト管理者ユーザなどを作成することも可能です。ユーザアカウントは決められた期間内のみ有効で、この期間は制限付コンテンツや、ひいては Web コンテンツ管理システムにアクセスしたりすることができます。

有効化と有効期限のスケジュール日時は、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「有効期限」タブの「有効化」「通知」「期限切れ」入力フィールド、及び各通知 E メール入力フィールドにて定義可能です。ユーザの有効化と有効期限機能が無効の場合は、これらの入力フィールドはユーザデータベース管理ページに表示されません。

保留、アクティブ、期限終了予定、期限終了のユーザアカウントへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「保留」「アクティブ」「期限終了予定」「期限終了」を使用します。ユーザの有効化と有効期限機能が無効の場合は、これらの左メニューはユーザデータベース管理ページに表示されません。

デフォルトでは、Web サイトユーザアカウントは、Web サイト管理者によってのみ登録解除や削除が可能です。任意で、Web サイトユーザが自身のアカウントを無効化、または完全に削除できるよう設定することができます（“/unregister.aspx”、“/unregister.jsp”、“/unregister.php” プログラムスクリプトへのリンクを使用します）。





3.16 多数のユーザアカウントを整理するためのユーザカテゴリ

HeartCore Web コンテンツ管理システムのデフォルトインストールと小規模な Web サイトには、限られた数の Web サイト管理者や登録ユーザしか存在しないため、特別な操作は必要ありません。しかし、Web サイトが多数の管理者や多様なユーザを有する場合は、ユーザアカウントをユーザグループやタイプに分けて整理することが必要かもしれませんし、少なくともその方が便利で効率的です。また、各グループ/タイプのユーザへ、それぞれ異なった権限を与え、アクセスできるコンテンツを制御することもできます。

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、一般的なユーザアカウントのカテゴリに“グループ”“タイプ”という用語を使用します。必要に応じて任意のグループ、タイプを自由に定義することができます。HeartCore Web コンテンツ管理システムにおいて“グループ”“タイプ”という言葉に特別な意味はなく、多数のユーザアカウントをより小さな、より簡単なカテゴリで管理できるよう仕分けする方法にすぎません。

HeartCore Web コンテンツ管理システムで使用する“クラス”という言葉は、Web サイト管理者と非管理者を定義する特別なユーザアカウントカテゴリを意味します。

- ユーザカテゴリを有効にする
ユーザカテゴリ全般を有効にする。他の特定のユーザカテゴリも有効の場合には、常にこちらが選択されるべきです。
- ユーザカテゴリを無効にする
ユーザカテゴリ全般を無効にする。他の特定のユーザカテゴリもすべて無効の場合のみ、こちらが選択されるべきです。

3.16.1 ユーザクラス

ユーザクラスは、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「ユーザカテゴリ」タブの「クラス」入力フィールドにて定義可能です。ユーザクラス機能が無効の場合には、この「クラス」入力フィールドは表示されません。

ユーザクラスへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「管理者」「ユーザ」を使用し、ユーザクラスに属するユーザアカウントの追加や管理を行います。「管理者」もしくは「ユーザ」のメニュー項目よりいずれかを選択すると、その選択したクラスに属するユーザアカウントのみ表示されます。また、そのクラスへ新規ユーザアカウントを追加することもできます。ユーザデータベース管理インデックスページに一覧表示されたユーザアカウントには、それぞれのユーザクラスを表示するカラムがあります。ユーザクラス機能が無効の場合は、左メニュー「管理者」とインデックスページのカラムは管理ページに表示されません。

3.16.2 ユーザグループとタイプ

ユーザグループとタイプ機能を有効にしたり無効にしたりすると、設定セクションの「設定」/「ユーザ」/「グループ」「タイプ」メニュー項目とページが、表示されたりされなくなったりします。Web サイトのユーザグループやタイプを設定するには、「グループ」「タイプ」メニューを使用します。詳しくは、5.ユーザデータベース設定をご参照下さい。

ユーザグループとタイプは、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「ユーザカテゴリ」タブの「グループ」「タイプ」入力フィールドにて定義可能です。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合には、これらの入力フィールドは表示されません。

ユーザデータベース管理インデックスページには、「選択を移動」ボタンと「グループ」「タイプ」リストがあり、選択したユーザアカウントを別のグループやタイプへ移動させることが



できます。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合は、この「グループ」「タイプ」リストは表示されません。

ユーザグループとタイプへアクセスするには、ユーザデータベース管理ページの左メニュー「グループ」「タイプ」を使用し、ユーザグループ/タイプに属するユーザアカウントの追加や管理を行います。「グループ」もしくは「タイプ」のメニュー項目よりいずれかを選択すると、その選択したグループもしくはタイプに属するユーザアカウントのみ表示されます。ユーザデータベース管理インデックスページに一覧表示されたユーザアカウントには、それぞれのユーザグループとタイプを表示するカラムがあります。ユーザグループとタイプ機能が無効の場合は、左メニュー「グループ」「タイプ」及びインデックスページのカラムは管理ページに表示されません。



3.17 Web サイト管理者および登録ユーザのためのユーザデータベース

デフォルトでは、HeartCore Web コンテンツ管理システムは、アクセスに制限のある Web サイトではなく、また単一 Web サイト管理者による Web コンテンツ管理用に設定されています。つまり、Web サイトへ訪れる誰もが Web サイト全体にアクセスでき、また HeartCore Web コンテンツ管理システムのユーザは一人しかいない、ということになります。しかしながら、登録ビジターに対しアクセス制限を設けたいコンテンツがあったり、また複数の Web サイト管理者が HeartCore Web コンテンツ管理システムを通して Web コンテンツを管理できるようにしたい場合も考えられます。このためには、HeartCore Web コンテンツ管理システムに内蔵されたユーザデータベースと、アクセス制限および複数管理者機能を有効にします。

- データベースを有効にします
Web コンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースを使った、Web サイトユーザの登録やログイン、Web サイト管理者のユーザアカウント使用と Web コンテンツ管理システム管理ページへのログインを有効にします。
- ユーザデータベースを無効にします
Web サイトユーザの登録やログイン、Web サイト管理者のユーザアカウント使用と Web コンテンツ管理システム管理ページへのログインを無効にします。



3.17.1 Facebook ログイン

コミュニティアドオンモジュールのみ

デフォルトでは、Web サイト管理者や Web サイトユーザは、Web サイトのユーザとして登録し、各自のユーザ名とパスワードを入力して Web サイトへログインします。任意で、Facebook を使って Web サイトへログインすることが可能です（さらに任意で、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースへ、Web サイトのユーザとして新規ユーザを登録することが可能です）。

- Facebook での Web サイトログインを有効にする
Web サイトユーザが Facebook を使って Web サイトへログインできるよう有効化します。
（“/login_facebook.aspx”、“/login_facebook.jsp”、“/login_facebook.php”プログラムスクリプトへのリンクを使用）
- Facebook での Web サイトログインを無効にする
Web サイトユーザが Facebook を使って Web サイトへログインできないよう無効化します。
- Facebook での管理者ログインを有効にする
Web サイト管理者が Facebook を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできるよう有効化します。（ログインページ上のリンクを使用）
- Facebook での管理者ログインを無効化する
Web サイト管理者が Facebook を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできないよう無効化します。
- クライアント/アプリケーション ID
Facebook ログインサービスの使用に際し、Facebook が発行したクライアント/アプリケーション ID
- クライアント/アプリケーションシークレット
Facebook ログインサービスの使用に際し、Facebook が発行したクライアント/アプリケーションシークレット
- スコープ
ログイン時にユーザデータへアクセスする Facebook 定義の”scope”属性



- ユーザ名属性
Web サイトおよび Web コンテンツ管理システムでユーザ名として使用する Facebook ユーザ属性名。デフォルトのユーザ名属性 (email) を使用する場合は、空白のままにします。

3.17.1.1 新規ユーザ登録

Facebook ログインでは、ユーザ名や E メール、名前といった基本的なユーザ情報しか提供されません。その他のユーザ情報には、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースにも各ユーザに合致するユーザアカウントが存在する必要があります。Web サイト管理者がログインするには、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に合致するユーザアカウントが必須です。

新規 Web サイトユーザのログイン時に、ユーザが Web サイト上でアカウントを登録したかのように、新たなユーザアカウントが Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に自動作成されます。

- ユーザテンプレート
新規登録ユーザアカウントの作成時にコピーするユーザアカウント。このユーザアカウントによって、新規登録ユーザアカウントのユーザカテゴリやアクセス権限が定義されます。
- パーソナルページ (任意)
新規登録ユーザのパーソナルページ作成時にコピーするコンテンツページ。このコンテンツページによって、新規登録ユーザのパーソナルページの初期コンテンツが定義されます。
- 新規ユーザページ (任意)
新規ユーザがリダイレクトされるコンテンツページ

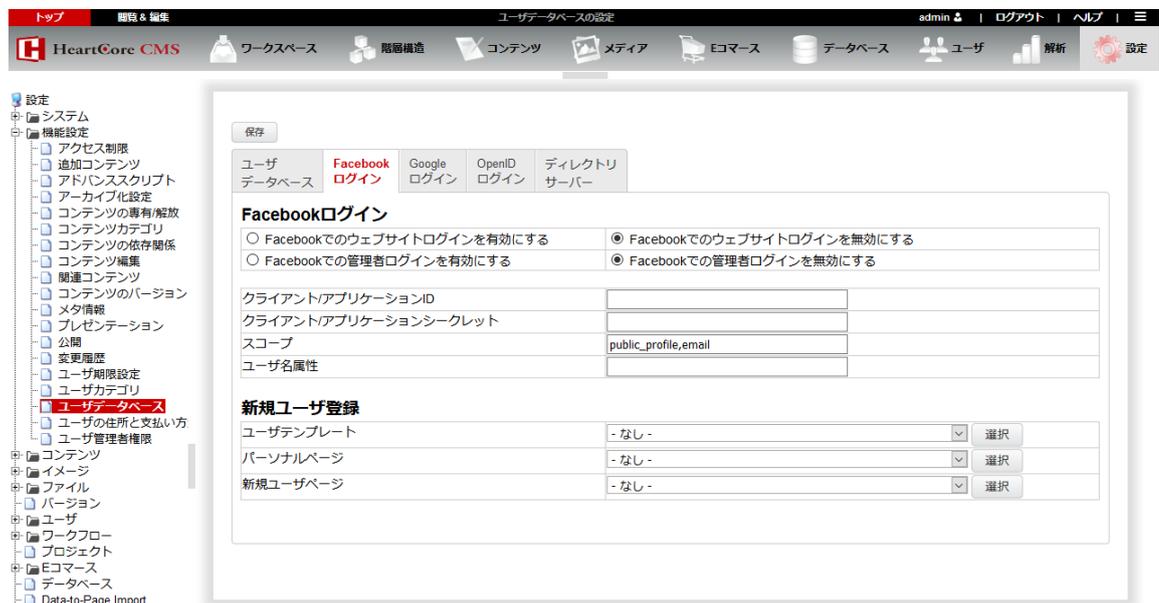
3.17.1.2 Web サイトログインページ

Web サイトユーザが Facebook を使ってログインできるようにするには、設定しているデフォルトのログインページへ、例えば「Facebook を使ってログイン」といったリンクを追加します。リンク先は、Web コンテンツ管理システムの Facebook ログインスクリプト/プログラム (お使いのプログラミング言語バージョンに応じて、“/login_facebook.aspx”、“/login_facebook.jsp”、“/login_facebook.php”のいずれか) です。

デフォルトのログインページは、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースに登録されたユーザのログイン用に、標準のログインフォームを含んだままでも構いません。

3.17.1.3 Web サイト管理者ログインページ

Facebook での管理者ログインが有効の場合、Web コンテンツ管理システムの管理ログインページに、「ログイン方法：Facebook」というリンクが自動的に追加されます。



3.17.2 Google ログイン

コミュニティアドオンモジュールのみ

デフォルトでは、Web サイト管理者や Web サイトユーザは、Web サイトのユーザとして登録し、各自のユーザ名とパスワードを入力して Web サイトへログインします。任意で、Google を使って Web サイトへログインすることが可能です（さらに任意で、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースへ、Web サイトのユーザとして新規ユーザを登録することが可能です）。

- Google での Web サイトログインを有効にする
Web サイトユーザが Google を使って Web サイトへログインできるよう有効化します。
（“/login_google.aspx”、“/login_google.jsp”、“/login_google.php”プログラムスクリプトへのリンクを使用）
- Google での Web サイトログインを無効にする
Web サイトユーザが Google を使って Web サイトへログインできないよう無効化します。
- Google での管理者ログインを有効にする
Web サイト管理者が Google を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできるよう有効化します。（ログインページ上のリンクを使用）
- Google での管理者ログインを無効化する
Web サイト管理者が Google を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできないよう無効化します。
- クライアント／アプリケーション ID
Google ログインサービスの使用に際し、Google が発行したクライアント／アプリケーション ID
- クライアント／アプリケーションシークレット
Google ログインサービスの使用に際し、Google が発行したクライアント／アプリケーションシークレット



- スコープ
ログイン時にユーザデータへアクセスする Google 定義の”scope”属性
- ユーザ名属性
Web サイトおよび Web コンテンツ管理システムでユーザ名として使用する Google ユーザ属性名。デフォルトのユーザ名属性 (email) を使用する場合は、空白のままにします。

3.17.2.1 新規ユーザ登録

Google ログインでは、ユーザ名や E メール、名前といった基本的なユーザ情報しか提供されません。その他のユーザ情報には、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースにも各ユーザに合致するユーザアカウントが存在する必要があります。Web サイト管理者がログインするには、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に合致するユーザアカウントが必須です。

新規 Web サイトユーザのログイン時に、ユーザが Web サイト上でアカウントを登録したかのように、新たなユーザアカウントが Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に自動作成されます。

- ユーザテンプレート
新規登録ユーザアカウントの作成時にコピーするユーザアカウント。このユーザアカウントによって、新規登録ユーザアカウントのユーザカテゴリやアクセス権限が定義されます。
- パーソナルページ (任意)
新規登録ユーザのパーソナルページ作成時にコピーするコンテンツページ。このコンテンツページによって、新規登録ユーザのパーソナルページの初期コンテンツが定義されます。
- 新規ユーザページ (任意)
新規ユーザがリダイレクトされるコンテンツページ

3.17.2.2 Web サイトログインページ

Web サイトユーザが Google を使ってログインできるようにするには、設定しているデフォルトのログインページへ、例えば「Google を使ってログイン」といったリンクを追加します。リンク先は、Web コンテンツ管理システムの Google ログインスクリプト/プログラム (お使いのプログラミング言語バージョンに応じて、“/login_google.aspx”、“/login_google.jsp”、“/login_google.php”のいずれか) です。

デフォルトのログインページは、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースに登録されたユーザのログイン用に、標準のログインフォームを含んだままでも構いません。

3.17.2.3 Web サイト管理者ログインページ

Google での管理者ログインが有効の場合、Web コンテンツ管理システムの管理ログインページに、「ログイン方法: Google」というリンクが自動的に追加されます。



3.17.3 OpenID ログイン

コミュニティアドオンモジュールのみ

デフォルトでは、Web サイト管理者や Web サイトユーザは、Web サイトのユーザとして登録し、各自のユーザ名とパスワードを入力して Web サイトへログインします。任意で、好きな OpenID ログインサービスを使って Web サイトへログインすることが可能です（さらに任意で、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースへ、Web サイトのユーザとして新規ユーザを登録することが可能です）。

- OpenID での Web サイトログインを有効にする
Web サイトユーザが OpenID を使って Web サイトへログインできるよう有効化します。
（“/login_openid.aspx”、“/login_openid.jsp”、“/login_openid.php”プログラムスクリプトへのリンクを使用）
- OpenID での Web サイトログインを無効にする
Web サイトユーザが OpenID を使って Web サイトへログインできないよう無効化します。
- OpenID での管理者ログインを有効にする
Web サイト管理者が OpenID を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできるよう有効化します。（ログインページ上のリンクを使用）
- OpenID での管理者ログインを無効化する
Web サイト管理者が OpenID を使って Web コンテンツ管理システムの管理ページへログインできないよう無効化します。
- クライアント／アプリケーション ID
OpenID ログインサービスの使用に際し、OpenID サービスプロバイダが発行したクライアント／アプリケーション ID
- クライアント／アプリケーションシークレット
OpenID ログインサービスの使用に際し、OpenID サービスプロバイダが発行したクライアント／アプリケーションシークレット



- スコープ
ユーザデータへアクセスするサーバ／サービスプロバイダ固有のデータ名（OpenID サーバ／サービスに応じてスペースもしくはカンマで区切ります）。

例：

- Facebook
public_profile,email
- Google
openid email profile
- その他の OpenID
openid email profile

OpenID サービスプロバイダによっては、OpenID 標準の一部にしか対応していない可能性があります。特別な URL やパラメータ、アクセス方法の使用が必要となるかもしれません。Web コンテンツ管理システムの OpenID ログイン機能は、ほぼいかなる OpenID サービスにも対応するよう設定が可能です。デフォルトでは、標準の OpenID パラメータ名が使用されますが、必要であれば、以下に示すように特殊コード等を URL 内で使用することができます。使用する特別な URL やパラメータ、アクセス方法は、OpenID サービスプロバイダから提供されたものでなければなりません。

- 認証 URL

OpenID サーバ／サービスによって提供された URL。Web サイトユーザはログイン時にこの URL へリダイレクトされ、自身のユーザデータへのアクセスを許可します。

注意：Web コンテンツ管理は、設定したクライアント／アプリケーション ID とスコープ、および Web コンテンツ管理のログイン URL に対する URL パラメータを自動で付与します。よって、そのようなパラメータは認証 URL に含めないでください。

OpenID サーバ／サービスが追加の／非標準のパラメータを必要とする場合、設定した URL に特殊コードを含めることができます。

設定した URL に特殊コード”@@@scope@@@”が含まれている場合、スコープパラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、”@@@scope@@@”特殊コードは設定したスコープに変換されます。

設定した URL に特殊コード”@@@client_id@@@”が含まれている場合、クライアント／アプリケーション ID パラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、”@@@client_id@@@”特殊コードは設定したクライアント／アプリケーション ID に変換されます。

設定した URL に特殊コード”@@@redirect_uri@@@”が含まれている場合、Web コンテンツ管理システムのログイン URL を伴うリダイレクト URL パラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、”@@@redirect_uri@@@”特殊コードは Web コンテンツ管理システムのログイン URL に変換されます。

例：



- Facebook
<https://www.facebook.com/v2.8/dialog/oauth?>
 - Google
https://accounts.google.com/o/oauth2/v2/auth?response_type=code&
 - その他の OpenID
https://openid.example.com/oauth2/auth?response_type=code&
- アクセストークン URL
OpenID Basic フロー専用です。*OpenID Implicit* フローでは空白のままにしてください。

Web コンテンツ管理システムがユーザ情報へアクセスできるようアクセストークンを取得するため、OpenID サーバ/サービスによって提供された URL。

アクセストークン URL は、設定した認証 URL のタイプが“response_type=code”である場合のみ必要です。設定した認証 URL のタイプが“response_type=token”の場合は、アクセストークン URL は不要ですので、空白のままにしてください。

注意：Web コンテンツ管理は、設定したクライアント/アプリケーション ID とシークレット、Web コンテンツ管理のログイン URL、および（上記）認証 URL から返却された“code”パラメータに対する URL パラメータを自動で付与します。よって、そのようなパラメータはアクセストークン URL に含めないでください。

OpenID サーバ/サービスが追加の/非標準のパラメータを必要とする場合、設定した URL に特殊コードを含めることができます。

設定した URL に特殊コード“@@@code@@@”が含まれている場合、“code”パラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、“@@@code@@@”特殊コードは、認証 URL から返却された“code”パラメータに変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@client_id@@@”が含まれている場合、クライアント/アプリケーション ID パラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、“@@@client_id@@@”特殊コードは設定したクライアント/アプリケーション ID に変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@client_secret@@@”が含まれている場合、クライアント/アプリケーションシークレットパラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、“@@@client_secret@@@”特殊コードは設定したクライアント/アプリケーションシークレットに変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@redirect_uri@@@”が含まれている場合、Web コンテンツ管理システムのログイン URL を伴うリダイレクト URL パラメータは、設定したアクセストークン URL に自動で付与されません。代わりに、“@@@redirect_uri@@@”特殊コードは Web コンテンツ管理システムのログイン URL に変換されます。

OpenID サーバ/サービスが、クライアント/アプリケーション ID とシークレットを、URL パラメータではなく HTTP 認証として使用する必要がある場合、アクセストークン URL は下記例のようになります。

https://@@@client_id@@@:@@@@client_secret@@@www.googleapis.com/oauth2/v4/token?grant_type=authorization_code&

OpenID サーバ/サービスが、HTTP GET か HTTP POST かを明確に指定する場合、アクセストークン URL は下記例のようになります。

GET `https://openid.example.com/oauth2/token?grant_type=authorization_code&`

もしくは

POST `https://openid.example.com/oauth2/token?grant_type=authorization_code&`

例：

- Facebook
`https://graph.facebook.com/v2.8/oauth/access_token?`
 - Google
`https://www.googleapis.com/oauth2/v4/token?grant_type=authorization_code&`
 - その他の OpenID
`https://openid.example.com/oauth2/token?grant_type=authorization_code&`
- ユーザ/トークン情報 URL

OpenID サーバ/サービスによって提供された URL

注意：Web コンテンツ管理は、（上記）アクセストークン URL から返却された”access_token”パラメータに対する URL パラメータを自動で付与します。よって、そのようなパラメータはユーザ/トークン情報 URL に含めないでください。

OpenID サーバ/サービスが追加の/非標準のパラメータを必要とする場合、設定した URL に特殊コードを含めることができます。

設定した URL に特殊コード”@@@access_token@@@”が含まれている場合、”access_token”パラメータは、設定したユーザ/トークン情報 URL に自動で付与されません。代わりに、”@@@access_token@@@”特殊コードは、認証 URL もしくはアクセストークン URL から返却された”access_token”属性に変換されます。

設定した URL に特殊コード”@@@client_id@@@”が含まれている場合、”@@@client_id@@@”特殊コードは設定したクライアント/アプリケーション ID に変換されます。

設定した URL に特殊コード”@@@client_secret@@@”が含まれている場合、”@@@client_secret@@@”特殊コードは設定したクライアント/アプリケーションシークレットに変換されます。

OpenID サーバ/サービスが、クライアント/アプリケーション ID とシークレットを、HTTP 認証として使用する必要がある場合、ユーザ/トークン情報 URL は下記例のようになります。

`https://@@@client_id@@@:@@@client_secret@@@www.googleapis.com/oauth2/v3/userinfo?`

OpenID サーバ/サービスが、HTTP GET か HTTP POST かを明確に指定する場合、ユーザ/トークン情報 URL は下記例のようになります。

GET `https://openid.example.com/oauth2/userinfo?`

もしくは

POST <https://openid.example.com/oauth2/userinfo?>

例：

- Facebook
https://graph.facebook.com/debug_token?input_token=@@@access_token@@@&access_token=@@@access_token@@@&
 - Google
<https://www.googleapis.com/oauth2/v3/userinfo?>
 - その他の OpenID
<https://openid.example.com/oauth2/userinfo?>
- 追加ユーザ／トークン情報 URL（任意）
Web コンテンツ管理システムが追加のユーザ／トークン情報を取得するため、OpenID サーバ／サービスによって提供された URL

追加ユーザ／トークン情報 URL は、OpenID サーバ／サービスが必要とする場合にのみ設定してください。それ以外は空白のままにしてください。

特殊コードは、設定した URL のパラメータへ以下例のように挿入します。

設定した URL に特殊コード“@@@access_token@@@”が含まれる場合、“@@@access_token@@@”特殊コードは、認証 URL もしくはアクセストークン URL から返却された“access_token”属性に変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@client_id@@@”が含まれている場合、“@@@client_id@@@”特殊コードは設定したクライアント／アプリケーション ID に変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@client_secret@@@”が含まれている場合、“@@@client_secret@@@”特殊コードは設定したクライアント／アプリケーションシークレットに変換されます。

設定した URL に特殊コード“@@@id@@@”が含まれる場合、“@@@id@@@”特殊コードは、（プライマリ）ユーザ／トークン URL から返却された“id attribute（後述）”に変換されます。

OpenID サーバ／サービスが、クライアント／アプリケーション ID とシークレットを、HTTP 認証として使用する必要がある場合、ユーザ／トークン情報 URL は下記例のようになります。

https://@@@client_id@@@:@@@@client_secret@@@@graph.facebook.com/v2.8/@@@id@@@?fields=id,name,email

OpenID サーバ／サービスが、HTTP GET か HTTP POST かを明確に指定する場合、ユーザ／トークン情報 URL は下記例のようになります。

GET <https://openid.example.com/user/@@@id@@@?fields=id,name,email>

もしくは

POST <https://openid.example.com/user/@@@id@@@?fields=id,name,email>

例：

- Facebook
https://graph.facebook.com/v2.8/@@@id@@@?fields=id,name,email&access_token=@@access_token@@@
- その他の OpenID
<https://openid.example.com/user/@@@id@@@?fields=id,name,email>

- ID 属性（任意）
追加ユーザ／トークン情報 URL に使用する（プライマリ）ユーザ／トークン情報属性の名前。例えば、追加のユーザ／トークン情報にアクセスするために、（プライマリ）ユーザ／トークン情報のユーザ ID 番号が求められる場合があります。

例：

- Facebook
user_id

- ユーザ名属性
Web サイトや Web コンテンツ管理システムで、ユーザのユーザ名として使用するユーザ／トークン情報属性の名前。

例：

- Facebook / Google / Other OpenID
email

- E メール属性（任意）
Web サイトや Web コンテンツ管理システムで、ユーザのメールアドレスとして使用するユーザ／トークン情報属性の名前。

例：

- Facebook / Google / Other OpenID
email

- 名前属性（任意）
Web サイトや Web コンテンツ管理システムで、ユーザの名前として使用するユーザ／トークン情報属性の名前。

例：

- Facebook / Google / Other OpenID
name



3.17.3.1 新規ユーザ登録

OpenID ログインでは、ユーザ名や E メール、名前といった基本的なユーザ情報しか提供されません。その他のユーザ情報には、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースにも各ユーザに合致するユーザアカウントが存在する必要があります。Web サイト管理者がログインするには、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に合致するユーザアカウントが必須です。

新規 Web サイトユーザのログイン時に、ユーザが Web サイト上でアカウントを登録したかのように、新たなユーザアカウントが Web コンテンツ管理システムのユーザデータベース内に自動作成されます。

- ユーザテンプレート
新規登録ユーザアカウントの作成時にコピーするユーザアカウント。このユーザアカウントによって、新規登録ユーザアカウントのユーザカテゴリやアクセス権限が定義されます。
- パーソナルページ (任意)
新規登録ユーザのパーソナルページ作成時にコピーするコンテンツページ。このコンテンツページによって、新規登録ユーザのパーソナルページの初期コンテンツが定義されます。
- 新規ユーザページ (任意)
新規ユーザがリダイレクトされるコンテンツページ

3.17.3.2 Web サイトログインページ

Web サイトユーザが OpenID を使ってログインできるようにするには、設定しているデフォルトのログインページへ、例えば「OpenID を使ってログイン」といったリンクを追加します。リンク先は、Web コンテンツ管理システムの OpenID ログインスクリプト/プログラム (お使いのプログラミング言語バージョンに応じて、“/login_openid.aspx”、“/login_openid.jsp”、“/login_openid.php”のいずれか) です。

デフォルトのログインページは、Web コンテンツ管理システムのユーザデータベースに登録されたユーザのログイン用に、標準のログインフォームを含んだままでも構いません。

3.17.3.3 Web サイト管理者ログインページ

OpenID での管理者ログインが有効の場合、Web コンテンツ管理システムの管理ログインページに、「ログイン方法 : OpenID」というリンクが自動的に追加されます。



3.17.4 外部LDAPディレクトリサーバー

HeartCore Web コンテンツ管理システムは、内部のユーザーデータベースを使って、アクセス制限等のユーザー情報を保管することができます。もしくは、外部のディレクトリサーバ（LDAP）を使って、アクセス制限等のユーザー情報を参照することも可能です。

内部のユーザーデータベースは、Web コンテンツ管理システムのユーザーデータベース管理セクションから管理します。外部のディレクトリサーバは、外部のディレクトリサーバ管理ソフトウェア/サービスから管理する必要があります。

- ユーザーデータベースを無効にする
ユーザーデータベースを使用しません。
- ユーザーディレクトリを有効にする
外部LDAPディレクトリサーバを使用します。

外部ディレクトリサーバは、Web コンテンツ管理システムのユーザーデータベースとして排他的に使用することも、Web コンテンツ管理システムの内部ユーザーデータベースと組み合わせて使用することもできます。

- ユーザーデータベースデータを有効にする
外部LDAPディレクトリサーバーは、ユーザー名/パスワード認証および設定されたディレクトリサーバーのユーザーデータ属性に使用されますが、一致するユーザーアカウントユーザー名がWeb コンテンツ管理システムの内部ユーザーデータベースに存在する場合、Web コンテンツ管理システムの内部のユーザーデータユーザーデータベースは、設定されたディレクトリサーバーのユーザーデータ属性以外のユーザーデータにも使用されます。



たとえば、ユーザアカウントのユーザ名、パスワード、名前、役職、組織、メールは外部 LDAP ディレクトリサーバーで管理され、他のユーザデータはウェブコンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースで管理されます。

- ユーザデータベースデータを無効にする
外部 LDAP ディレクトリサーバーは、ユーザ名/パスワード認証とユーザデータに使用されます。一致するユーザアカウントのユーザ名がウェブコンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースに存在する場合、ウェブコンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースからのユーザデータは無視されます。
- ユーザデータベースログインを有効にする
ログインユーザ名が外部 LDAP ディレクトリサーバーに存在しない場合は、代わりに Web コンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースへのログインが試行されます。たとえば、ウェブサイト管理者のユーザアカウントは外部 LDAP ディレクトリサーバーで管理され、登録済みのウェブサイトユーザアカウントはウェブコンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースで管理されます。
- ユーザデータベースログインを無効にする
外部 LDAP ディレクトリサーバーへのログインのみが有効です。Web コンテンツ管理システムの内部ユーザデータベースにのみ存在するユーザアカウントへのログインは無効になっています。

外部のディレクトリサーバを使用するには、その接続情報を設定する必要があります：

- URL
ディレクトリサーバの URL。ディレクトリサーバに接続するために使用する、プロトコル、サーバアドレス、ポート番号（任意）を含む。例えば：“ldap://localhost:389”。
- 接続パラメータ
ディレクトリサーバに接続するために使用する特別な接続パラメータ。例えば：

```
com.sun.jndi.ldap.connect.timeout=5000  
com.sun.jndi.ldap.connect.pool=true  
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.maxsize=20  
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.prefsize=10  
com.sun.jndi.ldap.connect.pool.timeout=300000
```

デフォルトでは、この設定は空白のままにしておくべきです。使用可能な特別パラメータについての詳細は、LDAP ディレクトリサーバやプログラミング言語バージョンの一般的なドキュメントを参照してください。

- Bind DN
ディレクトリサーバに接続/バインドするために使用される DN(Distinguished Name)。例えば：“uid=admin, ou=Administrators, ou=TopologyManagement, o=NetscapeRoot”
- Bind パスワード
DN がディレクトリサーバに接続/バインドするために使用されるパスワード。
- ルート DSE
ディレクトリサーバのルートエントリ。例えば：“dc=heartcore,dc=com”

- ユーザ名
ユーザ名に使用されるディレクトリサーバの属性名。例えば：“uid”。

外部のディレクトリサーバを使用するには、Web コンテンツ管理システムで使用される様々なユーザ情報に使用される属性名も設定する必要があります。複数の属性に対し、同じ属性名を使用することができます。これらのすべての属性は必須ではありません。ユーザ情報に使用したいディレクトリサーバ属性名のみ指定してください：

- ユーザの詳細
 - タイトル
ユーザのタイトルに使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 名前
ユーザ名に使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば“cn”
 - 組織
ユーザの組織に使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば“o”
 - メールアドレス
ユーザの E メールアドレスに使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば“mail”
 - 性別
ユーザの性別に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 誕生日
 - 日
ユーザの誕生日に使用されるディレクトリサーバ属性名
 - 月
ユーザの誕生月に使用されるディレクトリサーバ属性名
 - 年
ユーザの誕生年に使用されるディレクトリサーバ属性名
 - 備考
様々なユーザメモに使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - カスタムユーザ詳細
カスタムユーザ詳細属性に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- ユーザカテゴリ
 - クラス
ユーザのクラスに使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば“objectClass”
 - クラス：管理者
管理者クラスユーザに使用されるディレクトリサーバ属性値。例えば“inetadmin”
 - グループ
ユーザのグループに使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば“memberOf”



- タイプ
ユーザのタイプに使用されるディレクトリサーバ属性名。例えば “objectClass”
- 追加グループ
ユーザの "additional groups" に使用されるディレクトリサーバ属性名-
"additional groups" など。
- 追加のタイプ
ユーザの "additional types" に使用されるディレクトリサーバ属性名-たとえば、
"objectClass"。
- 有効化と有効期限終了
 - 有効化日時
ユーザの有効化日時に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 有効化 E メール
ユーザの有効化 E メールに使用されるディレクトリサーバ属性名。 T
 - 通知日時
ユーザの通知日時に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 通知 E メール
ユーザの通知 E メールに使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 有効期限切れ日時
ユーザの有効期限終了日時に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 有効期限切れ E メール
ユーザの有効期限終了 E メールに使用されるディレクトリサーバ属性名。
- 自宅／請求先詳細
 - 名前
ユーザの自宅／請求先詳細の名前に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 組織
ユーザの自宅／請求先詳細の組織に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 住所
ユーザの自宅／請求先詳細の住所に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの自宅／請求先詳細の郵便番号に使用されるディレクトリサーバ属性
名。
 - 市区町村
ユーザの自宅／請求先詳細の市区町村に使用されるディレクトリサーバ属性
名。
 - 都道府県
ユーザの自宅／請求先詳細の都道府県に使用されるディレクトリサーバ属性
名。

- 国名
ユーザの自宅／請求先詳細の国名に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- 電話
ユーザの自宅／請求先詳細の電話番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- Fax
ユーザの自宅／請求先詳細のファックス番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- メールアドレス
ユーザの自宅／請求先詳細のEメールアドレスに使用されるディレクトリサーバ属性名。
- Web サイト
ユーザの自宅／請求先詳細の Web サイトアドレスに使用されるディレクトリサーバ属性名。
- 勤務先／配送先詳細
 - 名前
ユーザの勤務先／配送先詳細の名前に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 組織
ユーザの勤務先／配送先詳細の組織に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 住所
ユーザの勤務先／配送先詳細の住所に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの勤務先／配送先詳細の郵便番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 市区町村
ユーザの勤務先／配送先詳細の市区町村に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 都道府県
ユーザの勤務先／配送先詳細の都道府県に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 国名
ユーザの勤務先／配送先詳細の国名に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 電話
ユーザの勤務先／配送先詳細の電話番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - Fax

- ユーザの勤務先／配送先詳細のファックス番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- メールアドレス
ユーザの勤務先／配送先詳細の E メールアドレスに使用されるディレクトリサーバ属性名。
- Web サイト
ユーザの勤務先／配送先詳細の Web サイトアドレスに使用されるディレクトリサーバ属性名。
- 支払明細
 - カードタイプ
ユーザの支払明細のカードタイプに使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - カード番号
ユーザの支払明細のカード番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 発行日
ユーザの支払明細のカード発行日に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 有効期限
ユーザの支払明細のカード有効期限に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 名前
ユーザの支払明細のカード名義に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 検証コード
ユーザの支払明細のカード検証コード(CVC)に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 発行 No
ユーザの支払明細のカード発行ナンバーに使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 郵便番号
ユーザの支払明細のカード郵便番号に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- 管理者機能設定
 - コンテンツエディタ
ユーザのコンテンツエディタ管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。属性値は空白か、“HardCore”、“HardCore1”、“HardCore2”または“textarea”です。
 - イメージのアップロード
ユーザのイメージアップロード管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。属性値は空白か、“yes”です。
 - HTML フォーマット
ユーザの HTML フォーマット管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。属性値は空白か、“html”、“html4”、“html5”、“xhtml”です。

- 入力フィールドのサイズ
 - 幅
ユーザの入力フィールドサイズ幅管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - 高さ
ユーザの入力フィールドサイズ高さ管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- Enter キーで出力
 - Enter
ユーザの Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - Ctrl + Enter
ユーザの Ctrl + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - Shift + Enter
ユーザの Shift + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
 - Alt + Enter
ユーザの Alt + Enter キーの出力管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- スキン
ユーザのスキン管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- ツールバー
ユーザのツールバー管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。属性値は、事前定義されたツールバー識別子である必要があります：ブランク（デフォルト/カスタム）、“-RIBBON-“、“-TOOLBAR-“、“-COMPACT2-“、“-FULL-“、“-MINIMAL-“。
- ツールバー 1 + 2 + 3 + 4 + 5
ユーザのツールバー行管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。属性値は、スペースで区切られた Web コンテンツ管理システムで使用されるツールバーのボタン名にする必要があります。
- 形式オプション
ユーザのフォーマットオプションの管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- フォント名オプション
ユーザのフォント名オプション管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。
- フォントサイズオプション
ユーザのフォントサイズオプションの管理者設定に使用されるディレクトリサーバ属性名。



- カスタム JavaScript オプション
ユーザのカスタム Javascript オプション管理者設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。
- スタートページ
ユーザのスタートページ管理者設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。
- ツールバー
ユーザのツールバー管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるツールバーボタン名で、スペース区切りです。
- 管理メニューをメニューから隠す
ユーザの管理者メニュー管理者機能設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、空白あるいは“forbid”です。
- パーソナルワークスペースセクション
ユーザのパーソナルワークスペースセクション設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるスペース区切りのパーソナルワークスペースセクションコードです。
- インデックスページカラム
ユーザのインデックスページカラム設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用されるスペース区切りのインデックスページカラムコードです。
- インデックスページメニュー
ユーザのインデックスページメニュー設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、空白あるいは“multi”か“single”です。
- Web アクセス統計値レポート
ユーザの Web アクセス統計値レポート設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、Web コンテンツ管理システムで使用するスペース区切りの Web アクセス統計値レポートコード。
- 販売レポート
ユーザの販売レポート設定に使用されるディレクトリサーバー属性名。属性値は、スペースで区切られた Web コンテンツ管理システムで使用される販売レポートコードである必要があります。



HeartCore CMS ユーザーデータベースの設定

保存

ユーザ データベース
 Facebook ログイン
 Google ログイン
 OpenID ログイン
 ディレクトリ サーバー

ディレクトリサーバー

ユーザディレクトリを有効にする
 ユーザディレクトリを無効にする

URL

接続パラメータ

Bind DN

Bind パスワード

ルートDNSE

ユーザ名

ユーザの詳細

タイトル

名前

組織

メールアドレス

性別

誕生日

-日

-月

-年

備考

カスタムユーザ詳細

ユーザカテゴリ

クラス

クラス: 管理者

グループ

タイプ

利用開始と終了期限設定

有効化日時:

有効化eメール

通知日時

通知eメール

無効化日時:

無効化eメール

自宅/請求先の詳細

名前

組織

住所

郵便番号

市区町村

都道府県

匿名

電話

Fax

メールアドレス

Webサイト

勤務先/配送先の詳細

名前

組織

住所

郵便番号

市区町村

都道府県

匿名

電話

Fax

メールアドレス

Webサイト

支払方法の詳細

カードタイプ

カード番号

カードの発行月

カードの発行年

カードの有効期限月

カードの有効期限年

名前

検証コード

発行No

郵便番号



HeartCore



管理者機能設定

コンテンツエディター		
イメージのアップロード		
HTMLフォーマット		
入力フィールドのサイズ		
- 種 :		
- 高さ :		
Enterキーで出力		
- Enter :		
- Ctrl+ Enter :		
- Shift+ Enter :		
- Alt+ Enter :		
ツールバー		
- ツールバー 1		
- ツールバー 2		
- ツールバー 3		
- ツールバー 4		
- ツールバー 5		
管理メニューをメニューから隠す		
- 閲覧 & 編集		
- ウェブサイト管理構造		
- コンテンツ		
- ウェブサイト管理構造		
- ページ		
- 構成要素		
- テンプレート		
- スタイルシート		
- スクリプト		
- パッケージ		
- ハンドル		
- メディア		
- イメージ		
- ファイル		
- リンク		
- パッケージ		
- ハンドル		
- Eコマース		
- 商品		
- 注文		
- パッケージ		
- ハンドル		
- データベース		
- コンテンツ		
- エクスポート		
- インポート		
- ユーザ		
- 管理者		
- テンプレート		
- ユーザ		
- Webアクセス		
- サマリー		
- 目的		
- ウェブサイトドメイン		
- ウェブサイトのコンテンツ		
- メディアライブラリ		
- Eコマース		
- コンテンツデータベース		
- 日時		
- 日毎		
- 週ごと		
- 月ごと		
- 年毎の		
- 本日の時刻別		
- 今週の日別		
- 今月の日別		
- 今年の週別		
- 今年の月別		
- 人		
- 国		
- ビジター		
- ロボット		
- オペレーティングシステム		
- ブラウザ		
- ユーザ		
- 理由		
- リファラー		
- 検索エンジン		
- 検索項目		
- 検索語		
- 方法		
- エントリ		
- バス		
- 終了		
- 期間		
- 訪問		
- アップデート		
パーソナルワークスペースセクション		
インデックスページカラム		
- パーソナルワークスペース		
- ウェブサイトコンテンツ		
- メディアライブラリ		
- Eコマース商品		
- Eコマース在庫		
- Eコマース注文		
- エクスペリエンス管理 セグメント		
- エクスペリエンス管理 ユーザテスト		
- エクスペリエンス管理 ヒートマップ		
- ユーザーデータベース		
- マイクロサイト		
インデックスページメニュー		
Webアクセス解析のレポート		

3.18 ユーザ住所および支払内容のためのユーザ詳細

デフォルトでは、ユーザアカウントには、ユーザ名やパスワードなどの基本情報とオプションの名前やEメールアドレスのみが含まれます。ユーザの住所と支払い詳細機能を有効にし、ユーザデータベースにユーザの追加情報を保存しておくこともできます。追加のユーザ情報には、自宅/請求先詳細、勤務先/配送先詳細、支払詳細が含まれます。

ユーザ住所と支払内容は、ユーザアカウントの追加時や更新時、「自宅/請求先詳細」「勤務先/配送先詳細」「支払詳細」タブの入力フィールドへ入力できます。ユーザ詳細機能が無効の場合は、これらの入力フィールドは表示されません。



3.19 Web サイト管理者別 機能設定のためのユーザ機能設定

デフォルトでは、全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムのデフォルト Web コンテンツエディタと管理設定を使用するように設定されています。しかしながら、Web サイト管理者別に機能設定できるよう、ユーザ管理者機能設定を有効にすることもできます。例えば、ある Web サイト管理者には、基本機能のみのシンプルな Web コンテンツエディタツールバーを使用させるよう設定したり、「Web コンテンツ」セクションの「ページ」メニューしかアクセスできないよう設定することが可能です。

ユーザ機能設定は、ユーザアカウントの追加時や更新時に、「管理者機能設定」タブの「コンテンツエディタ」「HeartCore Web エディタ」「管理者メニューをメニューから隠す」入力フィールドにて定義可能です。ユーザ機能設定の機能が無効の場合には、これらの入力フィールドは表示されません。



4 Web サイトコンテンツ設定

4.1 コンテンツの設定

コンテンツの設定ページでは、ページや構成要素のコンテンツクラス、グループ、タイプを左メニューより設定することができます。



4.1.1 静的 Web アドレスフォルダの移動/リネーム

静的 Web アドレスへ公開されているコンテンツ項目は、コンテンツ設定ページの下部にある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダーに移動します____フォルダーへ_____」入力フィールドを使って、移動させることが可能です。前方・後方とも両方の入力フィールドへ入力して下さい。前方のフォルダ名に既に公開されているコンテンツ項目のみ、後方のフォルダへと移動されます。それに伴い、ファイル名も変更されます。例: “myfolder/mypage.html” から “myotherfolder/mypage.html”へ。

4.1.2 Web サイトコンテンツ管理

コンテンツの設定ページでは、テンプレート、スタイルシート、スクリプト、メタデータレポートの Web サイトコンテンツ管理ページへもアクセスできます。

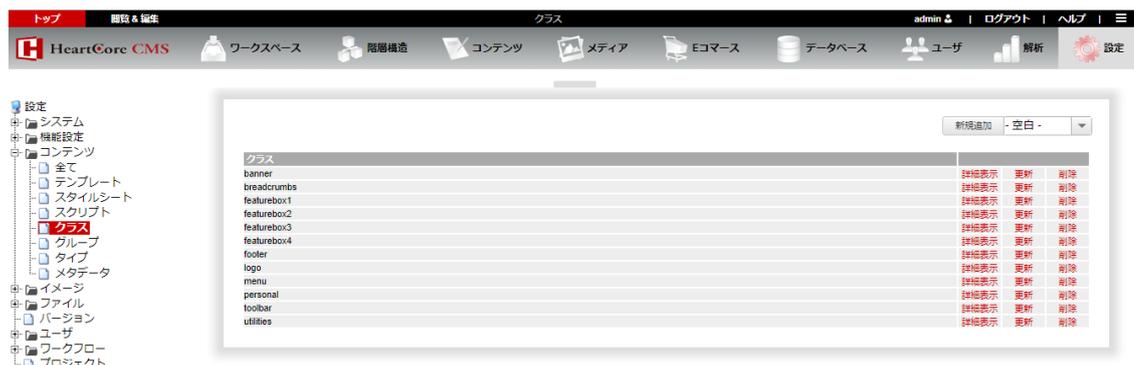
左メニューより、「Web サイトコンテンツ」「メディアライブラリ」「商品と注文」管理セクションのあらゆるクラスのコンテンツ項目のある、特別な Web サイトコンテンツ管理ページへアクセスできます。特定のパッケージやグループ、タイプに属するコンテンツすべてを、そのクラスに関係なく管理する際に、便利な方法です。

4.1.3 コンテンツクラス設定

コンテンツクラスは、テンプレートとページで使用するコンテンツ構成要素を定義します。

「設定」 / 「コンテンツ」 / 「クラス」メニュー項目を選択し、コンテンツクラス設定にアクセスします。現在定義済みのコンテンツクラスがリストアップされます。追加、詳細表示、更新、削除から選択し、コンテンツの構成要素クラスを定義します。

各コンテンツクラスは、単に左メニューや、追加コンテンツ選択ボックス、特殊コードで使用する名前にすぎません。



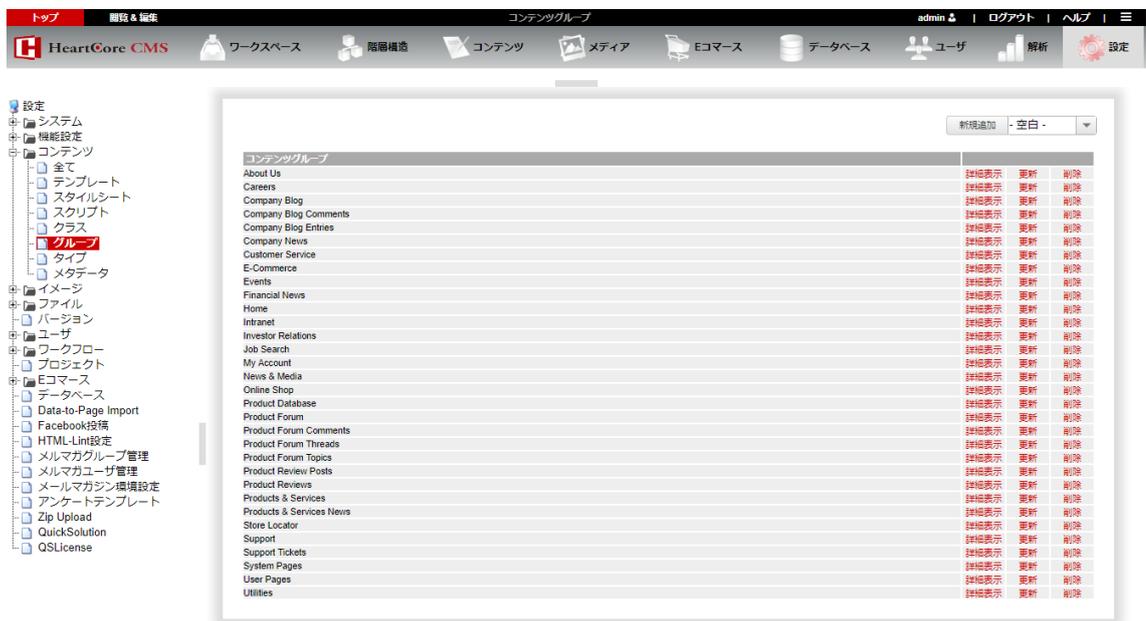
4.1.4 コンテンツのグループ/タイプ設定

コンテンツのグループとタイプは、コンテンツページや構成要素の組織化に使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「コンテンツ」 / 「グループ」 / 「タイプ」メニュー項目を選択し、コンテンツグループとタイプの設定へアクセスします。現在定義済みのコンテンツグループとタイプがリストアップされます。追加、詳細表示、更新、削除から選択し、コンテンツのグループとタイプを定義します。

コンテンツのグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、Web サイトコンテンツ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。

「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、そのコンテンツグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプメニューの下に表示されます。コンテンツグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



4.1.4.1 コンテンツプレゼンテーション

個々のページにテンプレートとスタイルシートが定義されている場合、そのページが Web サイト上で閲覧される際には、それらのテンプレートとスタイルシートが使用されます。そうでな



い場合は、そのページのコンテンツグループもしくはタイプに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。もしグループとタイプの両方に定義されている場合は、グループに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。コンテンツグループのテンプレートとスタイルシートは、コンテンツタイプのそれらよりも優先されます。

ページタイトルプレフィックスやページタイトルサフィックスが、ページのコンテンツグループもしくはタイプに定義されている場合は、それらが Web ブラウザウィンドウタイトルバー内のページタイトル前後に表示されます。もしコンテンツグループやタイプに対してページタイトルプレフィックスやサフィックスが定義されている場合は、デフォルトのページタイトルプレフィックスサフィックス Web サイト設定に代わって、そちらが適用されます。

HTML DOCTYPE Web ページヘッダーは、Web ページで使用される HTML 規格を定義します。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断して処理します。この HTML DOCTYPE コンテンツグループ/タイプ設定は、マイクロサイトや Web サイトに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されますが、個々のページやテンプレートに設定された HTML DOCTYPE よりも優先度が低く、ページ > テンプレートの順で優先されます。コンテンツグループに設定された HTML DOCTYPE は、コンテンツタイプに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されます。



4.1.4.2 アクセス制限

コンテンツ項目、コンテンツグループ/タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、コンテンツグループ/タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。コンテンツグループ/タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き/置換はしません。

コンテンツグループ/タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



4.2.2 イメージフォーマット設定

イメージフォーマットは、イメージコンテンツ項目として Web コンテンツ管理システムにアップロードできるイメージフォーマットとファイル名拡張子を定義します。

「設定」 / 「イメージ」 / 「フォーマット」メニューより、イメージフォーマット設定へアクセスします。現在定義済みのイメージフォーマットがリスト化されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、イメージフォーマットを定義します。

各イメージフォーマットは、単にローカルコンピュータ上のイメージに使用されるような、イメージフォーマットファイル名拡張子です。

動画や Adobe Flash アニメーションまたはアプリケーションのような他のビジュアルメディアもイメージフォーマットとして設定できます。HeartCore Web エディタの「メディアの挿入」機能を使って Web サイトへ挿入します。



4.2.3 イメージのグループ/タイプ設定

イメージのグループとタイプは、Web サイトのイメージを組織化するのに使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「イメージ」 / 「グループ」「タイプ」を選択し、イメージのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのイメージグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、イメージグループとタイプを定義します。

イメージのグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、そのイメージグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプメニューの下に表示されます。イメージグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



イメージグループ	詳細表示	更新	削除
About Us	詳細表示	更新	削除
Careers	詳細表示	更新	削除
Company Blog	詳細表示	更新	削除
E-Commerce	詳細表示	更新	削除
Executives	詳細表示	更新	削除
General	詳細表示	更新	削除
Investor Relations	詳細表示	更新	削除
News & Media	詳細表示	更新	削除
Online Shop	詳細表示	更新	削除
Product A	詳細表示	更新	削除
Product B	詳細表示	更新	削除
Product C	詳細表示	更新	削除
Products & Services	詳細表示	更新	削除
Template	詳細表示	更新	削除



保存

イメージグループ

タイトル

親グループメニュー



イメージタイプ	詳細表示	更新	削除
Graphics	詳細表示	更新	削除
Icons	詳細表示	更新	削除
Illustrations	詳細表示	更新	削除
Logos	詳細表示	更新	削除
Photos	詳細表示	更新	削除
Thumbnails	詳細表示	更新	削除
Videos	詳細表示	更新	削除



保存

イメージタイプ

アクセス制限

イメージタイプ

タイトル

親タイプメニュー

4.2.3.1 アクセス制限

イメージコンテンツ項目、イメージグループ／タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、イメージグループ／タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。イメージグループ／タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

イメージグループ／タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



アクセス制限
このコンテンツにアクセス/管理する許可の設定

閲覧
グループ: 公開 | タイプ: 公開 | ユーザ: すべて | 選択

作成
グループ: すべて(管理者) | タイプ: すべて(管理者) | ユーザ: すべて | 選択

更新
グループ: すべて(管理者) | タイプ: すべて(管理者) | ユーザ: すべて | 選択

公開
グループ: すべて(管理者) | タイプ: すべて(管理者) | ユーザ: すべて | 選択

開発者
グループ: すべて(管理者) | タイプ: すべて(管理者) | ユーザ: すべて | 選択

管理者
グループ: すべて(管理者) | タイプ: すべて(管理者) | ユーザ: すべて | 選択

4.3 ファイルの設定

ファイルの設定ページでは、ファイルのフォーマット、グループ、タイプを左メニューより設定できます。

設定

左のメニューから設定管理ページにアクセスしてください:

グループ
ファイルのカテゴリ分け/組織化に使用する'グループ'を定義します。

タイプ
ファイルのカテゴリ分け/組織化に使用する'タイプ'を定義します。

フォーマット
使用できるファイルフォーマットを定義します。

フォルダ
公開ファイルをフォルダへ移動します: [] からフォルダへ [] 移動

4.3.1 ファイルフォルダの移動/リネーム

ファイルコンテンツ項目は、ファイル設定ページの下部にある「フォルダ: 公開コンテンツをフォルダに移動します _____ フォルダへ _____」入力フィールドを使って、移動させることが可能です。前方・後方とも両方の入力フィールドへ入力して下さい。前方のフォルダ名に既に公開されているコンテンツ項目のみ、後方のフォルダへと移動されます。それに伴い、ファイル名も変更されます。例: “myfolder/myfile.pdf” から “myotherfolder/myfile.pdf”へ。

4.3.2 ファイルフォーマット設定

ファイルフォーマットは、ファイルコンテンツ項目として Web コンテンツ管理システムにアップロードできるファイルフォーマットとファイル名拡張子を定義します。

「設定」 / 「ファイル」 / 「フォーマット」メニューより、ファイルフォーマット設定へアクセスします。現在定義済みのファイルフォーマットがリスト化されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、ファイルフォーマットを定義します。

各ファイルフォーマットは、単にローカルコンピュータ上のファイルに使用されるような、ファイルフォーマットファイル名拡張子です。

イメージフォーマットも、ファイルフォーマットとして設定できます。HeartCore Web エディタの「ハイパーリンクの挿入」機能を使って Web サイトへ挿入したり、また Web サイトからダウンロードしたりすることが可能になります。



4.3.3 ファイルのグループ/タイプ設定

ファイルのグループとタイプは、Web サイトのファイルを組織化するのに使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」 / 「ファイル」 / 「グループ」「タイプ」を選択し、ファイルのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのファイルグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、ファイルグループとタイプを定義します。

ファイルのグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、そのファイルグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプメニューの下に表示されます。ファイルグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



4.3.3.1 アクセス制限

ファイルコンテンツ項目、ファイルグループ／タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、ファイルグループ／タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。ファイルグループ／タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

ファイルグループ／タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



アクセス制限
このコンテンツにアクセス/管理する許可の設定

操作	グループ	タイプ	ユーザ
閲覧	公開	公開	すべて
作成	すべて(管理者)	すべて(管理者)	すべて
更新	すべて(管理者)	すべて(管理者)	すべて
公開	すべて(管理者)	すべて(管理者)	すべて
開発者	すべて(管理者)	すべて(管理者)	すべて
管理者	すべて(管理者)	すべて(管理者)	すべて

4.4 リンクの設定

リンクの設定ページでは、リンクのグループ、タイプを左メニューより設定できます。



4.4.1 リンクのグループ/タイプ設定

リンクのグループとタイプは、Webサイトのリンクを組織化するのに使用されるコンテンツカテゴリを定義します。

「設定」／「リンク」／「グループ」「タイプ」を選択し、リンクのグループとタイプ設定へアクセスします。現在定義済みのリンクグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、リンクグループとタイプを定義します。

リンクのグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、メディアライブラリ管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、そのリンクグループ/タイプは、選択した親グループ/タイプメニューの下に表示されます。リンクグループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



4.4.1.1 アクセス制限

リンクコンテンツ項目、リンクグループ／タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、リンクグループ／タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。リンクグループ／タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き／置換はしません。

リンクグループ／タイプのアクセス制限は、個々のコンテンツ項目のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



4.5 バージョンの設定

バージョンの設定ページでは、コンテンツ項目のバージョンを設定できます。現在定義済みのコンテンツバージョンが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツバージョンを定義します。

各コンテンツバージョンは、単に左メニューと「コンテンツバージョン」選択ボックス入力フィールドで使用される名前にすぎません。オプションで、Eコマース機能が使用されている場合は、各コンテンツバージョンへ通貨を定義することもできます。

4.6 パッケージの設定と管理

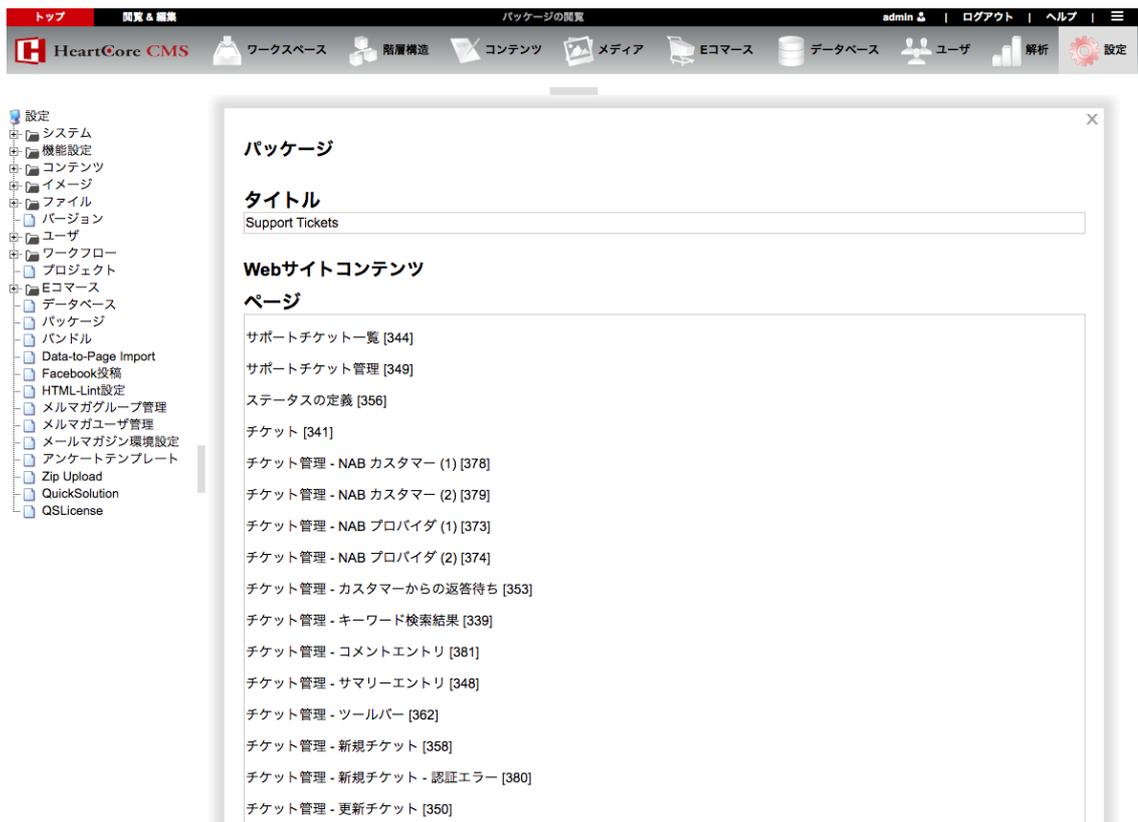
パッケージの設定ページでは、コンテンツパッケージの全コンテンツ項目を閲覧したり、削除したりすることができます。また、コンテンツパッケージを更新（リネーム）することも可能



です。パッケージを削除すると、リストされたコンテンツ項目もすべて完全に削除されますのでご注意ください。（バンドルでは削除されません）

現在定義済みのコンテンツパッケージが一覧表示されます。「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツパッケージを管理します。

コンテンツパッケージに属する個々のコンテンツ項目を管理するには、「設定」／「コンテンツ」／「全て」の管理ページを使用するか、もしくは通常の Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、商品の各管理ページを使用します。



4.7 バンドルの設定と管理

バンドルの設定ページでは、コンテンツバンドルを閲覧したり、削除したりすることができます。また、コンテンツバンドルを更新（リネーム）することも可能です。バンドルを削除しても、リストされたコンテンツ項目のカテゴリー化を削除するだけで、実際のコンテンツ項目は削除されませんのでご注意ください。（パッケージでは削除されます）



現在定義済みのコンテンツバンドルが一覧表示されます。「詳細表示」「更新」「削除」を選択し、コンテンツバンドルを管理します。

コンテンツバンドルに属する個々のコンテンツ項目を管理するには、「設定」／「コンテンツ」／「全て」の管理ページを使用するか、もしくは通常の Web サイトコンテンツ、メディアライブラリ、商品の各管理ページを使用します。



5 ユーザーデータベース設定

ユーザーの設定ページでは、ユーザーグループやタイプを左メニューより設定することができます。

ユーザーの設定ページではまた、ユーザーデータベースの内容を CSV 形式ファイルにてエクスポートまたはインポートすることが可能です。Web コンテンツ管理システム外での一括更新や、他の外部ユーザーデータベースとの同期化に便利です。

すでに既存のデータベースが存在していて、例えばパスワードなどのユーザー情報が頻繁に更新される、といったケースも考えられます。ユーザーデータベース全体とその管理を HeartCore Web コンテンツ管理システムに移動したり、既存のデータベースと HeartCore Web コンテンツ管理システム内のユーザーを両方更新したり、というのは不便、もしくは不可能です。

既存のデータベースのユーザー情報と HeartCore Web コンテンツ管理システムのユーザーを容易に同期化させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システムへ / からユーザー詳細をインポート / エクスポートすることができます。



5.1 ユーザーのグループ/タイプ設定

ユーザーのグループとタイプは、Web サイト管理者ユーザーアカウントを組織化するのに使用されるユーザーカテゴリを定義します。

「設定」 / 「ユーザー」 / 「グループ」 「タイプ」 メニューを選択し、ユーザーグループ / タイプ設定へアクセスします。現在定義済みのユーザーグループとタイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」より、ユーザーグループとタイプを定義します。

ユーザーのグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、ユーザーデータベース管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、そのユーザーグループ / タイプは、選択した親グループ / タイプメニューの下に表示されます。ユーザーグループ / タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ / タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。



5.1.1 サブグループとサブタイプ

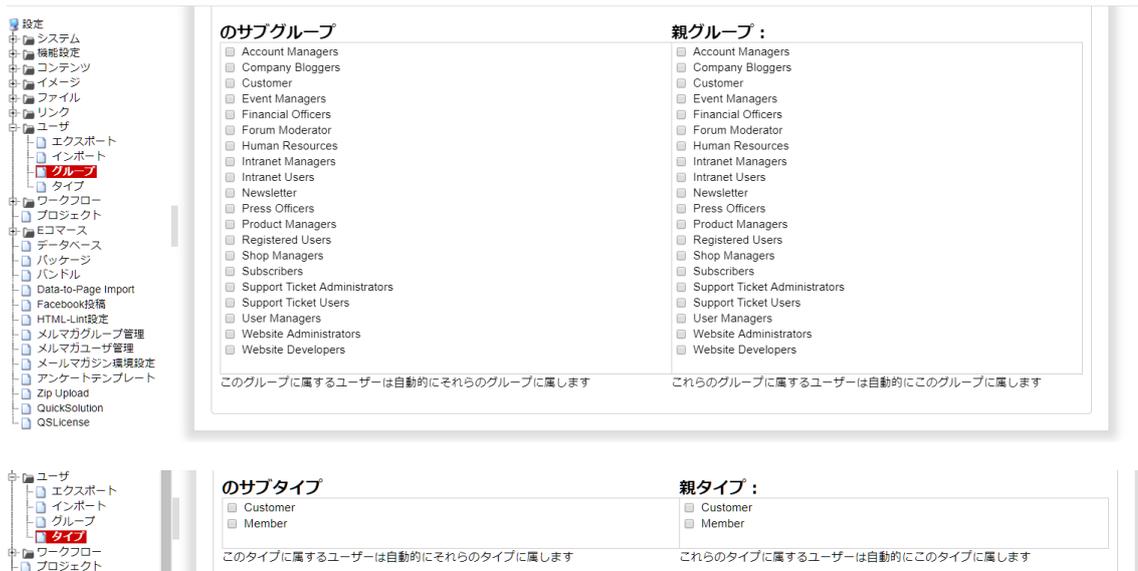
ユーザグループ/タイプは、サブグループ/サブタイプとしてその他のユーザグループ/タイプを持つように定義することができます。つまり、あるユーザグループ/タイプに属する全てのユーザは、自動的にそのサブグループ/タイプにも属すとみなされます。

例えば、もし“ウェブサイト開発者”ユーザグループ/タイプが、サブグループ/タイプとして“ウェブサイト管理者”ユーザグループ/タイプをもつ場合、全ての“ウェブサイト開発者”ユーザは、“ウェブサイト管理者”ユーザとみなされ、実際の“ウェブサイト管理者”ユーザと同じアクセス権限が与えられます。また、もし“従業員”ユーザタイプが、サブタイプ



として“パートナー”ユーザタイプをもつ場合、全ての“従業員”ユーザは、“パートナー”ユーザとみなされ、実際の“パートナー”ユーザと同じアクセス権限が与えられます。

ユーザグループ/タイプが、他のユーザグループ/タイプを「サブグループ/タイプ」として持つ場合、それらの「サブグループ/タイプ」は、自動的にそのユーザグループ/タイプの「親グループ/タイプ」として定義されます。また、その逆も同じです。



5.1.2 アクセス制限

5.1.2.1 ログインページ

ユーザグループとタイプのアクセス制限では、そのユーザグループ/タイプに制限されているコンテンツにアクセスしようとした際に使用されるログインページを定義します。デフォルトでは、すべてのユーザは Web サイトに設定されたデフォルトのログインページからログインします。しかし、ユーザグループ/タイプ毎に異なるログインページを使用したい場合もあるでしょう。デフォルトでは、Web サイトの設定された「デフォルトログインページ」を使用するよう“一標準”に設定されています。他のログインページに設定すると、このカテゴリに属するユーザにはそのログインページが使用されます。

5.1.2.2 ユーザグループ/タイプの入会・退会

ユーザグループ/タイプのアクセス制限ページではまた、Web サイト上の「入会」「退会」などの特別リンクを使って、そのユーザグループ/タイプに入会、退会できる権利を Web サイトユーザに持たせるかどうかを定義することができます。

- なし
登録済みユーザは、このユーザタイプ/グループへの入会、退会はできません。
Web サイト管理者とユーザを、このユーザグループ/タイプへ割り当てるには、ユーザデータベース管理ページを使うしかありません。
- 制限
すべての登録済みユーザ（既に Web サイトへログインしている）は、このユーザタイプ/グループへの入会、退会ができます。



- 特定のタイプ／グループ
選択されたユーザタイプ／グループに属する登録済みユーザ（既に Web サイトへログインしている）のみが、このユーザタイプ／グループへの入会、退会ができます。

5.1.2.3 ユーザ管理アクセス権限

ユーザグループとタイプのアクセス制限では、どのウェブサイト管理者がユーザアカウントにアクセスして管理できるか定義することも可能です。

ユーザアクセス制限機能が有効の場合、ユーザアカウントの閲覧権限を特定の管理者へのみ付与するよう、アクセス制限を定義することができます。デフォルトでは、すべてのウェブサイト管理者がユーザアカウントを閲覧することが可能です。

管理者アクセス権限機能が有効の場合は、ユーザアカウントの作成、更新、削除権限を特定の管理者へのみ付与するよう、アクセス制限を定義することもできます。デフォルトでは、すべてのウェブサイト管理者がユーザアカウントを管理することが可能です。

- 閲覧
Web コンテンツ管理システム内で誰がユーザアカウントを閲覧できるか定義します。
- 作成
Web コンテンツ管理システム内で誰が新規ユーザアカウントを追加できるか定義します。
 - ユーザグループ／タイプ
選択したグループ／タイプのすべてのウェブサイト管理者が、Web コンテンツ管理システムからユーザアカウントを追加することができます。
 - すべて
すべてのウェブサイト管理者が、Web コンテンツ管理システムからユーザアカウントを追加することができます。
- 更新
Web コンテンツ管理システム内で誰が既存のユーザアカウントを更新できるか定義します。
- 削除
Web コンテンツ管理システム内で誰がユーザアカウントを削除できるか定義します。
- 管理者
Web コンテンツ管理システム内で誰がユーザアカウントを閲覧、更新、作成、削除できるか定義します。



5.2 ユーザ情報のエクスポート

「設定」 - 「ユーザ」 - 「エクスポート」メニュー項目リンクを選択すると、「ユーザの詳細をエクスポート」管理にアクセスできます。

「エクスポート」を選択すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムから現在のユーザ情報が抽出され、.csv 形式のファイルとしてダウンロードできるようになります。

ダウンロード済みの.csv 形式のファイルは、スプレッドシートデスクトップアプリケーションで開いたり編集したりできます。また、データベースアプリケーションでインポートすることも可能です。



5.3 ユーザ情報のインポート

「設定」 - 「ユーザ」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択すると、「ユーザデータのインポート」管理にアクセスできます。

.csv 形式のファイル（ユーザ情報のエクスポート機能でエクスポートされたもの）をローカルコンピュータより選択し、「インポート」を選択するとアップロードされ、HeartCore Web コンテンツ管理システムにインポートされます。インポートによって、.csv 形式ファイルに追加されたユーザ情報は HeartCore Web コンテンツ管理システムに追加され、更新されたユーザ情報は更新されます。

インポートでは、ユーザ情報は削除されないことに注意してください。ユーザ情報は、新規ユーザの追加、既存ユーザの更新がされるのみです。ユーザを削除するには、ユーザデータベース管理より削除する必要があります。

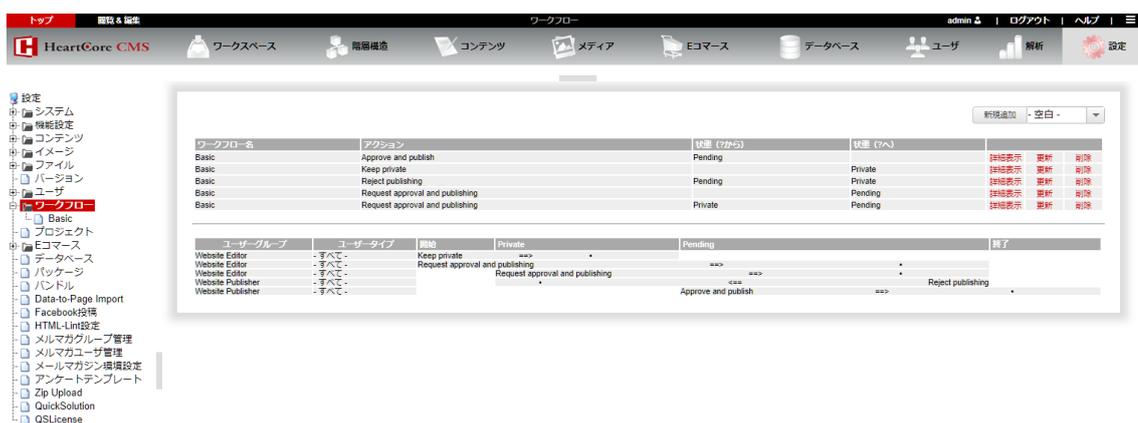


6 ワークフロー設定

ワークフローの設定ページでは、Web サイトコンテンツを作成、管理するにあたり、高度な Web サイト管理アクセス制限や、必要な作業、また承認プロセスを使用できるよう、独自のワークフローを定義することができます。

6.1.1 ワークフロー

「設定」 - 「ワークフロー」メニュー項目を選択し、ワークフロー設定ページにアクセスしてください。現在定義されているワークフローアクションがすべて一覧表示され、さらに現在定義されているすべてのワークフローアクションの連携図が表示されます。また、現在定義されている各ワークフロー名のワークフローサブメニュー項目を選択することもできます。特定のワークフロー名を選択すると、そのワークフロー名のワークフローアクションのみ一覧表示され、これらのワークフローアクションの図が表示されます。ワークフローアクションを定義するには、追加、更新、削除を選択してください。



ワークフロー名	アクション	状態 (から)	状態 (へ)	詳細表示	更新	削除
Basic	Approve and publish	Pending				
Basic	Keep private	Pending	Private			
Basic	Reject publishing	Pending	Private			
Basic	Request approval and publishing	Pending	Pending			
Basic	Request approval and publishing	Pending	Pending			

ユーザーグループ	ユーザータイプ	開始	Private	Pending	終了
Website Editor	-すべて-	Keep private	==>		
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		==>	
Website Publisher	-すべて-	Request approval and publishing		==>	==>
Website Publisher	-すべて-		==>	==>	Reject publishing

6.1.2 ワークフローアクション

ワークフローは、いくつかのワークフローアクションから構成され、これらのアクションはそれぞれ、コンテンツ項目のステータス変更と、それを実行する権限を誰が持つか、を定義します。各ワークフローアクションは、下記属性により定義されます：

- ワークフロー
 - ワークフロー名

このワークフローアクションが属するワークフローを定義します。例えば「新規ページの追加」など。

重要：複数のワークフローを定義する場合の注意ですが、それぞれのワークフロー名は単に管理的な目的のためであり、関連するワークフローアクションをただグループ化するためだけに使用されるものです。しかし、異なるワークフロー内で、同じ“状態”を使用すると、それらの異なるワークフローは繋がります。例えば、“X”という名前のワークフロー内に存在する「承認済み」という“状態”は、別の“Y”という名前のワークフロー内に存在する「承認済み」という“状態”と何ら変わりはありません。コンテンツ項目は、決して“ワークフロー名”に存在するのではなく、常に、次に実行可能なワークフローアクションを決定する“状態”に存在します。同じワークフロー“状態”が二つのワークフローで使用されていれば、片方のワークフロー内のワークフローアクションを、もう片方のワークフロー

内のワークフローアクションでフォローすることができます。

- アクション
ワークフローアクションを記述します。Web サイト管理者は、これを使用可能なワークフローアクションとして参照し、コンテンツのワークフローステータスを変更する際に選びます。例えば「コンテンツの承認」や「コンテンツの却下」など。
- 状態（～から）
コンテンツのどの状態からこのワークフローアクションが実行できるかを定義します。コンテンツの現在の状態がこの状態である場合のみ、このワークフローアクションが選択できます。デフォルトではすべてのコンテンツの状態は空白です。ワークフローを開始するには、ワークフロー内の一番始めのワークフローアクションの「状態（～から）」は空白のままにします。例えば「新規」、「却下」、「承認」など。
- 状態（～へ）
このワークフローアクションが実行された後のコンテンツの新しい状態を定義します。Web サイト管理者は、これをコンテンツの現在のワークフローステータスとして参照し、その他のどのワークフローアクションがこのワークフローアクションに続くかを定義します。デフォルトではすべてのコンテンツの状態は空白です。

ワークフローを終了するには、ワークフローの一番最後のワークフローアクションの「状態（～へ）」は空白のままにします。

もし Web サイト管理者に、コンテンツのワークフローステータスを変更しないでコンテンツを更新する権限を与える場合には、「状態（～から）」と「状態（～へ）」を同じにします。変更先ステートを変更元ステートと同じにします。コンテンツ項目に対してどのワークフローアクション権限も持たない Web サイト管理者は、そのコンテンツ項目を更新する権限がありません。

■ コンテンツの変更

- アクション
アクションチェックボックスは、以下に説明するプログラムされたコンテンツの変更を追加／除去するために使われます。
 - アーカイブ
ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目をアーカイブします。
 - 専有
ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を専有します。
 - 解放
ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を解放します。
 - 公開
ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を公開します。



- 非公開
ワークフローアクションが選択された際、コンテンツ項目を非公開にします。
- 削除
ワークフローのアクションが選択された際、コンテンツ項目を削除します。
- スケジュールを削除
予約済みの公開開始日時と公開終了日時を取り消します。
- アクセス権限
コンテンツアクセス権限のチェックボックスは、以下に説明するプログラムされたコンテンツの変更を追加/除去するために使われます。
 - 無効にする
与えられたアクセス権限を無効にし、ユーザ/管理者の一般アクセス権限を上書きします。
 - 再有効にする
与えられたアクセス権限を有効にしなおすので、ユーザ/管理者の一般アクセス権限は適用されます。
 - ユーザ・閲覧
コンテンツ項目を閲覧するための、ユーザ/管理者の権限
 - 更新者・更新
コンテンツ項目を更新するための、ユーザと管理者の権限
 - 開発者・更新
コンテンツ項目を更新するための、開発管理者の権限
 - 作成者・新規追加
コンテンツ項目をコピーして新規のコンテンツアイテムを追加するための、ユーザ/管理者の権限
 - 公開者・公開
コンテンツを公開、非公開にするための、管理者の権限
 - 管理者・オーナー権限
コンテンツ項目のカテゴリ、およびアクセス制限等を更新するための、管理者の権限
 - スケジュール済公開
Web コンテンツ管理システムの公開開始日時予約機能により、コンテンツ項目を公開するかどうかを制御します。
 - スケジュール済期限切れ
Web コンテンツ管理システムの公開終了日時予約機能により、コンテンツ項目を期限切れにするかどうかを制御します。



- 自動での強制的なコンテンツの変更
このワークフローアクションの実行時にコンテンツに行われる自動変更を定義します。これらのコンテンツ変更は、Webサイト管理者によって入力/選択されたコンテンツ属性を上書きします。自動コンテンツ変更は、“ATTRIBUTE=VALUE”行で、いくつでも定義することができます。例えば、コンテンツを別のコンテンツグループ/タイプに移動したり、コンテンツのアクセス制限を変更できます。

```
contentgroup=News
contenttype=General
users_group=
users_type=
creators_group=Website Designer
creators_type=Employee
developers_group=Website Developer
developers_type=Employee
editors_group=Website Designer
editors_type=Employee
publishers_group=Website Administrator
publishers_type=Employee
administrators_group=Website Administrator
administrators_type=Employee
```

ワークフローアクション実行時の、コンテンツの強制的な自動アクションも定義することができます。これらのアクションは、Webサイト管理者によって選択されたアクションを上書きします。自動コンテンツアクションは、“ACTION”行で、いくつでも定義することができます。（アクションはすべて大文字でなければなりません。）これらのコマンドは、手動、または上述のアクションチェックボックスを使って追加/除去する事ができます。例えば、コンテンツを自動的にアーカイブしたり、解放や公開したりすることができます。使用可能なアクションは以下です。

```
ARCHIVE
CHECKIN
CHECKOUT
PUBLISH
UNPUBLISH
DELETE
UNSCHEDULE
LOCK USER
UNLOCK USER
LOCK CREATOR
UNLOCK CREATOR
LOCK DEVELOPER
UNLOCK DEVELOPER
LOCK EDITOR
UNLOCK EDITOR
LOCK PUBLISHER
UNLOCK PUBLISHER
LOCK ADMINISTRATOR
UNLOCK ADMINISTRATOR
LOCK SCHEDULE
UNLOCK SCHEDULE
LOCK UNSCHEDULE
```

UNLOCK UNSCHEDULE

- カスタムエクステンションプログラム
インストールされたカスタムワークフローアクションプログラムスクリプトモジュールが存在する場合、ここに表示され選択することが可能となります。このカスタムワークフローアクションプログラムスクリプトモジュールは、プログラムされた通りに実行されます。
- ワークフローアクセス制限
誰がこのワークフローアクションを実行できるかを定義します。Web サイト管理者は、このワークフローアクションを実行するためには、ユーザグループとユーザタイプ両方に属し、さらにユーザ制限を満たしている必要があります。
 - ユーザグループ
このユーザグループに属する Web サイト管理者のみが、このワークフローアクションを実行できる。
 - ユーザタイプ
このユーザタイプに属する Web サイト管理者のみが、このワークフローアクションを実行できる。
 - ユーザ制限
 - 前回のワークフローアクションに関わらず全ての Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを誰が行ったかに関わらず、全ての Web サイト管理者がこのワークフローアクションを実行できる。
 - 前回のワークフローアクションと異なる Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを行った Web サイト管理者とは別の Web サイト管理者のみ、このワークフローアクションを実行できる。
 - 前回のワークフローアクションと同一の Web サイト管理者
前回のワークフローアクションを行った Web サイト管理者のみ、このワークフローアクションを実行できる。
- 通知メール
このワークフローアクションの後のワークフローアクションを実行する権限を持つすべての Web サイト管理者に E メール送信されるページを定義します。
- コンテンツ
このワークフローアクションが適用されるコンテンツクラス、バージョン、グループ、およびタイプを定義します。このワークフローアクションは、選択したコンテンツクラス、バージョン、グループ、タイプに対してのみ使用可能です。



6.1.3 サンプルワークフロー

デフォルトで、いくつかの典型的なワークフローが Web コンテンツ管理システムに含まれています。これらのワークフローはそのまま使ったり、要件に応じて変更/拡張することができます。



6.1.3.1 Basic Workflow 編集者—公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツを追加したり、既存コンテンツを更新する権限を持ちます。新規／更新済みコンテンツの公開準備ができると、公開権限を持つ Web サイト管理者がコンテンツを承認し、公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加／更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加／更新されたコンテンツは公開準備ができており、公開権限を持つ Web サイト管理者による承認と公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフローアクションを使用します：

- プライベート保持
コンテンツの追加／更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。
- 承認と公開の依頼
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- 承認と公開
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの承認と公開を行う事ができます。これによりワークフローが終了します。
- 公開の却下
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、公開権限を持つ Web サイト管理者はこのコンテンツの公開を却下する事ができます。

このワークフローは、以下の Web サイト管理者ユーザグループ／タイプを使用します：

- すべての Web サイト管理者
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザグループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザグループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザグループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 公開者
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認と公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えばユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」など。

このワークフローは、下記ワークフローアクション設定で実装されます。



Web サイト管理者がコンテンツを追加/更新でき、これをプライベートに保つワークフローを開始できる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	プライベート保持
状態 (～から) :	
状態 (～へ) :	プライベート
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

Web サイト管理者が、公開準備が完了するとコンテンツの承認と公開の依頼を行うことができる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開の依頼
状態 (～から) :	プライベート
状態 (～へ) :	ペンディング
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

Web サイト公開者が、コンテンツの承認と公開を行なうことができる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開
状態 (～から) :	ペンディング
状態 (～へ) :	
ユーザグループ :	Web サイト公開者
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

Web サイト公開者が、コンテンツの公開を却下することができる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	公開の却下
状態 (～から) :	ペンディング
状態 (～へ) :	プライベート
ユーザグループ :	Web サイト公開者
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

上記のワークフローアクションは、記載された基本ワークフローを定義します。最終的には、例えば次のような追加のワークフローアクションをいくつでも追加することができます：

- Web サイト管理者が、コンテンツをプライベートにすることなく、すぐに承認と公開の依頼ができるようにする。
- Web サイト管理者が、承認と公開待ちのコンテンツを引き戻し、引き続き編集できるようにする。
- Web サイト管理者と Web サイト公開者が、ワークフローをキャンセルできるようにする。

Web サイト管理者が、コンテンツの承認と公開をすぐに依頼することができる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開の依頼
状態 (～から) :	
状態 (～へ) :	ペンディング
ユーザグループ :	すべて (管理者)
ユーザタイプ :	すべて (管理者)

Web サイト管理者が、承認と公開を依頼したコンテンツを引き戻すことができる。

ワークフロー名 :	Basic
アクション :	承認と公開依頼の引き戻し

状態（～から）：	ペンディング
状態（～へ）：	プライベート
ユーザグループ：	すべて（管理者）
ユーザタイプ：	すべて（管理者）
Web サイト管理者と Web サイト公開者が、プライベートのコンテンツに対し、ワークフローをキャンセルできる。	
ワークフロー名：	Basic
アクション：	ワークフローのキャンセル
状態（～から）：	プライベート
状態（～へ）：	
ユーザグループ：	すべて（管理者）
ユーザタイプ：	すべて（管理者）
Web サイト管理者と Web サイト公開者が、ペンディングのコンテンツに対し、ワークフローをキャンセルできる。	
ワークフロー名：	Basic
アクション：	ワークフローのキャンセル
状態（～から）：	ペンディング
状態（～へ）：	
ユーザグループ：	すべて（管理者）
ユーザタイプ：	すべて（管理者）



6.1.3.2 Simple Approval 編集者－マネージャー公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツの追加および既存コンテンツの更新を行う権限を持ちます。追加／更新済みコンテンツの公開準備ができたなら、まずマネージャがこのコンテンツを承認してから、公開権限を持った Web サイト管理者がこのコンテンツを公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加／更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加／更新済みコンテンツは公開準備ができており、マネージャによる承認を待っています。
- 承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャの承認済みで、公開権限を持つ Web サイト管理者による公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフローアクションを使用しています：

- **プライベート保持**
コンテンツの追加／更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。
- **承認と公開の依頼**
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- **公開の承認（マネージャ）**
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を承認し、公開権限を持つ Web サイト管理者に受け渡すことができます。
- **公開の却下（マネージャ）**
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を却下し、Web サイト管理者に差し戻すことができます。
- **公開の承認（公開者）**
Web サイト管理者が追加／更新済みコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツを公開することができます。これによりワークフローが終了します。
- **公開の却下（公開者）**
Web サイト管理者が追加／更新されたコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの公開を却下し、マネージャに差し戻すことができます。

このワークフローは、下記 Web サイト管理者ユーザグループ／タイプを使用します：

- **すべての Web サイト管理者**
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザグループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザグループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザグループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- **マネージャ**
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイトマネージャ」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- **公開者**
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」です。

このワークフローが様々なワークフローアクション設定を使用してどのように実装されているか詳細については、“Simple Approval” 追加モジュールを参照してください。



The screenshot shows the 'Simple approval' workflow configuration page. It includes a table of workflow actions and their states, and a table of user groups and their permissions for these actions.

ワークフロー名	アクション	状態 (今から)	状態 (今へ)			
Simple approval	Approve publishing	Pending	Approved	詳細表示	更新	削除
Simple approval	Keep private		Private	詳細表示	更新	削除
Simple approval	Publish	Approved		詳細表示	更新	削除
Simple approval	Reject publishing	Approved	Private	詳細表示	更新	削除
Simple approval	Request approval and publishing	Pending	Pending	詳細表示	更新	削除
Simple approval	Request approval and publishing	Private	Pending	詳細表示	更新	削除

ユーザーグループ	ユーザータイプ	開始	Private	Pending	Approved	終了
Website Editor	すべて	Keep private	==>	*		
Website Editor	すべて	Request approval and publishing		==>	*	
Website Editor	すべて	Request approval and publishing				*
Website Manager	すべて			<==		Reject publishing
Website Manager	すべて					*
Website Publisher	すべて				<==>	Approve publishing
Website Publisher	すべて					Reject publishing
Website Publisher	すべて					*

6.1.3.3 Two-step Approval 編集者 - マネージャ - 法務 - 公開者

例：Web サイト管理者は、新規コンテンツの追加および既存コンテンツの更新を行う権限を持ちます。追加／更新したコンテンツの公開準備ができたなら、まずマネージャがこのコンテンツを承認し、次にその他の誰か（法務部門等）が承認し、その後公開権限を持った Web サイト管理者がこのコンテンツを公開する必要があります。

このワークフローは、コンテンツに対し下記ワークフロー“状態”を使用します：

- プライベート
追加／更新されたコンテンツは作業中であり、公開できません。
- ペンディング
追加／更新済みコンテンツは公開準備ができており、マネージャによる承認を待っています。
- マネージャ承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャにより承認済みで、法務部門（もしくは他の誰か）による承認を待っています。
- 承認済み
追加／更新済みコンテンツはマネージャおよび法務部門により承認済みで、公開権限を持つ Web サイト管理者による公開を待っています。

このワークフローは、下記ワークフローアクションを使用しています：

- プライベート保持
コンテンツの追加／更新時、Web サイト管理者はそのコンテンツを作業している間プライベートの状態を保つことができます。これでワークフローを開始します。
- 承認と公開の依頼
Web サイト管理者がコンテンツの追加／更新作業を完了したら、このコンテンツの承認と公開を依頼することができます。
- 公開の承認（マネージャ）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を承認し、法務部門へ受け渡すことができます。
- 公開の却下（マネージャ）

Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼すると、マネージャがこの公開を却下し、Web サイト管理者に差し戻すことができます。

- 公開の承認（法務部門）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者が公開する前に、法務部門がこの公開を承認することができます。
- 公開の却下（法務部門）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、法務部門がこの公開を却下し、マネージャに差し戻すことができます。
- 公開の承認（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新したコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツを公開することができます。これによりワークフローが終了します。
- 公開の却下（公開者）
Web サイト管理者が追加／更新されたコンテンツの承認と公開を依頼し、マネージャがこれを承認すると、公開権限を持つ Web サイト管理者がこのコンテンツの公開を却下し、法務部門に差し戻すことができます。

このワークフローは、下記 Web サイト管理者ユーザグループ／タイプを使用します：

- すべての Web サイト管理者
すべての Web サイト管理者がこのワークフローを開始し、コンテンツを追加／更新し、承認と公開を依頼することができます。従って、これについては特別なユーザグループ／タイプは必要ありません。代わりに、特定の Web サイト管理者ユーザグループ／タイプに限定することもでき、その場合はこれらの Web サイト管理者にユーザグループ／タイプが定義、使用される必要があります。例えば、ユーザグループは「Web サイト編集者」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- マネージャ
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの承認を行う許権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えばユーザグループは「Web サイトマネージャ」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 法務
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの二次承認を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト法務承認」で、ユーザタイプが「従業員」など。
- 公開者
一部の Web サイト管理者のみコンテンツの公開を行う権限を持ちます。従って、これらの Web サイト管理者を識別するために、ユーザグループ／タイプが必要です。例えば、ユーザグループは「Web サイト公開者」で、ユーザタイプが「従業員」など。

このワークフローが様々なワークフローアクション設定を使用してどのように実装されているか詳細については、“Two-step Approval” 追加モジュールを参照してください。



HeartCore

HeartCore CMS | ワークスペース | 階層構造 | コンテンツ | メディア | Eコマース | データベース | ユーザ | 解析 | 設定

- 設定
- システム
- 機能設定
- コンテンツ
- イメージ
- ファイル
- バージョン
- ユーザ
- ワークフロー
 - Two-step approval**
 - プロジェクト
- Eコマース
- データベース
- パッケージ
- バンドル
- Data-to-Page Import
- Facebook投稿
- HTML-Lint設定
- メルマガグループ管理
- メルマガユーザ管理
- メルマガジン環境設定
- アンケートテンプレート
- Zip Upload
- QuickSolution

ワークフロー名	アクション	状態 (7から)	状態 (7へ)			
Two-step approval	Approve publishing	Approved		詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Approve publishing	Approved by manager	Approved	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Approve publishing	Pending	Approved by manager	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Keep private		Private	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Approved	Approved by manager	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Approved by manager	Pending	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Reject publishing	Pending	Private	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Request approval and publishing		Pending	詳細表示	更新	削除
Two-step approval	Request approval and publishing	Private	Pending	詳細表示	更新	削除

ユーザーグループ	ユーザータイプ	開始	Private	Pending	Approved by manager	Approved	終了
Website Editor	-すべて-	Keep private	==>	.			
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		==>	.		
Website Editor	-すべて-	Request approval and publishing		==>	.		
Website Manager	-すべて-		<==	Reject publishing			
Website Manager	-すべて-			Approve publishing			
Website Manager	-すべて-				Reject publishing		
Website Approval	-すべて-				Approve publishing		
Website Approval	-すべて-					Reject publishing	
Website Publisher	-すべて-				Approve publishing		
Website Publisher	-すべて-					Approve publishing	

7 E コマース設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムのEコマース追加モジュールを使うことによってEコマース Web サイトを作成し管理できるようになり、また Web サイトビジターを Web サイトカスタマーへと変えることができます。

Web コンテンツ管理システムの柔軟性とパワーをフル活用して、あらゆる数の商品や商品ページを定義することができます。Web サイトビジターは、Web サイトの他のページと同様に、商品ページを閲覧、検索することができます。

商品価格やその他の商品詳細を簡単に変更したり、既存の商品データベースと同期化させるため、商品詳細情報を HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールに容易にインポート/エクスポートすることができます。

為替交換レートの自動処理によって、どんな通貨も、いくつでも定義でき、商品価格に使用することができます。また、為替交換レートの自動処理を使って、異なるマーケットに対しても現地の各通貨に対応できるよう Web サイトの複数のバージョンを作成することができます。

商品ページを通して、Web サイトカスタマーは欲しい商品をバーチャルな Web サイトショッピングカートに入れることができます。Web サイトのカスタマーは、欲しい商品をすべて選び終えた後、チェックアウトへと進み、支払いや配送や請求内容詳細を入力し、選んだ商品の注文をします。オプションで、Web サイトカスタマーは、PayPal (www.paypal.com) や他の決済サービスプロバイダを通して商品の支払いをクレジット/デビットカードで済ますことも可能です。

それぞれの商品、商品タイプ、商品グループ、注文数、注文総計、配送先国名または県名などの別にしたがって、どのようなタイプの配送料および税金の設定もできます。

注文が完了すると、Web サイトカスタマーに注文確認Eメールが送信され、Web サイト注文管理者に、受注通知Eメールが送信されます。受領した注文は、受注管理の簡便さのため、またEメール通知のバックアップとして、Web サイトデータベースに保存されます。これにより、Eメールのトラブルが原因で注文が紛失することがなくなります。

HeartCore Web コンテンツ管理システム機能を使うことにより、注文確認や受注通知Eメールメッセージはじめ、すべての商品やショッピングカート、チェックアウトや注文 Web ページが、フルにカスタマイズ可能です。



7.1 商品の設定

商品の設定にアクセスするには、「設定」－「Eコマース」－「商品」メニュー項目を選択します。左メニューより、商品グループやタイプを設定できる設定ページへアクセスできます。また、Webコンテンツ管理システム外での一括更新や、外部データベースとの同期化に便利な、商品詳細のエクスポート/インポートページへもアクセスすることが可能です。



7.1.1 商品のグループ/タイプ設定

TEコマース追加モジュールのデフォルトインストールでは、限られた商品数を取り扱う、特別な処理を必要としない小規模なWebサイト向けに設定されます。しかし、Webサイトが多数の商品を含んでいる場合には、商品をいくつかの商品グループならびに/または商品タイプに整理する必要がありますし、また少なくとも整理したほうがより便利で効率的になります。

Eコマース追加モジュールは、「グループ」と「タイプ」という用語を、一般的な商品カテゴリとして使っています。要件に合わせて、どんなグループやタイプでも定義することができます。「グループ」と「タイプ」は、Eコマース追加モジュールでは何ら特別な意味を持ってはいませんが、ただ商品のカテゴリを細かく分類することによってその管理をより容易にするための方法といえます。

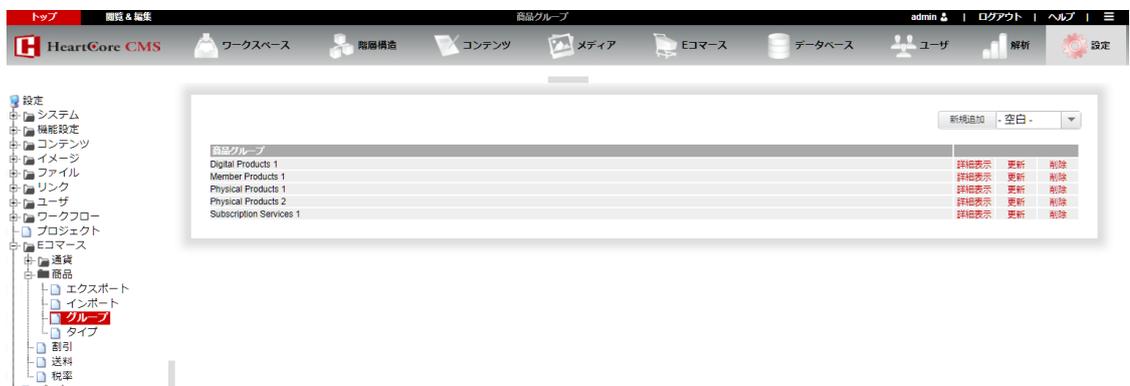
商品グループとタイプはまた、様々な商品に対してそれぞれ異なった送料や税率を定義するためにも使うことができます。



HeartCore

「設定」－「E コマース」－「商品」－「グループ」「タイプ」メニューを選択し、商品のグループ/タイプ設定へアクセスします。現在定義済みの商品グループ/タイプが一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を使って、商品グループ/タイプを定義します。

商品のグループとタイプは、「親グループメニュー」および「親タイプメニュー」を使って、商品管理ページの左メニューを階層的に構成することができます。「親グループメニュー」もしくは「親タイプメニュー」が選択されている場合、その商品グループ/タイプは、選択した親グループ/タイプメニューの下に表示されます。商品グループ/タイプの階層構造は、左メニューの整理に用途を限定したものであり、いかなる属性も親グループ/タイプから継承されるわけではありませんのでご注意ください。





7.1.1.1 コンテンツプレゼンテーション

個々の商品にテンプレートとスタイルシートが定義されている場合、その商品が Web サイト上で閲覧される際には、それらのテンプレートとスタイルシートが使用されます。そうでない場合は、その商品のコンテンツグループもしくはタイプに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。もしグループとタイプの両方に定義されている場合は、グループに定義されているテンプレートとスタイルシートが使用されます。商品グループのテンプレートとスタイルシートは、商品タイプのそれらよりも優先されます。

ページタイトルプレフィックスやページタイトルサフィックスが、商品のコンテンツグループもしくはタイプに定義されている場合は、それらが Web ブラウザウィンドウタイトルバー内のページタイトル前後に表示されます。もし商品グループやタイプに対してページタイトルプレフィックスやサフィックスが定義されている場合は、デフォルトのページタイトルプレフィックスサフィックス Web サイト設定に代わって、そちらが適用されます。

HTML DOCTYPE Web ページヘッダーは、Web ページで使用される HTML 規格を定義します。空白のままにしておくと、Web ブラウザが Web ページの HTML ドキュメントタイプを判断して処理します。この HTML DOCTYPE 商品グループ/タイプ設定は、マイクロサイトや Web サイトに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されますが、個々の商品やテンプレートに設定された HTML DOCTYPE よりも優先度が低く、商品 > テンプレートの順で優先されます。商品グループに設定された HTML DOCTYPE は、商品タイプに設定された HTML DOCTYPE よりも優先されます。



7.1.1.2 アクセス制限

商品、商品グループ/タイプ、Web サイトにおけるアクセス制限はすべて、アクセス権限を満たす必要があります。従って、商品グループ/タイプに定義されたアクセス制限は、他のアクセス制限に追加されます。商品グループ/タイプのアクセス制限は、他のアクセス制限を上書き/置換はしません。

商品グループ/タイプのアクセス制限は、個々の商品のアクセス制限と同じであり、同様に使用されます。



7.1.2 商品データベース同期化

大抵の場合、すでに独自の商品データベース（またはスプレッドシート）をお持ちで、価格や在庫数などの商品情報は頻繁に更新されることが考えられます。既存の商品データベース全体や管理を HeartCore Web コンテンツ管理 E コマース追加モジュールに移行したり、既存の商品データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールの両方を更新するのは、現実的でなく不可能な場合もあります。

既存の商品データベースの商品と HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールの商品とを容易に同期させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールへ/から、商品情報をインポート/エクスポートすることができます。

7.1.2.1 商品情報のエクスポート

「設定」－「E コマース」－「商品」－「エクスポート」メニュー項目リンクを選択し、商品情報エクスポートの管理画面にアクセスします。

現在の商品情報を HeartCore Web コンテンツ管理システム E コマース追加モジュールから抽出し、.csv 形式ファイルとしてダウンロードするには、“エクスポート”を選択します。

ダウンロードされた.csv 形式ファイルは、スプレッドシートデスクトップアプリケーションで開いて編集することができます。また、データベースアプリケーションでインポートすることもできます。



7.1.2.2 商品情報のインポート

商品情報のインポート管理にアクセスするには、「設定」 - 「Eコマース」 - 「商品」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択します。

ローカルコンピュータから.csv形式ファイル（商品情報のエクスポート機能でエクスポートした）を選択し、“インポート”ボタンで、HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールにアップロード及びインポートします。インポートした.csv形式ファイルで更新されている商品情報は、すべて HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールへ更新されます。

デフォルトでは、インポートするファイル内の商品現在在庫数および発注済み在庫数は無視されます。インポートするファイル内の現在在庫数および発注済み在庫数を使用するには、「現在の在庫数と発注済み在庫数をインポートします」チェックボックスを選択してください。

インポートでは、新規商品が作成されたり、既存の商品が削除されたりしないことに注意ください。商品情報は、既存の商品に関してのみ更新されます。商品の作成、削除は、商品管理より行なって下さい。



7.2 通貨の設定

デフォルトでは、Eコマース追加モジュールは、Webサイトに設定した単一の通貨のみが、商品、ショッピングカート、チェックアウト、注文に使用されます。

しかし、各商品ごとに異なる複数の通貨を使用したり、Webサイトのバージョンによって複数の通貨を使用することも可能です。

通貨は、Webサイトビジターのショッピングカートや注文、また商品価格や配送料、税率を定義するために使用されます。全てに単一通貨を使用することも、異なる商品、配送料、税率、Webサイトバージョンに応じた複数の通貨を使用することもできます。

要件に応じて、どんな通貨でも、いくつでも作成することが可能です。

商品管理によって、個々の商品に対する通貨を指定することができます。通常、これはデフォルトの通貨を使用するよう設定されますが、Web サイトに定義されたいかなる特定通貨も選択可能です。

このようにして、異なる通貨価格の各商品を同時に取り扱うことができます。国産品の価格を国内通貨に設定し、輸入品を外国通貨に設定したい場合でも、この方法により商品価格変更を為替レートの変動にしたがって自動的に容易に処理できるようになります。

各商品の価格がそれぞれ異なる通貨で設定されている場合でも、ショッピングカートやチェックアウト、注文などで使われる実際の価格は、常に、設定した為替レートを使用してデフォルトの通貨に換算されます。

デフォルトでは、商品価格は常に、Web サイトに設定されたデフォルト通貨に変換されます。しかし、Web サイトで複数バージョン機能をお使いの場合には、それぞれの Web サイトバージョンごとに異なる通貨を使用することもできます。

このようにして、異なったバージョンの Web サイトに対してそれぞれ違った通貨を同時に使用することができるようになります。異なった地域や国々で、Web サイトのショッピングカートやチェックアウト、注文においてそれぞれの現地通貨を使用する Web サイトの各バージョンが作成できます。

各商品の価格がそれぞれ異なった通貨で設定されていたとしても、ショッピングカートやチェックアウト、注文に使われる実際の価格は、設定した為替レートに従って、常に Web サイトの現行バージョンに定義されたデフォルト通貨へと変換されます。

「設定」 - 「E コマース」 - 「通貨」メニューを選択し、通貨設定にアクセスします。現在定義済みの通貨が一覧表示されます。「追加」「詳細表示」「更新」「削除」を使って通貨を定義します。



通貨	コード	レート	操作
DKK	kr.	850	詳細表示 更新 削除
GBP	£	100	詳細表示 更新 削除
GBP	£	100	詳細表示 更新 削除
JPY	¥	100	詳細表示 更新 削除

7.2.1 通貨

それぞれの通貨には、次のものを定義します。

- タイトル
通貨管理で使用される通貨の名前
- シンボル
Web サイトカスタマーに表示される通貨のシンボル、コードまたは名前。



- 換算レート
通貨の為替レート。為替レートは、Web サイト内で複数の通貨が使用される場合のみ使用されます。為替レートは、基本となる通貨を 100 とし、Web サイトで使用されるその他の通貨は、基本通貨と相対する形で定められます。



7.2.2 通貨データベース同期化

為替レートに関して、すでに独自の通貨データベース（またはスプレッドシート）をお持ちの場合があります。これらは頻繁に更新されることもあります。既存の通貨データベース全体や管理を HeartCore Web コンテンツ管理E コマース追加モジュールに移行したり、既存の通貨データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールの両方を更新するのは、現実的でなく、不可能な場合もあります。

既存の通貨データベースと HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールの通貨詳細とを容易に同期化させるため、HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールへから通貨情報をインポート/エクスポートすることができます。

7.2.2.1 通貨情報のエクスポート

「設定」 - 「E コマース」 - 「通貨」 - 「エクスポート」メニュー項目リンクを選択し、通貨情報エクスポート管理にアクセスします。

“エクスポート”を選択すると、HeartCore Web コンテンツ管理システムE コマース追加モジュールから現在の通貨情報を抽出し、.csv 形式ファイルとしてダウンロードすることができます。

ダウンロードした .csv 形式ファイルは、スプレッドシートデスクトップアプリケーションで開いて編集したり、データベースアプリケーションでインポートすることができます。





7.2.2.2 通貨情報のインポート

「設定」 - 「Eコマース」 - 「通貨」 - 「インポート」メニュー項目リンクを選択し、通貨情報インポート管理にアクセスします。

ローカルコンピュータから、.csv形式ファイル（通貨情報のエクスポート機能で出力されたもの）を選び、“インポート”を選択し、HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールへアップロード及びインポートします。インポートされた.csv形式ファイル内の更新済みの通貨情報は、インポートを通して HeartCore Web コンテンツ管理システムEコマース追加モジュールへ更新されます。

インポートでは、通貨の新規作成や削除は行われないことに注意してください。通貨情報は、すでに存在する通貨に対してのみ、更新されます。通貨の新規作成、削除を行なうには、通貨管理をお使いください。



7.3 割引の設定

割引率は Web サイトカスタマーの注文に対して、特別な提供を定義するのに使用されます。異なるタイプの割引率が定義される場合があります。

- 特定のユーザに対する割引
- 特定の商品に対する割引
- 特定のセール期間に対する割引
- 指定総額以上の注文に対する一般割引
- 指定商品を指定の数量で購入する際の数量割引
- 指定商品を指定の数量で購入する際の固定価格の提供
- BOGOF（1個購入すると1個無料）と、類似割引

7.3.1 割引率（設定）

設定 - 「割引」メニュー項目リンクを選択し、割引率の設定にアクセスします。現在定義されている割引率が一覧表示されます。



追加、詳細表示、更新、削除を選択し、割引率を定義します。

7.3.2 割引率

各割引率に対して、以下を定義します：

- タイトル
割引率に対して割引率管理内で使用される名前
- 詳細
Web サイトカスタマーに対して表示される割引率の説明



7.3.2.1 割引詳細

注文に適用される割引

- 一般割引
 - 額
商品価格もしくは注文合計から引かれる額
 - 通貨／パーセンテージ
商品価格もしくは注文合計から引かれる通貨額、もしくはパーセンテージ。
 - 各アイテム／合計価格割引
(通貨額の割引にのみ適用し、パーセンテージ割引には適用しない。)

- 該当商品の各アイテムを割引
指定商品の数量を掛けた割引額を引く。
- 該当商品の合計価格を割引
指定商品の合計注文総額から割引額を引く
- 例：
すべての商品を10%オフとする
すべての注文を\$10 オフとする
- 数量割引
 - 割引対象の数量
割引を適用する指定商品の数量。数量の上限を定めない場合には、数量を空白のままにします。
 - いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれでも、混合されていても割引が適用されます。
 - 同一商品の
Discount only applies to multiple items of the same product.
 - 額
商品価格または注文合計から引かれる額。
 - 通貨／パーセンテージ
商品価格もしくは注文合計から引かれる通貨額もしくはパーセンテージ。
 - 各アイテム／合計価格を割引
(通貨額の割引にのみ適用し、パーセンテージ割引には適用しない。)
 - 該当商品の各アイテムを割引
指定商品の数量を掛けた割引額を引く
 - 該当商品の合計価格を割引
指定商品の合計注文総額から割引額を引く
 - 例：
3個、またはそれ以上の商品購入で10%オフ
XYZ という商品を5個購入で10%オフ
- 固定価格
 - 割引対象の数量
割引を適用する指定商品の数量。数量の上限を定めない場合には、数量を空白のままにします。
 - いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれで

も、混合されていても割引が適用されます。

- 同一商品の
同じ商品が複数の場合にのみ、割引が適用されます。
- 額
商品 1 つにつき使用される商品価格（標準の商品価格より低い場合）
- 通貨
商品価格の通貨
- 1 アイテムにつき／合計で
 - 該当商品の 1 アイテム毎
指定商品の数量を掛けた割引額を請求します。
 - 該当商品の合計で
指定商品の指定数量の合計で割引額を請求します。
- 例：
どれでも商品 3 個以上だと 10 \$
どれでも商品 3 個またはそれ以上だと各それぞれ 10 \$
- BOGOF
 - 標準価格での数量
標準の価格で購入される指定商品の数量
 - いかなる商品でも／同一商品の
 - いかなる商品でも
指定の商品グループ／タイプ（商品に適用）からの商品であれば、どれでも、混合されていても割引が適用されます。
 - 同一商品の
同じ商品が複数の場合にのみ、割引が適用されます。
 - 割引価格での数量
割引価格で購入される指定商品の数量
 - 額
1 商品アイテムにつき使用される商品価格（標準商品価格より低い場合）
 - 通貨／パーセンテージ
使用される標準商品価格の通貨額、またはパーセンテージ。
 - 1 アイテムにつき／合計で／各アイテムをオフ
 - 該当商品の 1 アイテムにつきオフ
各商品アイテムは、指定の割引額で請求されます。
 - 該当商品に対して合計で
割引された商品アイテムの合計数量（割引価格での数量）が、指定の割引

額で請求されます。

- 該当商品の各アイテムをオフ
指定の割引額が、各商品アイテムの標準商品価格から引かれます。
- 例：
 - 1 個購入で 1 個無料
 - 2 個購入で 2 個が半分価格
 - 3 個購入で 2 個が 10 \$ になる

すべての割引は常に、商品価格の高低順に適用されます。商品アイテムの数量が奇数の場合には、数量と固定価格と BOGOF 割引が最も高い商品アイテムに適用され、標準商品価格は、残った最安の商品アイテムに課されます。BOGOF 割引は、標準の商品価格を最も高い商品アイテムに対して課し、割引された商品価格を商品アイテムの各セットへの最も少ない高い商品アイテムへ課します。（例えば、1 個購入で、1 個 50% オフ、最も高い商品に対しては標準価格、2 番目に高い商品には半額、3 番目に高い商品には標準価格、4 番目に高い商品には半額で、など）



7.3.2.2 注文に適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する注文への全体の注文に適用されることになっています。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することができます。定義されていない基準（空白の部分）は無視され、すべての注文と一致します。すなわち、国名を空白にすると、どの国へでも注文が適用されることになります。（その他のすべての基準が一致する部分）

- 国
割引率が適用する注文配信国
- 都道府県
割引率が適用する注文都道府県
- 最小注文数量

- 割引率が適用する最小注文数量
- 最大注文数量
 - 割引率が適用する最大注文数量
- 通貨
 - 割引率が適用する注文通貨
- 最低注文合計額
 - 割引率が適用する、送料と税をぬいた最低注文額
- 最高注文合計額
 - 割引率が適用する、送料と税をぬいた最高注文額
- 最小重量
 - 割引率が適用する注文の最小の重さ
- 最大重量
 - 割引率が適用する注文の最大の重さ
- 最小分量
 - 割引率が適用する最小注文分量
- 最大分量
 - 割引率が適用する最大注文分量



HeartCore CMS 設定

割引

注文に適用

国 都道府県

数量 (から) 数量 (まで)

合計金額 合計 (から) 合計 (まで)

重さ (から) 重さ (まで)

ポリウム (から) ポリウム (まで)

7.3.2.3 商品に適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する個々の商品に適用されることとなります。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することもできます。

- 商品
割引率が適用する指定の商品
- グループ
割引率が適用する商品グループ
- タイプ
割引率が適用する商品タイプ
- 最小重量
割引率が適用する商品の最小の重さ
- 最大重量
割引率が適用する商品の最大の重さ
- 最小分量
割引率が適用する最小商品分量
- 最大分量
割引率が適用する最大商品分量
- 最小幅
割引率が適用する商品の最小幅
- 最大幅
割引率が適用する商品の最大幅
- 最低の高さ
割引率が適用する商品の最低の高さ
- 最高の高さ
割引率が適用する商品の最高の高さ
- 最小奥行き
割引率が適用する商品の最小の奥行き
- 最大奥行き
割引率が適用する商品の最大の奥行き



7.3.2.4 ユーザに適用

割引率は、すべての定義された基準に一致する個々のユーザーに適用されることとなります。基準はいくつでも、また組み合わせで定義することもできます。

- ユーザ
割引率が適用する指定のユーザー
- グループ
割引率が適用する商品グループ
- タイプ
割引率が適用する商品タイプ
- 割引コード

割引率が適用するものに対して、顧客が入力する割引コード。

割引率を割引率コードで使用するには、Web サイトビジターが割引コードを入力する追加の特別入力フィールドがショッピングカート Web ページに追加されていなければなりません。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照下さい。



7.3.2.5 期間に適用

割引率は、指定の期間の間適用されることになります。

- 開始日時

割引が適用する開始日時。“今”にする場合は、空白にしてください。

- 終了日時

割引率が適用する終了日時。指定の終了日時がない場合は、空白にしてください。



7.4 送料の設定

Web サイトカスタマーからの注文への送料や梱包料を定義するために「送料」が用いられます。商品価格が送料や梱包料を含んでおり、Web サイトカスタマーの発注に付け加えるべき費用がない場合には送料を設定する必要はありません。

以下のようなさまざまな送料が考えられます。

- 標準的な送料ならびに梱包料
- 異なる商品、商品タイプ、商品グループごとにそれぞれ追加される送料、梱包料
- 配送先の国別や県別に応じたさまざまな送料ならびに梱包料
- 注文数や注文金額の別に応じたさまざまな送料や梱包料
- 発注 1 件当たりに対して固定された送料ならびに梱包料

- 発注品 1 個につき固定された送料ならびに梱包料
- 発注総額に対しパーセンテージで定められる送料ならびに梱包料
- 個々の商品価格に対しパーセンテージで定められる送料ならびに梱包料

7.4.1 送料（設定）

送料の設定にアクセスするには「設定」 - 「E コマース」 - 「送料」メニュー項目リンクを選択してください。現在定義されている送料が表示されます。



追加、詳細表示、更新、削除を選択し、送料を定義してください。

7.4.2 送料

個々の送料について以下の項目を設定します。

- タイトル
送料管理のために用いる送料の名前
- 詳細
送料について Web サイトカスタマーへ表示する説明



7.4.2.1 送料の詳細

注文に追加される送料ならびに梱包料

- 通貨
送料の金額表示に使われる通貨

- 注文単位
注文 1 件ごとに追加される送料
- 品目単位
注文品 1 個ごとに追加される送料
- パーセンテージ
注文総額の一定率(0 から 100)にしたがって追加される送料
- 合計
発注 1 件ごとの送料に対する最大の合計額



7.4.2.2 注文に適用

定義した基準に合致する注文の全体に対して送料が適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも定義可能です。未定義の基準（空白のまま）は無視され、すべての注文に合致します - 例えば、あらゆる国に適用させるには国名の欄を空白のままに残しておきます（それ以外のすべての基準が合致している場合）。

- 国名
送料が適用される配送先の国名
- 都道府県
送料が適用される配送先の都道府県名
- 数量～
送料が適用される最小注文数量
- ～数量
送料が適用される最大注文数量
- 合計通貨
送料に適用される通貨
- 合計～
送料が適用される、送料および税を除いた最小注文総額
- ～合計
送料が適用される、送料および税を除いた最大注文総額

- 重さ（から）
送料が適用される最少注文重量
- 重さ（まで）
送料が適用される最大注文重量
- ボリューム（から）
送料が適用される最少注文分量
- ボリューム（まで）
送料が適用される最大注文分量

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、送料が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



The screenshot shows the 'HeartCore CMS' administration interface. The left sidebar contains a tree view of settings categories, with '送料' (Shipping) selected. The main content area displays the '注文に適用' (Apply to Order) configuration form. The form includes fields for '国名' (Country) set to '都道府県' (Prefecture), '数量?' (Quantity) with a value of 0, '合計通貨' (Total Currency) set to '標準 - (€)', '合計?' (Total) with a value of 0, and '合計?' (Total) with a value of 0. There are also sections for '重さ (から)' (Weight from) and '重さ (まで)' (Weight to), both set to 0 kg, and 'ボリューム (から)' (Volume from) and 'ボリューム (まで)' (Volume to), both set to 0 liter. The form has tabs for '送料', '出荷', '注文に適用', and '商品に適用'.

7.4.2.3 商品に適用

送料は、定義された基準すべてに合致する商品一つずつについて適用されます。基準はいくつでも、またどのような組み合わせでも定義可能です。

- 商品
送料が適用される特定の商品
- グループ
送料が適用される商品グループ
- タイプ
送料が適用される商品タイプ
- 重さ（から）
送料が適用される最少商品重量
- 重さ（まで）
送料が適用される最大商品重量

- ボリューム (から)
送料が適用される最少商品分量
- ボリューム (まで)
送料が適用される最大商品分量
- 幅 (から)
送料が適用する最小商品幅
- 幅 (まで)
送料が適用する最大商品幅
- 高さ (から)
送料が適用する最低の商品の高さ
- 高さ (まで)
送料が適用する最高の商品の高さ
- 奥行き (から)
送料が適用する最小商品奥行き
- 奥行き (まで)
送料が適用する最大商品奥行き

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、送料が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



The screenshot shows the 'HeartCore CMS' configuration page. The left sidebar lists various settings, with '税率' (Tax Rate) highlighted. The main content area shows the '商品に適用します' (Apply to items) configuration. The '商品' (Item) dropdown is set to '-任意-' (Any). Below, there are two columns of settings for 'グループ' (Group) and 'タイプ' (Type), both set to '-任意-' (Any). The '重さ' (Weight) section has 'から' (from) and 'まで' (to) fields, both set to 0 kg. The 'ボリューム' (Volume) section has 'から' (from) and 'まで' (to) fields, both set to 0 liter. The '幅' (Width) section has 'から' (from) and 'まで' (to) fields, both set to 0 cm. The '高さ' (Height) section has 'から' (from) and 'まで' (to) fields, both set to 0 cm. The '奥行き' (Depth) section has 'から' (from) and 'まで' (to) fields, both set to 0 cm.

7.5 税率の設定

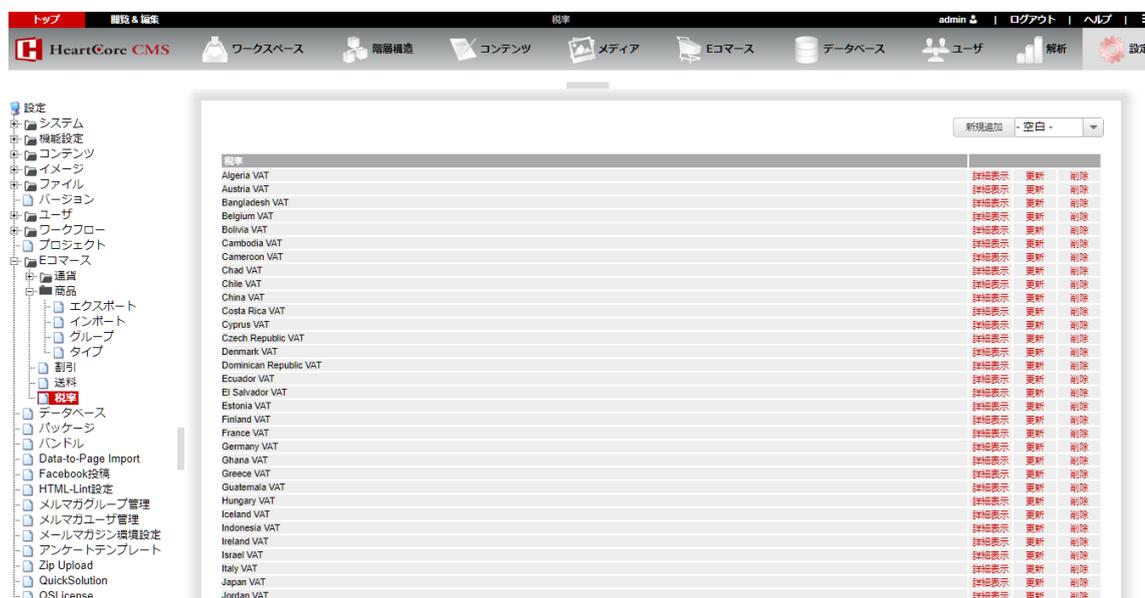
Web サイトカスタマーの発注に対して消費税やその他の税金、関税などを定義するのに税率が使用されます。もし、商品価格にすべての税金が既に含まれており、Web サイトカスタマーの注文に対していかなる課税も行われない場合には、税率の設定は必要ありません。

以下のようなさまざまなタイプの税率が考えられます。

- 標準的な税金
- 異なったタイプの商品、商品タイプ、商品グループに対するさまざまな付加的な税金
- 配送先である国別、都道府県別によって異なる、さまざまな付加的な税金
- 注文数量や注文金額によって異なるさまざまな付加的な税金
- 発注1件ごとの固定された税金
- 注文商品1個ごとの固定された税金
- 注文総額に対する一定率の税金
- 個々の商品価格に対する一定率の税金

7.5.1 税率（設定）

税率の設定にアクセスするには「設定」 - 「Eコマース」 - 「税率」メニュー項目リンクを選択してください。現在定義されている税率が一覧表示されます。



税率	詳細表示	更新	削除
Algeria VAT	詳細表示	更新	削除
Austria VAT	詳細表示	更新	削除
Bangladesh VAT	詳細表示	更新	削除
Belgium VAT	詳細表示	更新	削除
Bolivia VAT	詳細表示	更新	削除
Cambodia VAT	詳細表示	更新	削除
Cameroon VAT	詳細表示	更新	削除
Chad VAT	詳細表示	更新	削除
Chile VAT	詳細表示	更新	削除
China VAT	詳細表示	更新	削除
Costa Rica VAT	詳細表示	更新	削除
Cyprus VAT	詳細表示	更新	削除
Czech Republic VAT	詳細表示	更新	削除
Denmark VAT	詳細表示	更新	削除
Dominican Republic VAT	詳細表示	更新	削除
Ecuador VAT	詳細表示	更新	削除
El Salvador VAT	詳細表示	更新	削除
Estonia VAT	詳細表示	更新	削除
Finland VAT	詳細表示	更新	削除
France VAT	詳細表示	更新	削除
Germany VAT	詳細表示	更新	削除
Ghana VAT	詳細表示	更新	削除
Greece VAT	詳細表示	更新	削除
Guatemala VAT	詳細表示	更新	削除
Hungary VAT	詳細表示	更新	削除
Iceland VAT	詳細表示	更新	削除
Indonesia VAT	詳細表示	更新	削除
Ireland VAT	詳細表示	更新	削除
Israel VAT	詳細表示	更新	削除
Italy VAT	詳細表示	更新	削除
Japan VAT	詳細表示	更新	削除
Jordan VAT	詳細表示	更新	削除

追加、詳細表示、更新、削除より選択し、税率を定義してください。

7.5.2 税率

各税率に対し以下を設定します。

- タイトル
税率管理で使用される税率の名前
- 詳細
Web サイトカスタマーへ表示される税率についての説明



7.5.2.1 税の詳細

注文に対して加算される税金

- 通貨
税率が設定される通貨
- 注文単位
発注 1 件あたりについて加算される税金
- 品目単位
商品 1 個あたりについて加算される税金
- パーセンテージ
注文総額を基として加算される税金のパーセンテージ (0 から 100)
- 合計
発注 1 件ごとの税率に対する最大の合計額



7.5.2.2 注文に適用

定義した基準に合致する注文の全体に対して税率が適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも設定可能です。未定義の基準（空白のまま）は無視され、すべての注文に合致します。例えば、あらゆる国に適用させるには国名の欄を空白のままに残しておきます（それ以外のすべての基準が合致している場合）。

- 国名
税率が適用される配送先の国名
- 都道府県
税率が適用される配送先の都道府県名
- 数量～
税率が適用される最小注文数量
- ～数量
税率が適用される最大注文数量
- 合計通貨
税率が適用される注文通貨
- 合計～
税率が適用される、送料および税金を除いた最小注文総額
- ～合計
税率が適用される、送料および税金を除いた最大注文総額
- 重さ（から）
税率が適用される最少注文重量
- 重さ（まで）
税率が適用される最大注文重量
- ボリューム（から）
税率が適用される最少注文分量
- ボリューム（まで）
税率が適用される最大注文分量

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、税率が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



7.5.2.3 商品に適用

税率は、定義したすべての基準に合致する商品一つずつに適用されます。基準はいくつでもまたどのような組み合わせでも設定可能です。

- 商品
税率が適用される特定の商品
- グループ
税率が適用される商品グループ
- タイプ
税率が適用される商品タイプ
- 重さ (から)
税率が適用される最少商品重量
- 重さ (まで)
税率が適用される最大商品重量
- ポリューム (から)
税率が適用される最少商品分量
- ポリューム (まで)
送料が適用される最大商品分量
- 幅 (から)
税率が適用する最小商品幅
- 幅 (まで)
税率が適用する最大商品幅
- 高さ (から)
送料が適用する最低の商品の高さ

- 高さ（まで）
税率が適用する最高の商品の高さ
- 奥行き（から）
税率が適用する最小商品奥行き
- 奥行き（まで）
税率が適用する最大商品奥行き

「注文に適用」と「商品に適用」の基準を併用すると、税率が二重で注文に適用されてしまいますので、ご注意ください。



The screenshot shows the HeartCore CMS configuration interface. The top navigation bar includes 'HeartCore CMS', 'ワークスペース', '階層構造', 'コンテンツ', 'メディア', 'Eコマース', 'データベース', 'ユーザ', '解析', and '設定'. The left sidebar lists various settings categories, with '税率' (Tax Rate) selected. The main content area displays the '商品に適用' (Apply to Product) configuration window. This window has tabs for '税率' (Tax Rate), '税' (Tax), '注文に適用' (Apply to Order), and '商品に適用' (Apply to Product), with the latter being active. The configuration includes a '商品' (Product) dropdown menu, a 'グループ' (Group) dropdown, and a 'タイプ' (Type) dropdown. Below these are several dimension-based criteria, each with a 'から' (From) and 'まで' (To) field: '重さ' (Weight) in kg, 'ポリウム' (Volume) in liter, '幅' (Width) in cm, '高さ' (Height) in cm, and '奥行き' (Depth) in cm. All 'から' fields are set to 0.

8 コンテンツデータベース設定

HeartCore Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツはデータベースに格納されますが、データベース追加モジュールを使用すると、一般的な Web サイトコンテンツページとして表示、管理するには適さない構造化されたコンテンツ用に、追加の特殊コンテンツデータベースを作成することができます。

異なるデータのタイプ用に、いくつもの特殊コンテンツデータベースを定義し、データベース内のコンテンツにいくつもの属性/フィールドを定義することができます。特殊コンテンツは、その他のコンテンツ項目（ページ、イメージ、ファイルなど）への参照をはじめ、簡易テキスト、HTML テキスト、数字、日付、選択オプション、ラジオボタン、チェックボックス、ユーザ名やEメールアドレスなど様々なタイプのデータを保持することができます。

特殊コンテンツデータベースを使用して、Web サイトビジターはデータベース内のコンテンツを閲覧、検索することができます。コンテンツデータベースの各個別の属性/フィールドを検索することが可能です。特殊コンテンツデータベースがどのように検索、表示されるかは、HeartCore Web コンテンツ管理システムの一般的なコンテンツ管理機能や、いくつかのシンプルな特殊コードを使って、自由にカスタマイズ可能です。

特殊コンテンツデータベースは、Web サイトビジターからデータを収集する際にも使用できます。Web ページフォームを作成し、ここから送信されるデータを特殊コンテンツデータベースへ格納し、特殊コンテンツデータベース管理者に通知Eメールを送信することができます。

8.1.1 コンテンツデータベース（設定）

Web サイトに特殊コンテンツデータベースを設定するには、「設定」 - 「データベース」メニュー項目リンクを選択します。

すでに存在する特殊コンテンツデータベースが一覧表示され、各特殊コンテンツデータベースには、詳細表示、更新、削除のためのリンクが表示されます。新規特殊コンテンツデータベースを作成するには、「追加」ボタンを選択して下さい。



8.1.2 コンテンツデータベース

各特殊コンテンツデータベースに対し、以下のデータベース設定があります。

- データベースコンテンツ
データベースの名前と、データベース内の属性/フィールドの数やタイプの定義。

データベース名は、1つの単語でなければならず、特殊文字は使用できません。



8.1.2.1 コンテンツ

データベースでは、属性／フィールドへ一意の名前を入力し、データタイプを選んで、「追加」を選択することで、データベース属性／フィールドをいくつでも定義できます。追加された属性／フィールドの新規テーブル列が表示されます。ここでは、インデックスチェックボックスや、「上に移動」「下に移動」ボタンをはじめ、このデータタイプに対するいくつかの追加プロパティが表示されます。

特殊データベースのデータ属性／フィールドに名前を付ける際には、Web コンテンツ管理で既に特殊コードに使用されている名前は避けるべきです。競合を避けるために、データ属性／フィールド名の最初の文字を大文字にすることが推奨されます。

使用可能なデータタイプとそれらのプロパティについては、下記に説明します。

インデックスチェックボックスをチェックすると、データベースのデータ属性／フィールドにインデックスが作成されます。属性／フィールドにインデックスを作成すると、データベース内の属性／フィールドの検索がより高速になるため、通常は検索可能な全てのデータベース属性／フィールドにインデックスを作成します。しかし、属性／フィールドにインデックスを作成すると、データの追加、更新、削除が遅くなると同時に、より多くのスペースが必要となるので、インデックスが必要な場合のみ作成してください。インデックスを作成したからといって、コンテンツデータベースの管理インデックスページに、データベース属性／フィールドが自動で追加されるわけではありませんのでご注意ください。

コンテンツデータベース管理ページでは、データベース属性／フィールドは、データベース設定ページで定義された順番に表示されます。上に移動、下に移動ボタンを使用して、データベース属性／フィールドの順番を変更します。デフォルトでは、一番目のプレーンテキスト属性／フィールドが、データベースの各データ項目の「タイトル」として、コンテンツデータベース管理インデックスページに表示される点にご注意ください。

- -タブ-

後続のデータベース属性／フィールドを1つのタブにまとめて（次に「-タブ-」を指定するまで）、指定したタブ名でコンテンツデータベース管理ページに表示します。最初の「-タブ-」より前にあるデータベース属性／フィールドは、タブより上部にて常に可視状態となります

- テキスト（プレーン）

シンプルでフォーマットのない、長くなる可能性のあるテキスト。カラムは、データ入力フィールドの文字幅を定義します。行は、データ入力フィールドの行数を定義します。

（厳密には、「text」もしくは「clob」型のデータベースサーバーカラムとして作成されます。）



- テキスト (検索可)
シンプルでフォーマットのない、短めのテキスト。カラムは、データ入力フィールドの文字幅を定義します。行は、データ入力フィールドの行数を定義します。
(厳密には、「varchar」型のデータベースサーバーカラムとして作成されます。カラムのサイズ制限は、データベースサーバーによって異なります。通常は、数千文字です。詳しくは、一般的なデータベースサーバー文献をご参照ください。)
- リッチテキスト(HTML)
イメージやハイパーリンクなどを含む、フォーマットされたテキスト。「幅」はデータ入力フィールドのピクセル幅を定義します。「高さ」はデータ入力フィールドのピクセル高さを定義します。
- 数字
整数か小数の数字。「小数」は小数点の後に表示される桁数を定義します。
※デフォルトで小数部分は4桁までの対応となります。
※現在、「桁」項目は設定出来ません。
- 選択
あらかじめ定義されたオプション一覧から、ひとつ選択します。「サイズ」は表示されるオプションの数を定義します。(オプション総数より小さい数)「オプション」は、選択可能なオプションを定義します。各行が1つのオプションになります。
- 選択(複数)
あらかじめ定義されたオプション一覧から、任意の数のオプションを選択します。「サイズ」は表示されるオプションの数を定義します。(オプション総数より小さい数)「オプション」は、選択可能なオプションを定義します。各行が1つのオプションになります。
- ラジオボタン
あらかじめ定義されたいくつかのラジオボタンから、ひとつ選択します。「オプション」は選択可能なラジオボタンオプションを定義します。各行が1つのラジオボタンになります。
- チェックボックス
あらかじめ定義されたチェックボックス一覧から、任意の数のオプションを選択します。「オプション」は選択可能なチェックボックスオプションを定義します。各行が1つのチェックボックスになります。
- 日付/時間
日付あるいは/または時間。フォーマットは、日付/時間がどのように表示されるかを定義します。
- 作成日付/時間
新規データがデータベースに追加されると自動的に設定される日付/時間。
- 更新日付/時間
データベースのデータが更新されると自動的に設定される日付/時間。



- 作成者名
データベースに新規データが追加されると、自動的に設定されるユーザ名。このユーザ名は、データを追加したユーザまたは **Web** サイト管理者のユーザ名です。
- 更新者名
データベースのデータが更新されると、自動的に設定されるユーザ名。このユーザ名は、データを更新したユーザまたは **Web** サイト管理者のユーザ名です。
- コンテンツ項目
Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツ項目一覧から、ひとつのコンテンツ項目を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ項目数を定義します。
- コンテンツ項目（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのコンテンツ項目一覧から、任意の数のコンテンツ項目を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ項目数を定義します。
- コンテンツクラス
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツクラス一覧から、コンテンツクラスをひとつ選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツクラスの数进行定義します。
- コンテンツクラス（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツクラス一覧から、任意の数のコンテンツクラスを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツクラスの数进行定義します。
- コンテンツグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツグループ一覧から、ひとつのコンテンツグループを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツグループの数进行定義します。
- コンテンツグループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツグループ一覧から、任意の数のコンテンツグループを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツグループの数进行定義します。
- コンテンツタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツタイプ一覧から、ひとつのコンテンツタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツタイプの数进行定義します。
- コンテンツタイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツタイプ一覧から、任意の数のコンテンツタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツタイプの数进行定義します。
- ページ
Web コンテンツ管理システムの全てのページ一覧から、ひとつのページを選択します。「サイズ」は、表示されるページの数进行定義します。



- ページ（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのページ一覧から、任意の数のページを選択します。「サイズ」は、表示されるページの数を実定義します。
- ページグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページグループ一覧から、ひとつのコンテンツグループを選択します。「サイズ」は、表示されるページグループの数を実定義します。
- ページグループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページグループ一覧から、任意の数のコンテンツグループを選択します。「サイズ」は、表示されるページグループの数を実定義します。
- ページタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページタイプ一覧から、ひとつのコンテンツタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるページタイプの数を実定義します。
- ページタイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのページタイプ一覧から、任意の数のコンテンツタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるページタイプの数を実定義します。
- イメージ
Web コンテンツ管理システムの全てのイメージ一覧から、ひとつのイメージを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージの数を実定義します。
- イメージ（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのイメージ一覧から、任意の数のイメージを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージの数を実定義します。
- イメージグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージグループ一覧から、ひとつのイメージグループを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージグループの数を実定義します。
- イメージグループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージグループ一覧から、任意の数のイメージグループを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージグループの数を実定義します。
- イメージタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージタイプ一覧から、ひとつのイメージタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージタイプの数を実定義します。
- イメージタイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージタイプ一覧から、任意の数のイメージタイプを選択します。「サイズ」は、表示される画像タイプの数



を定義します。

- イメージフォーマット
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージフォーマット一覧から、ひとつのイメージフォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージフォーマットの数を定義します。
- イメージフォーマット (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのイメージフォーマット一覧から、任意の数のイメージフォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるイメージフォーマットの数を定義します。
- ファイル
Web コンテンツ管理システムの全てのファイル一覧から、ひとつのファイルを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルの数を定義します。
- ファイル (複数)
Web コンテンツ管理システムの全てのファイル一覧から、任意の数のファイルを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルの数を定義します。
- ファイルグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルグループ一覧から、ひとつのファイルグループを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルグループの数を定義します。
- ファイルグループ (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルグループ一覧から、任意の数のファイルグループを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルグループの数を定義します。
- ファイルタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルタイプ一覧から、ひとつのファイルタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルタイプの数を定義します。
- ファイルタイプ (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルタイプ一覧から、任意の数のファイルタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルタイプの数を定義します。
- ファイルフォーマット
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルフォーマット一覧から、ひとつのファイルフォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルフォーマットの数を定義します。
- ファイルフォーマット (複数)
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのファイルフォーマット一覧から、任意の数のファイルフォーマットを選択します。「サイズ」は、表示されるファイルフォーマットの数を定義します。



- リンク
Web コンテンツ管理システムの全てのファイルリンク一覧から、ひとつのリンクを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクの数を定義します。
- リンク（複数）
Web コンテンツ管理システムの全てのファイルリンク一覧から、任意の数のリンクを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクの数を定義します。
- リンクグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンクグループ一覧から、ひとつのリンクグループを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクグループの数を定義します。
- リンクグループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンクグループ一覧から、任意の数のリンクグループを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクグループの数を定義します。
- リンクタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンクタイプ一覧から、ひとつのリンクタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクタイプの数を定義します。
- リンクタイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのリンクタイプ一覧から、任意の数のリンクタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるリンクタイプの数を定義します。
- 構成要素
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ構成要素一覧から、ひとつのコンテンツ構成要素を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ構成要素の数を定義します。「クラス」は、コンテンツ構成要素のどのクラスを表示するかを定義します。クラスが選択されない場合は、全てのコンテンツクラスの全てのコンテンツ構成要素が表示されます。
- 構成要素（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツ構成要素一覧から、任意の数のコンテンツ構成要素を選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツ構成要素の数を定義します。「クラス」は、コンテンツ構成要素のどのクラスを表示するかを定義します。クラスが選択されない場合は、全てのコンテンツクラスの全てのコンテンツ構成要素が表示されます。
- バージョン
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのバージョン一覧から、ひとつのバージョンを選択します。「サイズ」は、表示されるバージョンの数を定義します。
- バージョン（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのバージョン一覧から、任意の数のバージョンを選択します。「サイズ」は、表示されるバージョンの数を定義します。

ます。

- データベース
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツデータベース一覧から、ひとつを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツデータベースの数を定義します。
- データベース（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのコンテンツデータベース一覧から、任意の数のコンテンツデータベースを選択します。「サイズ」は、表示されるコンテンツデータベースの数を定義します。
- データ
指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、ひとつのデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示されるデータ属性値／フィールド値の数を定義します。「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。「コンテンツ」は表示する属性値／フィールドの名前を定義します。
- データ（複数）
指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、任意の数のデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示されるデータ属性値／フィールド値の数を定義します。「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。「コンテンツ」は表示する属性値／フィールドの名前を定義します。
- データビュー
指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、ひとつのデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示するデータ属性値／フィールド値の数を定義します。

「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。複数の場合は、「,」もしくは「*」で区切ります。「*」を使用すると、指定した属性／フィールドの値の組合せがすべて一覧表示されます。「,」を使用すると、指定したデータベースに同じ名前の属性／フィールドが存在する場合に、それらの値が同じ組合せのみ一覧表示されます。

「コンテンツ」は、表示する属性／フィールドの名前を定義します。複数の場合は、カンマで区切ります（カンマの前後にスペースは入れないでください）。特殊コードとフォーマット文字列を使用すれば、属性／フィールドの値をどのように表示するか定義することもできます。例えば、“PREFIX @@@Some Attribute Name@@@ - @@@Another Attribute name@@@ SUFFIX” と入力すると、二つの属性値が「-」で区切られ、前後に「PREFIX」と「SUFFIX」が付与されます。この場合、フォーマットも値としてデータベースへ保管されることとなりますのでご注意ください。

- データビュー（複数）
指定したコンテンツデータベース内のデータ属性値／フィールド値一覧から、任意の数のデータ属性値／フィールド値を選択します。「サイズ」は、表示するデータ属性値／フィールド値の数を定義します。



「データベース」は、表示するデータベースの名前を定義します。複数の場合は、「,」もしくは「*」で区切ります。「*」を使用すると、指定した属性／フィールドの値の組合せがすべて一覧表示されます。「,」を使用すると、指定したデータベースに同じ名前の属性／フィールドが存在する場合に、それらの値が同じ組合せのみ一覧表示されます。

「コンテンツ」は、表示する属性／フィールドの名前を定義します。複数の場合は、カンマで区切ります（カンマの前後にスペースは入れないでください）。特殊コードとフォーマット文字列を使用すれば、属性／フィールドの値をどのように表示するか定義することもできます。例えば、“PREFIX @@@Some Attribute Name@@@ - @@@Another Attribute name@@@ SUFFIX”と入力すると、二つの属性値が「-」で区切られ、前後に「PREFIX」と「SUFFIX」が付与されます。この場合、フォーマットも値としてデータベースへ保管されることとなりますのでご注意ください。

- ユーザ名
ユーザデータベースに定義されている全てのユーザ名一覧から、ひとつのユーザ名を選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ名の数を定義します。
- ユーザ名（複数）
ユーザデータベースに定義されている全てのユーザ名一覧から、任意の数のユーザ名を選択します。「サイズ」は、表示されるユーザ名の数を定義します。
- ユーザEメール
ユーザデータベースに定義されている全てのユーザEメールアドレス一覧から、ひとつのユーザEメールアドレスを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザEメールアドレスの数を定義します。
- ユーザEメール（複数）
ユーザデータベースに定義されている全てのユーザEメールアドレス一覧から、任意の数のユーザEメールアドレスを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザEメールアドレスの数を定義します。
- ユーザグループ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザグループ一覧から、ひとつのユーザグループを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザグループの数を定義します。
- ユーザグループ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザグループ一覧から、任意の数のユーザグループを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザグループの数を定義します。
- ユーザタイプ
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザタイプ一覧から、ひとつのユーザタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザタイプの数を定義します。
- ユーザタイプ（複数）
Web コンテンツ管理システムで定義されている全てのユーザタイプ一覧から、任意

の数のユーザタイプを選択します。「サイズ」は、表示されるユーザタイプの数を定義します。



8.1.2.2 アクセス制限

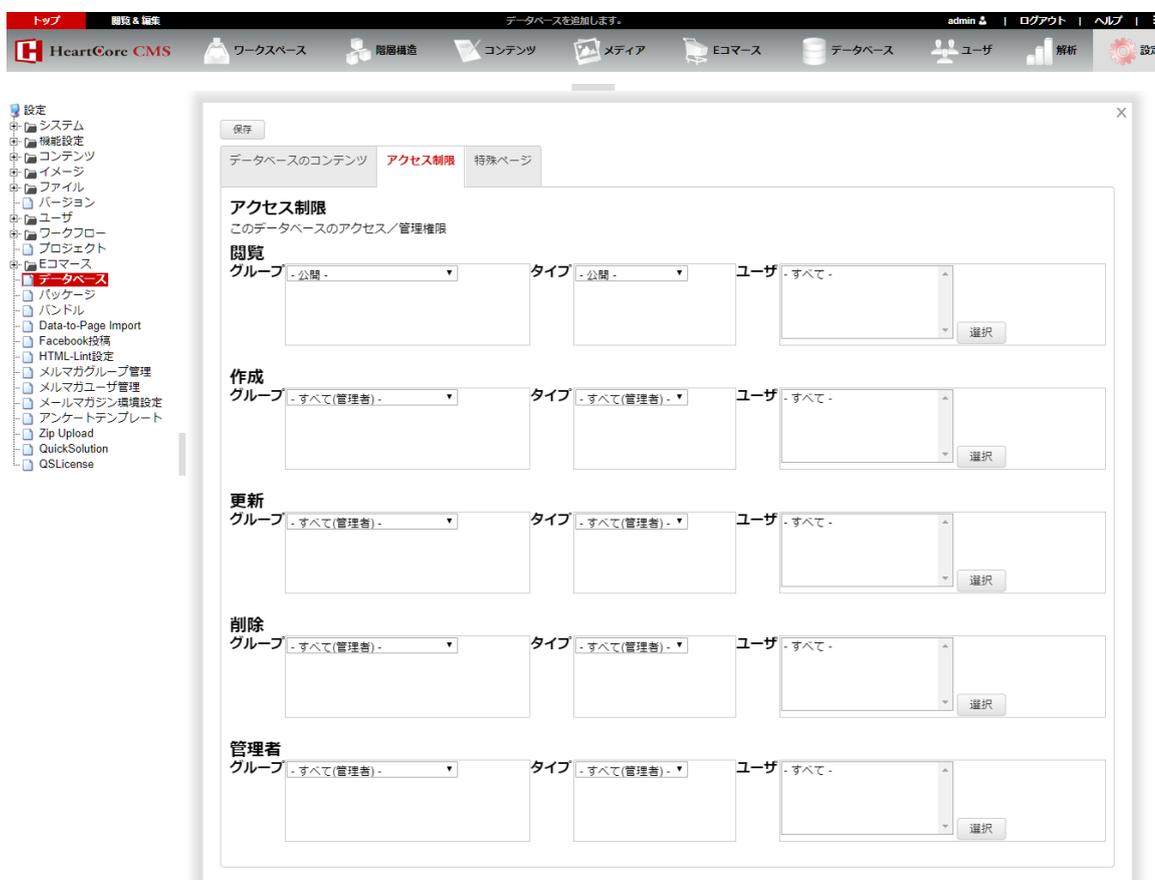
どの Web サイトビジターや管理者がデータベースコンテンツにアクセスや管理できるかを定義します。

ユーザアクセス制限機能が有効の場合、特定のユーザのみがデータベースコンテンツを閲覧できるようにアクセス制限を定義できます。デフォルトでは、全ての Web サイトユーザがデータベースコンテンツを閲覧できます。

管理者アクセス制限機能が有効の場合はさらに、特定の管理者のみがデータベースコンテンツを作成、更新、削除できるようにアクセス制限を定義できます。デフォルトでは、全ての Web サイト管理者がデータベースコンテンツを管理できます。

- 閲覧
Web サイトや Web コンテンツ管理システム上で、データベースコンテンツを閲覧可能なユーザを定義します。
- 更新
Web コンテンツ管理システムのデータベースに存在するデータを更新可能なユーザを定義します。
- 作成
Web コンテンツ管理システムのデータベースに、あるいは Web サイトのフォームを入力して送信することで、新規データを追加可能なユーザを定義します。
 - 公開
全ての Web サイトビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
 - 制限
全ての登録済み Web サイトビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
 - ユーザグループ/タイプ
選択されたグループ/タイプの全ての登録済み Web サイトビジターが、Web サイト上のフォームを入力、送信することで、新規データを追加することができます。選択されたグループ/タイプの全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。

- すべて
全ての Web サイト管理者が、Web コンテンツ管理システムを使ってデータベースにデータを追加することができます。
- 削除
Web コンテンツ管理システムのデータベースからデータを削除できるユーザを定義します。
- 管理者
Web コンテンツ管理システムを使って、データベースのデータを閲覧、更新、作成、削除全て可能なユーザを定義します。



8.1.2.3 特殊ページ

8.1.2.3.1 特殊ページ

Web コンテンツ管理システムの標準機能や Web サイトの機能では、様々な特殊ページが使用されています。これらの特殊ページは、特殊コードやフォームを使って開発する必要があります。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

- デフォルトの検索結果ページ
データベースの検索結果を表示するデフォルトの検索結果ページ。検索結果ページは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳しくは、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。



- デフォルトの検索結果エントリ
検索結果ページに各検索結果を表示する際に使用されるページ。検索結果エントリは一般的なページではなく、特殊なコードを含みます。詳細は「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- デフォルトのデータ閲覧ページ
データベースからデータレコードを取得して表示するためのページ。データ閲覧ページは一般的なページではなく、データ項目属性/フィールドを表示する特殊なコードを含みます。詳しくは「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。
- カスタム管理ページ
デフォルトでは、コンテンツデータベース管理ページには、データベース設定ページで定義した順序でデータベース属性/フィールドが一覧表示されます。任意で、カスタム管理ページの設定が可能で、データベース属性/フィールドのレイアウトを制御することができます。さらに、カスタム Javascript プログラムコードを使って、例えば入力/選択したデータベース属性/フィールドの値や組み合わせを検証するよう機能を追加することも可能です。カスタム管理ページは、Web コンテンツ管理システムにおける通常のページで、特殊コードを使用しデータベース属性/フィールドの位置やフォーマットを定義します。詳細は、「ウェブサイト開発者ガイド」をご参照ください。

8.1.2.3.2 インデックスページカラム

管理インデックスページに表示するカラムやリンクは、カスタマイズが可能です。以下に記載するコードを使って、表示したいカラムやリンクを表示したい順にスペース区切りで入力します。各カラムのサイズを指定するには、コードの後にコロンを付けて、ピクセルで幅を指定します。例えば、"`checkbox:25px default id:25px view:50px update:50px delete:50px`" と入力すると、25px 幅のチェックボックスフィールドと、デフォルトのタイトル属性（一番目のテキスト属性）、25px 幅の ID フィールド、50px 幅の詳細表示/更新/削除リンクフィールドが表示されます。このインデックスページカラム入力フィールドを完全に空にした状態で保存を行うと、デフォルトの設定に戻ります。

- インデックスページカラム
 - `checkbox`
コンテンツデータを選択するためのチェックボックスを表示します。
 - `admin`
コンテンツデータベースのデフォルトのタイトル属性（最初のテキスト属性）を、統合管理ページへのテキストリンクとして表示します。統合管理ページでは、コンテンツデータを閲覧、更新、削除、また既存コンテンツデータのコピーとして新規コンテンツデータを作成することができます。
 - `default`
コンテンツデータベースのデフォルトのタイトル属性（最初のテキスト属性）を表示します。
 - `ATTRIBUTE`
指定したコンテンツデータ属性名の値を表示します。
 - `id`
コンテンツデータの ID を表示します。

- view
コンテンツデータの詳細を閲覧するページへリンクする「詳細表示」というテキストリンクを表示します。
- update
コンテンツデータを更新するための「更新」というテキストリンクを表示します。
- create
コンテンツデータをコピーして新しいコンテンツデータを作成するための「新規追加」というテキストリンクを表示します。
- delete
コンテンツデータの削除ページを開く「削除」というテキストリンクを表示します。



9 コラボレーション設定

9.1 コメント

Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システムのすべての管理ページにてコメントを投稿することができます。全体管理者には、投稿された各コメントを削除する権限があります。また、全体管理者は「設定」>「コメント」管理ページから、投稿されたすべてのコメントを閲覧し管理することもできます。



ID	セクション	クラス	グループ	タイプ	ID	タイトル	コンテンツ	固定	操作
<input type="checkbox"/>	library	file	Careers			求人申し込み	求人申し込みは、ユーザが申し込みすると自動的にこのフォルダへアップロードされます。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	content	page	Products & Services News			新しい記事	既存のページをコピーし、新製品&サービスの新記事を投稿するコンテンツを変更する。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	content	page	About Us			説明	これらのページはAbout Usセクションのページです。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>						連絡先の詳細	ヘルプが必要な場合は、電話0123 456 789でPaul Greenにお問い合わせください。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	config	contentgroups				リクエストされた新しいグループ	人事課が「新卒」という名前のサブグループをリクエスト中です。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	users	administrator	Website Administrators			新しいユーザの追加	新しいユーザのポールグリーンが追加されました。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	experience					製品Bの検証	お問い合わせページでヒット数が増えるかどうかを確認するには、製品Bの2つの異なるプレゼンテーションを設定する必要があります。	<input type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	experience	segment				新しいセグメント	新しく性別のセグメントを設定する必要があります。	<input type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	ecommerce					新しい価格表	すべての価格は、2022年1月1日より新しい価格表の価格で更新する必要があります。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	databases	4				パリとメルボルンの店舗	パリとメルボルンの新しい店舗を追加する必要があります。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	library	file	Investor Relations	Financial Reports		2022年次報告	2022年の年次報告書をアップロードする必要があります。	<input type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	content	page	Investor Relations			ミッションページ	私達のミッションについての新しいページが必要です。	<input type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	content	page			177	製品Aの更新	さまざまな色が使用可能であることを示す写真を追加しました。これで、ページの公開準備が整いました。	<input checked="" type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除
<input type="checkbox"/>	content	page			177	製品Aのレビュー	この製品のプレゼンテーションをレビューしましたが、使用方法の割がさらに必要です。写真では、さまざまな色が使用可能であることを示す必要もあります。	<input type="checkbox"/>	詳細表示 更新 削除

9.2 プロジェクト

Web サイト管理者は、Web コンテンツ管理システムのパーソナルワークスペースから、プロジェクトとプロジェクトタスクを作成することができます。全体管理者は、「設定」>「プロジェクト」管理ページから、作成されたすべてのプロジェクトとプロジェクトタスクを閲覧し管理することができます。



ID	更新日	所要時間	開始日	終了日	タイトル	ステータス	優先度	課別度	操作
<input type="checkbox"/>	5	2018-04-04 16:13:09	2週間	2021-03-1	2021-03-3	投資家情報更新			管理サイト
<input type="checkbox"/>	6	2019-08-23 10:26:44	2週間			製品Aプレゼンテーションの刷新			管理サイト